

# 現代日本人の生き方

## —生活観の構造と変容 その2—

III. 質問紙の分析結果	7
III-2. 質問紙の分析結果	7
IV. SCT の分析結果	31
IV-1. 刺激文単位の分析	31
1. 目的	31
2. 方法	32
3. 分析結果	34
4. 考察	66
IV-2. 事例の分析	67
1. 目的	67
2. 事例の選択方法	67
3. 事例	68
4. 考察	134
V. 面接の結果	137
1. 目的	137
2. 方法	138
3. 事例	138
4. 考察	167
VI. 考察と展望	169

前巻目次

組織行動研究 No. 22 (シリーズ No. 31)

現代日本人の生き方

——生活観の構造と変容 その 1——

I. 序

- I-1. 序 (7)
- I-2. 家族の変容 (16)
- I-3. 生活価値意識 (25)

II. 調査の方法

- II-1. 調査スキーム (33)
- II-2. 調査技法 (34)
- II-3. 予備調査 (39)
- II-4. 調査計画 (43)

III. 質問紙の結果

- III-1. 質問紙の基礎的な集計 (49)

巻末資料 (107~129)

## 謝 辞

今回の調査においては、数千名にも及ぶ方々にご回答いただきました。これらの方々にあらためてお礼を申し上げます。また、調査協力者として、多くの大学や企業など、各方面の方々に御協力いただきました。特に、千葉大学の青木孝悦先生、日本大学の大村政男先生、生涯学習開発財団の岡本健次郎氏、筑波大学の落合良行先生、国士舘大学の川村幹先生、東北福祉大学の黒田正典先生、薫風会山田病院の坂部先平先生、長寿社会文化協会の田中尚輝氏、ゆたかな老後をつくる中高年者の会の出口義朗氏、東京電機大学の袴田明先生、北里大学の林峻一郎先生、東京大学の古畑和孝先生、放送大学の星薫先生と糸賀千恵子さん、北陸学院短期大学の星野命先生には、多大な御尽力を賜りました。ここに記して感謝の意を表する次第です。

慶應義塾大学文学部榎田ゼミナールの21期生(平成3年卒)と22期生(平成4年卒)の皆さんには、データの配布、整理、集計をお願いいたしました。特に、22期生ゼミ長の四ツ谷定和君には、ゼミの中心となって作業を進めていただきました。ゼミ生の皆さんにあらためて御礼申し上げます。

株式会社キュービッド殿には、調査費並びに調査実施、整理等において多大な御協力をいただきました。ここに記して感謝の意を表する次第です。

この調査は、慶應パーソナリティ研究会が計画・実施したものであり、研究会メンバーが執筆を担当している。執筆者およびプロジェクト参加者は以下の通りである。

執筆者 (50 音順)

碓 由美子	
伊 藤 ひろみ	
伊 藤 隆 一	尚美学園短期大学
岩 熊 史 朗	慶應義塾大学新聞研究所
神 木 直 子	言語文化研究所付属東京日本語学校
川 島 真	尚美学園短期大学
久 保 寺 美 佐	神奈川県立新羽高等学校
小 林 和 久	小松短期大学
小 林 ポオル	慶應義塾大学
齋 藤 律 子	
佐 藤 由 美 子	富士通
菅 野 陽 子	皆川記念病院
鈴 木 典 子	慶應義塾大学社会学研究科
田 辺 満 彦	野村証券
田 辺 稔	福島女子短期大学
西 村 麻 由 美	
櫃 田 紋 子	湘南短期大学
榎 田 仁	慶應義塾大学
増 野 信 子	
三 浦 公 一	パーソナリティ・ダイナミックス
向 井 恒 夫	明治生命
渡 辺 秀 樹	慶應義塾大学

プロジェクト参加者 (50 音順)

大 塚 泰 子	
大 野 靖 子	慶應義塾大学社会学研究科
川 俣 真 由 美	
平 田 光 子	慶應義塾大学経営管理研究科
中 野 敬 子	明治学院大学
美ノ谷 香代子	横浜国立大学
塚 越 美 樹	日本産業訓練協会



# III

## 質問紙の分析結果

### III-1. 現代の気分:「豊かな社会」の快適性と不透明感

小林ポオル

#### 1. 現代生活の一般的な満足感

##### 生活満足感

まず、現在の生活全般に対する満足度(問 II-1)を図1に見る。「満足である」「やや満足である」のふたつの選択肢で肯定的に回答したものの合計は60%以上であり、生活満足度は全年齢層を通じて高い。しかも、この傾向は年齢層が高くなるほど強くなり、60歳台<sup>註)</sup>に至っては、ほぼ8割に達する。これに対し、否定的反応である「不満足である」「やや不満足である」の合計は、全体でも

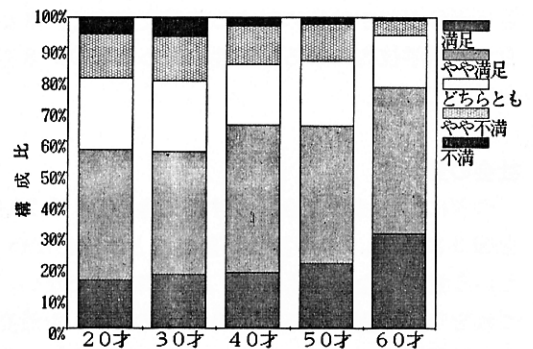


図1 年齢層別の生活満足感 現在の生活に対する満足度を「どちらともいえない」を含む5選択肢で回答させた。

註) 本稿中、20歳台と表記しているものは24歳以下、30歳台は25歳以上34歳以下、以降同様に表記し、55歳以上を60歳台と略記した。

17%にとどまっている。

現在の自分の生活に対する肯定的反応が、中立的点を含む5選択肢で回答させたのにもかかわらず、全体として6割以上を得たことは、ここ数年の間に行われた他の生活満足度調査と同じく、高い生活満足を示していると言える。

### 社会の快適性と科学技術の受入れ

現代社会のもつ快適性を現出するに科学技術が大きな力を果たしてきたことは周知の事実である。この、科学技術により快適な生活が実現したという意見を、科学技術がさまざまなものを機械で置き換えることにより生活をかえって複雑なものにしたという意見と対比させて選択させた(問II-2B)。図2を見ると、前者を全体では74%の

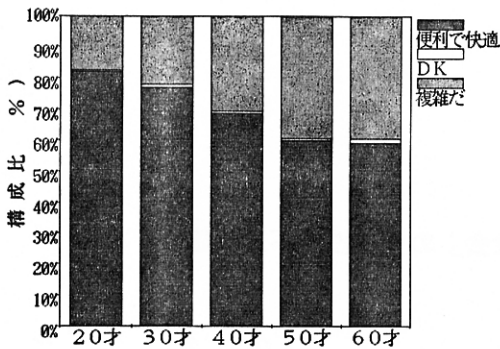


図2 科学技術に対する受入れ方 現代生活が科学技術によって快適で便利になったと感じるか、それによりかえって複雑になり住みにくくなったと感じるかを聞いた。

回答者が受入れている。年齢層別に見ると、特に若年層ほど科学技術に対する許容度は高く、20歳台では科学技術による快適性を認めるものが8割を越えている。

### 社会の豊かさ

つぎに、いまの社会に対する印象(問II-2A)を図3にみる。「今の社会が豊かだとは思わない」という意見は全体でも28%と3割に満たない。これを年齢層別にみると、30歳台の39%を最高に年齢層が高くなるにつれこの比率は減少し、60歳台では24%になっている。社会の豊かさを実感し、生活に満足している回答者の典型的と思わ

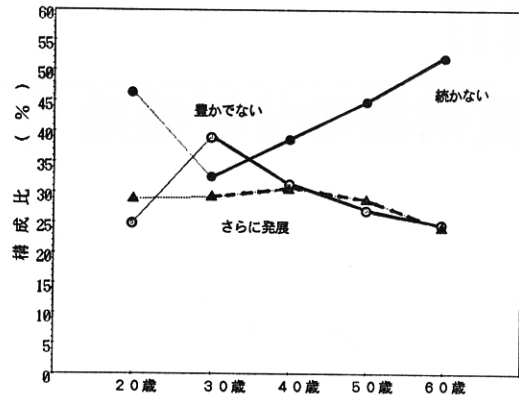


図3 社会の豊かさ 今の社会の豊かさを「将来に渡ってさらに発展していく」か、「こんな豊かさは続かない」とみるかを、「今の社会は豊かではない」という選択も許して回答させた。選択比率を各選択肢別に、年齢層別に示す。20歳台における傾向の違いは第3節で検討する。

れるボタンを、本質問紙調査後に行われた回答者に対する面接調査事例から挙げると、以下のようである。

公私にわたって今の生活にはどちらかといえば満足している。今の社会には「いろんな意味でさらに豊かな社会に発展していく」し、科学技術の発展で環境汚染も克服できると思っている。調和がとれていれば「人工的で自然と隔離していても、便利で快適な生活が良い。」(43歳・男・既婚)

「いろいろな変動があっても長い目で見れば人間の生活は向上し、さらに豊かな社会に発展していく。」(36歳・男・既婚)

しかし、「今の社会が豊かだとは思わない」という回答の減少分に対応して、「今後もより豊かな社会へと発展していく」という肯定的意見が増しているのかというと、そうではない。「こんなに豊かな社会は長くは続かない」という回答が増えている。つまり、社会の豊かさを感じるとしても、それには留保条件が付帯しており、それゆえ将来に否定的な見通しを持たざるを得ない構造的存在を想定することが出来る。

この、将来の豊かさを見通し得ない留保条件とは何だろうか。このことについては第3節で改めて検討する。その前に、次節ではその準備のため、生活上のさまざまな問題に対する回答傾向を検討する。

## 2. 生活意識, 老後, 生命操作についての意見

結婚や家庭生活に対する考え方が年齢によって組織的に変化し、高年齢層ほど伝統的価値基準に沿った回答が多くなるのは、ある意味では自然である。ここでは、それらに加えて、老後の問題や科学技術の革新にとまなう新しい医療技術などについて、年齢層・男女・職業等の属性による考え方の違いを検討し、相互の関連の分析を試みる。

### 2-1. 仕事・結婚について

#### 生活における仕事の比重 (問 II-5)

生活の上での仕事の比重について図4をみると、「仕事が大事」と答えたものの比率は自営業が一番多く3割近くを占めている。

一方、学生はこの比率が最少であって、わずか6%にすぎない。これと、仕事観について最も保守的傾向の強い自営業との比率の差は20ポイントにも及んでおり、仕事に対する感覚の違いの強さを示している。これを年齢層別に見ても、若年齢層になるほど「仕事が大事」と回答するもの

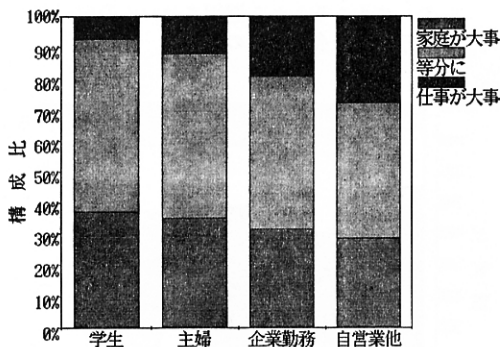


図4 生活における仕事の比重 仕事とそれ以外の生活について、どちらをどの程度重視しているかを聞いた。中立点付き5選択肢で回答させた結果を、仕事とそれ以外のどちらを重視するかで3カテゴリに併合して示す。

比率は大きく減少している。

これに対し、家庭など仕事以外の生活を仕事より大事にするものの比率は、どの群でも仕事を大事にするものの比率より多くなっている。しかし、最大比率を示す学生でも、「仕事以外の生活が大事」を選択した比率は現時点で4割弱であり、「等分に力を注ぐ」という折衷的な回答が最大多数を占めている。

#### 結婚について (問 III-3)

結婚することを無条件で当然ととらえる見方は、現時点ですでに全体の25%程度を占めるに過ぎない。これに対し、図5で明らかのように、結婚の必要性をとくに認めないものの比率は女性においてとくに高く26%、30歳台女性に限れば33%にのぼっている。女性では、結婚を認めるに

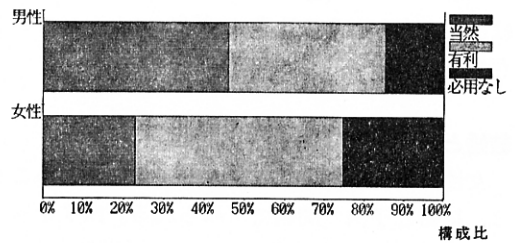


図5 結婚することについて これについて「するのが当然」「しなくてもいい」「しない」と一人前とみなされない」「いろいろ考えるとした方がよい」の4選択肢で回答させた。ここでは、後2選択肢を併合し「した方が有利である」というカテゴリとして扱い、学生を除く社会人について男女別に表示す。

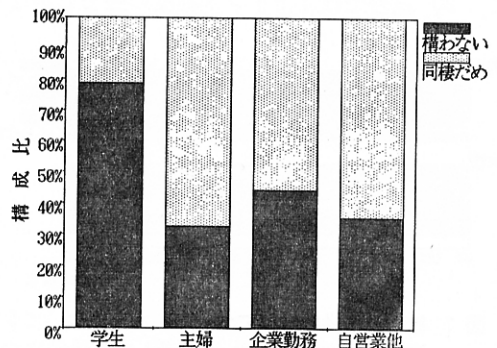


図6 同棲について これについて「同棲はよくない」と、3つの同棲を認める意見の4選択肢で回答させた。これを同棲を認める/認めないの2分類に集計して示す。

してもその有用性を判断の基準にしているものが52%と過半数を占め、社会規範として認めているものの2倍以上に達している。その代表的な考え方は、以下の事後面接事例にみられる意見に集約されるだろう。

「老後などいろいろ考えると結婚はした方がよいと思う。」(32歳・女・未婚)

このことは、現在でも半数近くが伝統的結婚観を保持している男性と好対照をなしている。さらにこれを職業別にみると、結婚するのが当然だとするものは、自営業に多く学生に少ない。仕事の比重についても結婚についても、主婦は学生に次いでリベラルな意見を持つ傾向が見える。

しかし、同棲についてその可否を問うと(問III-2)、それを否定する意見の比率の最も多いのは主婦であり、その比率は65%にも上っている(図6)。

**結婚と子供(問 III-4)**

女性に伝統的価値観からの離脱傾向の強いことは、結婚と子供の問題でもみられる。図7をみると、「結婚したら子供をつくるのが当然」という意見を選択したものの比率は男性では48%にもぼっているのに対し、女性ではその値が20ポイント近くも低くなっている。この男女差を年齢層別にみてみると、60歳台では約20ポイントも存在する差が、男性の保守的傾向の低減によって、20歳台では4ポイント程度の差でしかなく

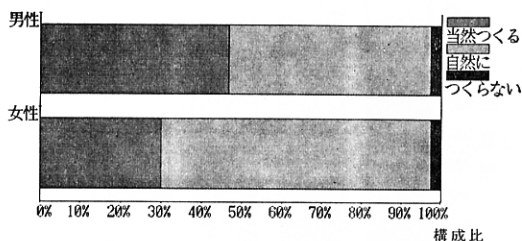


図7 結婚と子供の有無について これについて5選択肢で回答させた。「結婚しても子供はつくりたくない」「子供はつくるつもりだが結婚はしない」「結婚も、子供も必要ではない」を一括して「つくりたくない」として示す。社会人のみの集計。

なっている。

このような回答傾向の構造的な違いは、若干現れかたを変えて老後の問題等に対する回答傾向の違いにもみられる。

**2-2. 老後の問題について**

**親の老後(問 III-10A)**

親の老後について「どんなに大変でも同居して面倒をみる」とするものを男女別にみると、30歳代以上の年齢層では男性のほうが一貫して10ポイント以上高い。「経済的負担が大きくても施設に入ってもらおう」という回答の比率に男女差はないから、どちらも答えられず、「その他」を選択した女性が多いことになる(図8, 図9)。

寝たきりになった人の世話について(問III-11)の回答を職業別にみると(図10),「どんなに大変

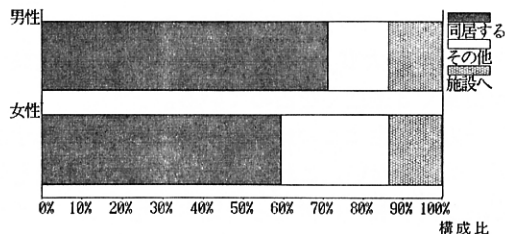


図8 両親のどちらかがひとりになったら、そして、自分で身の回りの世話が出来なくなった時、どうするかを「どんなに大変でも同居して面倒をみる」「経済的負担が大きくても施設に入ってもらおう」から選択させたものを男女別に示す。社会人のみの集計。

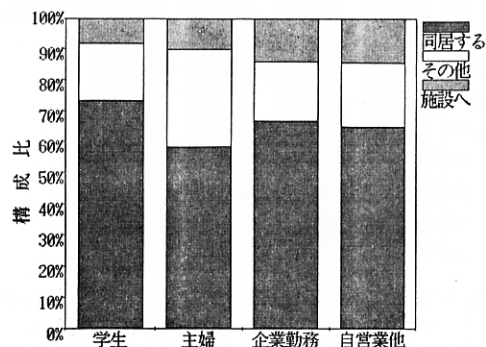


図9 両親のどちらかがひとりになったら 図8と同じデータを職業別に示す。

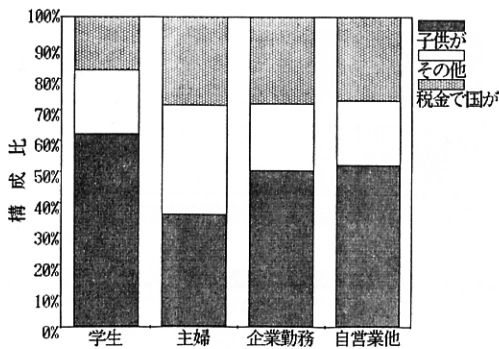


図 10 寝たきり老人の世話 「どんなに大変でも子供が世話するべき」「収入の半分以上が税金に取られるようになって、自治体や国が行うべき」から選ばせた。

でも子供が面倒を見るべきだ」という意見を持つものは学生に最も多く、主婦に最も少ない。この傾向は前出問 III-10A でも同様である。

同居して親の面倒をみるという場合、現実には世話をするのは女性であることがほとんどであることを考えれば、現実に関与する度合いが高いほど単純にあれかこれかの回答をすることが困難になる、という事情が想定される。またこれとは反対に、親の老後の問題に現実性を感じられない程度が高いほど、伝統的社会規範を内面化しただけの意見が多くなっている。調査後の面接事例をみると、「どんなに大変でも同居して面倒をみる」を選択したものの中には、以下に示すようにまだそれが現実問題とは感じられないことを前提にして回答したものが多い。

両親の面倒は「現実そうなるかは別として」「同居して面倒を見る。」(43 歳・男・既婚)  
 「親が若いので実感がないが、本来家族が面倒を見るべきではないか。」(23 歳・女・未婚・会社員)

### 自分の老後

配偶者に先立たれたあとの自分の老後(問 III-10B)についても、自分ひとりで生きていく願望は強い。これも親の老後の問題と同様、子供に面倒を掛けたくないという思いや、具体性を欠く規範的回答が特に若年齢層に多いと考えら

れる。

自分の老後については「できるだけ一人で頑張りたい」が具体的にはあまり考えたことがない。(33 歳・女・未婚)

「年寄りになって一人暮らしになっても、子供に面倒を掛けたくないと思う。」(23 歳・女・未婚・会社員)

面白いことに、20 歳台の回答者では「子供と一緒に暮したい」の選択比率が 40% であって、他のどの年齢層よりも高い。そしてこの比率は他のすべての年齢層での傾向とは逆に、「一人でがんばる」より 5 ポイントも高い。

現実には、親の老後にせよ自分のそれにせよ、以下の面接事例にあらわれているように、経済的条件が大きな問題になるのは間違いないだろう。

自分の老後は「施設に入っても、子供には迷惑を掛けたくない」。しかし、「自分の老後のことにせよ、親のことにせよ、その時の親子の経済状態にかなり影響されるのではないか。」(37 歳・女・既婚)

従って、これらの問題が現実になった時の問題意識は、一般論としての回答傾向とはかなり様相を異にする。

両親の世話について「老人ホームなど否定的に考えてはいないが、(自分の親を入居させる場合) 本当に割り切れるかどうかと思う。実際には葛藤があると思う。現実的には近いこと」だと思っている。(38 歳・男・既婚)  
 「体験上家族の負担は大変で家族の方が疲れてしまう。公共の施設をたくさんつくってすこし税金を高くしても、そうした施設に入れるしかない。」(27 歳・女・未婚)

### ガン告知(問 III-12A)

現実の問題として考えると、単純に回答することが出来ないという事情はここにもみられる。自分自身がガンになった時には告知してほしいとす

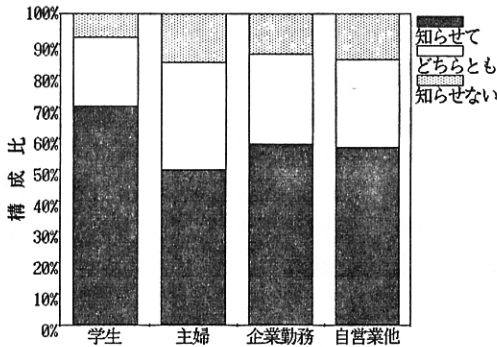


図 11 あなたはガンを知らせてほしいか 回答者自身がガンになった時は知らせてほしいと思うか、に対する回答。

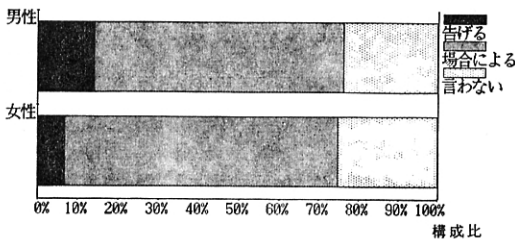


図 12 ガンの告知 家族の一員がガンになった時、本人に告げるかどうかに対する回答の社会人の男女別集計結果。

るもの (問 III-12B) は、男女に関係なく全体として6割以上にのぼる。また、職業別に見ても一貫して5割以上が告知を望んでいる (図 11)。それに比べて、家族の一員がガンになった場合、本人にそのことを告知すると回答したものは極端に少ない (全体で 13%)。告知に比較的積極的な学生を除いて集計すると、それでも男性だけでみれば「告知する」と回答したものが約 14% 存在するのに対し、女性ではその半分以下にすぎない (図 12)。その分「場合による」と回答したものが多く、男性の、いわば合理的判断に寄った回答傾向との対照を見せている。以下に、男性回答者の理由づけの例を示す。

自分に対するガン告知は望む。「やることをやって死を迎えたい。」(36 歳・男・既婚)

また、職業別にみた時、自分自身がガンになったら「知らせてほしい」と回答したものの比率が

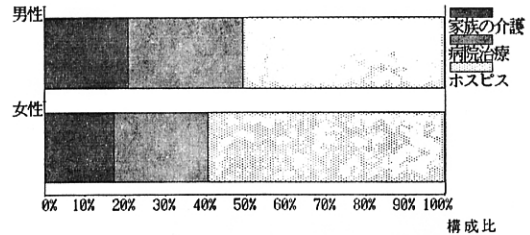


図 13 末期ガン患者の介護 「どんなに大変でも家族で介護するのがよい」「経済的負担が大きくても病院で最後まで治療してもらおう」「高額税金を払うようになってもホスピスを増やすのがよい」から選択させた。社会人のみの集計。

最も少ないのも主婦である。

### 末期患者の介護 (問 III-12C)

ガン末期の介護についても、男性は家族介護あるいは病院での治療を選択するものがほぼ半数に達している (図 13)。これに対し、かなりの経済的負担をしてもホスピスを充実させたいと回答するものは女性に多く、6割を占める。ここでも男性の保守的な理想主義的傾向との違いを見せている。

## 2-3. 新しい医療技術について

### 産み分け (問 V-1)

生命の人為操作であり、好ましくないとするものは全体で 74% におよび、否定的回答が圧倒的

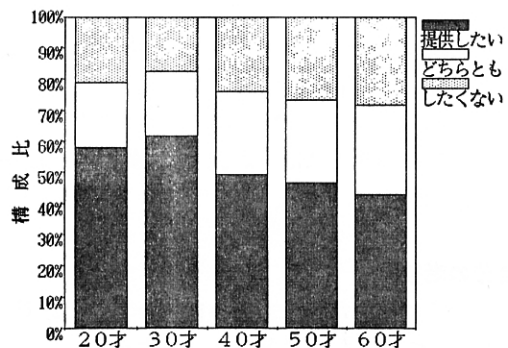


図 14 自分の臓器を提供することについて 回答者自身が脳死状態になった時、他人に臓器を提供することについて、「どちらともいえない」を許す選択肢で回答させた。

である。「好都合である」と評価するものは1割にみえず、年齢層による一定の傾向はみられない。しかし、「(科学技術の進んだ)今の時代ではやむを得ない」とするものは20歳台では15%であるが、年齢層が高くなるにつれて上昇し60歳台では23%と8ポイント増加している。このが高年齢層になるにつれ否定的評価が減少している。

**自分の臓器を提供することについて (問 V-2)**

「他の人の役に立つならばそうしたい」と回答したものが、全体の過半数を越えている。男女差は見られないが、図14をみると、若年齢層ほどこの回答傾向は強くなり、20歳台・30歳台では約6割に達している。

**心臓移植について (問 V-3)**

回答者自身のこととしてではなく、このことの一般的な可否について問うた。「それで命が救われるなら、取り替えたらい」とするものは、全体で65%に達する。前問と同じく若年齢層ほどこの技術を肯定しており、その傾向はさらに強い。20歳台・30歳台での肯定率は7割以上にもなっており、60歳台に比べ30ポイント近くも上昇している(図15)。

高年齢層になるほど拒否的反応が増加するが、「時代の流れだからやむを得ない」とする消極的的反

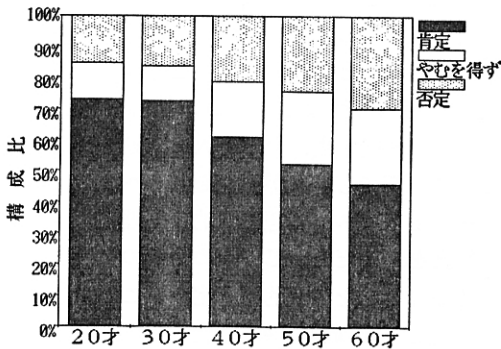


図15 心臓移植について このことの可否について、「それで命が救われるのならよい」(肯定)「望ましくないが、時代の流れだからやむを得ない」「そこまで人為的に手を加えるべきでない」(否定)の3選択肢から選ばせた。

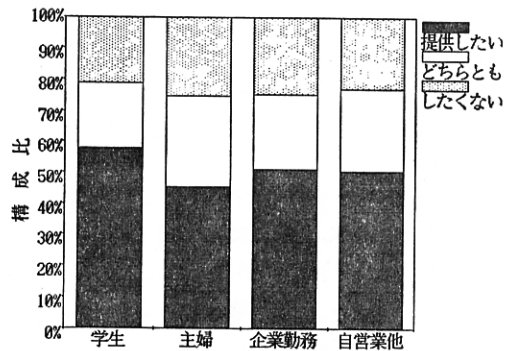


図16 自分の臓器を提供することについて 他人に臓器を提供することについて、職業別集計。

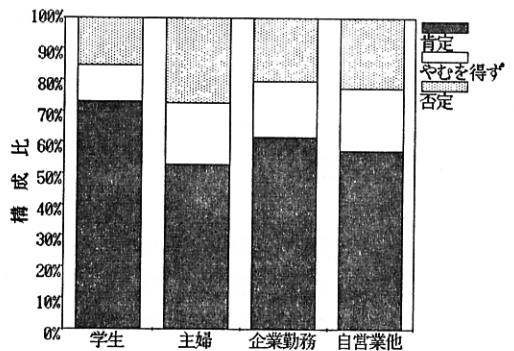


図17 心臓移植について このことの可否について、職業別集計。

応の選択率も、12%から24%へと倍増している。

また、職業別にみると、自分が脳死状態になった時の臓器移植についても、心臓移植についても肯定的回答が最も少ないのが主婦である(図16, 図17)。

老後や医療技術の問題などは多くの場合、回答者に実感をもって回答できるような状況がなく、一般的なイメージしかないから紋切型の回答になり易い。今回の調査ではこれを少しでも防ぐため、バリアー付き(どんなに負担が高くとも等)の選択肢にしたのだが、現状では、多くの回答者にはこのような問題が余りに現実から遠く感じられるため、十分な効果を上げなかったように見える。

例えば、臓器移植等の医療技術導入は、「(自分



が提供者になることによって、他の) 人の役に立つ」という大義名分があり、社会規範に合致するため認められやすいと思われる。事後の面接事例からこれを示しているものを挙げる。

(自身が臓器を提供する場合、) 臓器移植は「安らかに死んでからにしてほしい」。が、心臓移植は「それで命が救われるならば、取り替えたらい。」(32歳・女・未婚)

(一般的に脳死を人の死と認めるかどうかはともかく、) 自分が他人に(臓器を)提供するという意味では脳死を認める。(38歳・男・既婚)

生命の人為操作には反対するが、身内を病気で失った体験があるから、自分が臓器提供することについては、「そのことによって(他人の)命が救えるのなら」賛成する(53歳・女・夫とは死別)。

また、最新・最先端の科学技術の実社会への導入・貢献は受入れざるを得ないものと感じているので、その内容にかかわらず仕方なく認める、という例もある。

「科学が発達してきたので、臓器提供はやむを得ない状況なのだろう。」(49歳・女・既婚)

この言い方には、現代社会が良くも悪くも科学技術に支えられているという印象と、独りの力では社会の流れを変えられないというあきらめとが共存している。さらにいえば、科学合理主義が生活のあらゆる面に浸透してくるものの疑問を感じながらも、その流れを押しとどめる有効な論理を見出せぬまま受入れざるを得ない感じを表していると見られる。つぎに、漠然としてはいるが科学が勝手に進むことへの危惧を表明している例を示す。

「現在の医学はただの産みわけ以上に進んでいる。こういうことは自然にまかせるのが一番良い。」(37歳・女・既婚)

産み分けについても、臓器移植についても賛

成するが、心臓移植については「そこまで人為的に手を加えるべきではない」。(43歳・男・既婚)

従って、心臓移植などの医療技術が、今回の調査で得られた回答比率通りに認められているものとは判断し難い。面接事例を見れば、多くの人が実際そのような状況に立ち至った場合には、非常に迷うであろうことを表明している。したがってこれらとは逆に、伝統的価値観からみれば「自然の摂理に反する」ことが明白な産みわけには、否定的にもなる。まだこれらの医療技術には現実感を持ってない回答者が多く、たてまえとして賛成あるいは反対を表明しても、実際問題としてはわからない、というのが現状での大方の意見であろう。

#### 2-4. 数量化 III 類による項目・回答者属性の整理

以上個々の質問に対する回答傾向について総合的に考察するため、数量化 III 類を用いて、質問項目と回答者属性を整理して表現する。主に本稿にとりあげた項目を用いて処理を行い、弁別力の低い項目を除去して得られた解のうち寄与の大きい順に2つの解を採用した。縦軸に第1解( $r = .45$ )を、横軸に第2解( $r = .31$ )をとって各質問項目の選択肢を図示したものが図 18 である。

この図で、学生・会社員・自営業の別にその回答傾向を検討する。

学生であることと類似の特性をもつものは、①尊厳死や臓器移植などの新しい技術の積極的肯定、②親の面倒・寝たきり老人・末期ガン患者はどんなに大変でも子供が面倒を看るべきだ、というオーソドックスで理想主義的な倫理観念、③現在の社会を快適だと感じ、今の生活の充実を優先し、要領のよさを積極的に肯定することである。これに対し、30歳台・40歳台を中心とする会社員層は先進医療技術の導入には積極的ではなく、老後の問題や末期患者の問題を、(経済的な高負担と引き換えに)家族外の公共社会システムに頼る「合理的」発想が特徴的である。

高年齢層を中心とする自営業層は、「社会は複雑



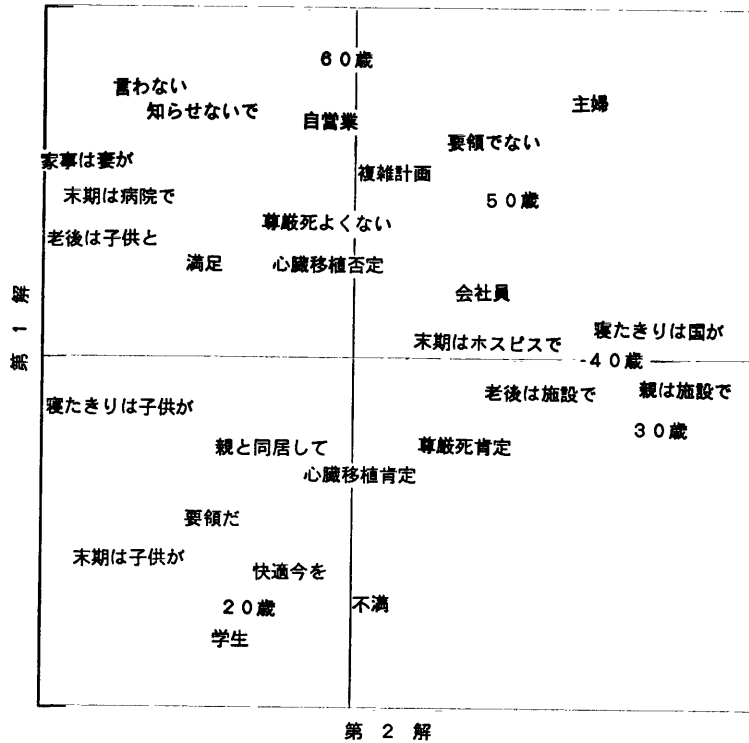


図 18 回答選択肢・回答者属性の類似性の空間的表現 (数量化 III 類による処理結果)

であるから計画的に生きる」「要領よくふるまう方が得をするとは思わない」など伝統的生活態度をもつだけでなく、家族観についても医療技術についても、全体的に保守的な意見と結びついている。

一方、主婦であることと強く結びついている意見は見あたらない。これは主婦が、ここに扱われた問題について、「その他」を選択することが多く、意見が一様でない、あるいは迷いが多いことを示していると解釈される。回答者の属性による傾向をまとめると、以下の通りである。

1. 伝統的価値観と年齢による保守性は、現在でも新技術を受け入れない方向にかなり働いている。
2. 男性社会人は合理的解決は受け入れるが、倫理観の変更にはそれほど積極的でない。
3. 現実に家族の問題・高齢化に伴う介護の問題に直面している主婦は、イメージ構造が複雑

であり、単一の傾向は読み取れない。

4. 若年層ほど現代社会を快適に感じ・新しい技術の受け入れに抵抗が無く・理想主義的傾向が強い。

### 3. 生活感の構造

第1節で見たように、現在の生活に程度はともあれ満足していると感じているものは6割を越え、また、今の社会について、現時点では豊かであると感じているものは全体の7割以上を占めている。また、今の社会を「豊かだとは思わない」ものの比率を30歳代以降の社会人の年齢層で見ると、30歳代の約4割を最高に年齢層が高くなるにつれて減少している。つまり、過半数のものは現代社会を豊かな社会と認めており、その傾向は加齢によりかなり強くなる。

しかし、このことはそのまま現代社会に対する肯定的な態度を意味するわけではない。現在の社

会を豊かだと感じているもののうち、「さらに発展する」と回答したのは40%にすぎず、「こんな豊かな生活は続かぬ」とみるものが60%である。

これを図2によって年齢層別に見ると、加齢によって「豊かだとは思わない」という印象が減少する分を埋め合せるように増加しているのは、「こんな豊かな生活は長くは続かない」という印象である。豊かさを積極的に評価する、「さらに豊かな社会に発展して行く」と感じているものの比率は高々3割程度であり、「豊かだとは思わない」同様加齢に対応して減少傾向にある。

つまり、豊かさを実感するものは過半数を越えるものの、それはこの豊さを産みだした社会構造への信頼に支えられたものではない。むしろ豊かさを感じれば感じるほど、それに対する疑問をも増殖させてしまう、という機制を示唆している。この構造の具体的なイメージを、以下に面接事例から挙げる。

「便利で快適な世の中になった」と感じているが、「今後10年くらいはさらに豊かになっても、その後はどうなるかまったくわからない。」(31歳・女・未婚)

「子供たちの心の豊かさを育てられない社会を豊かだとは言えない。」(37歳・女・既婚)

「経済成長によって金銭的に豊かになったが、心の豊かさを考えるゆとりがなかった。これからはもっと自分の生活の中身を豊かにすべきである。」(56歳・男・既婚)

「日本は今曲がり角に来ていて、豊かさのほんとうの意味が分からなくなっている」のではないかと思っている。(61歳・女・既婚)

次に、このような印象を生む社会に対する意識を、もう少し具体的にしてみる。

### 3-1. 今の生活

まず、豊かで快適な生活の実現にともなって、将来の生活にむかって努力するより現在の生活の充実を重視することに生活の意味を見出すかどうか

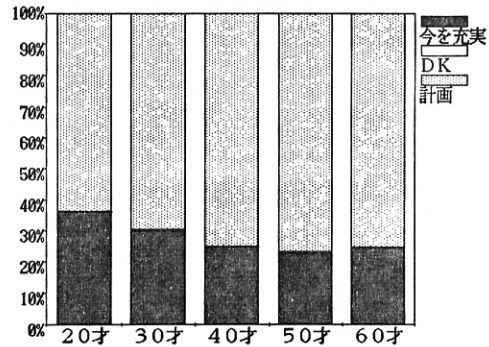


図19 今の生活が重要か 現代の社会は豊かになったから、「今の生活を充実させることが大切か」「計画をたてて生活することが大切か」を選ばせた。

かに関する意見をみる(問 II-2C)。

全体としてみれば「今の生活を充実させる」と回答したものは30%でしかなく、計画派が多数を占めている(図19)。しかし、若年層だけで見てみると、この比率は37%と増加し、4割に迫っている。この年代層にあって「今の生活を充実させたい」と回答したものは、社会規範として禁欲的イメージの強い計画的生活の呪縛を、科学的合理性の力を借りて打破し、「自分らしい生活」をやっと手にしたという感覚であろう。

「将来のために計画をたてて生活するのは大切ではあるが、そのために我慢する必要はない。」(31歳・女・未婚)

将来の生活は心配しなくてもなんとかなるといふ考え方には疑問を感じるが、「今の自分の生活を充実させることが大切」(31歳・女・未婚)

だから、事後調査でこの結果を見せられて、

若い世代でも「計画をたてて生活をするのが大切だ」という意見が少いのに「少々がっかりした。」(31歳・女・未婚)

という意見もある。これとは別に、中年以降になってからの今の生活を充実させたいという回答は、以下のように、自己の生活基盤が確立するま

では計画的に、という伝統的な生活感覚によってなされていると思われる。

「現在までは計画的にやってきたが、これからは今の生活を充実させることが大事」(49歳・女・既婚)

結局のところ、社会の豊かさを積極的に利用して今の生活を楽しむより、計画性を重視する意見が全年齢層を通じて多いことは、現在の豊かさを確固とした基盤の上に立ったものとは見ていないものが多数を占めることと対応しているとも見られる。つまり、生活規範として計画的生活を重視すると言うより、豊かさのうつろい易さに対する不安のあらわれと見られることも出来よう。

**便利で快適になった (問 2-2B)**

つぎに、科学技術を現代社会の発展を支えたものとして肯定的に評価するか、それによって日常生活が複雑化したという側面を重視して否定的に捕らえるかの二者択一で回答させた問に対する回答傾向をみる。第1節でもみたように、図2を見れば、肯定的評価が優勢であるのは明らかである。また、どの年齢層で見ても科学技術に肯定的なグループの満足度が否定的なそれを上回っている。科学技術を否定的に捉えるものは高年齢層ほど多く、50歳代以降ではほぼ4割を占めている。

**類型別社会観**

科学技術と豊かさ・生活満足との関係をさらに検討するため、社会や生活に関するイメージをもとに対象者を4つのタイプに分類する。問 II-2b「科学技術の発展が社会を快適に/複雑化した」、および問 II-2c「現代社会は豊かになったから今を充実させる/将来を考えて計画的に生活することが大事である」の2項目に対する反応パターンで、

科学技術に肯定的で今の生活を重視する型 (快適今しか型)

科学技術に肯定的で計画的な生活を重視する型 (快適計画型)

科学技術に否定的で今の生活を重視する型 (複

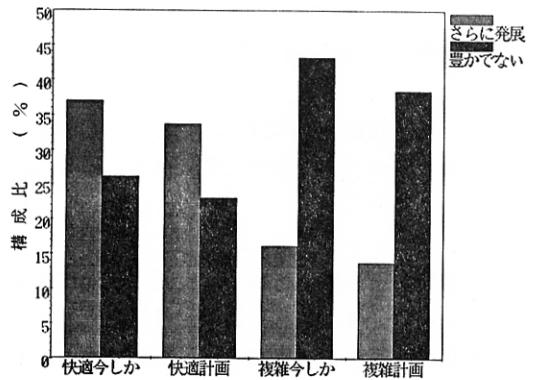


図 20 豊かさのイメージ 科学技術に対する態度と今の生活を重視するかということに対する態度で作成した4類型別に、「さらに豊かな社会に発展する」「今の社会は豊かでない」の構成比率をみる。

雑今しか型)

科学技術に否定的で計画的な生活を重視する型 (複雑計画型)

の4つを作成する。この4類型の構成比を年齢層別に見ると、快適今しか型は若年層になるにしたがって多くなり、複雑計画型は逆に高年齢層に多い。

この4類型別に社会の豊かさのイメージを見る(図20)。科学技術による快適さを感じているグループでは社会の豊かさを将来に渡って肯定的に評価しているものが多く、これに否定的なものは社会の豊かさを感じないという関係が明らかである。科学技術肯定派ほど将来に関して楽観的であり、科学技術疑問派はこのような現代の「豊かさ」に疑いをもっていると考えられる。

**3-2. 「便利な世の中」に対する2種類のイメージ**

科学技術が便利で快適な世の中を作り出したということの意味は、一般的にいえば、以下の面接事例で言及されたイメージであろう。

人工的でも便利で快適な生活を好み「機械に出来ることはどんどんやらしてもらったほうが

よい」し、環境汚染も科学技術で「いずれ克服できる」。(36 歳・男・既婚)

しかし、科学技術を肯定的に捉えている回答者が、そのすべてを無条件で受入れているのではない。

「科学技術の進歩で確かに生活は快適になった。バランスさえ考えれば、自然と人間との共存は可能。ここまで文明社会が進むと、もはや逆行は無理。」(76 歳・男・既婚)

「快適さと引き換えに世の中がブラックボックス化してもそれは仕方のないこと。」(76 歳・男・既婚)

従って、科学技術の産み出した「便利さ」についても相反する印象が存在する。

「この年になっては腰が痛く、もし農業をやれと言われてもできない」から、「人工的でも便利で快適な生活が良い」。(57 歳・女・既婚)

このような意見に対して、

「年老いて自分でやれなくなった時は、便利さが(老人にはかえって)複雑で住みにくいと思うかも知れない」(49 歳・女・既婚)

という印象も存在する。後者では、機械の自動化など社会システムの提供する便利さが主に若い年齢層を対象としたものであって、加齢により、その流れについていけなくなるという意味での不安を表明している。これも、社会の豊かさを素直に喜ばない一因になっていると想定される。また、科学技術に肯定的イメージを持たずに、

「科学技術の発展が素晴らしいという生活の回路ができあがりすぎている。」とは感じながらも、「今の社会は便利で快適になったところもあるので、自分も置いて行かれないようにしなくてはと思う」(61 歳・女・既婚)

という意見もある。これは、科学技術に疑問を持ち、それが提示する「便利な生活の強制」の圧力を感じながらも、その構造が社会を広範に覆っているため受入れの努力をせざるを得ないという印象である。

また、つぎの意見も「便利さ」にたいする代表的な意見のひとつである。

「生活のレベルを落としてでも、自然を大切にしたいと思う考えは基本に持っているが、反面、病気や高齢者を考えた時は、便利さは絶対必要とも考える」(53 歳・女・夫とは死別)

ここで言及されている「便利さ」は、社会システムの提供するサービスにアクセスできることと解される。同じ被面接者は現在の日本の豊かさについて、

「本当に精神的物質的に豊かなのだろうか。便利で快適であると同時に複雑ですみにくい状態でもあるのではないか。」(53 歳・女・夫とは死別)

とも言っている。つまり、便利・快適性と複雑化し住みにくくなる機構は表裏一体をなしていると感じられている。従って、豊かさが増せば同時に社会の複雑性も増してしまうから、結局「こんな豊かさは続かない」という印象に帰結するのであろう。

### 3-3. 社会変容に対する個人の無力

このような印象は、科学技術に主導される現代社会システムは強力であり、自分がいくら疑問を感じても、もはや個人の力では関与不可能であるという無力感にもつながる。「もはや個人の努力では社会を変えていくことは出来ない」と思うものの比率は、どの年齢層でも 6 割弱で不変であり、過半数を一定して占めている。

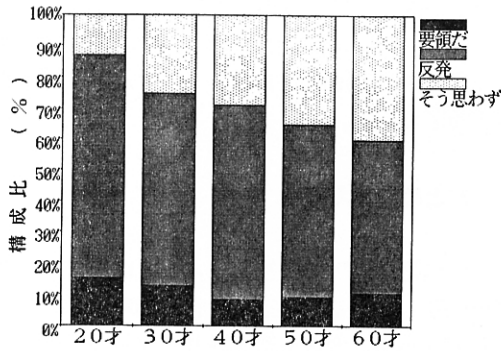


図 21 要領よくふるまう方が得をする 現代社会では「社会のしくみや世間のことを大事にしながら生活するより、要領よくふるまう方が結局得をする」について、「その通りだと思う」(要領だ)「そうは思うが、反発を感じる」(「そうは思わない」)の3つから選ばせた。

### 要領が大事 (問 2-2E)

このようなイメージの流れからすれば、現代の社会では「要領よくふるまう方が得をする」という意見に、たとえ反発しながらにせよ同意するものの比率が全体で 85% を越えていることも理解できる。60 歳代では 40% を占めている「そうは思わない」の比率は、年代層を降りるに従い減少し、20 歳代に至っては 13% にすぎなくなっている (図 21)。さらに、要領よくふるまうことを積極的に認めるものは、20 歳代において 17% と最大の比率になっている。

これは、現代の豊かな社会について、それが正当な勤労の成果として得られているという見方を単純には支持しないものが大多数を占めていることを示している。個人は無力であるし豊かさも続かない、つまり、社会の豊かさがかりそめのものでしかないという印象を多くのものが持っていることと、個人の行動原理に関するこの問の結果とは強く関連している。どのような心情からこのような回答傾向が得られるのかを、面接事例から見る。

「社会を変革することはひとりでは無理」であり、このような社会では要領よくふるまうことで「得をするとは思う」。(31 歳・女・未

婚)

個人の力で社会を変えていくことが出来るのは理想だが、「現実には無理だ。」そのような社会には反発を感じるが、「要領よくふるまう方が結局得をする。」特に「会社では要領が悪いと損だ。」そして、自分は要領の良い方ではないので、「要領よくふるまう人は仕事上では許せても、個人的なつきあいはしたくない。」(32 歳・女・未婚)

「世の中きかない奴ばかりはびこっていて政治でも会社でも悪い奴ほど得をしているのが現実だ。」(27 歳・女・未婚)

### 3-4. 若年層の生活意識

社会人での加齢にともなう豊かさの感じ方の変化と比較するため、20歳代つまり大学生を中心とした層について社会の豊かさの判断を見ると、他の年齢層での傾向を外挿することが出来ない (図 3)。特に、年齢的に近接する 30 歳代グループとは大きく様相を異にしている。20 歳代にあっては、現代の豊かさについて 75% もの高率で肯定してはいるが、将来については否定的な「こんな生活は続かない」が極めて多く、年齢層的には一番遠い 60 歳代の回答比率と非常に類似している。つまり、豊かさを感じてはいるが、将来の見通しを欠いたまま現在の生活を楽しんでいることになる。そして一方では高齢者層とは異なり、将来に向けての計画的に生活するより、今の生活を重視する傾向も強い。

さらに、要領よく生きること認める意見が最も強いのもこの年齢層であること、社会に対する個人の無力感も強いことも考え合わせれば、若年層はもはや社会とのつながりに無関心で、自己の生活に享乐的に内閉する傾向を持つと見ることができる。そうではなく、この傾向は加齢とともに減少するのだから、徐々に計画した生活を志向するようになると考えても、無力感そのものは減少しないのであるから、単にやむを得ず現状順応していく過程をたどるだけということになってしまう。

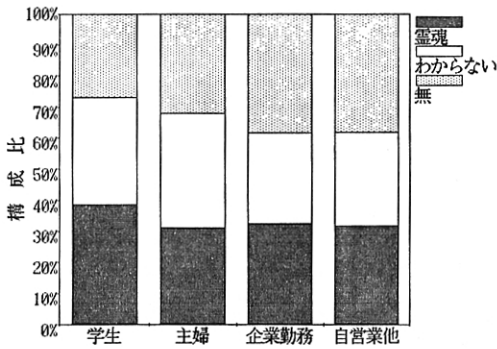


図 22 死後について「死んでも靈魂は残る」「死ねば無に帰する」「わからない」から選べた。

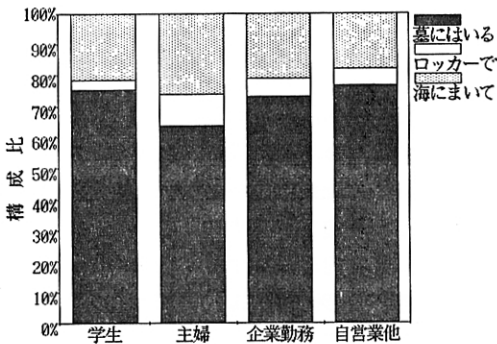


図 23 墓について あなたの死後、あなたのお骨はどのようにしてほしいか、について、「祖先の墓に入れてもらいたい」「ロッカー型のお墓でよい」「太平洋にまいてほしい」の3選択肢で回答させた。

このような若年層に、老後の問題等に理想主義的意見を持ち、科学を肯定し新しい医療技術受入れに賛成する意見が強い。実社会での経験の最も少なく、社会人としての生活実感の乏しい層が、一番優等生的な回答傾向が強い。

若年層にはさらに、このような特性に加えて保守回帰傾向すらうかがうことが出来る。

死後について聞いた問 V-5 で、「死んでも靈魂は残る」との選択肢を最も多く選んでいるのは学生であり、その比率はほぼ4割に達している(図22)。同様に自らの死後「祖先の墓に入りたい」と回答したのもも自営業と同等の高率を示している(図23)。この層にあっては、科学技術に支えられた豊かな社会を享受する傾向と、かなり保守的な

傾向とが共存していることになる。

そして、そのような傾向をもつ層が突出して社会の先行きに否定的であるのは、十分な検討を要する問題である。

#### 4. まとめにかえて

生活満足は、現在の社会システムにさまざまな形で関与している科学技術を肯定的に受け入れられるかどうか、大きく影響されると見ることが出来る。そして、現在のシステムに疑問を持たないものほど生活満足を得るという構造が認められる。

しかもこの満足感、社会システムに対する個人の関与が不可能であるとの認識の上に成立している。したがって、自分がそれに反発するかどうかとは別に、社会の動きに順応した方が楽だ、疑問を持たずに要領よく生きる方が「かしこい」生き方だ、という気分が広範にみられる。これらのことは、社会の豊かさの将来へ向けての持続について否定的なイメージ、不透明感を形成する重要な要素になっていると考えられる。

さらに留意すべきは、若くはなくとも、または、科学技術によってもたらされた「便利さ」が自分には便利でなくとも、その見せかけの便利さや、科学技術そのものを批判することが出来ない。それどころか、全く逆に、進化する便利さに「ついていかななくては」と思わざるを得ない構造が出来てしまっていることである。しかし、ついて行くのに多大の努力を要するような「便利さ」とは一体何だろうか。

これは、好き嫌いにかかわらず生活の大部分が科学技術に最大限に支援され、それによって「豊かな」生活を送っていると認めざるを得ないことに由来する、あきらめをとまらぬ現状追認に見える。この構造によって、必ずしも科学技術に肯定的でないものも、先進医療技術など、「科学によって社会にもたらされたもの」に有効な拒否の論理を持てなくなっている。この背景のもとに、産み分けや心臓移植など、自分の生活規範には反するが、科学的(に見えるもの)なものは拒否でき

るご時世ではない、「時代の流れだからやむを得やない」という消極的受入れがとくに高齢者層において多くみられることを検討しなくてはならない。

老後の問題や新しい医療技術の受入れはともに、個々人がその状況に直面した時には、困難な決定を自ら引き受け、状況に合わせて解決せねばならない問題である。現代社会の恩恵を一方的に受けた結果の豊かな生活、また、その生活を守るために少々の不都合は時代の流れと我慢するという受動的な生活状況の延長で、これらの今後確実に

に増加し、困難な判断を迫られる問題に対処できるとは思えない。

とくに若年層の場合、この社会システムに対するあきらめに起因する受動的な生活傾向はさらに強化され、自己の生活に埋没する享楽主義的傾向となって進行しているように見える。若年層で進行しているこの生活態度と、それとらにはらに保持している理想主義的生活観では、現状の生活が変化した時有効な決定を行ない得ない。社会変化に順応的に行動を適合させているだけでは、この「豊かな生活は長く続くはずはない」という大多数の印象をそのまま実現してしまうだけである。

## III-2. 家族観・生活観の動向

渡 辺 秀 樹

### はじめに

本稿は、「日本人のライフ・スタイル調査」の結果のうち、家族を中心とした質問項目について見てゆく。すなわち、①人々の結婚観、②家族観、③生活観の一部である仕事とそれ以外の生活との比重のかけかた、および転職観、④さらに人間関係ネットワーク——付き合い——について、結果を見る（なお、結果は特別に断らない限り、学生を除いたものである）。

### 1. 結婚観

結婚観については、結婚と性的関係について、結婚のしかたとしての同棲について、結婚の必然性について、結婚と子どもの持ち方について、そして女性にとっての結婚と仕事の関係について尋ねた。

#### 1) 結婚と性的関係について

結婚していない若い人たちの男女関係についての考えを聞いたものである。「1. 結婚式がすま

表 1 結婚と性的関係 (男女別)

	男	女
合 計	1630人 100.0%	2448人 100.0%
結 婚 した ら	415人 25.5%	715人 29.2%
婚 約 した ら	376人 23.1%	511人 20.9%
愛 して いた ら	602人 36.9%	992人 40.5%
関 係 な い	152人 9.3%	85人 3.5%
そ の 他	85人 5.2%	145人 5.9%

では、性的まじわりをすべきでない」は男が 25.5%、女が 29.2% となっている。「2. 結婚を約束した間柄なら、性的まじわりがあってもよい」とするのは、男で 23.1%、女で 20.9% である。もっとも多いのが「3. 深く愛し合っている男女なら、性的まじわりがあってもよい」であり、男が 36.9%、女が 40.5% となっている。「4. 性的まじわりをもつのに、結婚とか愛とかは関係ない」とするのは少なく、男で 9.3%、女で 3.5% である(表 1)。

性的な行為を、結婚という制度的な出来事に結びつけるのか(選択肢 1 および 2。両者の違いは結婚と性的経験の時間順序についてである)、愛という精神的でかつ当事者内の出来事として位置づけるのか(選択肢 3)、それとも、そうしたこと

表 2 学歴別に見る結婚と性的関係 (男女別)

男	合 計	高卒以下	それ以上
合 計	1624人 100.0%	663人 40.8%	961人 59.2%
結 婚 した ら 婚 約 した ら	789人 48.6%	412人 62.1%	377人 39.2%
関 係 な い	835人 51.4%	251人 37.9%	584人 60.8%

カイ二乗値 81.53 自由度 1 確率 0.01%

女	合 計	高卒以下	それ以上
合 計	2431人 100.0%	1298人 53.4%	1133人 46.6%
結 婚 した ら 婚 約 した ら	1213人 49.9%	770人 59.7%	443人 39.1%
関 係 な い	1218人 50.1%	528人 40.7%	690人 60.9%

カイ二乗値 98.15 自由度 1 確率 0.01%



とは無関係に独立したものと考えるのか（選択肢4）という質問である。結果は、性的経験を精神的かつ個人的なものと考えてる人たちがもっとも多くなっている。男女の結果に顕著な違いはない。

選択肢1と2すなわち、性的経験は結婚してから、あるいは婚約してからという伝統的な考えと、それ以外の選択肢をまとめて、対象者の最終学歴別に結果を見ると、高卒以下の対象者に性的経験は結婚・婚約をしてから、という割合が多くなっている（表2）。男女ともに学歴が高いほど「結婚してから」というのが少なくなり、「愛し合っているなら」というのが多くなる。

## 2) 同棲について

同棲というのは、結婚という法的手続きを経ない男女の共同生活であり、現在、西欧で多く見られるライフスタイルになっている。この同棲についての評価を尋ねたのであるが、結果はたいへんネガティブなものとなっている。すなわち、「1. 同棲はよくない。正式に結婚すべきだ」というのが男で 60.3%、女で 61.3% と非常に多い。「2. 結婚前にためしに同棲するのはよいと思う」というのは、男で 23.1%、女で 26.4% となっている。「3. 別々に暮らすよりは経済的に得だ」（男 10.0%、女 6.1%）とか、「4. 好きな相手でもしほられるのはいやだから、結婚よりも同棲の方がよい」（男 6.6%、女 6.3%）というのは非常に少ない。

同棲を認めるとしても、結婚と結びつけて認めるのであり（選択肢2）、同棲独自の利点（選択肢3, 4）を認めるというのは少ないということである。

表3 同棲観（男女別）

	男	女
合計	1586人 100.0%	2379人 100.0%
よくない	957人 60.3%	1459人 61.3%
試しなら	366人 23.1%	627人 26.4%
経済的だ	158人 10.0%	144人 6.1%
結婚より良い	105人 6.6%	149人 6.3%

表4 結婚観（男女別）

	男	女
合計	1618人 100.0%	2453人 100.0%
して当然	607人 37.5%	428人 17.4%
世間体のため	139人 8.6%	134人 5.5%
すると有利	633人 39.1%	1269人 51.7%
必要はない	239人 14.8%	622人 25.4%

る。調査対象者において同棲は一つのライフスタイルとして位置づいていないということであろう。ただ、年齢や最終学歴などで見ると、若いほど、そして高学歴ほど同棲を認めるものが多くなっているため、今後、ライフスタイルの一つとして位置づく可能性はある。

## 3) 結婚の必然性について

結婚はするのが当然であるかどうかを尋ねた。結果は男女で違いが見られる。「1. 結婚はするのが当然である」とするのは男が 37.5% であるのに対し、女は 17.4% と少ない。「2. 結婚しないと世間では一人前として扱ってくれない」というのは男女ともに少ない（男 8.6%、女 5.5%）。「3. いろいろ考えると結婚した方がよいと思う」というのは、男で 39.1%、女で 51.7%。「4. しいて結婚する必要はない」とするのは、男で 14.8%、女で 25.4% となっている。結婚の必然性は、男性により多く見られ、選択性は女性により多く見られる。

結婚を人生における必然的な出来事と見るのか、それとも選択的な出来事と見るのか、についての質問であったが、男女の考えにズレの大きい項目であった。

## 4) 結婚と子どもの持ち方について

結婚したら、子どもを持つのが当然なのか否かを尋ねた。「1. 結婚したら、子供をつくることは当然である」というのは、男で 46.7%、女で 30.0% である。「2. 結婚したら、子供をつくるかどうかは自然にまかせる」というのは、男が 50.5%、女が 67.6% となっている。そのほかの

表 5 結婚と子ども（男女別）

	男	女
合 計	1618人 100.0%	2442人 100.0%
当然つくる	755人 46.7%	732人 30.0%
自然にまかせる	817人 50.5%	1650人 67.6%
つくらない	15人 0.9%	29人 1.2%
子供だけ	5人 0.3%	7人 0.3%
両方不必要	26人 1.6%	24人 1.0%

選択肢の比率は非常に小さい。

子供を持つのが当然とするのは男に多くなっている。女性の3分の2は「自然にまかせる」と答えており、主体的な選択ではないけれど、子供を持つ/持たない、という結果の分岐を受け入れる考えが多いのである。

#### 5) 女性にとっての結婚と仕事の関係について

女性の仕事と家事・育児について、考えを聞いた。男女ともにもっとも多いのは「結婚して子供ができれば、一時仕事はやめ、子供に手がかからなくなったら再開するのがよい」であり、男で51.6%、女で56.8%となっている。いわばM字

表 6 女性にとっての結婚と仕事（男女別）

	男	女
合 計	1607人 100.0%	2450人 100.0%
結婚したら家事専念	293人 18.2%	184人 7.5%
子供ができれば専念	168人 10.5%	148人 6.0%
育児中は専念	829人 51.6%	1392人 56.8%
子供できれば軽減	179人 11.1%	369人 15.1%
仕事継続	134人 8.3%	346人 14.1%
子供はつくらぬ	4人 0.2%	11人 0.4%

型就労パターンをよしとしているのである。「結婚したら家庭を守り、家事に専念するのが望ましい」は男性に多くなっている（男18.2%、女7.5%）。「結婚して子供ができれば、仕事をやめた方がよい」も同様に男性に多い（男10.5%、女6.0%）。逆に、女性に多いのは「結婚して子供ができて、そのまま仕事を続けた方がよい」である（男8.3%、女14.1%）。

以上、結婚観について5項目にわたって見てきた。男女差が見られる場合は、基本的に伝統的な考えが男性に多い、ということができよう。項目によって、伝統的な結婚規範を肯定する度合い、あるいはそれからの乖離の度合いが異なる。そうしたズレを示しながら、（年齢別や学歴別の結果などを見ると）少しずつ伝統的な結婚観から離れていくように思われる。

## 2. 家族観

ここでは家族観のうち、家事・育児の夫婦の分

表 7 未・既婚別に見た家事・育児の分担（男女別）

男	合 計	未 婚	既婚・ 離死別
合 計	1624人 100.0%	257人 15.8%	1367人 84.2%
もっばら妻	218人 13.4%	18人 7.0%	200人 14.6%
主に妻	1197人 73.7%	178人 69.3%	1019人 74.5%
夫婦同等に	209人 12.9%	61人 23.7%	148人 10.8%

カイ二乗値 38.20 自由度 2 確率 0.01%

女	合 計	未 婚	既婚・ 離死別
合 計	2457人 100.0%	385人 15.7%	2072人 84.3%
もっばら妻	63人 2.6%	6人 1.6%	57人 2.8%
主に妻	1862人 75.8%	239人 62.1%	1623人 78.3%
夫婦同等に	532人 21.7%	140人 36.4%	392人 18.9%

カイ二乗値 58.75 自由度 2 確率 0.01%

担について、家庭と個人の生活との関係について、家族の重要性について、そして離婚についての質問項目を取り上げる。

1) 家事・育児の夫婦の分担について

家庭でおこなわれる家事・育児などのいろいろな仕事についての考えを聞いた。「家事・育児は、主に妻がおこない、夫がそれを助けるのがよい」とするのが、男女ともに多く、それぞれ男73.7%、女 75.8% となっている。「家事・育児は、もっぱら妻がおこなうのがよい」とするのは、男で 13.4%、女で 2.6% である。また、「家事・育児は、夫も妻と同等におこなうのがよい」とするのは、男で 12.9%、女で 21.7% となっており、男女間に差が見られる。「もっぱら妻」が男で多く、「夫婦同等に」が女で多いのである。表 7 は、未婚婚別の結果も示しているが、男女ともに未婚者の方が「夫婦同等」とするものが多くなっている。

なお、「夫婦同等に」というのは、女性の大学卒以上では 37.1% に達している。男性においても、

「夫婦同等に」という比率は大学卒以上においてもっとも高いのであるが、女性の場合と比べるとかなり低い比率 (17.0%) となっている (表 8)。

2) 家庭と個人の生活との関係について

対象者にとって「家庭」とはどういうものか、3つの選択肢を用意して尋ねた。「家庭というのは生活の中心であり、心のよりどころである」とするのが、もっとも多く、男で 80.8%、女で 77.7% となっている。「家庭というのは便利な時もあるが、わずらわしい時もある」というのは、男で 17.0%、女で 21.2% である。「个人中心の生活の方が気まままでよい」は、非常に少ない (男 2.2%、女 1.1%)。

質問のしかたにもよるが、こうした3つの選択肢を設けた場合は、家庭が生活の中心であり、また心のよりどころとなっている。个人中心の生活の気ままさは評価されない (表 9)。

3) 家族の重要性について

同様に、対象者にとって「家族」とはどういうものか、その重要性について3つの選択肢を用意

表 8 学歴別に見た家事・育児の分担 (男女別)

男	合計	中 卒	高 卒	短大・専門卒	大学大学院卒	その他
合 計	1618人 100.0%	136人 8.4%	475人 29.4%	164人 10.1%	790人 48.8%	53人 3.3%
も っ ば ら 妻	217人 13.4%	25人 18.4%	65人 13.7%	25人 15.2%	95人 12.0%	7人 13.2%
主 に 妻	1190人 73.5%	100人 73.5%	371人 78.1%	117人 71.3%	561人 71.0%	41人 77.0%
夫 婦 同 等 に	211人 13.0%	11人 8.1%	39人 8.2%	22人 13.4%	134人 17.0%	5人 9.4%

カイ二乗値 27.24 自由度 8 確率 0.06%

女	合計	中 卒	高 卒	短大・専門卒	大学大学院卒	その他
合 計	2440人 100.0%	181人 7.4%	1019人 41.8%	618人 25.3%	510人 20.9%	112人 4.6%
も っ ば ら 妻	63人 2.6%	10人 5.5%	26人 2.6%	13人 2.1%	6人 1.2%	8人 7.1%
主 に 妻	1852人 75.9%	149人 82.3%	826人 81.1%	481人 77.8%	315人 61.8%	81人 72.3%
夫 婦 同 等 に	525人 21.5%	22人 12.2%	167人 16.4%	124人 20.1%	189人 37.1%	23人 20.5%

カイ二乗値 115.76 自由度 8 確率 0.01%

表 9 未・既婚別に見た家庭の重要性 (男女別)

男	合計	未婚	既婚・ 離死別
合計	1623人 100.0%	259人 16.0%	1364人 84.0%
生活の中心	1311人 80.8%	163人 62.9%	1148人 84.2%
便利だが煩わしい	276人 17.0%	79人 30.5%	197人 14.4%
個人生活中心	36人 2.2%	17人 6.4%	19人 1.4%

カイ二乗値 71.39 自由度 2 確率 0.01%

女	合計	未婚	既婚・ 離死別
合計	2457人 100.0%	385人 15.7%	2072人 84.3%
生活の中心	1910人 77.7%	260人 67.5%	1650人 79.6%
便利だが煩わしい	520人 21.2%	111人 28.8%	409人 19.7%
個人生活中心	27人 1.1%	14人 3.6%	13人 0.6%

カイ二乗値 45.55 自由度 2 確率 0.01%

して尋ねた。「家族というのは一番大切な人間関係である」とするのが男女ともにもっとも多く、男で 72.4%、女で 79.0% である。「家族のためならある程度個人の生活を犠牲にしてもよい」というのは、男で 24.6%、女で 17.3% となっている。「家族よりも個人の幸福の方が大事だ」というのは非常に少ない (男 3.0%、女 3.7%)。表 10 を見ると、既婚者の方が「家族が一番」とする比率が高く、また未婚者の方が「個人が大事」の比率が高い。

#### 4) 離婚について

離婚について、3 つの選択肢を用意して尋ねた。「愛情が失われても、結婚継続のために最大限の努力をすべきだ」とするものが、男で 57.1%、女で 52.8% となっており、もっとも多い。次いで「愛情が失われたら、離婚すべきだ」であり、男が 39.4%、女が 44.0% である。「別居はしても、法的に離婚すべきではない」というのは、非常に少ない (男 3.5%、女 3.2%)。法的な結婚さ

表 10 未・既婚別に見た家族と個人 (男女別)

男	合計	未婚	既婚・ 離死別
合計	1625人 100.0%	259人 15.9%	1366人 84.1%
家族が一番	1177人 72.4%	153人 59.1%	1024人 75.0%
ある程度犠牲	400人 24.6%	82人 31.7%	318人 23.3%
個人が大事	48人 3.0%	24人 9.3%	24人 1.8%

カイ二乗値 55.37 自由度 2 確率 0.01%

女	合計	未婚	既婚・ 離死別
合計	2450人 100.0%	383人 15.6%	2067人 84.4%
家族が一番	1935人 79.0%	271人 70.8%	1664人 80.5%
ある程度犠牲	425人 17.3%	69人 18.0%	356人 17.2%
個人が大事	90人 3.7%	43人 11.2%	47人 2.3%

カイ二乗値 74.52 自由度 2 確率 0.01%

え維持しておれば、実質的な家庭生活は問わないという意見は、非常に少ないことがわかる。

愛情が失われた場合の意見が二つに分かれているのである。表 11 に見るように、男女ともに、未婚者は「離婚してよい」の比率が高くなり、既婚者は「回避の努力」の比率が高くなっている。また、表 12 を見ると、女性の大学卒以上では 57.3% が「離婚してよい」となっている。離婚に対する忌避観は弱いのである。

以上、対象者の家族観を見てきたが、家庭生活の中心性や、家族の重要性が強く認められているといえよう。また、実際に結婚して家庭生活を営んでいる方が、家族の中心性・重要性をより強く認めていることがわかる。また、家事・育児の分担や離婚観に見られるように、伝統的な家族観 (性別分業、および離婚忌避観) は、既婚者においてより多く持たれているという結果となった。学歴が高いほど伝統的な家族観から乖離しているといえよう。

表 11 未・既婚別に見た離婚観（男女別）

男	合計	未婚	既婚・ 離死別
合計	1595人 100.0%	255人 16.0%	1340人 84.0%
回避の努力	911人 57.1%	106人 41.6%	805人 60.1%
別居ならよい	56人 3.5%	11人 4.3%	45人 3.4%
離婚してよい	628人 39.4%	138人 54.1%	490人 36.6%

カイ二乗値 30.16 自由度 2 確率 0.01%

女	合計	未婚	既婚・ 離死別
合計	2409人 100.0%	378人 15.7%	2031人 84.3%
回避の努力	1273人 52.8%	171人 45.2%	1102人 54.3%
別居ならよい	76人 3.2%	12人 3.2%	64人 3.2%
離婚してよい	1060人 44.0%	195人 51.6%	865人 42.6%

カイ二乗値 10.77 自由度 2 確率 0.46%

### 3. 仕事と生活、転職観について

生活の諸領域のなかで重要な仕事領域と、家庭や趣味・スポーツなどそれ以外の領域との関係のありかたについてと、転職について聞いて見た。転職は、家族観でいえば、ちょうど離婚観にあたる。すなわち、一つの家族・一つの職場への持続的な所属と、離婚や転職によるシステム（家族システム・職場システム）の移行についての考えを聞いていることになる。

#### 1) 仕事とそのほかの生活との関係について

仕事とそのほかの生活との関係について、5つの選択肢を用意し尋ねた（その他を含めると6つ）。「仕事にもそれ以外の生活にも、同じくらいの力を入れる」というのが男女ともにもっとも多い（男 46.5%、女 49.9%）。次いで多いのが、男では「それ以外の生活もときには楽しむが、仕事のほうに力を注ぐ」であり（22.1%）、女では「仕事はさっさとかたづけ、できるだけそれ以外の生活を楽しむ」である（19.9%）。

男性の場合、仕事中心主義よりも、仕事もそれ以外も等分という考えが多いことがわかる。女性の場合、仕事周辺主義よりも、同じく、仕事もそれ以外も等分という考えが多いことがわかる（表 13）。

#### 2) 転職観について

転職について、3つの選択肢を用意して意見を聞いた。「職場や仕事内容が適さなければ、転職を考える」とするものがもっとも多く、男で 54.7%、女で 60.4% である。「一度勤めた以上、簡単にやめるのはよくない」というのは、男で 40.5%、女で 36.6% となっている。「転職は世間の信用をなくすから、やらない方がよい」というのは非常に少ない（男 4.8%、女 3.0%）。一つのシステムへの持続的な所属に固執するというより、内容が適さなければ、転職も考えるという方が、男女ともに多くなっている。システム移行の許容性が比較的高く出ているといえよう。なお、表 15 に見るように、実際に転職経験のある対象者の方が転職に許容的である。

仕事優先主義や終身雇用制に見合う考えよりも、仕事以外の生活とのバランスや、職場の変更を視野に入れた生活観が強いことが示されたと考えられる。

### 4. 人間関係ネットワーク——付き合い——について

親戚・近隣・職場などとの関係について尋ねた。付き合いの濃淡についての考えを問うたものである。

#### 1) 親戚との付き合い方について

親戚との付き合い方としては、「一応気軽に行き来できる程度の付き合いをしたい」というのがもっとも多く、男で 60.5%、女で 62.5% となっている。次いで「何かにつけ相談したり、助け合ったりするような付き合いをしたい」が、男 28.2%、女 23.5% である。「なるべく最低限の付き合いですませたい」というのは男女ともに 1割程度（男 10.0%、女 13.1%）であり、「できれば付き合いたくない」というのは非常に少ない。

#### 2) 近所との付き合い方について

近所の人との付き合い方もやはり「一応気軽に

表 12 学歴別に見た離婚観（男女別）

男	合計	中卒	高卒	短大・専門卒	大学大学院卒	その他
合計	1589人 100.0%	132人 8.3%	468人 29.5%	158人 9.9%	780人 49.1%	51人 3.2%
回避の努力	906人 57.0%	86人 65.2%	302人 64.5%	92人 58.2%	393人 50.4%	33人 64.7%
別居ならよい	55人 3.5%	9人 6.8%	11人 2.4%	10人 6.3%	22人 2.8%	3人 5.9%
離婚してよい	628人 39.5%	37人 28.0%	155人 33.1%	56人 35.4%	365人 46.8%	15人 29.4%

カイ二乗値 45.95 自由度 8 確率 0.01%

女	合計	中卒	高卒	短大・専門卒	大学大学院卒	その他
合計	2393人 100.0%	177人 7.4%	1007人 42.1%	603人 25.2%	496人 20.7%	110人 4.6%
回避の努力	1265人 52.9%	126人 71.2%	582人 57.8%	296人 49.1%	202人 40.7%	59人 53.6%
別居ならよい	76人 3.2%	7人 4.0%	31人 3.1%	19人 3.2%	10人 2.0%	9人 8.2%
離婚してよい	1052人 44.0%	44人 24.9%	394人 39.1%	288人 47.8%	284人 57.3%	42人 38.2%

カイ二乗値 85.30 自由度 8 確率 0.01%

表 13 仕事と生活（男女別）

	男	女
合計	1628人 100.0%	2454人 100.0%
家庭・趣味生きがい	134人 8.2%	250人 10.2%
仕事はさっさと	253人 15.5%	488人 19.9%
等分に	757人 46.5%	1224人 49.9%
仕事の方が	359人 22.1%	355人 14.5%
仕事生きがい	73人 4.5%	44人 1.8%
その他	52人 3.2%	93人 3.8%

話し合えるような付き合い」をしたいというのが多く、男で 66.6%、女で 66.7% となっている。次に多いのは「会ったときにあいさつする程度の最低限の付き合い」である（男 19.1%、女 20.7%）。「何かにつけ相談したり、助け合ったり

表 14 転職観（男女別）

	男	女
合計	1599人 100.0%	2370人 100.0%
合わねば転職	875人 54.7%	1431人 60.4%
簡単にはやらぬ	647人 40.5%	868人 36.6%
信用なくす	77人 4.8%	71人 3.0%

するような付き合い」というのは男女ともに 1 割程度である。

親戚との付き合い方とは、2 番目、3 番目の比率の選択肢が逆転している。親戚との付き合いよりも、少し浅い付き合いの方を望んでいるのである。

### 3) 職場の同僚との付き合い方について

職場の同僚との付き合い方について、どの程度が望ましいかを聞いた。「仕事が終わってからも話し合ったり、遊んだりする程度の付き合い」と

表 15 転職経験別に見た転職観 (男女別)

男	合計	なし	1回	2回以上
合計	1593人 100.0%	915人 57.5%	290人 18.2%	387人 24.3%
合わねば転職	872人 54.7%	445人 48.6%	169人 58.3%	258人 66.7%
簡単にはやらぬ	644人 40.4%	426人 46.5%	109人 37.6%	109人 28.2%
信用なくす	77人 4.8%	45人 4.9%	12人 4.1%	20人 5.2%

カイ二乗値 40.80 自由度 4 確率 0.01%

女	合計	なし	1回	2回以上
合計	3341人 100.0%	1173人 50.1%	539人 23.0%	629人 26.9%
合わねば転職	1415人 60.4%	615人 52.4%	355人 65.9%	445人 70.7%
簡単にはやらぬ	856人 36.6%	523人 44.6%	172人 31.9%	161人 25.6%
信用なくす	70人 3.0%	35人 3.0%	12人 2.2%	23人 3.7%

カイ二乗値 72.65 自由度 4 確率 0.01%

表 16 親戚との付き合い方 (男女別)

	男	女
合計	1616人 100.0%	2455人 100.0%
付合いたくない	21人 1.3%	21人 0.9%
最低限	161人 10.0%	322人 13.1%
気軽に	978人 60.5%	1534人 62.5%
相談・助け合い	456人 28.2%	578人 23.5%

いのがもっとも多く、男が 57.3%、女が 51.2% である。次いで「仕事に直接関係する範囲での付き合い」が多い(「最低限」と略称)。男で 24.4%、女で 35.2% である。「何かにつけ相談したり、助け合ったりするような付き合い」という深い付き合い方は、男で 17.0%、女で 12.3% となっている。

表 17 近所との付き合い方 (男女別)

	男	女
合計	1622人 100.0%	2457人 100.0%
付合いたくない	33人 2.0%	19人 0.8%
最低限	310人 19.1%	508人 20.7%
気軽に	1080人 66.6%	1638人 66.7%
相談・助け合い	199人 12.3%	292人 11.9%

表 18 職場の同僚との付き合い方 (男女別)

	男	女
合計	1603人 100.0%	2375人 100.0%
付合いたくない	22人 1.4%	32人 1.3%
最低限	391人 24.4%	837人 35.2%
気軽に	918人 57.3%	1215人 51.2%
相談・助け合い	272人 17.0%	291人 12.3%

表 19 大切な付き合い (男女別)

	男	女
合計	1578人 100.0%	2338人 100.0%
親戚	424人 26.9%	589人 25.2%
近所の人	137人 8.7%	348人 14.9%
職場の同僚	438人 27.8%	329人 14.1%
学校時代の友人	370人 23.4%	674人 28.8%
趣味の仲間	209人 13.2%	398人 17.0%

#### 4) 大切な付き合いについて

対象者にとって大切な人付き合いを、親戚・近所の人・職場の同僚・学校時代の友人・サークルや趣味の仲間の中から、一つ選んでもらった。男

では、親戚・職場の同僚・学校時代の友人が25%前後で多くなっている。近所の人をあげるのは少なく8.7%である。女では、親戚・学校時代の友人が25%前後で多い。次いで、趣味の仲間・近所の人・職場の同僚が15%前後の比率となっている。男における「近所の人」の比率が少ないのが目立っている。逆に「職場の同僚」は男において多い。

以上、望ましい付き合い方についての結果を見てきた。対象者は適度な付き合いをしたいという考えを持っているといえよう。

### おわりに

本稿においては、家族観・結婚観を中心に単純

集計結果および基礎クロス集計結果を見てきた。表は省略したものが多いが、全体として、若年層ほど、そして学歴が高いほど、家族の多様化志向を持つ。あるいは家族外の社会志向や変化への受容性を持つ、という結果が見られた。また、職業別では自営業層よりも、被雇用者層において同様の結果が見られた。今後、高学歴化や被雇用者化が一層進むと考えれば、家族観・結婚観の多様化や社会志向などへ向かうと判断できよう。全体を通じた結果としては、かなり穏やかな家族観を対象者は示しているといえよう。伝統的な家族観と多様化した家族観との間、すなわち過渡期的な観念を示しているということもできよう。



# IV

## SCT の分析結果

IV-1. 刺激文単位の分析	31	IV-2. 事例分析	67
1. 目的	31	1. 目的	67
2. 方法	32	2. 事例の選択方法	67
3. 結果	34	3. 事例	68
4. 考察	66	4. 考察	134

### IV-1. 刺激文単位の分析

#### 1. 目的

今回の調査では、質問紙調査に加えて、被調査者の“生”の声を捉えるために、SCT（文章完成法テスト）形式の質問紙と面接調査が施行された。ここでは、SCTの刺激文単位の分析結果について述べる。

SCTは、文章の書き出し（刺激文）を被調査者に示し、その文章の続きを自由に記述させる技法である。この調査で用いたSCTは、精研式SCT（佐野・楨田、1960）に手を加えたもので、60の刺激文から成っている。刺激文は、パーソナリティの内容について、調査のスキーム（i. e., 自己；プライマリー・グループ；セカンダリー・グループ；自然（モノ）；超越者）を参考にして選択されており、Part IとPart IIにそれぞれ30項目が適宜配列してある。これらを刺激文として用いることにより、被調査者の生き方を被調査者自身の言葉で捉えることが可能となる。

SCTの分析方法には様々なものがあるが、この調査では、刺激文単位の内容分析および頻度分析と、事例分析を行なうことにした。刺激文単位

の分析の主な目的は、被調査者全体の反応を包括的に把握することである。つまり、SCTによって得られた反応がどのようなもので、それがどのような頻度で現れたかを捉えようというのである。後で述べる事例分析では、1人の被調査者の60の刺激文に対する反応を全体的に見て、その被調査者を包括的に分析する。これは、1人の個人の姿を具体的に生き生きと捉える上では有効であるが、集団の全体像を捉える上では、より計量的な方法が必要となる。また、このような事例分析を行なう上でも、集団の全体的な傾向を事前に把握しておくことが重要となる。刺激文ごとに分析することにより、個人は刺激文ごとにバラバラにされてしまい、個人の生き生きとした姿は失われる恐れもあるが、その一方で、より計量的に集団の全体像に迫れるという長所もある。

SCTで得られる反応は、被調査者の自由記述であり、直接的に計量的な分析を行なうことはできない。そこで、われわれは、各刺激文ごとに反応の内容分析を行ない、それをもとに反応頻度の分析を行なうことにした。具体的には、内容分析の結果に基づいて反応カテゴリーを作成し、それを用いて反応の分類評定をする。そして、その評

定結果を集計することによって、各内容の反応頻度を把握するというものである。このような手続きを取ることで、被調査者の反応の持つニュアンスをなるべく残したまま、計量的な把握を行なうことが可能となる。

## 2. 方法

### [SCT の施行]

SCT の施行は、1991 年（平成 3 年）の 6 月から 9 月にかけて行なわれた。第一次調査にあたる質問紙調査に回答した被調査者のうち住所と氏名が判明している者を調査対象者として、郵送によって SCT 用紙の配布と回収を行なった。これは、SCT が質問紙調査に比べて被調査者の負担が大きいと、ある程度動機づけのある者に限って配布するためである。配布数は約 2,500、回収数は 1,332 で、回収率は約 53% であった。そのうち、居住地域などの理由から一部のサンプルを分析から除外したため、最終的に 1,175 のサンプルが分析されることになった。分析に先立ち、被調査者を性、年齢、居住地域によって分類したが、その区分は、質問紙調査の分析に準じて設定した。そのうちわけは、表 IV-1 のとおりである。これを見ると、男性が女性に比べてかなり少なく、年齢的には 24 歳以下が他に比べて多くなっている。しかし、居住地域については比較的バランスがとれている。なお、SCT 用紙は、前巻（組織行動研究, No. 22）の巻末資料に掲載され

ている。

### [内容分析]

内容分析は刺激文ごとに KJ 法（川喜田, 1967）を用いることにしたが、KJ 法で一度に分析できる反応の数には限界がある。そこで、被調査者の中から性別と年齢を考慮してサンプリングを行ない、それを KJ 法で分析することにした。年齢は 20 歳以下、21～24 歳、25～34 歳、35～44 歳、45～54 歳、55～64 歳、65 歳以上の 7 つに区分し、男女 10 名ずつの計 280 を選び出すことにした。ただし、性×年齢のセルによってはサンプル数が 10 名に満たないところもあり、最終的には約 270 名のデータが抽出された。

選択されたデータは、性・年齢ごとにまとめられ、刺激文別にレポート用紙に原文のまま書き抜かれた。各刺激文を書き抜いたレポート用紙は被調査者単位に切り離され、結果的には各刺激文ごとに約 270 のカードが作成された。

内容分析は、SCT の 60 刺激文のうち、反応内容にまとまりがあり、性差、年齢差、地域差があると思われる刺激文について行なうことにした。具体的には、刺激文の調査スキームに従った分類で、〈I. 自己〉を除いた計 30 の刺激文が分析対象となった。〈I. 自己〉に関連した刺激文は、その内容が非常に多様であり、個性的なものが多いため、内容分析の対象から除外した。

内容分析は、全部で 4 つの段階に分けて行なった。第 1 段階では、書き抜いた全内容のうち 140 の反応のみを対象として、類似した反応をまとめ、暫定的な小項目（内容の類似した比較的小きなまとまり）を作成した。この結果を見て反応内容にまとまりがあるかどうかを確認した。第 2 段階では、この結果に残りの約 130 の反応を加えて、最終的な小項目を決定した。小項目の数は、刺激文によってかなり異なるが、20 から 50 程度である。

第 3 段階では、類似した小項目をまとめて暫定的な大項目を設定し、分類評定に用いる反応カテゴリー（基準書）を作成した。紙数の関係でこれらの基準書をすべて掲載することはできないが、見本として〈私の兄弟（姉妹）〉の基準書を表 IV-

表 IV-1 SCT のサンプル数

居住地域	性別	年 齢					計
		～24	25～34	35～44	45～54	55～	
京 浜	男性	44	36	20	8	14	122
	女性	71	41	45	15	12	184
	計	115	77	65	23	26	308
首都圏	男性	11	9	17	22	29	88
	女性	65	20	17	42	27	171
	計	76	29	34	64	56	259
関東・中部	男性	25	5	20	8	24	82
	女性	110	9	27	18	17	181
	計	135	14	47	26	41	263
東北・北陸	男性	25	8	7	24	34	98
	女性	71	30	62	50	36	249
	計	96	38	69	74	70	347
計	男性	105	58	64	62	101	390
	女性	317	100	151	125	92	785
	計	422	158	215	187	193	1,175



2 に示した。この基準書の《 》内に示されているのが大項目名であるが、これは暫定的なもので、小項目による分類評定を行なう際、小項目を探し易いように設定されたものである。【 】内が小項目番号と小項目名で、( ) 内には各項目の頻度（各小項目に含められたカードの数）が示されている。さらに各小項目の下には例示として、代表的な反応例が示されている。

そして、第4段階は、これを用いた全被調査者の反応の分類評定と集計を行なった後で、その結果も考慮して最終的調整を行なうというものである。

内容分析には、大学生 11 名のグループと社会人約 20 名のグループがあたった。大学生のグループはおもに第1段階、社会人のグループはおもに第3~4段階を担当し、第2段階については両者が行なった。

#### 【反応の分類評定と頻度の集計】

全反応の分類評定には、内容分析の第3段階で得られた 30 の刺激文についての評定用基準書が用いられた。評定には先ほどの社会人のグループが分担してあたった。

評定においては、実際の SCT の反応を見て、等価あるいは最も意味内容の近い小項目を見つけ出す。そして、各反応にその小項目番号を割りあてる。もし、あまり近い小項目がない場合は、【その他】として、その反応を書き抜くことにした。また、各小項目の反応として代表的なものや特異なものについても書き抜いた。

このようにして得られた評定結果をもとに、各小項目の頻度を性、年齢、居住地域別に算出した。

#### 【基準書の作成】

集計結果は、小項目数が 20~50 もあるため、1 つの刺激文についてだけ見てもかなりの量となる。そこで内容分析の第4段階として、小項目を併合し、新たな大項目の設定を行なうことにした。その際には、小項目の内容だけでなく、分類評定の際に得られた知見や、各小項目の性、年齢、居住地域別の反応頻度も考慮した。このよう

表 IV-3 <私の兄弟（姉妹）> の小項目の併合結果

大項目名		小項目名	
A	人数・年齢・居住地域	2501	人数
		2502	兄弟の数と具体的な描写
		2503	いない
		2504	少なくて寂しい
		2505	何人かは死亡
		2506	住所
		2523	年が離れている
B	状態	2507	兄弟は幸せだ
		2508	元気・健康
		2509	元気でいて欲しい
		2521	一生懸命生きている
		2522	自立している
		2524	未婚である
		2525	結婚して子供を育てている
C	仲がよい・大切	2510	仲がよい
		2511	大切な存在
		2512	一生仲良くしていきたい
		2513	助け合う
		2514	いろいろあったが今は仲が良い
		2515	私を理解している
		2528	私を理解している
D	疎遠	2515	親しくない
		2518	ほとんど会わない
E	肯定的評価	2517	尊敬している
		2527	優しい、良い人
		2528	頭が良い
		2529	しっかりしている
		2530	個性的
		2531	短所もあるが良いところもある
		2531	短所もあるが良いところもある
F	否定的評価	2518	同情すべき存在
		2532	欠点の描写
G	自分との比較	2519	似ている
		2520	自分と違う
他	その他	2598	その他

にして得られた大項目ごとに、従来の基準書と評定の際の書き抜いた反応から反応例を選択して最終版基準書とした。また、各大項目の反応頻度は既に得られている小項目頻度を加算して算出した。なお、表 IV-3 には、先ほどの <私の兄弟（姉妹）> の小項目併合の結果を例として示した。

### 3. 結果

上記のようにして得られた 30 の刺激文についての基準書を p. 36 以降に掲載した。各刺激文の基準書はそれぞれ 1 頁におさめられており、大項目名とその反応例が掲載されている。さらに、各大項目について、全体、および、性、年齢、居住地域別の反応頻度を示した。なお、反応頻度は各集団における百分率で示されているが、1 つの反応が複数の項目に分類される場合もあり、その和は必ずしも 100 とはなっていない。詳細な結果の解説は割愛するが、基準書と反応頻度を見ることで

SCT の反応の全体像がつかめるものと思う。

各刺激文は、以下のように調査のスキームに従って示されている。

《プライマリー・グループ》

I-3	私の家は	p. 36
I-5	家の人を私を	p. 37
I-9	私の父	p. 38
I-17	もし私の母が	p. 39
I-21	夫	p. 40
I-25	私の兄弟 (姉妹)	p. 41
II-1	家では	p. 42
II-5	子供	p. 43
II-7	私の母	p. 44
II-11	もし私の父が	p. 45
II-12	同棲	p. 46
II-18	妻	p. 47
II-23	結婚	p. 48
II-26	家の人を	p. 49

《セカンダリー・グループ》

I-11	親戚	p. 50
I-13	世の中	p. 51
I-15	恋愛	p. 52
I-18	仕事	p. 53
I-20	近所づきあい	p. 54
I-26	職場	p. 55
I-29	女	p. 56
I-30	日本	p. 57
II-3	友だち	p. 58
II-8	転職	p. 59
II-9	男	p. 60
II-24	天皇制	p. 61

《超越者》

I-12	死	p. 62
II-14	病気	p. 63
II-20	私の健康	p. 64
II-28	年をとった時	p. 65

## I-3 私の家は

## 【反応内容】

## 【A. 環境・場所】

- ・私の家は、大変環境の良いところにある。
- ・～田舎にあります。
- ・～街の中です。
- ・～静かな住宅地にあります。
- ・～駅に近く便利です。
- ・～海に近い。
- ・～小高い山の中に建っている。
- ・～金沢にあります。

## 【B. 住居】

- ・～平成元年に新築し、2階建てで庭のある日当りのよい場所にあります。
- ・～小さいけれども、私は満足している。
- ・～典型的な日本家屋（農家造り）です。
- ・～マンションの4階にあります。
- ・～自分の持ち屋である。
- ・～二世帯住宅で、大きい。
- ・～団地です。家族5人では狭すぎます。
- ・～築後50年でだいぶ傷んでおります。

## 【C. 家庭】

- ・～家族みんなとても仲がいい。
- ・～裕福で、皆幸福である。
- ・～すごくあったかい雰囲気だと人はいます。
- ・～とてもくつろげる。

- ・～平凡だ。
- ・～中流家庭だ。
- ・～貧乏で子沢山であった。
- ・～会話の少ないつまらない場所です。
- ・～家族バラバラでまとまりがない。
- ・～散り散りになった。

## 【D. 仕事】

- ・～商売をしている。
- ・～農家である。
- ・～典型的なサラリーマン家庭です。

## 【E. 家族構成】

- ・～5人家族です。
- ・～2人暮らし。
- ・～父、母、姉、妹と女ばかりである。

## 【F. 家系・先祖の地位】

- ・～代々地主だった。
- ・～地方の名士だった。
- ・～分家です。
- ・～旧家なので親戚が多く付き合いが大変です。

## 【G. 宗教】

- ・～キリスト教を信じているクリスチャンホームである。

## 【他. その他】

- ・～常に節約を心がけている。
- ・～昼間、誰もいません。
- ・～犬を飼っています。
- ・～もう少しで月賦が終る。

## 【反応頻度】

	全体	男性	女性	～24	～34	～44	～54	55～	京浜	首都	関東	東北
A	20.7	14.9	23.6	27.7	19.6	18.6	18.2	10.9	19.0	22.8	21.7	19.9
B	24.4	26.4	23.4	25.6	33.5	23.7	22.5	17.1	32.7	20.1	24.7	20.2
C	21.3	24.4	19.7	21.6	22.8	15.8	25.1	21.8	23.2	25.1	18.3	19.0
D	10.2	14.1	8.3	6.6	7.0	11.2	7.5	22.3	5.2	10.4	15.2	10.7
E	14.9	11.3	16.7	12.3	10.1	20.5	18.7	14.5	11.4	12.4	15.6	19.3
F	1.5	2.3	1.1	0.2	—	0.9	2.1	5.7	0.7	2.7	0.8	2.0
G	0.2	0.3	0.1	—	—	—	0.5	0.5	—	—	—	0.6
他	11.5	10.5	12.0	10.4	9.5	13.0	13.4	11.9	10.8	13.1	10.6	11.5

I-5 家の人は私を

【反応内容】

【A. 良い評価】

- ・家の人は私を信頼している。
- ・～良く理解してくれていて私を尊重してくれます。
- ・～自由にやらせてくれている。
- ・～生活の中心、つまり軸的存在であり、私の健康その他を心配してくれる。
- ・～お人好しだと思っている。
- ・～慎重ではっきりしないが、我慢強いと
- ・～楽観的だという。
- ・～懸命に仕事をやっている人だと思っ

【B. マイナスの評価】

- ・～どうしようもない人間だという。
- ・～頼りにならないと思っているでしょう。
- ・～家の中では、なにもしない人だとい
- ・～一人立ちするにはまだ不十分だと思
- ・～頑固で融通がきかないと思っ
- ・～うるさいお母さんだと思っ
- ・～独裁者と呼びます。
- ・～変わり者と言っ
- ・～おもしろ味に欠けるとい

【C. 大切にしてくれる】

- ・～愛してくれている。
- ・～いつでも見守ってくれているよう
- ・～仕送り等して支えてくれる。
- ・～今まで立派に育ててくれました。本

【D. 疑問】

- ・～どう思っているのだろうか。
- ・～「しっかりしている」と思っ

【E. 呼び方】

- ・～お母さんと呼ぶ。
- ・～えっちゃんと呼びます。もう48才

【F. 体質】

- ・～声が大きく目立つと言っ
- ・～丈夫だという。
- ・～からかって「もう少しやせろ」と

【G. 無関心】

- ・～あまり気にしていない。
- ・～ふだんは忘れてい

【他. その他】

- ・～現在は一人暮らしです。
- ・～年も年だから、対社会的な役職を
- ・～家族の一員と思っ

【反応頻度】

	全体	男性	女性	～24	～34	～44	～54	55～	京浜	首都	関東	東北
A	30.0	34.4	27.8	20.4	34.2	34.9	39.6	32.6	31.4	28.6	26.6	32.3
B	28.2	25.6	29.4	26.3	26.6	25.6	39.6	25.4	28.8	32.8	22.8	28.2
C	19.1	17.2	20.0	28.9	18.4	11.6	4.3	20.7	16.3	22.0	27.0	13.3
D	4.3	4.4	4.2	6.2	3.8	2.3	5.3	1.6	4.6	4.2	4.2	4.0
E	5.6	5.1	5.9	6.2	3.2	9.8	3.7	3.6	5.2	3.5	6.5	6.9
F	1.4	0.5	1.8	1.4	1.3	1.4	1.1	1.6	1.6	1.9	—	1.7
G	1.1	1.3	1.0	1.2	0.6	1.4	1.1	1.0	1.3	—	0.8	2.0
他	12.3	13.3	11.8	11.6	12.0	14.4	9.6	14.5	13.1	10.0	15.2	11.2

## I-9 私の父

## 【反応内容】

## 【A. 尊敬できる】

- ・私の父は尊敬できる人です。
- ・～は、立派であったと思う。
- ・～は努力家で感心させられる。
- ・～は謹厳実直です。

## 【B. 尊敬できない】

- ・～はあまり尊敬できない父だった。
- ・～はとても性格のひねくれた人で、とても尊敬する気持ちにはなれません。
- ・～とは現在絶交状態です。
- ・～は、気が小さいくせに、おこりっぽい。

## 【C. 優しい】

- ・～は優しい人であった。
- ・～は愛情豊かな人だと思います。
- ・～は、やさしくて、いつも家族の事を考えてくれて私のほこりです。
- ・～は若い頃、よく子供と遊んでくれたようです。

## 【D. 頑固・厳しい】

- ・～は頑固でこわい人でした。
- ・～明治生まれの頑固者です。
- ・～は厳格な人でした。
- ・～は私が小さい頃よく私をおこったものだ。

## 【E. 健康状態】

- ・～は長生きで94才でかくしゃくとしている。

・～は今、関節痛になやまされています。早く楽になって好きな菊作りが出来るの良いなと願っています。

- ・～は、最近めつきり年をとったなあと思います。
- ・～すこしでも細く長く元気でいてほしい。

## 【F. 死亡】

- ・～は亡くなりました。
- ・～若い内に死亡した。
- ・～は去年79才でこの世を去りました。約2年間は入退院をくり返し、大変でした。

## 【G. 職業】

- ・～公務員です。
- ・～は昔気質な銀行員であった。
- ・～サラリーマンだ。
- ・～はもうすぐ定年です。

## 【H. 趣味・好み】

- ・～大変骨董好きであった。
- ・～野球が好きだ。
- ・～はタバコを吸う。
- ・～は、よく働く、しかし、ギャンブルも同じ位やる。

## 【他. その他】

- ・～は、ちよつと変わり者です。
- ・～は、家にいる時間が短い。
- ・～は“日本のおとうさん”という感じである。
- ・～は、私と性格が似ている気がする。
- ・～は72才で、先月つれ合いを亡くした。

## 【反応頻度】

	全体	男性	女性	～24	～34	～44	～54	55～	京浜	首都	関東	東北
A	26.9	28.7	25.7	30.1	31.0	17.0	25.1	30.1	26.1	25.5	26.1	30.4
B	6.5	5.4	7.3	9.4	7.6	4.9	4.8	4.4	5.9	7.4	5.9	7.0
C	19.0	13.1	23.1	23.9	25.3	19.8	12.0	12.0	20.3	14.8	21.7	19.6
D	14.0	12.1	15.3	16.3	14.6	17.6	10.2	9.8	12.7	12.8	18.2	13.1
E	6.6	7.2	6.3	2.5	5.1	12.1	10.2	5.5	8.5	4.9	6.4	6.1
F	12.9	13.8	12.3	2.5	4.4	18.1	21.6	23.0	8.8	16.0	12.3	15.9
G	5.6	6.4	5.0	8.7	3.8	4.9	5.4	3.3	4.6	4.5	7.4	6.5
H	4.7	2.8	5.9	4.7	5.1	2.7	4.2	6.6	3.6	4.9	4.9	5.6
他	14.0	14.9	13.4	14.5	19.0	13.7	11.4	11.5	19.3	14.8	10.8	8.4



I-17 もし私の母が

【反応内容】

【A. 生きていたら（元気なら）】

- ・もし私の母が生きていたら、親孝行したかった。
- ・～生きていたら、旅行に連れて行ってあげたかった。
- ・～生きていたら、私の生活も変わっていただろう。
- ・～生きていたら、いろいろ話がしたかった。
- ・～生きていたら、一緒に暮らしたかった。
- ・～生きていたら、子供をみせたかった。
- ・～生きていたら、今の状態をどう思うだろうか。
- ・～生きていたら、私の所に遊びにきてほしい。
- ・～生きていたら、といつてもすでに死亡。

【B. 亡くなったら】

- ・～亡くなったら、とても悲しいだろう。
- ・～亡くなったら、決して私は悲しまないだろう。
- ・～亡くなったら、困ってしまう。
- ・～亡くなったら、後悔するだろう。
- ・～存在しなかったら今の私はいない。
- ・～、健康で長生きしてくれたら、どんなにうれしいことでしょう。

【C. 病気になったら】

- ・～病気になったら、看病したい。
- ・～病気になったら、心配だ。
- ・～病気になったら、父のことが心配だ。
- ・～病気になったら、一番に駆けつける。

- ・～病気になったら、大変だ。
- ・～病気になったら、自分に孝行ができるだろうか。

【D. 内面的仮定】

- ・～、違う人柄だったら私の性格も違っていただろう。
- ・～、私の母でなかったら、と考えると面白い。
- ・～、新しいことに挑戦したら応援したい。

【E. 外面的仮定】

- ・～、違った人生を歩んでいたら私の人生も違っていただろう。
- ・～、違った職業だったらどうなっていただろう。
- ・～、父と結婚しなかったら僕は存在しない。
- ・～、私を産まなかったら、今の私は存在しない。
- ・～、若かったらもっと楽しかっただろうな。
- ・～、きれいだったら、私も少しはまじだった。
- ・～、私の友達だったら、親友になれるかな。

【F. 健康状態以外の願望】

- ・～、一緒に暮らすことになったらどんなによいだろう。
- ・～、ひとりになったら、引き取りたい。
- ・～、訪ねてきたら歓待するつもりだ。

【G. 無関心】

- ・～などと考えたことがない。

【他. その他】

- ・～、旅行したいといつたら喜んで行かせたい。
- ・～、生きていたら〇〇才だ。
- ・～、困ることがあるならすぐ助けに行く。

【反応頻度】

	全体	男性	女性	～24	～34	～44	～54	55～	京浜	首都	関東	東北
A	20.6	27.4	17.2	1.7	1.9	15.8	32.6	71.0	11.8	26.6	16.7	26.8
B	22.3	21.3	22.8	33.2	28.5	22.8	11.2	3.6	27.8	19.7	24.0	18.2
C	17.0	13.8	18.6	15.9	16.5	27.0	21.9	4.1	15.4	18.1	18.6	16.4
D	8.8	5.6	10.3	12.8	12.0	7.9	3.2	3.6	11.1	9.3	10.3	5.2
E	12.0	8.5	13.8	18.5	17.1	5.6	8.0	4.7	15.0	10.8	8.4	13.0
F	1.9	1.0	2.3	1.2	3.8	3.7	1.6	—	2.3	0.4	1.9	2.6
G	0.5	1.3	0.1	0.2	—	0.5	1.6	0.5	—	0.8	0.8	0.6
他	16.1	18.5	14.9	16.8	20.3	14.4	18.2	10.9	15.7	13.5	20.2	15.3

## I-21 夫

## 【反応内容】

## 【A. 夫の理想像】

- ・夫は優しくて頼りがいのある人がよい。
- ・～になる人は、しっかりした経済能力のある人でないといけないと思う。
- ・～は強くありたい。
- ・～となったら、妻を大切に愛したいです。

## 【B. 夫としての自己評価】

- ・～として80点はとれる。
- ・～としてまず良い方だと自負している。
- ・～として私は落第です。
- ・～として女房に随分苦労をかけて反省している。

## 【C. 夫に対する良い評価】

- ・～は、大変やさしい人です。
- ・～は、真面目で頼りになります。
- ・～は、小さい頃から苦労した人です。これからは幸せになってほしいと思います。

## 【D. 夫に対する悪い評価】

- ・～のことは好きではない。やさしいのか意気地がないのか。
- ・～もうすこしなんとかならないかしら。
- ・～最近年なのか物事にしつこくこだわるところがある。

## 【E. 夫婦のあり方】

- ・～は妻と協力するものである。
- ・～あつての妻、妻あつての夫。
- ・～と妻は一心同体とはよく言ったもので、56年も一緒に暮らしていると、食べ物の好き嫌いも同じになりました。

## 【F. 家庭】

- ・～は家庭の大黒柱である。
- ・～たるものは、家族を幸せにする責任がある。
- ・～は、もつと家の中の仕事をした方がよい。
- ・～も、もつともつと子育てを楽しめるように早く帰ってきてほしい。

## 【G. 個人的記述、特徴】

- ・～は無口な人です。
- ・～は仕事熱心です。
- ・～は六年前に亡くなりました。
- ・～とてもいい人だった。私を幸せにしてくれた。

## 【H. 言葉】

- ・～という言葉には実感が湧きません。
- ・～という言葉は古くさい。
- ・～とは妻のいる配偶者のことである。

## 【他. その他】

- ・～となる日はいつのことやら。
- ・～は他人である。
- ・～一番争いたくない相手です。
- ・～は私をただのおばさんだと思っているでしょう。

## 【反応頻度】

	全体	男性	女性	～24	～34	～44	～54	55～	京浜	首都	関東	東北
A	11.9	10.0	13.2	23.2	12.7	7.7	6.0	3.8	13.1	10.7	15.3	8.4
B	7.1	17.4	0.2	1.4	3.8	7.7	6.6	18.6	5.6	7.8	8.4	7.5
C	16.5	3.3	25.3	0.7	18.4	26.9	26.9	18.6	11.1	16.9	19.2	21.0
D	6.2	4.6	7.3	1.8	3.2	9.9	7.8	10.4	4.6	6.6	6.9	7.5
E	11.1	10.3	11.6	17.8	10.1	8.2	6.6	8.7	11.1	11.5	12.8	8.9
F	8.4	17.7	2.1	9.4	8.2	7.1	10.2	6.6	9.2	4.9	11.3	8.4
G	8.7	3.8	12.0	—	10.1	8.2	12.0	18.0	7.2	11.9	6.4	9.3
H	3.5	4.9	2.6	5.4	5.1	4.4	1.2	0.5	2.6	4.9	3.4	3.3
他	26.6	24.6	28.0	40.2	29.1	19.8	21.0	15.8	34.0	26.3	17.7	24.8

I-25 私の兄弟（姉妹）

【反応内容】

【A. 人数・年齢・居住地】

- ・私の兄弟（姉妹）はいない。
- ・～は、兄が2人。上の兄とは13才も年が違うので兄弟喧嘩をした記憶がない。
- ・～は5人で二人は戦死。
- ・～遠くに住んでいる。
- ・～皆、都会に住んでいる。
- ・～はかなり年をとっている。

【B. 状態】

- ・～は平凡であるが平和に暮らしている。
- ・～は全員家庭をもち元気に暮らしている。
- ・～はみんな好きなことをやっていて幸せだ。
- ・～はいつまでも健康でいて欲しい。
- ・～は一生懸命生きている。
- ・～は総て結婚している。
- ・～はみんな3人ずつ子供を育てている。

【C. 仲がよい・大切】

- ・～は仲が良く、旅行したりしている。
- ・～は弟1人だけ、とても大事な存在だ。
- ・～はよく助け合います。
- ・～は私をよく理解してくれます。
- ・～はみんな好き。

【D. 疎遠】

- ・～とは仲が良くない。
- ・～はいるけどいないようなものだ。

- ・～はなかなか会う機会がない。
  - ・～は余り付き合いがない。
- 【E. 肯定的評価】
- ・～は本当に優しいいい人たちだ。
  - ・～は頭が良い。
  - ・～はよく気がつくしっかりものです。
  - ・～はそれぞれ個性的である。
  - ・～を私は尊敬している。
  - ・～は優秀でひそかに期待している。
  - ・～はできが悪いが思いやりのある良い奴だ。

【F. 否定的評価】

- ・～はすぐ人に頼る。
- ・～はそれぞれに自己中心的なところがあり困りものである。
- ・～は精神的に弱く人生のお手本になるような人がいない。
- ・～は頭が良いだけのつまらない人。

【G. 自分との比較】

- ・～は私に似ている。
- ・～は自分とは全く違った生き方をしている。

【他. その他】

- ・～は他人よりも理解しがたい存在。
- ・～は家のあとをつぐ。
- ・～は幸せだろうか？
- ・～は仲が良いのか悪いのかわからない。
- ・～は女（姉妹）だったら何でも話せるのと思ってしまう。

【反応頻度】

	全体	男性	女性	～24	～34	～44	～54	55～	京浜	首都	関東	東北
A	41.9	44.6	40.1	34.4	36.7	41.8	47.3	53.0	33.3	44.4	40.9	52.3
B	10.4	12.3	9.0	3.3	12.0	12.6	18.0	10.4	12.4	9.1	7.9	11.2
C	17.9	11.0	22.6	18.5	14.6	22.5	13.2	19.7	16.0	19.8	21.2	15.4
D	5.7	6.4	5.2	4.0	6.3	3.8	7.2	8.2	5.6	6.6	6.9	3.7
E	13.6	11.3	15.1	22.5	14.6	10.4	8.4	7.1	16.3	10.7	13.8	12.6
F	3.9	2.1	5.2	5.4	3.2	5.5	3.0	1.6	3.3	4.5	3.9	4.2
G	2.7	2.8	2.6	5.4	2.5	1.6	1.2	1.1	4.2	2.1	2.0	1.9
他	9.0	10.5	8.0	10.1	13.3	6.6	8.4	6.6	11.4	9.1	7.9	6.5

## II-1 家では

## 【反応内容】

## 【A. 休息】

- ・家ではのんびりしている。
- ・～くつろいでいる。
- ・～心がいちばんやすまります。
- ・～リラックスしたい。
- ・～ついだらだらしてしまう。
- ・～何もしない。
- ・～ごろごろしていたい。

## 【B. 家族】

- ・～三世代同居だ。
- ・～猫と犬がそれぞれ家族の一員である。
- ・～家族団らん。
- ・～家族それぞれが結構楽しく会話を楽しんでいる、いい雰囲気だと思っている。
- ・～家庭円満が願い。
- ・～ときどき手伝いをする。
- ・～何でも話し合うようにしている。
- ・～できるだけ妻や子の相手をするようにしている。

## 【C. 家での状態】

- ・～亭主関白です。
- ・～居なくてはならない存在です、私は。
- ・～子供達に一日中早く早くと言ばかり云っています。
- ・～無口である。
- ・～一応良き夫、父である。
- ・～自室にこもりがちだ。

## 【D. 忙しさ・緊張感】

- ・～いつもバタバタしていて新聞も読めない。
- ・～よく働く。
- ・～ゆつくり休む暇もなく、洗濯・片付け・食事の仕度、子供の世話に追われています。
- ・～のんびりしたいが家族がうるさい。
- ・～精神的におちおちゆったりもできません。
- ・～嫁姑のことが難しい。
- ・～毎日同じことを繰り返し過ごす。

## 【E. 趣味・好み】

- ・～テレビを良くみる。
- ・～音楽を聴いている。
- ・～趣味に明け暮れている。
- ・～園芸。
- ・～読書。
- ・～自分の好みで整理整頓したり部屋をきれいにしたいと思う。
- ・～ひまがあれば編物をしています。

## 【他. その他】

- ・～私は余り役に立ちません。
- ・～いま、改装中です。
- ・～今ごろみんなどうしているかなー。
- ・～チャップという犬を飼っています。雑種ですが。
- ・～プラスチック製品を買わないようにしている。
- ・～なるべく大股で歩いて運動不足に陥らないよう気を付けています。
- ・～田舎の雑貨屋をしていますので年中無休です。
- ・～酒を飲まない、仕事をしない。

## 【反応頻度】

	全体	男性	女性	～24	～34	～44	～54	55～	京浜	首都	関東	東北
A	35.0	32.3	36.8	43.1	42.4	35.7	31.7	18.6	44.8	33.7	30.0	27.1
B	16.3	18.5	14.8	9.8	10.8	12.6	20.4	30.6	11.4	18.9	15.3	21.0
C	20.7	21.3	20.3	21.0	15.2	22.0	24.0	20.8	19.9	19.3	22.7	21.5
D	7.8	3.3	10.8	6.9	10.1	10.4	8.4	3.8	6.5	11.1	3.9	9.3
E	8.1	8.2	8.0	9.4	7.0	6.6	7.2	9.3	6.5	6.6	11.3	8.9
他	11.1	14.4	8.9	10.9	13.3	10.4	7.8	13.1	9.5	10.3	15.8	9.8

II-5 子供

【反応内容】

【A. 子供への思い】

- ・子供は、人生の喜びである。
- ・～私にとってやはり宝です。子育てを通して本当に勉強になりました。
- ・～は無邪気でかわいい。
- ・～は大好きである。幼稚園の保母さんになった方が良かったかも知れない。
- ・～は無限の可能性を持っているというが、近ごろは私もそう思う。
- ・～がいると心がなごむ。
- ・～は見ているととても面白い。
- ・～はどちらかといえば苦手だ。
- ・～はたまらなく可愛く、残酷な存在だ。
- ・～は好きだが、泣いている子供はいやだ。
- ・～は何を考えているのか分からない。

【B. 自分の子供について】

- ・～はみな元気で育っている。
- ・～はすっかり親離れして嬉しような淋しいような気持ちだ。
- ・～は息子が3人。心のやさしい子に育ってほしい。
- ・～は女の子だけで既に嫁ぎ、家を継ぐものはいない。
- ・～とよく話をしたりスポーツなど楽しんで、話

題を子供にむけている。

【C. 子供がほしい】

- ・～ははやくほしい。
- ・～がほしい。男の子がいいな。
- ・～は好きなので、結婚したら2人は欲しいです。
- ・～は何人かいたほうが子供同士学べてよいと思う。でもそれぞれ家庭の事情でうちのように一人っ子でもやむを得ない。
- ・～は欲しい気持ちと、今のままだもいいという気持ちと半々。

【D. 子育て】

- ・～を育てることは本当に難しいと思った。
- ・～ができたら一緒に人生の再スタートをきれるような気がします。
- ・～は頼りにならない。うそつき。
- ・～はなかなか親の事が理解できないのかもしれない。

【E. 子供のあるべき姿】

- ・～はのびのび自由に育ってほしい。
- ・～はたくましく生きていつて欲しいと、自分の力で運命を切り開いていけるような強い子供になって欲しいと願っています。
- ・～に同情することが多い。現代は子供の地獄。

【他. その他】

- ・～の頃にもどりたい。
- ・～自分の小さい頃と比較する。
- ・～が少なくなり、淋しい限りです。

【反応頻度】

	全体	男性	女性	～24	～34	～44	～54	55～	京浜	首都	関東	東北
A	39.5	37.7	40.8	49.6	53.8	34.1	33.5	23.0	41.2	37.4	41.4	37.9
B	18.4	17.4	19.1	—	1.9	26.9	31.1	40.4	11.8	23.5	18.7	22.0
C	10.6	9.0	11.6	18.1	22.8	3.8	0.6	4.4	14.1	8.6	9.9	8.4
D	4.7	2.3	6.3	2.5	4.4	7.1	9.6	1.1	4.2	6.2	3.9	4.2
E	10.0	11.8	8.9	8.0	6.3	15.9	10.2	10.4	11.1	9.9	9.9	8.9
他	19.2	22.1	17.2	22.8	15.2	15.9	17.4	21.9	19.3	16.5	18.2	22.9

## II-7 私の母

## 【反応内容】

## 【A. 立派・感謝】

- ・私の母は、立派な人です。
- ・～は尊敬できる人です。
- ・～には感謝している。
- ・～には良くしてもらった。
- ・～は私を心配してくれる。
- ・～は苦勞ばかりしているので楽にさせたい。

## 【B. 強い・献身的・元気】

- ・～は働きものです。
- ・～は、頑張り屋です。
- ・～気持ちのしっかりした人だった。
- ・～は忍耐力の強い人です。
- ・～は、苦勞人です。
- ・～元気で毎日過ごしています。

## 【C. やさしい・かわいらしい】

- ・～は、典型的なお嬢様でしょう。古風なところは素敵だと思います。
- ・～はだれに対しても親切な人だと思う。
- ・～は明るい人です。
- ・～は優しい人です。
- ・～は、おっとりしている。
- ・～おつちよこちよいだけど、好き。

## 【D. 能力・趣味】

- ・～はとても頭が良いのです。どうして似なかつ

## たのかしら？

- ・～は多趣味である。
- ・～は料理がとても上手です。特に特製のハンバーグはレストランのそれの2倍のボリュームです。
- ・～はとてもおしやれだ。

## 【E. 厳格・保守的】

- ・～は、私の事を大変きびしく育てた。
- ・～はだいたい私のことを理解してくれるが、ときどき非常に保守的で驚くことがある。

## 【F. わがまま・神経質】

- ・～は立派で尊敬しているが、ヒステリーがひどくて頭にくる。
- ・～は、わがままで自分勝手に子供のような人だ。
- ・～は神経質な面がある。

## 【G. 他界】

- ・～もう3年前に死にました。
- ・～は長生きをした。

## 【H. 年をとった】

- ・～このごろ年をとったとつくづく思う。
- ・～は、体が弱く病気がちである。

## 【他. その他】

- ・～平凡な女性だ。
- ・～は今ひとり暮らしである。
- ・～は自分に似ている。
- ・～は67才です。
- ・～は年のわりには若く見える。
- ・～から私はまだ独立(自立)はしていない。

## 【反応頻度】

	全体	男性	女性	～24	～34	～44	～54	55～	京浜	首都	関東	東北
A	21.1	21.0	21.2	26.8	20.9	17.0	18.6	19.1	18.3	24.3	24.1	18.7
B	29.9	27.2	31.8	22.5	24.1	30.8	44.3	32.2	27.5	30.0	36.5	27.1
C	16.6	13.8	18.4	21.4	20.3	14.3	12.0	12.6	18.3	13.6	18.2	15.9
D	3.3	2.1	4.2	3.3	7.0	3.8	2.4	0.5	4.2	2.9	2.0	3.7
E	3.0	2.6	3.3	2.9	3.8	2.7	1.2	4.4	3.3	2.9	3.9	1.9
F	2.8	1.8	3.5	3.3	3.8	2.2	3.6	1.1	3.9	2.1	2.5	2.3
G	6.9	10.0	4.9	—	—	4.9	10.2	22.4	3.3	9.5	5.9	10.3
H	5.2	5.6	4.9	0.7	5.7	11.0	7.2	3.8	5.9	5.3	4.4	4.7
他	16.1	15.1	16.8	21.0	17.1	18.7	15.0	6.6	19.6	12.8	13.8	17.3

II-11 もし私の父が

【反応内容】

【A. 生きていたら】

- ・もし私の父が生きていたら、親孝行したいと思います。
- ・～生きていたら、話のわかる親だったと思う。
- ・～生きていたら今の私はもつと違ってたと思う。
- ・～元気で生きていたら75才くらいかな。
- ・～生きていたら、私の生き方に何と言うだろう。
- ・～いま生きていたら孫を見せたいと思う。

【B. 今と違う性格だったら】

- ・～もつと違う性格であれば良かったのと思う。
- ・～普通のよくいる父だったら、素直なよい子だったと思う。
- ・～もつと大きな存在であればと思う。
- ・～お酒もタバコもやめたら何でもしてあげます。

【C. 今と違ったら】

- ・～もう少し違った職業であれば、現在の私の状況はかなり違ったものになっていただろう。
- ・～お金持ちだったらよかったのに。
- ・～もう少しおしやれだったら良かったのに。
- ・～大臣なら、私の人生も変わっていただろう。

【D. 亡くなったら】

- ・～死んでしまったらどうしよう。
- ・～亡くなってしまったら、とても悲しいだろう。
- ・～死んだら、母は困るだろう。

・～いなくなってもなんとか生活していけるでしょう。

・～亡くなっても、私は泣かないだろう。

【E. 病気になったら】

- ・～病気になったら家族は非常に困る。
- ・～寝たつきりになったら大変だなと思います。
- ・～倒れたら心配だ。
- ・～病気をしたら十分面倒を見てやりたい。

【F. 母と結婚していなかったら】

- ・～母と結婚していなかったら俺は生まれてこなかったのだろうな。
- ・～母と結婚してなかったら、父は今の様な成功はしていなかったのではないかと思います。

【G. いなかったら】

- ・～いなかったら、私はいないだろう。
- ・～いなかったら、今の私はなかった。父の影響は大きかった。
- ・～いなかったら、私は嬉しかったかも知れない。

【H. 考えない】

- ・～考えることなし。大分前に死亡。
- ・～と考えることはあまりありません。
- ・～あんまり思ったことがない。

【他. その他】

- ・～私の意思に反対しても自分の意思を貫きたい。
- ・～もう少し主人を大事にしてくれていたら、今の状態にはならなかったのではないかと残念です。
- ・～同居を望むなら一緒に暮らそう。

【反応頻度】

	全体	男性	女性	～24	～34	～44	～54	55～	京浜	首都	関東	東北
A	28.0	32.6	24.8	2.9	12.7	25.3	42.5	68.3	20.3	32.5	27.6	34.1
B	14.5	9.5	17.9	24.6	19.0	11.5	7.2	4.9	17.6	11.5	18.2	9.8
C	11.0	11.5	10.6	19.2	13.3	7.7	7.2	3.3	11.8	8.2	13.3	10.7
D	12.4	10.0	14.1	19.9	12.0	16.5	8.4	1.1	14.7	14.8	11.8	7.0
E	7.3	5.9	8.3	9.1	8.9	8.8	8.4	1.1	7.8	8.6	5.9	6.5
F	1.2	1.5	1.0	2.5	3.2	—	—	—	2.6	0.4	0.5	0.9
G	2.2	2.3	2.1	2.9	5.7	1.1	0.6	0.5	2.9	0.8	2.0	2.8
H	1.1	1.8	0.7	1.1	—	1.1	1.2	2.2	1.0	0.8	1.5	1.4
他	20.6	22.6	19.3	17.4	23.4	25.8	22.8	15.8	20.3	21.0	17.2	23.8

## II-12 同棲

## 【反応内容】

## 【A. 結婚前提で肯定】

- ・同棲は結婚する前にしてもいいと思う。
- ・～は結婚前提とするならかまわないと思います。
- ・～は、結婚の予行練習としては、適当なんじゃないかしら。

## 【B. 個人の問題、構わない】

- ・～はその人その人の価値だから私の意見をいう問題ではない。
- ・～二人が共同生活を営むうえで形はあまり気にしない。
- ・～本人次第。私個人は反対。
- ・～ひとりひとりの責任に尽きる。

## 【C. 良い手段】

- ・～については別に反対しない。むしろ合理的で良い。
- ・～すれば、その人と生活できるかどうかわかる。
- ・～は社会の構造を変える一歩となる形態です。
- ・～はするべきだと思う。

## 【D. 全面的に否定】

- ・～は感心しない。
- ・～は好きでない。はじめはきちんとしてほしい。

- ・～考えられない。不道德。
- ・～は認めることができない。結婚と儀式がある。
- ・～は、精神的にも社会的にも不安定なもの。
- ・～は女性には不利である。

## 【E. 条件つき否定、肯定しかねる】

- ・～私には出来なかった。
- ・～すてきだと思いますが、もし身内の人だとイヤですね。

- ・～をすることはよいと思うが、自分が決断を下すには様々なことを考えてしまうので難しいと思う。

## 【F. 経験の有無】

- ・～したことがない。
- ・～をしている。

## 【G. 情動的表現、イメージ】

- ・～にはちよつと懂れてます。
- ・～という言葉はあまり好きではない。
- ・～というのはちよつと古くさいイメージがある。

## 【他. その他】

- ・～には関心なし。
- ・～生活は私にとって今のところ無縁の生活。
- ・～してる人って結構いるんだよなあ。
- ・～はかつこよくしたい。
- ・～できる人達は自分に正直。

## 【反応頻度】

	全体	男性	女性	～24	～34	～44	～54	55～	京浜	首都	関東	東北
A	6.5	4.4	7.5	10.7	7.0	6.0	1.6	2.1	6.5	4.6	9.9	5.2
B	17.4	15.4	18.5	15.9	19.0	17.2	19.3	18.1	15.7	20.1	14.8	19.0
C	7.6	5.4	8.7	10.4	12.0	5.6	5.3	2.1	10.8	6.2	6.8	6.3
D	29.2	27.7	29.9	26.1	19.0	24.7	41.7	37.3	23.5	34.0	30.8	29.4
E	6.1	4.4	7.0	4.5	5.1	7.0	11.2	4.7	4.9	6.9	5.7	6.9
F	4.1	6.2	3.1	0.7	7.6	7.4	3.2	5.7	5.6	2.3	2.3	5.5
G	15.9	18.5	14.6	20.6	20.3	17.2	10.2	6.2	22.9	12.0	14.1	14.1
他	13.9	16.4	12.6	11.4	13.3	17.2	10.7	19.2	11.8	15.1	15.2	13.8



II-18 妻

【反応内容】

【A. 結婚形態】

- ・妻になりたい。
- ・～としての立場は終わった。
- ・～がほしい。
- ・～になるのは誰だろう。

【B. 現状】

- ・～の立場は幸福な時も惨めな時もある。
- ・～楽しい。
- ・～大変な仕事だ。
- ・～病弱だ。
- ・～太ってます。

【C. 理想の「妻」像】

- ・～明るく、優しい美人がいい。
- ・～の役割と仕事を両立させている人もいる。
- ・～賢い妻でありたい。
- ・～と畳は新しいほうがいい。

【D. 伝統的「妻」像の肯定】

- ・～一度は持つべきだ。
- ・～家庭に入るべきだ。
- ・～夫に従う方がうまくいく。
- ・～になったら愛妻弁当を作ってあげたい。

【E. 伝統的「妻」像への反発】

- ・～と同時に、私は女でありたい。

・～母であり、娼婦であり、神であり、恋人である。

- ・～夫や家庭の犠牲になるべきではない。
- ・～夫に家事を分担してほしい。
- ・「妻」という言い方は好きではない。

【F. 自己評価】

- ・～として一生懸命尽くしてきたつもりである。
- ・～平均点程度か。
- ・～もつと自覚を持たねばと思います。

【G. 他者（夫）評価】

- ・～頼りになる存在だ。
- ・～うるさいが、いないと寂しい。
- ・～感謝している。
- ・～強く、忍耐力もある。

【H. 夫婦のパートナーシップ】

- ・～夫婦互いに愛し合っている。
- ・～夫婦互いに補いあっている。
- ・～2人で仲良くしたい。
- ・～元気で、私の最期を看取って欲しい。
- ・～自分にとって大切な人です。

【他. その他】

- ・「妻」…らない。
- ・～子ある男性との恋愛がはやっている。
- ・～になるとときには勇気が必要だと思う。
- ・～あまりイメージがわからない。

【反応頻度】

	全体	男性	女性	～24	～34	～44	～54	55～	京浜	首都	関東	東北
A	7.5	9.5	6.1	18.8	7.0	0.5	1.2	3.3	8.5	7.0	7.4	6.5
B	9.5	8.7	10.1	4.7	10.1	12.1	11.4	12.0	9.2	7.8	10.8	10.7
C	10.5	12.1	9.4	16.7	10.1	13.2	3.6	4.9	13.1	9.5	10.8	7.5
D	11.3	6.2	14.8	17.4	7.6	8.8	9.6	9.3	9.2	9.1	14.3	14.0
E	12.1	1.8	19.1	16.3	14.6	11.0	13.8	3.3	13.1	11.5	11.8	11.7
F	9.5	—	16.0	0.4	9.5	13.7	14.4	14.8	7.5	11.9	8.9	10.3
G	11.3	26.9	0.7	0.4	8.2	17.6	19.2	16.9	9.5	9.9	14.3	12.6
H	12.9	19.2	8.7	10.9	11.4	12.6	13.2	17.5	13.1	15.2	9.4	13.6
他	15.1	14.4	15.6	15.9	21.5	9.9	12.6	15.8	17.3	17.3	12.3	12.1

## II-23 結婚

## 【反応内容】

## 【A. 肯定的意見】

- ・結婚はした方が望ましい。
- ・～はごく自然ななりゆきであると思います。
- ・～は人間にとって大切だと思う。結婚しなければ一人前じゃないというのは分かる気がする。
- ・～はしない人が多くなって来ていますが、やはり自分の子供達は結婚してほしいと思います。
- ・～して良かったと思います。
- ・～したことによって自分自身に対して、生きることへの責任が生まれてきたような気がする。
- ・～は早くした方がいいと思う。

## 【B. 結婚したい】

- ・～に対するあこがれはある。
- ・～はしたいです。
- ・～したら、早く子供を生んで、“家庭”を築きたい。

## 【C. まだ結婚を考えていない】

- ・～は、まだ考えていない。
- ・～はいずれ。今はまだやらねばならないことがある。

## 【D. 否定的意見】

- ・～すれば、苦労が1つ増える。
- ・～てつまらない。
- ・～しようと思わない。
- ・～制度はうさんくさい。

- ・～は考えるとけっこう難しい問題だ。
- ・～とは東バクをともなうものである。
- ・～は持続させるには相当な努力が必要だ。
- ・～にも理想と現実のギャップがあることを認識するべきだ。

## 【E. 結婚は人生の転機】

- ・～は人生第二の出発である。
  - ・～とは人生の一大事である。
  - ・～人生最大の賭事である。
- 【F. 結婚は全く個人の問題】
- ・～はしたい人がすれば良い。
  - ・～は、してもいいし、しなくてもいいと思う。
  - ・～は当人同士の問題なのに周りが騒ぐ。
  - ・～の年齢は自分が結婚したいと思ったときが一番よいと思う。
  - ・～をしない若者は更に増加するかもしれない。

## 【G. 結婚歴】

- ・～は8年前にした。
  - ・～したのは昭和52年です。
- 【他. その他】
- ・～はする予定です。
  - ・～式はなるべく金をかけずにやりたい。
  - ・～は、教会でウエディングドレスを着てやりたいです。
  - ・～式の仲人をやって感激した。
  - ・～をきっかけに仕事をやめました。
  - ・そろそろ子供達はその年齢になりました。うれしくもあり、寂しくもあります。

## 【反応頻度】

	全体	男性	女性	～24	～34	～44	～54	55～	京浜	首都	関東	東北
A	30.2	34.4	27.4	12.7	32.9	41.2	41.3	33.3	25.8	32.9	32.0	31.8
B	16.8	12.3	19.8	45.3	19.0	1.1	1.2	1.6	22.5	14.8	16.7	10.7
C	2.8	3.6	2.3	8.3	1.3	0.5	—	0.5	3.9	2.9	3.0	0.9
D	17.0	10.3	21.5	13.4	14.6	23.1	18.0	17.5	17.3	18.5	12.8	18.7
E	7.6	10.3	5.7	6.5	5.7	7.7	8.4	9.8	6.9	7.0	6.9	9.8
F	6.2	6.7	5.9	3.6	3.8	8.2	9.0	7.7	3.9	4.5	7.4	10.3
G	4.0	5.1	3.3	—	1.9	4.4	7.2	8.7	2.9	2.5	6.4	5.1
他	16.0	15.6	16.3	10.5	21.5	18.1	15.6	18.0	16.7	18.1	14.3	14.5

II-26 家の人は

【反応内容】

【A. 私を気にかける】

- ・家の人は私を大切にしてくれる。
- ・～私の良き理解者である。
- ・～私を心配してくれる。
- ・～私のことを頼りにしてくれている。

【B. 大切】

- ・～私にとっては大切な絆です。
- ・～元気で長生きしてほしい。
- ・～皆幸せであってほしい。
- ・～私にとっては宝です。

【C. 円満】

- ・～みんな元気です。
- ・～皆仲良くやっている。
- ・～楽しく暮らしている。
- ・～健康でお互いのことを考え、かばい合っている家庭である。

【D. 特徴】

- ・～優しい。
- ・～保守的だと思う。
- ・～明るいです。

- ・～それぞれ個性的だ。

【E. 家族構成：倒々についての記述】

- ・～それぞれ自分の生活をしている。
- ・～皆あまり仲が良くない。
- ・～毎日忙しい。
- ・～みんなマイペースです。

【F. 私に対する評価】

- ・～私のことを楽天家で、のん気な性格だという。
- ・～私をどう評価しているのか気になります。
- ・～私のことを我がままな人間だといっている。

【G. 気持ちのくい違い】

- ・～あまり干渉しません。
- ・～私の気持ちをあまり考えない。
- ・～やたらと私に干渉する。
- ・～私に頼りすぎです。

【他. その他】

- ・～お互いに協力し合っていくべきです。
- ・～お互いに自分の不平、不満を言える場所になりたい。
- ・～一体何をしているのだろう。
- ・～今は同居していない。
- ・～ストレス発散の対象となる。

【反応頻度】

	全体	男性	女性	～24	～34	～44	～54	55～	京浜	首都	関東	東北
A	17.5	14.6	19.4	21.7	15.8	13.2	17.4	16.9	19.0	16.9	17.2	16.4
B	6.7	6.7	6.8	5.1	9.5	8.8	5.4	6.0	7.8	5.8	4.9	7.9
C	13.4	16.7	11.1	8.0	10.1	14.3	20.4	16.9	10.8	18.9	14.8	9.3
D	17.3	14.9	18.9	20.7	21.5	14.8	16.2	12.0	17.0	16.9	17.2	18.2
E	8.4	7.9	8.7	6.9	8.9	14.3	7.8	4.9	9.8	7.8	11.8	3.7
F	5.7	5.1	6.1	5.4	5.7	3.8	7.2	6.6	5.2	4.9	4.9	7.9
G	6.3	4.9	7.3	11.2	5.1	6.6	1.8	3.8	6.5	7.4	7.9	3.3
他	24.7	27.4	22.9	21.7	24.7	22.5	26.9	29.5	23.2	23.0	22.2	31.3

## I-11 親戚

## 【反応内容】

## 【A. 定義】

・親戚関係はやはり一番大切な人間関係の一つと考えている。

- ・～は人と人との一番身近な集団。
- ・～は皆家族の延長だと思っています。
- ・～は血がつながっていると感ずます。

## 【B. 数・居住地】

- ・～は少ないほうです。
- ・～はたくさんいます。
- ・～はほとんど東京にいます。
- ・～は近くに住んでいる。

## 【C. 大切にしたい】

・～付き合いはなるべくやった方がいいと思う。  
 ・～付き合いは大変ですが、随分と助けられることも多く、大切にしていかなければいけないと思えます。

- ・～とは仲良くしていきたいです。
- ・～とは、助け合いが肝心である。

## 【D. 関係良好】

- ・～は、親切だと思ふ。
- ・～は自慢できる人ばかりだ。
- ・～とは仲良くしている。
- ・～とはよく交流があります。
- ・～とは子供の頃によく遊んだ。
- ・～は、やはり頼りになるものだとの頃考えて

います。

## 【E. 付かず離れず】

・～づきあいは大切にしているが、適当な距離は保っていたい。

- ・～づきあいは、つかず離れずにしている。
- ・～とは、とくに親しくつきあつてはいないが、遠ざかつてもない。

## 【F. あまり付き合いがない】

・～はいるがほとんど交流がない。  
 ・～とは盆と正月のつきあひしかない。  
 ・～とのつきあひは、最近あまりないような気がする。

・～はみんな遠くに住んでいるので、めったに会うこともない。

・～にはあまり興味はありません。

## 【G. わずらわしい】

・～づきあいは面倒くさい。  
 ・～も場合によっては他人以上に注意しないと人間関係が悪くなる場合があります。

- ・～づきあいは、あまり得意な方ではありません。
- ・～は、有難いものだが時には少々わずらわしいことがある。

## 【他. その他】

- ・～が今度、結婚します。
- ・～には音楽好きがそろっている。
- ・～は苦勞人が多い。
- ・～どういう意味を持つ存在かわからない。
- ・～は、私の事を頭が良いと思っている。

## 【反応頻度】

	全体	男性	女性	～24	～34	～44	～54	55～	京浜	首都	関東	東北
A	1.5	2.6	1.0	1.3	2.5	0.5	1.6	2.1	2.5	1.9	1.5	0.3
B	10.7	12.1	10.1	12.8	14.6	7.4	7.5	9.3	12.4	9.3	8.0	12.2
C	15.9	19.2	14.4	11.9	15.2	15.8	18.7	23.3	11.2	15.4	18.6	18.6
D	20.2	17.2	21.7	29.6	10.1	11.6	15.5	20.7	18.6	20.8	21.3	20.5
E	6.7	7.4	6.4	1.8	6.3	11.2	13.9	6.7	7.8	9.7	6.5	3.9
F	20.8	18.2	22.1	20.4	25.3	24.7	19.3	15.5	23.0	24.7	19.8	16.9
G	17.1	13.6	18.8	14.8	18.4	20.0	16.6	18.7	17.7	16.2	18.3	16.3
他	12.6	11.3	13.3	16.4	12.7	11.6	10.7	6.7	9.3	14.7	10.6	15.5

I-13 世の中

【反応内容】

【A. 肯定的な見方】

- ・世の中そんなに悪くないと思う
- ・～偉い人がけっこういる。
- ・～結構楽しい。
- ・～暗いことが多いが、明るいことがらに目を向けたい。

【B. 厳しい】

- ・～冷たい。
- ・～うまくいかない。
- ・～人間関係が難しい。
- ・～住みにくい。

【C. 不公平】

- ・～不公平。
- ・～道理に合わないことが多い。
- ・～正直者はいつも悲しい思いをする。
- ・～金が無いと通用しないものね。

【D. 問題がある】

- ・～まちがっている。
- ・～最近病んでいる。
- ・～まともなシステムではない。
- ・～自分勝手な人が多い。
- ・～政治が良くない。事が起こってからあたふたしている。

【E. 悲観的展望】

- ・～悪くなっている。
- ・～あまりよい方に進んでいるようには思われない。

- ・～おかしい方に向かっている。

- ・～これからどうなるか不安。

【F. 捉えにくい】

- ・～実にとらえにくい。
- ・～説明できないことが山ほどある。
- ・～複雑すぎるので、単純明快に行きたい。
- ・～知らないことがたくさんある。

【G. 変化が速い】

- ・～移り変わりが激しい。
- ・～あまりにテンポが激しいため、振り返るゆとりが欲しい。
- ・～の動きについて、遠い将来を考えるのは現代においては難しい。

- ・～生き馬の目を抜く。

【H. 理想像】

- ・～平和だといと思います。
- ・～楽しく暮らしたいと思う。
- ・～明るい社会が望ましい。
- ・～善意だけで動いて欲しい。

【他. その他】

- ・～楽しいことも苦しいこともある。
- ・～広いようで狭い。
- ・～昔から変わっていない。
- ・～その人その人の考え方次第である。

【反応頻度】

	全体	男性	女性	～24	～34	～44	～54	55～	京浜	首都	関東	東北
A	13.0	13.8	12.5	10.9	12.7	14.8	17.4	10.9	13.7	11.9	14.3	12.1
B	11.2	11.0	11.3	13.0	9.5	12.1	8.4	11.5	12.7	10.3	14.3	7.0
C	5.1	3.8	5.9	5.8	7.0	6.6	4.2	1.6	3.9	4.9	5.4	6.5
D	16.8	18.2	15.8	17.8	18.4	14.8	16.2	16.4	14.7	16.0	16.7	20.6
E	5.8	4.9	6.4	5.1	3.8	5.5	7.2	7.7	7.2	6.2	3.9	5.1
F	12.9	10.8	14.4	18.8	13.9	14.8	10.8	3.3	16.0	10.7	11.8	12.1
G	9.1	7.9	9.9	7.6	11.4	8.2	6.0	13.1	11.4	8.6	7.9	7.5
H	11.9	13.1	11.1	5.8	9.5	9.9	13.8	23.5	8.8	10.3	15.3	15.0
他	16.6	18.2	15.5	19.6	17.1	14.8	18.0	12.0	13.4	24.3	12.8	15.9

## I-15 恋愛

## 【反応内容】

## 【A. 恋愛のあり方】

- ・恋愛は節度を持つべきだ。
- ・～はよく考えて進めるものだ。
- ・～は刹那的、感情的なもののみであってはならない。
- ・～は自由にすべきである。

## 【B. 素晴らしい】

- ・～は素晴らしい。
- ・～は心のために良い。
- ・～は人生最大の楽しみの中の1つである。
- ・～人生の中でかけがえのない出会いです。
- ・～は人をきれいにし、成長させる。

## 【C. 大変】

- ・～はとても楽しいけれど、苦しいことも多い。
- ・～はこちよほど疲れる。
- ・～はドラマのようにはいかない。
- ・～は難しいと思います。
- ・～はしんどい。

## 【D. 恋愛願望】

- ・～してみたい。
- ・～は年に関係ない。
- ・～はした方がよい。
- ・～は不得意だけど懂れます。
- ・～いつも恋愛していたと思う。

## 【E. 過去の思い出】

- ・～懐かしい言葉です。
- ・～に恋愛した頃が懐かしい。
- ・～はもう昔のことになりました。
- ・～はいつのまにかしなくなりました。
- ・～もうしたいとは思わない。

## 【F. 恋愛と結婚】

- ・～と結婚は別だと考えている。
- ・～らしき経験なしに結婚してしまった感じ。
- ・～した相手と結婚しないで今も想い出します。
- ・～思う人もあったがその人とは結ばれなかった。

## 【G. 無縁】

- ・～は私にとって無関係なことだ。
- ・～には縁がない。
- ・～現在恋愛したいと思う人が現われない。
- ・～まだ経験がありません。
- ・～を一度してみたかった。

## 【H. 恋愛は青春】

- ・～青春の頃を思います。
- ・～という言葉に青春を感じる。
- ・～は生涯青春。
- ・～は若い人々の特権です。

## 【他. その他】

- ・～小説は好きではない。
- ・～子供にもステキな恋愛を経験して欲しいです。
- ・～はまだよくわからない。これからだと思う。
- ・～が自由にできる時代に生まれて良かった。

## 【反応頻度】

	全体	男性	女性	～24	～34	～44	～54	55～	京浜	首都	関東	東北
A	4.8	5.6	4.4	3.5	6.3	4.7	4.3	7.3	3.1	5.4	3.0	7.2
B	20.9	19.2	21.7	24.8	15.8	19.5	22.5	16.1	22.0	20.5	23.2	18.6
C	8.8	6.9	9.7	17.0	8.9	2.3	3.2	2.1	9.0	8.9	11.0	6.9
D	21.8	22.1	21.7	22.1	22.2	23.3	25.7	15.5	22.7	18.9	18.6	25.5
E	7.8	8.2	7.6	1.1	6.3	9.8	13.9	16.6	6.8	7.7	8.0	8.6
F	2.7	3.8	2.2	1.1	2.5	1.9	3.2	7.3	1.6	4.6	2.3	2.8
G	8.1	7.9	8.2	7.7	4.4	7.9	7.0	13.5	5.6	9.7	11.0	7.2
H	1.6	2.6	1.1	—	0.6	2.8	4.3	2.1	0.6	3.1	0.8	1.9
他	25.4	26.2	25.0	26.3	33.5	29.8	18.2	18.7	30.1	23.6	24.0	23.5

I-18 仕事

【反応内容】

【A. 満足】

- ・仕事満足しているし、自己実現、最高の修行の場だと思う。
- ・～があることに感謝している。
- ・～はずっと続けていきたい。
- ・～順調なので何の不安もない。
- ・～逃げたくなる時もあるけれど頑張ってやっていきたいです。
- ・～大変だが好きだ。

【B. 意義のある仕事】

- ・～はやりがいのあるものがいい。
- ・～を通して社会奉仕ができれば素晴らしいと思う。
- ・～は一生懸命責任を持って取り組むべきだ。
- ・～とは、それが誇りに感じられるものが最高だと思う。

【C. 合った仕事】

- ・～を好きになれたら毎日がどんなに良いでしょう。
- ・～は自分でやりたいことを自分でしっかりと見つけてこそ、一生を決める大事な鍵となるのです。
- ・～は楽しみながらやりたい。
- ・～はやりたいことしかしないつもりだ。

【D. 悩み】

- ・～ストレスはたまる一方です。

・～をしていく上で常に問題点が出てきますが、どうやって早く解決していくか、これが最も頭痛の程です。

- ・～が自分に合っている人ってどのくらいいるのだろう。
- ・～ははっきりいって好きではないが、働かなければ暮らしていけない。
- ・～楽しんで稼ごうなんて甘いよね。

【E. 定年】

- ・～をやめたら急に空しい感じにおそわれた。

【F. 適度に】

- ・～はもう少しほどほどにと思う。
- ・～は、誠心誠意やりたいが、ついやりすぎてしまう。
- ・～は、早めにかたづけ、のんびりしたい。
- ・～は仕事、家庭は家庭。
- ・～は精いっぱいやりたいが家に帰ったら家事及び自分の趣味を精一杯やりたい。定年になる前に余力を残して辞めたい。

【G. 仕事を持つこと】

- ・～を通して、いろいろなことをしたい。
- ・～を選ぶのは大変難しいと思います。
- ・～も生活の一部です。
- ・～と家事の両立はとても大変な事だと思います。

【他. その他】

- ・～のできる人にあこがれます。
- ・～は、職業とは異なるものだとわかっているがなかなか浮世の色気から脱却出来ない。

【反応頻度】

	全体	男性	女性	～24	～34	～44	～54	55～	京浜	首都	関東	東北
A	24.3	18.5	28.3	12.3	24.7	23.6	34.7	33.3	20.3	24.7	21.7	32.2
B	13.9	15.4	12.8	21.0	9.5	14.3	7.8	12.0	15.4	11.5	15.3	13.1
C	12.4	16.7	9.5	19.6	7.6	11.0	12.6	7.1	12.4	14.8	11.8	10.3
D	11.0	11.8	10.4	9.4	17.7	9.3	15.0	5.5	10.8	9.1	10.3	14.0
E	12.2	7.4	15.5	12.0	11.4	14.8	9.6	13.1	14.1	13.2	12.3	8.4
F	8.2	9.7	7.1	9.8	11.4	8.8	3.0	7.1	9.2	8.6	8.9	5.6
G	1.0	1.8	0.5	—	—	—	—	5.5	0.3	0.4	0.5	3.3
他	18.2	18.7	17.9	18.1	18.4	20.3	17.4	16.9	19.0	18.1	20.2	15.4

## I-20 近所づきあい

## 【反応内容】

## 【A. 必要・大切】

- ・近所づきあいは、ある程度必要だと思う。
- ・～は、大切だと思う。
- ・～は、多いにするべきで、行事にもできるだけ参加したいです。
- ・～は、できるだけ深くしたい。
- ・～は、うつとうしい時もありますが、大事なことです。
- ・～は、地域コミュニティを形成する上で欠かせないものだ。
- ・～は、遠い親戚より大切である。

## 【B. 良好】

- ・～円満に気持ちよくお付き合いしています。
- ・～楽しくつき合え、幸福だと思っている。
- ・～は、うまくいってます。
- ・～毎日挨拶をかわし、畑でとれたものなど交換しあったり仲良くしている。
- ・～老人から子どもまでいつも声を掛け合っています。地域社会の連帯を大切に実行しています。

## 【C. ほどほどがよい】

- ・～は、“ほどほどに”がよいと思う。
- ・～は、オセッカイにならない程度に程々がよい。
- ・～は大事だが、あまり深くならないほうがよい。
- ・～つかずはなれずにつき合いたいです。
- ・～は、大事だが干渉されるのはいやです。
- ・～ベタベタしたものはイヤです。

## 【D. 普通・挨拶程度】

- ・～は、普通です。
- ・～まあまあのお付き合い。
- ・～は、挨拶ですましています。
- ・～は、面倒ですが、挨拶はきちんとしたいです。
- ・～は、あまりしませんが挨拶を交わす程度です。

## 【E. 難しい・わずらわしい】

- ・～は、面倒くさいです。
- ・～は、うるさいだけだ。
- ・～は、難しいとつくづく感じる。
- ・～は、大事だと思うが都会では難しい。
- ・～は、正直言って嫌い。なくてもいい。
- ・～は、今の私にとって、大変苦手のもの。

## 【F. ない】

- ・～は、現在住んでいるところではない。
- ・～は、マンション住まいになってあまり付き合いはなくなりました。
- ・～は、あまりしない。
- ・～は、少ない方です。
- ・～は、妻に任せて関知しない。

## 【他. その他】

- ・～は、今のままでよいです。
- ・～別に考えない。
- ・～は、それほど深いつき合い方はしていないが、中には勝手な人種もいる。これには閉口している。
- ・～は、普段特定の人としかしていない。
- ・～は、相手を慎重に選ぶことが必要です。同じ生活水準、知的水準でないと思わぬ行き違いを生じやすい。

## 【反応頻度】

	全体	男性	女性	～24	～34	～44	～54	55～	京浜	首都	関東	東北
A	27.5	28.7	26.9	34.1	23.4	20.0	23.5	27.5	19.3	24.7	30.0	34.9
B	10.4	8.7	11.2	9.1	6.3	8.8	14.4	14.5	6.5	10.8	11.4	12.7
C	14.9	14.1	15.3	7.7	12.0	24.2	19.8	19.2	15.2	15.4	13.7	15.2
D	8.1	7.7	8.3	5.8	5.1	7.9	10.7	14.0	6.2	11.6	8.4	7.2
E	15.8	17.2	15.1	17.0	22.8	12.1	16.0	10.9	17.4	17.0	17.1	12.5
F	15.9	16.7	15.5	16.8	25.3	17.2	13.9	6.2	26.4	13.9	13.7	9.4
他	9.0	7.7	9.6	10.0	8.2	12.1	4.8	7.8	9.6	9.7	7.2	9.1



I-26 職場では

【反応内容】

【A. 仕事第一】

- ・職場では仕事第一とすべきである。
- ・～時間まで精一杯働く。
- ・～一生懸命に働きました。
- ・～仕事に熱申したい。

【B. 職場での人間関係の状態】

- ・～人間関係に恵まれている。
- ・～人間関係がうまくいっていないので苦痛です。
- ・～上下関係がはっきりしている。
- ・～人付き合いがうまくいか気になる。
- ・～気を使う。
- ・～信頼されていると思います。
- ・～結構人に好かれていると思います。

【C. 職場での地位・立場】

- ・～部長である。
- ・～編集の仕事に携わっている。
- ・～リーダーシップをとっている。
- ・～もう中堅と呼ばれるようになってしまった。
- ・～やりがいもなく、自分の存在がない。
- ・～時々自分が浮いていると思うことがある。

【D. 職場での行動・態度】

- ・～いつでもにこやかにつとめています。
- ・～元気な存在である。
- ・～大変に忙しい。
- ・～頑固で通っている。

- ・～まじめに働いているつもりだ。
- ・～周囲の迷惑を気にせず働いている。
- ・～ほどほどにやっている。
- ・～わりと目立ちたがりでした。

【E. 職場でのモットー・規範】

- ・～人間関係が大切だと思います。
- ・～皆となかよく仕事をしたい。
- ・～私的感情をできる限りおさえることが必要だ。
- ・～とりあえず、与えられた仕事はする。
- ・～実直に、アフター5は無責任に、がモットーである。
- ・～自分の力をフルに活用して仕事を楽しまたい。
- ・～役に立つ人間でありたい。

【F. 職場の状態・雰囲気】

- ・～仕事楽しい。
- ・～おもしろくないことがいっぱいある。
- ・～居心地が悪い。
- ・～毎日同じことの繰り返し。
- ・～いろいろな問題がある。
- ・～経営者の姿勢に疑問を感じています。

【G. 無職・経験無し】

- ・～職業無し。
- ・～学生です。
- ・～働いたことはありません。

【他. その他】

- ・～社内恋愛はよいと思う。
- ・～思い通り出来るのは自営業だからだと思う。
- ・～40名中10名が女子の課だった。

【反応強度】

	全体	男性	女性	～24	～34	～44	～54	55～	京浜	首都	関東	東北
A	8.2	8.5	8.0	11.1	7.0	5.1	6.4	7.8	6.2	8.9	6.8	10.4
B	15.9	15.1	16.3	15.2	19.6	18.1	16.6	11.4	18.3	14.7	14.4	15.9
C	7.7	12.1	5.5	2.4	5.1	14.9	8.6	12.4	8.2	6.2	6.1	9.5
D	15.4	16.9	14.6	17.5	19.6	10.7	16.0	11.9	12.7	13.1	16.7	18.4
E	24.8	22.3	26.0	34.8	15.8	25.6	17.1	16.6	26.5	24.7	28.5	20.5
F	9.3	9.0	9.4	4.0	12.7	8.4	18.2	10.4	9.8	10.8	6.8	9.5
G	3.0	1.8	3.6	1.7	—	0.9	2.7	10.9	2.6	4.6	3.4	1.7
他	16.4	16.9	16.2	13.3	22.8	16.3	19.3	15.5	15.4	17.8	18.6	14.7

## I-29 女

## 【反応内容】

## 【A. 女性と男性は本来対等であるべき】

- ・女としてより、一人の人間でありたい。
- ・～はもっと男と手を取り合って、うまくやっていくべきだ。
- ・～は男と同じ人間だ。
- ・～性が最近社会に進出するようになったが、良い事だと思う。
- ・～もしっかりした考えを持ち、どんどん世の中に出て行くべきである。

## 【B. 女性と男性は本来違うもの】

- ・～性は男性とは違う。
- ・～も人間であるが、男とは担当が異なる。
- ・～どこまでいっても女。

## 【C. 女性の強さ】

- ・～は強いと思います。
- ・～は弱し、されど母は強し。

## 【D. 女性への批判的意見】

- ・～は何か間違っている人が多い。
- ・～は一般的に手に負えない。
- ・～性が働くことはいいと思うが、働くことだけで女性の持つ優しさをなくす働き方は良くない。
- ・～わがままで自分勝手だ。

## 【E. 女性という性への満足感】

- ・～に生まれて良かったと思う。

・～に生まれて損したとずっと思っていたのですが、この頃は男の人が気の毒に見えます。

- ・～の方が男よりどちらかという所得だ。
- ・～は昔と比べると随分自由に生きられるようになった。

## 【F. 女性という性への不満感】

- ・～になんか生まれたくなかった。
- ・～はやはり家事、仕事と損な面が多い。
- ・～は一見自立したかのように見受けられたが、実は少しも変わっていない。

## 【G. 女としての在り方】

- ・～としても立派な人格をつくりたいです。
- ・～は美しく、優しくあつてほしい。
- ・～は家庭を守り、夫を陰で支えるべきだ。
- ・～は子供を産んで初めて大人になれるという気がする。

## 【H. 男性にとっての女性の存在】

- ・～の人は好きだ。
- ・～は男にとって必要な存在です。
- ・～はよく分からない。
- ・～は偉大であり、魅力的である。
- ・～が近くにいると、緊張気味になってしまいます。
- ・～は卒業した。

## 【他. その他】

- ・～イメージからいって、成熟した女を思う。
- ・～30年来、心に秘めた女性がいます。

## 【反応頻度】

	全体	男性	女性	～24	～34	～44	～54	55～	京浜	首都	関東	東北
A	10.8	6.9	12.7	11.8	10.1	9.8	12.3	8.8	11.4	12.4	9.9	9.8
B	2.7	3.1	2.5	2.8	2.5	2.8	3.7	1.6	4.2	2.3	2.3	2.0
C	5.3	4.4	5.7	5.2	5.7	4.2	4.3	7.3	5.6	7.3	4.9	3.7
D	6.8	6.2	7.1	5.9	6.3	7.9	9.6	5.2	7.2	6.6	6.5	6.9
E	15.9	1.0	23.3	19.7	9.5	18.6	13.4	12.4	16.0	15.4	19.8	13.3
F	8.8	1.0	12.6	12.8	9.5	8.8	4.8	3.1	10.1	5.4	9.1	9.8
G	17.4	16.4	18.0	14.2	16.5	20.0	19.8	20.2	15.4	17.8	15.6	20.5
H	16.1	41.5	3.4	15.4	19.0	12.1	15.0	20.7	21.6	17.0	14.1	12.1
他	16.7	20.3	14.9	13.0	21.5	14.9	18.7	20.7	9.8	16.2	17.9	22.2

I-30 日本

【反応内容】

【A. 日本は良い国、好きな国】

- ・日本は世界で一番住みやすい国だと思います。
- ・～人として生まれてよかった。
- ・～は平和で豊かな国だと思う。
- ・～は四季のあるとても美しい国だと思います。
- ・～については不平不満も多いがそれを言える良い国だと思う。

・～は長い間の努力が花咲いたと思ってる。

・～の自然や文化を残したいものです。

・～は素晴らしい国で、どこの国より好きです。

・～国内中を旅行できたらいいです。

【B. 世界の中の日本の位置と役割】

- ・～は世界をリードしていく国となと思う。
- ・～は過去大きな誤りを犯したのだから、今後は世界から愛される国になるべきです。
- ・～はもう少し視野を広くしなければならぬと思う。

・～は最近世界の中で孤立しつつある。

・～外交手腕がない。

【C. 日本の将来】

- ・～はこのまま繁栄していくとは思いません。
- ・～はこれからの高齢化社会を迎え、今の私たちの世代がその社会を支えていかなくてはならない。
- ・～もこれからは余暇が多くなり、今までの価値観だけでは計り知れなくなる気がする。
- ・～の将来は社会党が世界に通用する党に変われるかが問題だ。

【D. 日本、日本人を反省すべき点】

・～には自分の意見をはっきり言わず、曖昧にしようとする人が多い。

・～は歪んでおり、どこか狂っている。

・～は物質的には恵まれているが、精神的な荒廃がひどいと思う。

・～は工場がたくさんあつて空気が悪いところだと思う。

・～は平和ボケの国。

・～人は金もうけにばかり執着して、人間のもっとも大切な事柄を忘れてるように思う。

・～は政治の改革が必要だ。

・～は世界の中でもモラルのない国の一つだと思う。

・～は働きすぎで、とても忙しい国。

・～贅沢のし過ぎではなかろうか。

・～人はもう少しマナーを大切にしなければ駄目だ。

・～男と女の意識を基本的に改革すべきである。

【E. 豊かさ、経済大国・未だし個人】

・～は経済的に豊かである。

・～の経済力は目を見張るものがあるが個人の裕福さはまだまだである。

・～が戦後このように目覚ましい復興をし、発展するとは夢にも考えなかった。

【他. その他】

・～なんて羨いなので、外国に行きたい。

・～は学校教育に問題があると思う。

・～富士山、日の丸、平和が浮かぶ。

・～は我ながら興味の尽きない対象です。

【反応頻度】

	全体	男性	女性	～24	～34	～44	～54	55～	京浜	首都	関東	東北
A	42.0	36.2	44.8	38.5	39.9	47.4	47.1	40.9	40.1	37.8	44.1	45.2
B	10.9	14.4	9.2	9.3	14.6	12.1	11.8	9.3	15.2	10.0	9.5	8.6
C	10.6	12.6	9.7	9.3	8.9	11.6	12.3	12.4	8.7	10.8	12.5	10.8
D	19.3	16.9	20.4	23.7	18.4	15.8	13.4	19.2	20.5	20.8	17.1	18.6
E	6.1	5.1	6.5	8.4	5.1	2.8	8.6	2.6	5.0	4.2	7.6	7.2
他	16.8	19.0	15.7	15.7	19.6	16.7	15.0	18.7	16.1	21.6	15.2	15.0

## II-3 友だち

## [反応内容]

## 【A. 大切・必要】

- ・友だちは大切な存在だ。
- ・～は必要である。
- ・～は人生最大の宝である。
- ・～とは一生つきあっていきたい。
- ・～はすごく頼りになる。
- ・～との約束ごとは必ず守ることである。

## 【B. よい・楽しい】

- ・～に恵まれていると感謝しています。
- ・～は一緒にいて楽しい人がいい。
- ・～は楽しい。
- ・～は、お互い気持ち良く話し合える仲間です。
- ・～から本当にいろいろ影響を受けてきたと思う。
- ・～はよいものだ。
- ・～とよくtelで話す。
- ・～とよく飲み、またよく話す。
- ・～皆良い人たちである。

## 【C. 親友・深いつき合い】

- ・～は数少なく、つきあいは深くする。
- ・～の中で本当の友達といえるのは中学（旧制）時代の友だちだ。
- ・～は多ければいいというものではなく質も大切だ。
- ・～は少ないが、真の友人だと思う。

## 【D. 距離をおいたつき合い】

- ・～はあくまで他人なので、一定の距離をもってつきあいたい。
- ・～であればまた楽しく、なければなくてもよし。

## 【E. 多い】

- ・～とは皆仲良くやっている。スポーツ友達、遊び友達等。
- ・～いろいろな人がいて面白いものだ。
- ・～はたくさんいる。
- ・～多い方がよい。

## 【F. 少ない】

- ・～最近少ない。
- ・～とは最近忙しくてなかなか会えない。
- ・～は余りいない。

## 【G. 友だちとは何か？】

- ・～とはどんな人達のことを指すのか、この頃あいまいになってきました。
- ・～と知人の区別はつかないようで、どこか違う気もする。

## 【他. その他】

- ・～女の友情はあり得ないと思う。今までにそういえる人はいなかったし、今後も広くつきあっていきたい。
- ・～と遊びに行きたい。
- ・～はみんな結婚しました。
- ・～広く浅く。
- ・～とは物欲とは無関係のものである。

## [反応頻度]

	全体	男性	女性	～24	～34	～44	～54	55～	京浜	首都	関東	東北
A	30.3	27.9	31.5	33.4	34.8	30.7	22.5	28.9	35.9	27.4	31.2	26.8
B	17.9	13.8	19.9	14.7	13.9	15.3	24.1	24.9	15.0	19.7	18.3	18.7
C	9.6	11.8	8.5	11.6	7.0	9.8	9.6	7.3	10.8	9.7	12.2	6.6
D	2.1	2.1	2.2	1.9	2.5	0.9	2.1	3.6	2.3	2.7	2.7	1.2
E	23.3	22.1	23.9	29.4	15.8	19.1	25.1	19.2	21.2	24.7	22.8	24.5
F	8.4	11.3	7.0	2.8	11.4	16.7	10.7	6.7	8.2	6.9	7.6	10.4
G	1.1	1.3	1.0	0.9	2.5	1.4	0.5	0.5	2.0	0.4	1.5	0.6
他	11.6	12.1	11.3	10.0	15.8	13.0	10.7	10.9	10.8	11.6	11.8	12.1

II-8 転職

【反応内容】

【A. 経験（有無）】

- ・転職しました。
- ・～は一度しました。いまはしてよかったですと思います。
- ・～した事一度もない。

【B. 肯定的態度】

- ・～は、するべき。
- ・～をしてみることは、いいことだと思います。
- ・～は自分の能力がより引き出せるならいい。
- ・～は場合によっては問題ないと思います。

【C. 転職を考える】

- ・～は機会があつたらしたい。
- ・～を考えています。
- ・～は昔よく考えました。
- ・～は誰もが一度は考えたことがあると思う。

【D. 転職しない】

- ・～考えられない。
- ・～を考えたことは一度もない。
- ・～せずにずっと同じ職場にいたい。

- ・～する気持ちはない。

【E. 否定的態度】

- ・～はなるべくさげたいものだ。
- ・～が悪いとは思えないが、最近のように簡単に会社をやめてしまう安易な考え方には賛成できない。
- ・～は慎重にしなければ。
- ・～どんな仕事についても同じであろう。

【F. 転職をめぐる社会状況】

- ・～は日本ではまだまだ受け入れられていない。
- ・～がはやっている。
- ・～するのは、今余り抵抗がない世の中になりました。
- ・～がスムーズにいくようになったら、人々の生き方がかわるのではないだろうか。

【他. その他】

- ・～をした人を知っている。
- ・～には発展的なものと、後退的なものと二通りの型があるのではないかと思う。
- ・～もおもしろそうだ。
- ・～定年が間近なので、週3日ぐらいの中小企業のコンサルタントをやってみたい。

【反応頻度】

	全体	男性	女性	～24	～34	～44	～54	55～	京浜	首都	関東	東北
A	9.2	9.0	9.4	0.7	8.9	6.6	12.0	22.4	5.9	13.2	11.8	7.0
B	24.8	21.0	27.4	35.9	14.6	19.2	26.3	21.3	23.9	26.3	29.6	20.1
C	10.1	11.5	9.2	6.2	20.9	14.3	9.0	3.8	12.7	8.6	6.4	11.7
D	23.8	28.7	20.5	20.7	22.8	26.9	30.5	20.2	20.3	23.9	21.2	31.3
E	16.3	14.4	17.5	18.1	14.6	18.1	11.4	17.5	16.0	14.4	17.7	17.3
F	8.7	6.4	10.2	12.7	7.0	11.0	6.0	4.4	11.8	8.2	8.9	4.7
他	6.3	6.7	6.1	5.4	12.7	5.5	4.2	4.9	8.2	4.9	4.4	7.0

## II-9 男

## 【反応内容】

## 【A. 男はこうあるべき】

- ・男 強さと優しさの両方を持ってほしい。
- ・～は文句を言わずに黙って行動。
- ・～は仕事が一番。やっぱり働く姿がたくましい。
- ・～たるもの一度は勝負しなければなりません。

## 【B. 男の責務】

- ・～は家庭に対し、家族に対して責任がある。
- ・～は女性を守るものだと思う。
- ・～いざというとき頼りになるし、頼りにしている。
- ・～はとにかく何をしてでも仕事をして収入を得なければならない。

## 【C. 男の苦勞】

- ・～性は女性に比べると気苦勞が多いと思う。
- ・～は大変だ。
- ・～とは悲しい事や辛いことを表面に出さない。
- ・～とは悲しい生き物だ。

## 【D. 男はだらしない】

- ・～の人が最近では弱々しいと思います。
- ・～は単純でバカでわがまま。
- ・～もつとしやんとしなさい。このごろ余りに軟弱すぎる。

## 【E. 男への憧れ】

- ・～は賢いと思うことが度々ある。
- ・～なら頑張れると思う。
- ・～に生まれて良かったと思う。
- ・～は好きな仕事に生きられるので幸せである。

## 【F. 日本は男社会】

- ・～日本はまだ男性社会だと思います。
- ・～の中には、女をみくだして見る人がいます。
- ・～性は女性より社会的に優位にある。
- ・～社会はもういやだ。

## 【G. 男の役割に拘らない】

- ・～の時代は終わった。
- ・～でも家事一通り心得ておくべきだ。
- ・～ということにはあまり意識しないで生きていきたい。

## 【H. 男と女】

- ・～は男らしく、女は女らしく。
- ・～も女ももっと理解しあえるはずだ。
- ・～の人と女の人は違うということがようやくわかってきました。

## 【他. その他】

- ・～はみてくれではない。
- ・～の人は自分をどう思っているのだろう。
- ・～の子が一人いればなあと思います。
- ・～どうして酒を飲むのは楽しい。

## 【反応頻度】

	全体	男性	女性	～24	～34	～44	～54	55～	京浜	首都	関東	東北
A	22.4	37.4	14.9	23.5	20.3	22.8	19.3	24.4	23.9	16.6	29.7	19.9
B	6.3	7.2	5.9	4.0	3.8	7.4	10.2	8.3	4.9	9.7	6.1	5.2
C	11.0	7.2	12.9	6.9	17.1	18.6	13.4	4.1	10.5	13.1	8.4	11.8
D	13.0	9.7	14.6	12.6	12.7	9.8	14.4	16.6	11.4	17.4	11.4	12.4
E	18.4	12.1	21.5	23.5	13.9	16.3	14.4	17.1	20.6	16.2	14.8	20.7
F	1.8	1.5	1.9	1.2	2.5	2.3	2.7	1.0	1.3	2.3	2.7	1.2
G	3.0	3.6	2.7	2.1	3.8	2.8	3.7	3.6	4.2	4.6	1.9	1.4
H	4.4	4.6	4.3	5.9	2.5	2.3	3.7	5.7	6.9	5.0	3.0	2.9
他	19.1	14.6	21.3	20.4	22.8	18.6	17.1	15.5	16.3	14.3	20.9	23.6

II-24 天皇制

【反応内容】

【A. 象徴として必要】

- ・天皇制は良いことだと思います。
- ・～については賛成です。現在の形が最良と思う。
- ・～日本独特の制度で維持していても良いと考えます。
- ・～戦後のような天皇制ならばあった方がよい。
- ・～宗教心の無い日本にとって象徴は必要。
- ・～日本国の象徴として大切に守って行きたい。

【B. 伝統として存続】

- ・～日本の伝統として守っていくべきだと思う。
- ・～歴史を振り返れば、日本のこれは誇るに足るものでしょう。
- ・～いい伝統である。
- ・～には賛成である。今や世界でもほんの少ししか存在しない制度なのだから希少価値。

【C. 国民の身近に】

- ・～はそろそろ簡素化してもよいのではないか。
- ・～これからはもつと庶民の中に入られたらいいと思いますが、それには宮内庁が天皇制に対して考え直さなければならぬ。
- ・～皇室関係のテレビは興味深くみるし皇太子のお妃も気にかかる。
- ・～現在の天皇や美智子妃の性格には好感が持てる。

【D. なくて良い】

- ・～特に必要ないと思う。

- ・～は私の最も嫌っていることの一つだ。
- ・～は廃止すべきだ。
- ・～やめた方がいいと思う。
- ・～日本にとって必要かどうかと真剣に考えてみる必要がある。
- ・～なんて前世紀の遺物じゃない。まあ博物館的価値を認めている人がいてもわからない。

【E. 政治に利用させるな】

- ・～を利用した政治はこわい。
- ・～は日本の伝統を守り？続けるという意味もあるかもしれないが儀式ごとに費やす金額の多さを考えるべきではないか。

【F. どちらともいえない】

- ・～よいか悪いかどちらともいえない。
- ・～別に悪いとは思いません。

【G. 無関心】

- ・～あまり深く考えたことがありません。
- ・～についてはあまり良く分らない。どちらでも良い。

- ・～などどうでもよい。

【他. その他】

- ・～の存続も良いが、大統領制が望ましい。
- ・～かつては天皇制の名の下に軍部の独裁を許し、自国民はおろかアジア諸国の無辜の民に塗炭の苦しみを味わせた。
- ・～には特に思うことがない。人ごとながらもつと自由にさせてあげたらと思う。
- ・～社会学やユング心理学などからみると巧妙な仕組みだと思う。

【反応頻度】

	全体	男性	女性	～24	～34	～44	～54	55～	京浜	首都	関東	東北
A	37.4	37.7	37.3	29.2	31.6	41.4	48.1	46.6	36.3	39.8	35.7	38.0
B	7.2	8.2	6.7	5.5	6.3	6.0	5.9	14.5	8.1	7.7	8.4	5.3
C	3.8	3.3	4.0	2.9	1.9	5.6	5.9	3.6	2.5	5.0	4.6	3.6
D	15.1	20.0	12.8	19.5	12.7	17.2	11.8	7.8	19.6	13.5	17.1	10.8
E	2.7	2.8	2.7	2.7	2.5	3.3	3.2	2.1	2.5	1.9	2.3	3.9
F	21.7	17.9	23.4	26.8	26.6	20.5	17.1	11.4	21.1	17.8	19.4	26.6
他	15.6	15.4	15.7	14.6	21.5	16.3	12.3	15.5	16.1	17.8	15.2	13.9

## I-12 死

## 【反応内容】

## 【A. 死にたくない・怖い・不安】

- ・死ぬことがとても恐い。
- ・～世の中にそんなに魅力があると思わないけど、やっぱり死にたくない。
- ・～自分の事として実感はないが、漠然とした不安に止まっている。

- ・～を考えたとき悲しみを覚え涙がでる。
- ・～という言葉を聞くとドキッとします。

## 【B. 考えたくない・考えていない】

- ・～についてあまり真剣に考えたことはない。
- ・～は悲しいもので、あまり考えたくありません。
- ・～はあきらめるしかないの、あまり考えないようにしている。

## 【C. 身近・誰にも平等に来る】

- ・～は生あるものが、必ずいきつくところ。
- ・～は誰にも公平に訪れるもの。
- ・～はいつでもそこにいると思っています。
- ・～と生は常に背中合わせである。
- ・～はこの世の最後の扉。

## 【D. いろいろと考える・大切に生きる】

- ・～はいつも頭から離れない問題です。
- ・～だんだん心の準備が出来てくるもの。
- ・～は必ず来るもので、それまで悔いなく生きることが大切である。
- ・～が存在するから人は生の喜びを感じる事が

できるのだろう。

- ・～ぬ時は「幸せだった」と思える様になりたい。

## 【E. 怖くない・尊い】

- ・～ニッコリ笑って「みんなどうもありがとう」と海外に旅立つ様な気軽さで死につける自信あり。
- ・～は尊厳なものである。
- ・～は誰でもいづれ訪れるもの、身を清くしておきたい。

## 【F. 迷惑をかけたくない・苦しみたくない】

- ・～はある程度運命と思うが、廻りのものに迷惑はかけたくない。

- ・～は苦痛なく眠るが如く安らかに迎えたい。
- ・～ぬときは毎日々々手入れしてきたこの家です。

- ・～の前までボケないで元気でいたい。

- ・～きれいに迎えたい。

## 【G. 死後の世界】

- ・～はしばしの別れ、また天国であえる。
- ・～んでも死後の世界があると思います。
- ・～後どんな感じなのか、と思うことがある。

## 【他. その他】

- ・～臓器移植してまで生きたいとは思わない。
- ・～ぬことより嫌なことがたくさんあります。
- ・～ガンの場合は告知して欲しい。
- ・～があるから、世界の人口がバランスとれている。
- ・～ねません。子供が成長するまで元気でいたい。
- ・～がどのようなものか解明できれば凄いものだ。

## 【反応頻度】

	全体	男性	女性	～24	～34	～44	～54	55～	京浜	首都	関東	東北
A	22.5	17.2	26.0	26.8	27.8	23.6	21.0	11.5	25.8	16.9	24.1	22.4
B	9.7	12.1	8.2	10.5	8.9	11.0	7.2	10.4	10.1	8.6	11.3	8.9
C	22.3	24.4	20.8	21.7	20.9	22.0	25.7	21.3	21.6	27.6	18.2	21.0
D	10.5	9.0	11.5	8.0	9.5	9.3	12.6	14.2	9.8	9.9	8.4	14.0
E	8.3	8.2	8.3	9.8	5.1	6.0	9.6	9.8	7.2	9.1	9.4	7.9
F	5.7	6.7	5.0	1.8	1.9	6.6	6.6	13.1	3.9	6.6	8.9	4.2
G	5.2	4.1	5.9	9.4	7.0	3.3	2.4	1.6	4.2	6.6	5.4	4.7
他	18.4	20.5	17.0	15.6	22.2	20.3	17.4	18.6	18.6	17.7	18.7	18.7



II-14 病氣

【反応内容】

【A. 一般的なもの・不安・心配】

- ・病氣はしたくない。
- ・～はこわい。
- ・～はいやだ。
- ・～はつらい。
- ・～は心まで弱くしてしまう。
- ・～は自分が苦しむだけでなく皆に迷惑をかけるので健康でいたいと思います。
- ・～年をとってきて、だんだん心配になってきた。
- ・～は一人暮らしの自分にとっては最も恐ろしいものの一つです。

【B. 予防】

- ・～にはならない様注意している。
- ・～はかかる前に予防すべきである。
- ・～にならないように自分で努力することはとても大切だ。
- ・～にならぬ対策として適当な運動と毎月の健康相談と食事に関心をもっている。
- ・～今まで大病をした事がない。しかし父が胃がん、母が狭心症、遺伝的に考えると、これから気をつけなくては。

【C. 治療】

- ・～も早期発見が大切なので何かあれば早めに手を打ちたい。
- ・～ある程度自覚ができると思うので、変だと思ったら早めに病院へ行くこと。

- ・～になったら、腹を決めて前向きに治す努力をすること。健康な時にこそ、歩く、体操等、また、食事の研究で病氣の予防の努力も大事。

【D. 病は氣から】

- ・～は氣からだと思う。
- ・～は気持ちの方が負けないことも大切だと思う。
- ・～は身体だけのものではなしに、精神面が原因となることが多い。
- ・～は大部分精神的ストレスから生じる。

【E. 病氣から学べること】

- ・～になり、入院して初めて人の痛み、健康のありがたさなど、しみじみわかる。
- ・～を最近してしまいました。死なんてと思っていましたが、やはり病氣を治して長生きしたい。
- ・～は神様が与えてくれる試練かもしれない。
- ・～はいやだし、かかりたくないが、苦しみの中から何かを得ることもあるようだ。

【F. 経験の有無】

- ・～は、あまりしたことはない。
- ・～大病はしたことがないので有難いと思います。
- ・～高血圧でもう30年位薬を呑んでいる。

【他. その他】

- ・～では死にたくない。
- ・～は気にしません。
- ・～は長く苦しまず、安楽死を望む。
- ・～心の病氣を治すのは難しい。
- ・～になったとき、もつと安心して療養できるような福祉制度が必要である。

【反応頻度】

	全体	男性	女性	～24	～34	～44	～54	55～	京浜	首都	関東	東北
A	42.1	42.3	42.0	48.2	48.1	41.8	40.7	29.5	49.7	37.9	35.5	42.5
B	13.1	11.8	14.1	8.0	12.7	16.5	13.8	17.5	10.5	14.4	14.3	14.5
C	4.9	5.1	4.7	2.9	2.5	6.0	6.6	7.1	3.3	3.3	4.9	8.9
D	5.0	5.6	4.5	6.9	1.9	5.5	6.0	3.3	4.9	5.8	5.9	3.3
E	9.9	7.7	11.5	10.9	13.9	7.1	9.6	8.2	9.5	9.1	11.8	9.8
F	15.8	15.6	16.0	17.4	8.9	12.1	13.8	25.1	15.4	16.9	20.2	11.2
他	10.1	10.5	9.9	6.2	14.6	13.7	10.8	8.2	8.5	12.3	8.4	11.7

## II-20 私の健康

### 【反応内容】

#### 【A. 良好・まあまあ】

- ・私の健康はよいです。
- ・～とてもよいです。これと言って欠陥がない。
- ・～状態は今いいのでそのまま健康に暮らしたい。
- ・～普通です。
- ・～まあまあです。
- ・～については自信があります。

#### 【B. 不安がある】

- ・～には少し不安がある。
- ・～には余り自信がない。
- ・～については綱渡りのようなもの。
- ・～については今は良いが長生きできないと思う。
- ・～はあまり良くない。
- ・～はみせかけだけかもしれない。
- ・～今までは恵まれていたと思うが問題はこれからだ。

#### 【C. 自分で管理するもの】

- ・～は自分で守って行かねばならない。
- ・～は私が保つもの。
- ・～自分で管理して行きたい。
- ・～を管理維持して病気になるようにしたい。
- ・～管理はなっていない。
- ・～自分でしっかり管理できているとは思えない。

#### 【D. 健康法】

- ・～法は歩くことです。
- ・～よく眠ること。

・～はスポーツをして体力をつけることで保っている。

・～法はスポーツと睡眠を十分に取ること。  
 ・～は日々の心がけのバランスある食生活からです。

・～法はくよくよしない。

・～については小さいときから余り丈夫でないから東洋医学を利用し努力している。

#### 【E. 自分だけのものではない】

・～は家族の宝だ。  
 ・～自分自身のためだけでなく家族のためにも大切だ。

・～が損なわれると家族が迷惑する。

・～は娘が一番案じてくれる。

・～を家族が気遣ってくれるのはとても嬉しい。

#### 【F. 神様が守ってくれる】

・～は自信がある。これは精霊のおかげです。  
 ・～はもう神様にお任せしてある。子供の病気の度に私の健康と引き換えに、と祈ったのだから。

#### 【他. その他】

・～のバロメーターはどれだけ動き回れるかです。

・～維持法は特になし。

・～管理は母まかせです。

・～は両親にもらった宝であり、子供達にも与えた宝です。

・～ちよつとふとりすぎ、病気はあまりしない。

・～の願望には切なる思いがある。

・～は完璧ではないが、一病息災だ。

### 【反応頻度】

	全体	男性	女性	～24	～34	～44	～54	55～	京浜	首都	関東	東北
A	30.7	31.3	30.4	36.2	18.4	22.5	36.5	36.1	30.7	34.2	31.0	26.6
B	20.4	20.8	20.1	19.6	22.8	20.3	25.1	15.3	24.5	22.2	18.2	14.5
C	19.0	16.9	20.5	20.7	24.7	20.3	11.4	17.5	19.3	19.3	18.2	19.2
D	18.4	17.4	19.1	15.2	18.4	28.9	15.6	17.5	16.0	16.0	19.7	23.4
E	3.9	4.1	3.8	2.5	10.1	3.8	3.6	1.1	4.2	2.1	3.0	6.5
F	0.7	0.3	1.0	—	—	1.1	1.8	1.1	0.3	1.2	1.0	0.5
他	7.7	8.7	6.9	7.2	8.2	7.7	6.0	9.3	6.9	5.3	7.4	11.7

II-28 年とった時

【反応内容】

【A. 迷惑をかけたくない】

- ・年をとった時回りの者に迷惑を掛けぬよう健康に留意したい。
- ・～ボケたり寝たきりになって人に迷惑をかけたくない。
- ・～人に頼らず精神的にも自立した老人でいたい。
- ・～家族にも、人様にもお荷物になりたくない。
- ・～健康でいたい。

【B. 夫婦・子供らと暮らしたい】

- ・～夫婦仲良く健康でありたい。
- ・～子供と一緒に過ごしたい。
- ・～家内と一緒にいたい。
- ・～ひとりぼっちはやはり寂しいだろうと思う。
- ・～誰が私をめんどうみってくれるだろう。

【C. 理想の老人像】

- ・～物わがりの良い年寄りになりたい。
- ・～子や孫に慕って欲しい。
- ・～でも純粋な気持ちを忘れたくない。
- ・～すてきな女性でありたい。

【D. ゆったり暮らしたい】

- ・～のんびりしたい。
- ・～悠々自適の生活をしてみたい。

- ・～妻と二人で、仲良く旅行したい。
- ・～地方で静かな老後をおくりたい。

【E. 前向きに生きる】

- ・～明るく生き、社会にいつまでも関わっていたい。
- ・～まだまだ自分の役目を果たしていく使命がある。

- ・～趣味を生かしていきたい。

【F. 人生に満足していたい】

- ・～生まれてきて良かったと言える人生でありたい。
- ・～「悔いのない人生だった」と言いたい。
- ・～一生懸命生きて来たなと思えばそれで良い。
- ・～いまより自分自身に満足していたい。

【G. 死について】

- ・～いつまでも生きていたいとは思わない。
- ・～家の床の上で死にたいと思う。

【H. 考えたことがない】

- ・～考えたことがない。
- ・～考えないことにしている。

【他. その他】

- ・～日本がどうなっているか不安だ。
- ・～残っているものは何も無い。
- ・～人は何を最も大切と思うのか。
- ・～誰かと恋してる。

【反応頻度】

	全体	男性	女性	～24	～34	～44	～54	55～	京浜	首都	関東	東北
A	18.0	19.5	17.0	13.8	10.1	11.5	29.9	26.8	18.3	19.8	15.3	18.2
B	16.0	10.0	20.1	18.8	18.4	19.8	12.6	9.3	16.3	15.2	18.2	14.5
C	16.7	10.3	21.0	19.6	19.6	11.0	15.0	16.9	16.3	21.0	17.2	11.7
D	14.2	15.6	13.2	12.0	16.5	16.5	16.2	11.5	12.7	12.8	18.7	13.6
E	4.9	5.4	4.5	3.6	2.5	7.7	7.2	3.8	6.2	4.1	4.4	4.2
F	9.2	9.5	9.0	13.8	10.1	9.3	2.4	7.7	10.1	10.3	7.9	7.9
G	1.6	2.8	0.7	2.5	—	—	1.2	3.3	1.3	2.1	1.0	1.9
H	3.4	3.1	3.6	5.1	3.8	2.2	1.8	3.3	4.2	1.6	3.0	4.7
他	17.0	22.1	13.5	11.2	20.3	25.8	14.4	16.4	14.7	13.6	15.8	25.2

#### 4. 考察

これらの基準書を見ると、各刺激文において多様な反応が得られていることがわかる。基準書には代表的な反応例だけが掲載されているが、それらを見ただけでも、被調査者が様々な反応をしていることがうかがえる。さらに、反応例からは、被調査者の生活観や生き方を感じ取ることもできる。例えば、前頁に掲載されている〈II-28 年とった時〉には、「回りの者に迷惑を掛けぬよう健康に留意したい」という反応があり、切実な印象を受ける。このような結果は、被調査者の自発的な記述を反応とすることによって得られる利点であり、これらの反応例を読むことによって、現代の日本人の姿がおぼろげに浮かんでくる。

このように多様な反応を 10 項目足らずのカテゴリーに分類することには基本的に無理があるが、内容分析を積み重ねて帰納的にカテゴリーを設定しているため、頻度分析の結果にも被調査者の生活観が比較的良好に反映されている。再び〈II-28 年とった時〉の例で言えば、全体で最も頻度の高かった大項目は【A. 迷惑を掛けたくない】となっており、現代日本において老人が置かれている立場を反映した結果と言える。

一方、〈I-9 私の父〉では【A. 尊敬できる】の頻度が他のより具体的な記述に比べて高い。この結果では、被調査者の率直な態度が現れているというよりも、むしろ“社会的望ましさ”が影響していたり、反応が紋切り型になっている可能性も考えられる。このような点は、SCT の限界と見るべきであろう。

性差について見ると、〈II-9 男〉〈I-29 女〉や〈I-21 夫〉〈II-18 妻〉のような被調査者の性別によって内容が当然異なるものもあるが、それ以外にも興味深い性差がいくつか見られる。例えば、結婚観については、従来の常識では女性の方が結婚に肯定的と考えられがちであるが、〈II-23 結婚〉では、むしろ女性の方が否定的な態度を示している。頻度を見ると、【A. 肯定的な意見】は男性の方が高く、【D. 否定的な意見】は女性の方が高い。また、〈II-12 同棲〉においても、肯定的な

意見は女性で若干多い。男女雇用均等法施行以来、確かに女性の生き方に大きな変化が起こっており、このような時代の動きが反映された結果と見ることもできる。

より明確な違いが現れているのは年齢であろう。例えば、〈II-24 天皇制〉では、【A. 象徴として必要】とか【B. 伝統として存続】のような肯定的な態度は高齢者に強く現れており、【D. なくて良い】のような否定的な態度は若年層において強い。また、〈I-30 日本〉においても類似した傾向が見られるが、55歳以上においてはやや否定的になっている。55歳以上の者は終戦時に少なくとも小学生であり、戦争体験の有無が日本に対する態度に大きく影響しているとも考えられる。

また、〈I-3 私の家は〉では、【A. 環境・場所】や【B. 住居】のように、物理的な“家”として反応する割合が、高齢者に比べ若年層において高い。それに対し、【D. 仕事】や【F. 家系・祖先の地位】のように、家柄あるいは家系としての“家”と捉えて反応する割合が高齢者で高い。このように“家”の意味も時代によって大きく変化していると見るべきであろう。

地域差の大きいものとしては、例えば、〈I-20 近所づきあい〉が挙げられる。【A. 必要・大切】の頻度は、地方において高く、都市部で低い。さらに、【F. ない】の頻度は都市部でかなり高くなっている。都市生活における近隣関係の欠如が最近問題とされることが多いが、これを裏付けるような結果となっている。一方、地方においては、〈I-11 親戚〉の【C. 大切にしたい】の頻度も高く、近隣関係や親戚関係のような二次集団の関係が緊密であることがうかがわれる。

このように、SCT の内容分析および頻度分析は、時間や労力を必要とするが、個人やそれを取り囲む世の中の生きた姿を捉える上で有効なものと言えるであろう。

#### 引用文献

- 川喜田二郎 1967 発想法 中公新書  
 佐野勝男・楨田 仁 1960 精研式文章完成法 テスト  
 解説 ——成人用—— 金子書房

## IV-2. 事例分析

### 1. 目的

今回の調査で質問紙に加え SCT が用いられた理由は、これによって生きた個人の姿を“生”の声を通して捉えることが可能となるからである。質問紙は多くの個人に施行することが可能であるが、得られる反応はいわば選択肢に付けられた“○”だけであり、そこから個人を理解することには限界がある。それに対して SCT は、被調査者の自由記述を反応とするため、より深く個人を理解することが可能である。

SCT は、施行が比較的容易であり、質問紙ほどではないにしても、多くのデータを収集することが可能である。今回の調査においても 1,000 以上のデータが収集されている。刺激文単位の分析は、このように大量のデータから被調査者集団の全体像を捉えることを目的として為された。しかし、反応が刺激文ごとに分割されると、1 人の個人の全体性は失われてしまう。個人をより包括的に理解するためには、個人の反応を分割せずに分析する必要がある。具体的には、各被調査者の 60 の刺激文に対する反応を読み、それらから得られる情報を総合することによって個人の全体像を把握するという方法がとられる。

SCT は、臨床場面でも用いられていることからわかるように、個人を理解するためには有効な技法である。しかし、今回の調査の目的は、ある特定個人を理解することではなく、現代の日本人を一般的に捉えることにある。刺激文単位の分析では、結果を基準書や集計表のような形に集約することによって被調査者集団の全体像に迫ることができるが、事例分析では、個人像を被調査者集団の全体像に結び付けるための別の方法が必要となる。そこで、われわれは、何らかの意味で被調査者集団を代表する個人の SCT を選び出し、それらを事例分析するという方法をとることにした。これによって、現代の日本の姿を現実の個人像から捉えることが可能となるであろう。

### 2. 事例の選択方法

#### [事例の数]

事例は、刺激文単位の分析の対象となった 1,175 の SCT から選択された。選択する事例の数は、紙数も考慮して 30 ケース程度とした。原則としては、5 つの年齢区分から男女 3 ケースずつを選ぶことにしたが、他の要因、例えば、居住地域、職業、生活史なども考慮し、なるべく多様な事例が選ばれるように心がけた。

#### [評定者]

社会人約 20 名が事例選択のための評定にあたった。各評定者は、性、年齢、居住地域によってまとめられた数十の SCT を担当し、それらの中から事例の候補を選び出した。また、評定者は最終的に選択された事例を分析し、そのパーソナリティ・スケッチを作成した。

#### [事例選択の手続き]

まず、各評定者は、分類評定において各自が担当した SCT すべてに目を通し、その中から典型的と思われるものや特殊と思われるものを 5 ケース程度選択する。次に、同じ性・年齢を担当する評定者 (3~4 人) が各自の選んだケースを持ち寄って検討し、その 15~20 ケースの中から 6 ケースを選択する。さらに、その 6 ケースを約 20 名の評定者全員で検討して、その性・年齢の最終的な 3 事例を決定した。ただし、他の性・年齢の事例も考慮して、必要な場合には事例数の増減も行った。

#### [事例の分析]

最終的に選択された事例については、担当評定者が反応を総合的に分析し、簡単なパーソナリティ・スケッチを作成した。これは、調査のスキームに従って設定された、〈I. 自己〉〈II. プライマリー〉〈III. セカンダリー〉〈IV. 自然〉〈V. 超越者〉という 5 つの項目について、SCT から得られる情報をもとにした個人像を記述したものである。

### 3. 事例

以下に、最終的に選ばれた 32 の SCT 事例を掲載する。各事例について、SCT の反応とパーソナリティ・スケッチを掲載し、簡単な属性(性、年齢、居住地域)も記載した。SCT の反応は、すべての反応を原文に忠実に掲載するよう努めたが、プライバシー保護のため、一部の内容には変更を加えた。

事例は以下の順序で掲載されている。

事例 1~2	男性	24歳以下	pp. 68~72
事例 3~5	男性	25~34歳	pp. 72~77
事例 6~7	男性	35~44歳	pp. 78~81
事例 8~10	男性	45~54歳	pp. 81~87
事例 11~15	男性	55歳以上	pp. 87~100
事例 16~18	女性	24歳以下	pp. 100~106
事例 19~21	女性	25~34歳	pp. 106~111
事例 22~24	女性	35~44歳	pp. 111~117
事例 25~28	女性	45~54歳	pp. 117~126
事例 29~32	女性	55歳以上	pp. 126~134

事例 1 男性 19歳 埼玉県大宮市在住

#### Part I

**1 子供の頃、私は** 甘えん坊でよく母といっしょにいたような気がする。悪さもしょっちゅうやっていた。

**2 私はよく人から** 頼りにされていたり、相談をもちかけられたりする。

**3 私の家は** 母が交通事故で今も入院しており、父と私だけが家で生活している。兄は一人暮らし。(来年結婚)

**4 私の失敗** 色々があるが、大きな失敗はあまり思いうかばない。

**5 家の人を私は** 一番頼りにしている人物とみなされているらしい。

**6 私が得意になるのは** テニスやバレーボール、水泳、バスケットボールをやっているところを友達にみられているときである。

**7 争い** ごと今までないが、これからサークルの方で役員会議で争いごとが起こるような気配

だ。

**8 私が知りたいことは** 将来どういう人生を過ごせるか、だ。

**9 私の父** はドジで威厳がなく、逆に私の方が父を叱っている始末である。

**10 私がきらいなのは** ウソを平気でつける人である。

**11 親戚** もしょせん赤の他人である。

**12 死** 一度は皆におとずれる人生にとって最大の不幸である。

**13 世の中** よくわからないが、やはり最後には金と権力をもっている人が世の中を制す。

**14 私ができないことは** たくさんあるが、それを一つ一つチャレンジしてみてもできないことを克服してみたい。

**15 恋愛** なんだかんだといって大学生活は恋愛を見つけているようなものだが、それほど恋愛は影響する面が多く、重要だ。

**16 将来** は、ホテルマンか航空関係の仕事につくつもりだ。

**17 もし私の母が** 今も元気であったら、父も前の父にもどって元気に生活していたであろう。

**18 仕事** は、一生涯通せるものを選びたい。

**19 私がひそかに** 願っているのは、意中の人と両思いになることである。

**20 近所づきあい** は、簡単なようでむずかしく、よそよそしい。

**21 夫** と一言で言っても、頼りある夫頼りない夫、酔っ払いな夫とさまざまである。

**22 時々私は、** 死んだらどういう気持ちになるのだろうかとふと考える。

**23 私が心ひかれるのは** 何か一つのことを一所懸命打ちこんでいる人を見ているときである。

**24 私の不平は** 別れない。

**25 私の兄弟(姉妹)** は兄だけだが、世界中で一番の兄をもったということである。

**26 職場では** やはりあいさつを基本とし、かたくなるしくない明るい職場をつくりたい。

**27 私にとって大事なものは、** 一生もちつもたれつ、つきあっていく妻を見つけることである。

**28 今までは、** 何を勉強したいかと言われても答えられない自分であった。

29 女 は、やはり男なしには生きていけない動物だ。

30 日本 は、あと十年もしたらきっと経済危機がおとずれると思う。こんな豊かなくらしは長くつづかない。

## Part II

1 家では、テレビばかり見ている。あとは風呂に入って寝るだけ。

2 私を不安にするのは 別にない。

3 友だち は、形式上の友は必要なくはないが、真の友をつくるべきだと痛切に感じる。

4 私はよく、オチャラけているといわれているが、自分でいうのも何だが、メリハリのある男である。

5 子供 は、大大大大好きで結婚したら早く子供を生みたいと思っている。

6 もし私が 金持ちだったら、今ごろポルシェ 928 を買っているだろう。

7 私の母 は、何でも出来る人であった。(料理、裁縫、そろばん、習字 etc.)

8 転職 は絶対にイヤだ。アルバイトの転職は別だ。

9 男 は、女がいないと生きてゆけない動物だ。

10 私の眠り は、充実している。な、なんと一日七時間以上も寝ているのだ。

11 もし私の父が、もうちょっと威厳のある親だったら、自分が将来父になったときもそうなるろうと思ったに違いない。

12 同棲 別に反対はしない。

13 私が好きなのは、愛である。食べ物だったらお菓子！！

14 病気 私自身としても一番やっかいな物で、肺ガンになったらどうしようと思いつつもタバコを吸っている。

15 私の頭脳 はまだ 20% ぐらいしか使われていない。と思う。

16 金 あればあるだけいいが、金は人を変える。

17 私の野心 は、できることなら世界中で有名なホテルマンになることである。

18 妻 一生大事にしていきたい。

19 調子のよい時 何でもやりたくなり、失敗を恐れないときがある。

20 私の健康 今のところは異常なく健全である。

21 私が残念なのは、この年になると何人もの人とは恋愛できないことである。

22 大部分の時間を 睡眠についやしていると思う。

23 結婚 は、一度きりで一番の挙式をあげたい。

24 天皇制 別に反対賛成どちらの意見もない。

25 どうしても私は 大学在籍中にテニスで All ■■ [注: 大学名] になりたい。

26 家の人は、父しかいない。

27 私が羨ましいのは ある人がだれにでもできないことを平気ですることができるという才能もっていることである。

28 年とった時、子供の迷惑にかからぬような、父(おじいさん)になりたい。

29 私が努力しているのは 今は、テニスの腕を磨くことだ。

30 私が忘れられないのは ■■ 大学の合格発表である。(まさか私が現役であこがれの ■■ にはいれるとは！)

## パーソナリティ・スケッチ

### I. 自己:

都内有名私立大学の学生。独身。自宅通学。将来の希望はホテルマンか航空関係の仕事に就くことであり、特に世界でも有名なホテルマンになることを野心としてあげている。スポーツが得意で現在はテニスの腕を磨くことに熱心なようである。恋愛に対して大きな関心を寄せ、また子供は大好きで結婚したら早く子供がほしいと願っている。

### II. プライマリー:

家族構成は、両親と兄が1人の4人家族であるが、現在母親は交通事故のため入院しており、兄は1人暮らしのため、家では本人と父親の2人である。母に対しては「何でも出来る人」と尊敬の念

を抱いているが、父にはもう少し威厳をもって欲しいとややネガティブな感情があるようである。但し、そのような父の状態は母の入院の影響も強いだろうと、父に対する同情も窺われる。兄には強い尊敬の感情を示している。

### III. セカンダリー:

「あこがれの大学」に現役入学できたという喜びが大きく、従って大学への帰属意識も強い。テニス・サークルに属し、在籍中に学内のトップクラスの選手になれるよう練習に励んでいるようである。友人関係では形式的な友人の必要性を認めつつも真の友を希求している。また、恋愛に対する関心がかなり強く、実際意中の女性はいるようだが、両思いにはなれずにいる。

### IV. 自然:

自然に関する記述は見られない。今のところ人や物への関心の方が強いようである。

### V. 超越者:

死については「一度は皆におとずれる…」と規定し、「死んだらどういう気持ちになるのだろうかかとふと考える」と記述しているように、この年頃の者誰もが抱く死に対する漠然とした恐怖の域を出ていないと思われる。その他の超越者に関する記述は見られない。

(川島 真)

事例 2 男性 19歳 石川県河北郡在住

#### Part I

1 子供の頃、私は よく友達と公園で野球をして遊んでいました。

2 私はよく人から 明るくて、いっしょにいて楽しいと言われる。

3 私の家は 大きくもなく小さくもない、ごく普通の大きさです。

4 私の失敗 は今まで何の苦勞もせずに短大に入ってしまったことです。

5 家の人を私はよく「人を思いやりなさい。」

と言う。

6 私が得意になるのは まず好きになることから始まる。

7 争い 事はあまり好みませんが、見るのは好きである。

8 私が知りたいことは 好きな人の全てです。

9 私の父 とはけんかして以来、話をした事ありません。

10 私がきらいなのは 暑い夏です。じめじめしているからきらいです。

11 親戚 とは長く、幅広く付き合っていきたいです。

12 死 んだら、どうなるんだろう。と考えた事がある。

13 世の中 は便利になってきてとてもいいが、自然を犠牲にする必要はない。

14 私ができないことは ないと思います。やろうという気持ちがあればできないことはない。

15 恋愛 はできるならばたくさん思いっきりしたい。

16 将来 はちゃんとした会社に就職し、明るい家庭を持ちたい。

17 もし私の母が 死んだならば、今1番頼りにしている人なので、死ぬほど悲しいと思う。

18 仕事 は慎重に選んで、定年を迎えるまでその会社で働くのが望ましい。

19 私がひそかに 将来大きなことをしてやる。という野望を持っている。

20 近所づきあい はとても大切なことだと思います。

21 夫 は家族のために働く人です。

22 時々私は 自分のことが嫌になることがある。

23 私が心をひかれるのは 何事にも一生懸命やっている人を見たときです。

24 私の不平は これと言って特にありません。

25 私の兄弟(姉妹) は今年の4月で高校に入学しました。

26 職場では 会社のために一生懸命働きます。

27 私にとって大事なものは 今自分が生きていることです。

28 今までは 努力というものをしてこなかった



ので、これからはがんばっていきたい。

**29 女** は顔、外見ではなく、優しい心を持つ人だと思う。

**30 日本** に生まれて本当によかったと思います。

## Part II

**1 家では** 自分の部屋で、音楽を聞きながら、ごろごろしています。

**2 私を不安にするのは** ちゃんと短大を卒業して、いい企業に就職できるか、ということです。

**3 友だち** は多いとは言えませんが、とても仲のいい人がいる。

**4 私はよく** 今、僕は何をしているんだろう。と考えることがある。

**5 子供** のしつけは大切なことです。

**6 もし私が** 生まれ変われるのなら、もう1回男に生まれて、今まで失敗したことなどないようにしていきたい。

**7 私の母** は九州の長崎で生まれ、家庭を明るくしてくれる人です。

**8 転職** は絶対にしたくありません。

**9 男** に生まれて本当によかったと思います。

**10 私の眠り** はいつも睡眠不足なので、あまりよくない。

**11 もし私の父が** 明るい人だったら、よかったのと思う。

**12 同棲** はよくないことだと思います。同棲するならば、結婚すべきです。

**13 私が好きなのは** 音楽を聞く事です。

**14 病気** はあまりしたことがありません。健康です。

**15 私の頭脳** はあまり使っていないので早くボケルと思う。

**16 金** はあればあるほどいいが、生活していくぐらいのお金があれば幸せだと思う。

**17 私の野心** は人に比べたら大きいと思います。

**18 妻** は家庭を明るくし、子供のしつけをする人です。

**19 調子のよい時** はやること、やることが全てうまく行く。

**20 私の健康** 管理はなっていないと思います。

**21 私が残念なのは** 自分の行きたい学校に行けなかったことです。

**22 大部分の時間を** むだな時間に費やしています。

**23 結婚** はすることは当たり前のことだと思う。

**24 天皇制** はやっぱりあった方がいいと思う。

**25 どうしても私は** やせることができてなくて困っている。

**26 家の人** は明るくていいと思います。

**27 私が羨ましいのは** やせている人を見た時です。

**28 年とった時、** あまりすることがないと思うので、今のうちにたくさんの趣味を作っていきたい。

**29 私が努力しているのは** ありません。

**30 私が忘れられないのは** 失恋したことです。

## パーソナリティ・スケッチ

### I. 自己:

短期大学(男女共学)の1年生で、自宅から通学している。将来は、ちゃんとした会社に就職し、会社のために一生懸命働き、転職は絶対したくないと思っている。また、具体的な内容は記述されていないが、大きな野心を持っている。何の苦勞も努力もせずに進学したことに後悔がある。音楽を聴くことが好き。

### II. プライマリー:

家族構成は、両親と妹の4人家族である。父親に対しては、否定的な感情を持っており、けんかをして以来、話をしていないという。対照的に、母親に対しては、家庭を明るくしてくれる人として、肯定的な評価をしている。

### III. セカンダリー:

仲のよい友だちがおり、人から明るくて、いっしょにいて楽しいと言われ、対人関係は良好である。社会に対しては、現状肯定的で、体制順応的に生きようとしている。

## IV. 自然:

世の中は、便利になってきてとてもいいが、自然を犠牲にする必要はない、と考えており、環境保護に対する関心がうかがえる。

## V. 超越者:

「死んだら、どうなるんだろう。と考えた事がある。」と述べてはいるが、あまり深くつきつめて考えたようには思われない。その他の超越者に関する言及もみられない。(小林和久)

## 事例 3 男性 26歳 東京都港区在住

## Part I

- 1 子供の頃、私は 外で遊ぶのが大好きでしたが、最近ではなかなか外で遊ぶチャンスがない。
- 2 私はよく人から 酒飲みと言われる。
- 3 私の家は 会社に近く、通勤には便利です。
- 4 私の失敗 は色々あるが、あまりにも多すぎて、ハッキリと覚えているものは少ない。
- 5 家の人には私を 長男として扱う。
- 6 私が得意になるのは 多勢の人に誉められた時です。
- 7 争い ごとが絶えない。
- 8 私が知りたいことは 将来の私の人生と、社会情勢です。
- 9 私の父 は、昔気質の人で、非常に厳しく子供を育てた。
- 10 私がきらいなのは ビーマンとくも(虫)とゲジゲジです。
- 11 親戚 は多い方がいいが、多過ぎるのも問題だ。
- 12 死 は、自分にとって未知の世界である。
- 13 世の中 は不思議なことが多い。
- 14 私ができないことは 友人を裏切ることです。
- 15 恋愛 はむずかしい。
- 16 将来 私達の生活はどうなっているのだろう。

- 17 もし私の母が 死んだらどうしよう。
- 18 仕事 は、生活費をかせぐ手段である。
- 19 私がひそかに 好きだったのは ○○さんです。
- 20 近所づきあい も、面倒だが、しないわけにはいかない。
- 21 夫 として私は合格だろうか。
- 22 時々私は どこか遠くへ旅をしたくなる。
- 23 私が心ひかれるのは 美しいものです。
- 24 私の不平は 色々あるが、多過ぎてここには書けない。
- 25 私の兄弟(姉妹) は3人です。
- 26 職場では 仕事をしよう。
- 27 私にとって大事なものは 妻の健康です。
- 28 今までは 理解できなかった事が、最近わかるようになった。
- 29 女 は素直が一番。
- 30 日本 は、のんびりした国で、怖くなる。

## Part II

- 1 家では ゴロゴロと寝てばかりいる。
- 2 私を不安にするのは この不景気です。
- 3 友だち は沢山いる。
- 4 私はよく 酒を飲みに行く。
- 5 子供 は欲しいと思わない。
- 6 もし私が 大金持ちならどんなにいいか。
- 7 私の母 は気が短い。
- 8 転職 を考えたことはまだない。
- 9 男 は戦場へ、女は銃後。
- 10 私の眠り は、浅く、夜よく目がさめる。
- 11 もし私の父が 死んだら相続税が大変だ。
- 12 同棲 してみたい。
- 13 私が好きなのは 金と女と酒。
- 14 病気 はしたくない。
- 15 私の頭脳 は、あまりいいとは思えないが、悪くもないだろう。
- 16 金 は、あり過ぎてもこまるものではない。
- 17 私の野心 と聞かれてもこまる。
- 18 妻 のことについてはノーコメント。
- 19 調子のよい時 と悪い時。
- 20 私の健康 はよい。
- 21 私が残念なのは サラリーマンの税金が高い

こと。

- 22 大部分の時間を 会社で過ごす。
- 23 結婚 して一年が経つ。
- 24 天皇制 については特に反対はしない。
- 25 どうしても私は 政治家、役人が好きになれない。
- 26 家の人は 元気です。
- 27 私が羨ましいのは 心身ともに健康な人。
- 28 年とった時 に生活に苦勞したくない。
- 29 私が努力しているのは ゴルフです。
- 30 私が忘れられないのは 子供のころの思い出です

### パーソナリティー・スケッチ

#### I. 自己:

一流保険会社の社員で、金と女と酒が好きな(年齢の割には)典型的なサラリーマンになっている。不満はいろいろあるらしいが、家が勤務先に近いことには満足している。相続税の心配もしはじめています。

#### II. プライマリー:

3人兄弟(姉妹)の長男で結婚1年目。妻については記述を避けているが、保守的な女性観を持っている。母は短気で、父は昔気質で子供に厳しかった。自分は子供が欲しいとは思わない。

#### III. セカンダリー

友達を大切に思い、親戚は多い方がよく、近所付き合いもしないわけにはいかないと考えている。社会については、政治家、役人を嫌い、税金の高さを嘆くぐらいであり関心は高くない。

#### IV. 自然:

自然についての記述はなく、関心は低い。

#### V. 超越者:

死はまだ未知の世界で、その他の超越者についても記述はない。(伊藤ひろみ)

### 事例 4 男性 28歳 愛知県愛知郡在住

#### Pert I

- 1 子供の頃、私は いつもさみしかった。
- 2 私はよく人から 背が高いと言われます。
- 3 私の家は 古くからあります。
- 4 私の失敗 は、心にいつまでも残ってしまう。
- 5 家の人は私を 長男と信頼しています。
- 6 私が得意になるのは やっぱり物事がうまくいった時です。
- 7 争い は時には必要。
- 8 私が知りたいことは 自分で調べる。
- 9 私の父 中3の時に亡くなり思い出が少ない。
- 10 私がきらいなのは 人の事を考えない言動。
- 11 親戚 は血縁で不思議なつながり。
- 12 死 ぬとは思えない。
- 13 世の中 混沌。
- 14 私ができないことは 努力してできるようにしようと思う。
- 15 恋愛 はいつもしたい。
- 16 将来 について考えるが、答えがでない。
- 17 もし私の母が いなかったら僕はいない。
- 18 仕事 とは人生の中で何か分からない。
- 19 私がひそかに かくしている物がある。
- 20 近所づきあい は、人間の生活の中で当たり前のことだ。
- 21 夫 に多分なるだろうと思うがその姿が想像できない。
- 22 時々私は ぼんやりする。
- 23 私が心ひかれるのは シュプレヒコールをするような団結です。
- 24 私の不平は そこらにある封建的社会だ。
- 25 私の兄弟(姉妹) にはそれぞれすてきな人生を歩んで欲しい。
- 26 職場では いつも自分自身でいる。
- 27 私にとって大事なものは 自分の時間です。
- 28 今までは 好きなことばかりやってきたと思う。
- 29 女 は、男と同じ人間だ。

**30 日本** については、不平不満も多いがそれを言えるいい国だと思う。

## Part II

- 1 家では** いちばん好きな場所がある。
- 2 私を不安にするのは** 私に対する周りの期待である。
- 3 友だち** は自分に刺激を与えてくれるものだ。
- 4 私はよく** 人と話をする。
- 5 子供** 時代は人生の中で一番才能が栄えた時。
- 6 もし私が** いなくなったらどうなるか、その後を見てみたい。
- 7 私の母** は今ひとり暮らしである。
- 8 転職** についてはいいも悪いも何も思わない。
- 9 男** は女と同じ人間である。
- 10 私の眠り** をさまたげて欲しくないし夢を見たい。
- 11 もし私の父が** 生きていたら、今の自分に何を言うかよく考える。
- 12 同棲** をしている。
- 13 私が好きなのは** 精神力がひしひしと伝わって来るような絵です。
- 14 病気** をすることは、自分の健康のパロメーターである。
- 15 私の頭脳** は未知なるものを秘めていると信じてやまない。
- 16 金** はあればあって良いけども、最低限生活できる金でもよい。
- 17 私の野心** は、世界に名だたるアーティストになることだ。
- 18 妻** になりそうな人は目の前にいるが将来がイメージできない。
- 19 調子のよい時** は仕事が進む。
- 20 私の健康** に対する考えは無頓じゃく。
- 21 私が残念なのは** 少しずつ消極的になっていることだ。
- 22 大部分の時間を** 自分自身の時間にできればいい。
- 23 結婚** は当人同志の問題なのに周りがさわ

ぐ。

**24 天皇制** については国の歴史の産物としては重要だけでも、国民の象徴としては実在がない。

**25 どうしても私は** 少年時代に描いた夢を追いかけてたい。

**26 家の人は** それぞれ家族を励みに生きている。

**27 私が羨ましいのは** 少年時代に描いた夢をかなえた人。

**28 年とった時** に自分の人生を語る人がそばにいたらいい。

**29 私が努力しているのは** 描いた夢を実現させることだ。

**30 私が忘れられないのは** 夕暮れ時にひとりて歩いた「日暮らし」の鳴く高い松のある神社の小路。

## パーソナリティ・スケッチ

### I. 自己:

現在同棲中の会社員。少年時代に描いた夢を追いかけて、世界に名だたるアーティストになりたい。自分の時間を大切に、今までは好きなことばかりやってきた。少しずつ消極的になっていくのが残念。また、周りの自分に対する期待に不安を感じる。仕事が人生の中で何か分からない。シュプレヒコールをするような団結に憧れる。精神力のひしひしと伝わってくる絵が好き。

### II. プライマリー:

父は中学3年の時に亡くなっているが、生きていたら今の自分に何を言うかよく考える。母は現在ひとり暮らし。自分は長男として信頼されている。家の人は家族を励みに生きている。同棲中の女性がいるが、将来がイメージできないので、結婚にふみきれない。

### III. セカンダリー:

男と女は同じ人間と考え、そこらにある封建社会には不平があり、世の中は混沌と認識している。日本に対しては不平不満が多いが、それが言えるいい国だとも思う。親戚は血縁であり深いつ

ながりと感じ、近所付き合いは当たり前だと思う。友人は刺激を与えてくれる存在のようだ。

#### IV. 自然:

夕暮れ時に歩いた神社の小路のことが忘れられないと言っているが、自然に関する記述はほとんどない。

#### V. 超越者:

死ぬとは思えないと言っており、年齢のためか現実感を持って捉えていない。その他の超越者に関する記述はない。(伊藤隆一)

### 事例 5 男性 32歳 神奈川県横浜市在住

#### Part I

**1 子供の頃、私は** 将来何になるのかときかれ、生家が寺院のため「お坊さん」と言わざるをえなかったことが、少しいやだった。

**2 私はよく人から** 何でも器用だといわれるが、あまりいかぶられるのは好きではないのでいい気持ちはしない。

**3 私の家は** 寺院だったが、私が小さい頃から(今でも)留学生を受け入れて(あずかって)おり、囲りの人から不思議な目で見られていた。

**4 私の失敗** としては、あまり極端なことは思いうかばないが、高校の科学クラブで薬品を誤り、先輩に催涙ガスをあびせてしまったことがある。

**5 家の人には私を** 何を考えているかわからないという。自分ではよくわからないが、そう見られているのだから仕方がない。

**6 私が得意になるのは** 酒をのんでいて人を笑わせることができたとき。もう止まらない。ネタはけっこうあるのだが、翌日後悔する。

**7 争い** は好きではない。しかし、良い意味での争いによってお互いに理解しあえることがあることもあるのではないだろうか。

**8 私が知りたいことは** 色々ある。お金のため方、人づきあいの方法、自分の死後の家族の将

来、きりがない。

**9 私の父** はすでに他界しているが、無口、ひょうきん、器用、そして檀家に好かれる好人物だった。今でも尊敬している私の目標とする人である。

**10 私がきらいなのは** 人の噂(悪口)を平気で言う人、囲りの迷惑を考えない人、選挙の宣伝カー、人に説教する人。

**11 親戚** の中で、母方の人々は関西人のためか、今でも好きになれない。

**12 死** について、仏教的に理解していくと、あまりこわくないように思われた。しかし“死に方”についてはいろいろ考えてしまう。(父が本堂で大の字で、往生したように死にたい。)

**13 世の中** 人のために何かをしてあげたいという人が少ない。果たして自分に何ができるか、考えてみると、恥ずかしい。皆、自分のことで目一杯なのだろうか。

**14 私ができないことは** 人にこびを売ることである。特に生理的に好きではない人に対しては話すのもいやになる。

**15 恋愛** の時の感情はあとで思い出してもいいものであるが、やはり一時期だけのものだから貴重な思い出として自分に残しておくべき。

**16 将来** 自分が何をしてるか、どうなっているかより、今は子供のことの方が頭の中を占める割合が大きい。

**17 もし私の母が** 死んでも、あまり悲しまないと思う。何故だかわからないが、ずっと前からそう思っている。

**18 仕事** は嫌いではない。(今の仕事)しかし、実力によって評価される内容ではないので、刺激が少ない。又、それがいいのではないかと思う。

**19 私がひそかに** 楽しみにしているのは、息子と酒をのむことである。まだ何年も先だが、私ができなかったので、是非かなえたい。

**20 近所づきあい** は得意ではない。あいさつ程度は欠かさないが、囲りの家の名字、家族構成までは深くは知らない。都会の悲しさ冷たさか……

**21 夫** としての自分はとても及第点はもらえないと思う。自分にも家庭を持つ人間であるという自意識がもっとなければと思う。

**22 時々私は** まとまったお金を持ってふらりと外へでたくなる。かなわぬことだが、そのあと、何をするかがわからない。タバコ一個かって家に戻るだろう。

**23 私が心ひかれるのは** さりげない気遣いができる人。いつも笑顔を決やさない人。そして敵のいない人。

**24 私の不平は** 職場の管理職の一部の人。給料分だけ働いてほしい。年功だけで役職についても下の者は認められない。

**25 私の兄弟（姉妹）** は個性が強い。小さい頃父を亡くしているが、それなりに我が道で頑張っている。

**26 職場では** 自分がどう思われているのか以前は考えていたが、今では別に気にしてはいない。楽しい職場である。

**27 私にとって大事なものは** 一に家族、二に友人。三、四がなくて五に仕事。

**28 今までは** 自分を主に考えていたが、やはり家庭、家族を一番に考えていくことが大事なのだと思う。

**29 女** 性は美しいものである。優しいものである。そしてあたたかいものである。そう思いたい。若い人も“ギャル”ではなく“女性”であってほしい。

**30 日本** は好きである。海外へは行きたいと思わない。田舎の純朴さ、都会の至便さ、四季、さび、お茶漬けにつけもの。日本はよい。

## Part II

**1 家では** 子供と遊ぶことが楽しい。飲みについて午前様の時は申し訳ないと思う。あまり良い夫、父ではないだろう。

**2 私を不安にするのは** 家族の病気、ケガである。自分はいいが、家族には健康でいてほしい。

**3 友だち** には恵まれている。やはり人生にこれは不可欠であろう。ただ、こちらはそう思っていないのに向こうは私を友達と思っているのは困る。

**4 私はよく** 車を運転するが、交通事故はいやである。自分が気をつけていても他車の巻き添えはかなわない。

**5 子供** は不思議である。生後しばらくは寝たきり子供だったのが、親に意見するようになる。こいつはいったいどこから来たのかと思ひ顔を見ると私に似ている。複雑。

**6 もし私が** 人間的に大きく、裕福だったら、妻や子にはもっと良い思いをさせてあげられたのにと、思うことがある。

**7 私の母** は秀才だったらしい。よく小さい頃、成績表を見せられて、「あんたも勉強しろ」といわれていた。まちがった子供への励まし方と反発した。私はしたくない。

**8 転職** はとりあえず考えない。しかし、将来、寺に入るかもしれないので、頭の中からは消しされない2文字である。

**9 男** のあるべき姿は、時代の流れで変化しているのだろう。現代にマッチした男性像とはなんぞや。教えてほしい。…しかし私も「男」なのである。

**10 私の眠り** をさまたげるのは隣でねている子供のキック。怒るに怒れないが、いつも顔をけるのはやめてほしい。

**11 もし私の父が** 生きていたら孫を可愛がったと思う。妻の父も他界しているので、子供には祖父がいない。早すぎた死である。

**12 同棲** は経験ないが、否定的な考えはもたない。個人の自由の上に成り立つものだし、お互いメリットがあるなら傷つかないようにすればよい。

**13 私が好きなのは** 笑顔である。家族、子供、友人、それをみていると自分も満ち足りるような気がする。

**14 病気** は正直怖い。しかし、自分が病気をすることで家族を含めた囲りに迷惑がかかるのがたえられない。ポックリいきたいものである。

**15 私の頭脳** の中は見たことがないが、みそ汁のミソよりは少しはマトモであるだろう。できれば全部の“アタマ”を使いたい。

**16 金** は天下の回りもの……とは昔のことば。日本で一番多い発行数の一万円札はあまり、深いご縁がない。一度、うず高くつみあげられたものをみてみたい。

**17 私の野心** があるとしたら、それは今眠って

いるのだろう。今までも別段考えたこともないし、あってこそ男とはいふものの、必要ないものは眠っていてほしい。

**18 妻** はよくできた人だと思う。子供が生まれる前の子供嫌いはどこへやら一杯“母”をしている。妻としても私にはもったいない、と思っている。

**19 調子のよい時** には酒がよく入るし酔わない。のんでみなければわからないが、今日はいけると思うとついつい…

**20 私の健康** は家族の健康と言われた。特に注意をしていないが、そこそこ無理をしないように生活しているつもりである。

**21 私が残念なのは** 子供がおじいちゃんを知らないことである。肩でもたたけば喜んだのにと思う。よく聞かせてやろうと思う。

**22 大部分の時間を** 家族のために使えたらいい。でも早く時間が経ってほしいときもある。そして大切に使いたい。

**23 結婚** できると思っていなかったが、自分は幸せだと思う。してみなければわからないこともあることを未婚の人に言いたいが、人それぞれか。

**24 天皇制** については特に感じるころはない。英国のように開かれたものにすべき、とは思いますが…。私生活がどのようなものかは知りたい気もする。

**25 どうしても私は** 1つのことを始めるのに時間がかかってしまうことがある。改めようとは思いますが、波にのらないとなかなかできない。

**26 家の人は** よくやっていると思う。家事、子供のこと、自分もできることは手伝うが、つい任せきりになると、ひげ目を感じることもある。

**27 私が羨ましいのは** 何をやらせてもソツなくこなす人である。いわゆる万能タイプの人で、一体どうなっているんだろうと思う。

**28 年とった時** 自分がどのような立場にいるか考えることがある。今、私からみた年配の方々はすごいと思う。生きたくても自分の思いどおりにならない人生である。

**29 私が努力しているのは** 子供と長く一緒に過ごす時間を作ることである。…が、100% 実現し

ていない。つき合いもあるし、でも常に頭に置いてある。

**30 私が忘れられないのは** 父の死の瞬間からまる一日である。今でも鮮明に思い出せる。でも声が思い出せない。あの時は長い一日だった。

## パーソナリティ・スケッチ

### I. 自己:

現在は会社員で仕事を楽しんでいるが、将来は実家の寺を継ぐかもしれない。世渡り上手な方ではなく、万能型の人をうらやましいと思う。笑顔に心ひかれ、親しい人のそれには自分も満ち足りる。

### II. プライマリー:

現在は妻と子供と暮らしており、家族をととても大事にしている。妻は良くできた人と評価し、子供の成長に複雑な思いをもちつつ、将来息子と酒を飲むのが夢である。父は住職で大往生で亡くなっているが、尊敬し目標としている。母の教育のしかたに反発し、死んでも悲しまない。

### III. セカンダリー:

人の好き嫌いははっきりしているようだが、友達には恵まれている。管理職の一部に不満があるが、会社での自分の評判はあまり気にならなくなった。父方の親戚とだけ付き合いがあり、近所づきあいは挨拶程度。社会的な関心はあまり見えない。

### IV. 自然:

日本の田舎の純朴さ、四季は好きだと言っているが、自然そのものに対する関心は薄い。

### V. 超越者:

実家が寺なので、死については仏教的に理解すると怖くはないが、“死に方”は考える。その他の超越者については何も触れていない。

(伊藤ひろみ)

事例 6 男性 39歳 東京都渋谷区在住

### Part I

- 1 子供の頃、私は まじめなよい子とよくほめられた。
- 2 私はよく人から うらやましがられる。
- 3 私の家は 3 人家族である。
- 4 私の失敗 は、たくさんあるが、後悔はしていない。
- 5 家の人は私を なにかにつけ、たよりにしている。
- 6 私が得意になるのは ちょっと先のでき事や、人物を予見してあたったときである。
- 7 争い は、あってもよいが絶対に暴力はよくない。
- 8 私が知りたいことは 人の心の中のことである。
- 9 私の父 は、本当にまじめに生きてきた、すばらしい人だと思う。
- 10 私がきらいなのは ごうまんな人である。
- 11 親戚 は多いが、あまりつきあいがいい。
- 12 死 は、必ずくるものであり、それまで悔いなく生きることが大切である。
- 13 世の中 には、いろいろなことが多いが、自分自身を見失わないことである。
- 14 私ができないことは たくさんあるが、それは当然なことである。
- 15 恋愛 は、人生を深め人格をみがく。
- 16 将来 もいまま真しな自分らしい生き方をしたい。
- 17 もし私の母が 望むなら一緒に住んでもよい。
- 18 仕事 は、一生けん命責任をもって取り組むべきだ。
- 19 私がひそかに かくしごとをするようなことは一切ない。
- 20 近所づきあい は、とても大切なことである。
- 21 夫 として、妻に愛される男であり続けたい。
- 22 時々私は 元気なときに家族サービスを心が

ける。

- 23 私が心ひかれるのは 尊敬にあたいする人である。
- 24 私の不平は 特にない。
- 25 私の兄弟（姉妹） は、6才下の妹がいる。
- 26 職場では 大変に忙しい。
- 27 私にとって大事なものは 悔いのない自分らしい生き方である。
- 28 今までは いろいろなことをやってきて、すばらしい人生である。
- 29 女 の人に望むのは内面の美しさ、生命の輝きである。
- 30 日本 は、やっぱり住みよい所である。

### Part II

- 1 家では たまにゆっくり音楽を聞きながら読書でもする時をもちたい。
- 2 私を不安にするのは 健康のことである。
- 3 友だち はたくさんいるが、なかなかつきあう時間がない。
- 4 私はよく 本をよむ方だ。
- 5 子供 は一人だが、だんだん大人ぼくなってくるのにドキッとすることがある。
- 6 もし私が しっかりしていなければ妻や子供がかわいそうだ。
- 7 私の母 は、なんの目立つ所もないが、その生き方を尊敬している。
- 8 転職 したい人はすればよいが、前より良くならなければなんのいみもない。
- 9 男 らしいすじの通った生き方をしたいものだ。
- 10 私の眠り はとても深い。
- 11 もし私の父が なくなったら、とても悲しいことだ。
- 12 同棲 したければすればよい——自分の責任で。
- 13 私が好きなのは 静かな所である。
- 14 病気 になっても早く病院でみてもらえばよい。
- 15 私の頭脳 は、よい方だろう。
- 16 金 は特別なくてもよいと思っている。
- 17 私の野心 といえるものは特別ない。



18 妻 に望むのは健康と美しさとやさしさである。

19 調子のよい時 にこそ、いざという心構えを忘れてはいけない。

20 私の健康 こそ家族にとって大切なものはない。

21 私が残念なのは エゴの人が多くことである。

22 大部分の時間を 仕事にとられているが、これは男としてやむをえないことである。

23 結婚 式は、質素でよいと思う。

24 天皇制 を云々してもしょうがない。

25 どうしても私は 子供と家族を大切にしたい。

26 家の人 は 静かな愛情で結びついていることが必要である。

27 私が羨ましいのは 特にない。

28 年とった時 こそ、その人の生き方がとわれるものだ。

29 私が努力しているのは 一日一日の真剣な生き方である。

30 私が忘れられないのは 子供の時の日々である。

## パーソナリティ・スケッチ

### I. 自己:

大部分の時間を仕事に費やす忙しいサラリーマン。自分の頭はよい方だと思い、男らしく、筋の通った自分らしい悔いのない生き方をしたいと思っている。今までの人生には満足しているし、人からもうらやましがられている。本をよく読む。

### II. プライマリー:

子供と妻の3人家族で、妻には健康、美、優しさを望み、子供の成長にドキッとす。父はまじめなすばらしい人と思ひ、母は目だつところはないがその生き方を尊敬しているし、望むなら同居してもよいと思っている。妹一人。子供、家族を大事にし、愛情で結び付くことが必要と思っている。

### III. セカンダリー:

友達が多いが、会う時間がない。親戚とはあまり付き合いがないが、近所付き合いは大切にしている。天皇制を始め、社会全体についての関心はうすい。

### IV. 自然:

静かなところが好きと言っているが、あまり関心はないらしい。

### V. 超越者:

死や病気に対してもあまり現実感がなく、むしろ楽観的にさえみえる。その他の超越者についてもまったく記述なし。(伊藤ひろみ)

## 事例 7 男性 46歳 千葉県鎌ヶ谷市在住

### Part I

1 子供の頃、私は 父の愛情が足りなかった。

2 私はよく人から サッカーきちがいと言われる。

3 私の家は ボロで土地はなく、追い出しをせまられている。

4 私の失敗 せっかちでいつも失敗しています。

5 家の人を私は私を お父さんと呼んでくれ、一応認めてくれていて、好きなサッカーも黙ってやらせてくれる。

6 私が得意になるのは 小供たちとサッカーをして、監督としてやりとげた時かな?

7 争い 好まないが場合によってはやる。

8 私が知りたいことは 自分自身の事。

9 私の父 は、私に余りかまわなかった。私の母にも。

10 私がきらいなのは 裏金を使っていい子になる奴。

11 親戚 沢山あるが皆、それぞれである。

12 死 いまはダメ。やりのこしがある。

13 世の中 ついていけない。調子にのれない。

- 14 **私ができないことは** 出世。  
 15 **恋愛** 子供の事を心配する歳になった。  
 16 **将来** 先は見えていない。せいぜい 1~2 年ぐらい。  
 17 **もし私の母が** 生返ってきたら孝行したい(生前以上に)  
 18 **仕事** がんばっているが、着実にいきたい。  
 19 **私がひそかに** 思うのは、いま力をつけて、地域のために(サッカーを通じて)やってやる。  
 20 **近所づきあい** うるさいのが近くにいてこまる。お互い干渉しない方が良いと思うが。  
 21 **夫** 自分だが、余り良いとは言えない。  
 22 **時々私は** おち込む。  
 23 **私が心をひかれるのは** 誰とでも信頼し合える事。  
 24 **私の不平は** 良く見て評価して欲しい。うら取引はしないで、堂々と。  
 25 **私の兄弟(姉妹)** 沢山いる。それ以上言いたくない。  
 26 **職場では** がんばっているが若干空廻りかな？  
 27 **私にとって大事なものは** 信頼の上に立つ関係(仕事)  
 28 **今までは** 遠廻りをしたかな？  
 29 **女** 女房と娘で良い。キレイな人が多くなったな。  
 30 **日本** 良い所。もっと良くなれ。

## Part II

- 1 **家では** 近所を気にして暮している。  
 2 **私を不安にするのは** 物価と政治家。  
 3 **友だち** 沢山いないが、不安はない。  
 4 **私はよく** 小さな事でも考え込む。  
 5 **子供** 見守りたい。  
 6 **もし私が** 大病したら、家族は？  
 7 **私の母** 苦勞して、私をかばってくれた。  
 8 **転職** いまの所でがんばる。  
 9 **男** つまらない。立派な女も大勢いる。  
 10 **私の眠り** 深く、静かに。  
 11 **もし私の父が** 生きていたら、一言いってやりたい。  
 12 **同棲** 経験ない。

- 13 **私が好きなのは** 汗かいて、集中できるサッカー。  
 14 **病気** しないつもりだが……。  
 15 **私の頭脳** そこそこと思う。世渡りができない頭と思う。  
 16 **金** まあまあの所、もう一寸あれば、良いと思う。  
 17 **私の野心** 野心という言葉は好きでない。  
 18 **妻** 良くしてくれる。ありがたい。  
 19 **調子のよい時** うまくいく。ただ要注意。  
 20 **私の健康** 一寸心配。  
 21 **私が残念なのは** 学歴がない事。学力の方はがんばっているのだが。  
 22 **大部分の時間を** 会社で過ごす。  
 23 **結婚** 22 才でしたが、良かった。若い頃苦しかった。  
 24 **天皇制** あっても良いが、お金の使いすぎ。  
 25 **どうしても私は** 「男」でありたい。  
 26 **家の人は** 良くしてくれる。  
 27 **私が羨ましいのは** 80 才になっても、人前で講議できる人。  
 28 **年とった時** 何かやっていたい。  
 29 **私が努力しているのは** 生産管理で、スムーズ生産。  
 30 **私が忘れられないのは** 苦しい時の母の援助。

## パーソナリティ・スケッチ

### I. 自己:

戦後の第一次ベビーブーム世代、世の中が高学歴志向になっていく中で、家庭の事情から進学できなかったようである。学歴コンプレックスがあって、仕事の上でも生活の面でも「男でありたい」と頑張っているが、「世の中についていけない、調子にのれない」「私ができないことは出世」「世渡りができない」など不器用な生き方をしていいる。大部分の時間を費やしている職場では、仕事の能力が正當に評価されていないという不平があり、充足感が今一つ得られていない。その分、肉体の努力が報われるサッカーに、人からサッカーきちがいと言われるほど熱中している。子ども

サッカーの監督をすることにやりがいを感じており、将来はサッカーを通じて地域社会に貢献したいとひそかに思っている。

## II. プライマリー:

両親は既に亡くなっているが、子ども時代に愛情をかけてもらえなかった父親に対しては不満や敵意が累積していて、46才の現在も「生きていたら一言いってやりたい」と思うほど否定的な感情をもっている。母親に対しては、苦勞して育ててくれたという気持があり、暖かい感情を抱いている。結婚は22才と早い。妻、娘一人の3人家族で、家族からお父さんと呼ばれることや、好きなサッカーを黙ってやらせてもらえることなどに、父親としてもりたててもらっているという満足感がある。又子どもの恋愛を心配したり、成長を見守りたいと考える家庭的な父親でもある。

## III. セカンダリー:

親子関係の中でのネガティブな経験が、対人関係のモチ方に微妙に影響しているようである。「誰とでも信頼しあえること」に心をひかれるのだが対人的な緊張が強いためか実際の友だちは多くない。

自分のきょうだいとはうまくいっていないようであるし、身近な近所ともうまくいっていないというが、近所や親戚とは不干渉がよいという考え方である。

社会や政治の動向にも一応の関心をもっているが、あまり積極的ではない。

日本は良いところ、天皇制はあってもよいがお金の使いすぎという意見をもっている。

## IV. 自然:

現実の人間関係の方に目が向いているためか自然については全く言及していない。

## V. 超越者:

特定の宗教観はないようである。特にのべられていない。死に対しても現実感のないことばとして捉えられている。

(櫃田紋子)

## 事例 8 男性 47歳 長野県諏訪市在住

### Part I

1 子供の頃、私は 餓鬼大将でありいたずらをしては、近所の人によくおこられた。

2 私はよく人から 真面目で几帳面といわれる。

3 私の家は 農家であり、よく田植えや蚕を飼う手伝いをした。

4 私の失敗 は高校時代勉強をあまりしなかったことである。

5 家の人は私を 家の手伝いを少しもしない父親だといっています。

6 私が得意になるのは 若い頃組合運動の指導者をしたことです。

7 争い 仕事上自分の考えと違う行動をとる相手。

8 私が知りたいことは 経済の先行きと、株式市場の回復。

9 私の父 病弱であり無口な人でした。

10 私がきらいなのは 責任を転嫁する人。

11 親戚 困った時の相談先。

12 死 にかたが問題。

13 世の中 これからどう変わっていくか心配だ。

14 私ができないことは できることに對してあまりにも多い。

15 恋愛 一生に3度はしてみたい。

16 将来 設計を早く立て実現の努力が必要だ。

17 もし私の母が この世に戻ってきたら孝行してやりたい。

18 仕事 で実績を継続的にあげ、かつ仕事人間にならないためにはどうするか?

19 私がひそかに 会社での出世をねらっている。

20 近所づきあい 必要最小限である。

21 夫 世間の夫は家庭のめんどうみが良い。

22 時々私は 自分の生き方に疑問を持つ。

23 私が心をひかれるのは 好きな人との旅。

24 私の不平は 実績が正しく評価されない。

25 私の兄弟(姉妹) 一人の妹の幸福と健康を願

う。

- 26 **職場では** 自分のペースで仕事をしている。  
 27 **私にとって大事なものは** 家族と職場のみんなの健康か。  
 28 **今までは** 趣味を持っていなかったが、なにか一つ持ちたい。  
 29 **女** 性がいて男が頑張る。  
 30 **日本** 人は公衆道徳に欠ける。

## Part II

- 1 **家では** 今娘の拾ってきた猫が中心。  
 2 **私を不安にするのは** 健康と子供の将来。  
 3 **友だち** 心を許し合う人がほしい。  
 4 **私はよく** 通信講座を受けるが中途半端が多い。  
 5 **子供** は3人以上あった方がよい。  
 6 **もし私が** 社長になったら、人事のやり方を実力主義に変える。  
 7 **私の母** 苦勞した。50歳にして病気でこの世を去った。  
 8 **転職** できる人はうらやましい。それだけ決断力がある。  
 9 **男** は一生のなかで、なにを成すべきか50歳近い今も判らない。  
 10 **私の眠り** は夜早く、朝早い。いろいろ考えると眠れない。  
 11 **もし私の父が** 生きていたら、とことん話し合ってみたい。  
 12 **同棲** できる女性がいても良いのではないか。  
 13 **私が好きなのは** 山菜採りと酒を飲むこと。  
 14 **病気** は予防が大切。早期発見、早期治療。  
 15 **私の頭脳** 記憶力は年々低下している。  
 16 **金** ほどほどに必要、ケチにならない程度はいる。  
 17 **私の野心** 社長はムリとしても、重役にはなる。  
 18 **妻** 健康で夫を生涯大切にしてほしい。  
 19 **調子のよい時** 良い実績をあげ評価をされた時。  
 20 **私の健康** 胃腸の調子があまり良くない。  
 21 **私が残念なのは** 昨年来の株価暴落で大損な

したこと。

- 22 **大部分の時間を** 仕事に使っている。  
 23 **結婚** 良い相手をさがし、年齢に関係なく一緒になること。  
 24 **天皇制** 象徴の現状を一步も逸脱しないように。  
 25 **どうしても私は** 人とのつきあいが下手である。  
 26 **家の人は** もっと家の手伝いをすることを望んでいる。  
 27 **私が羨ましいのは** 明かるい性格で誰からも好かれるタイプの人。  
 28 **年とった時** 今のままでは困る。なにか良い趣味を身につけたい。  
 29 **私が努力しているのは** 仕事上の実績をあげること。  
 30 **私が忘れられないのは** 両親の死。組合運動。結婚。

## パーソナリティー・スケッチ

### I. 自己:

今は出世を目指し実績をあげることに励んでいるが、正当な評価がないのに不満。社長はムリとしてもせめて重役にはなりたくと抱負を持つ。

よく通信講座を受講したりするが、中途半端に終わることが多い。

老後に備え趣味を持ちたいと考えているが、実際には仕事のみ。たまの山菜採りと酒を飲むこと。

真面目で、几帳面との評価を受けているが人との付き合いが下手との自覚があり、明るい性格の誰からも好かれるタイプが羨ましい。

子供のころは餓鬼大将。高校時代はあまり勉強せず。社会人として若いころは組合幹部として活躍。最近の記憶力低下を嘆き、いろいろ考えると夜眠れないこともある。

最近の株価暴落で大損が痛い。

### II. プライマリー:

兼業農家か。自分は家族の期待に背き手伝いをしない。そのことを多少は気にしているか? とにかく世間の夫の家庭の面倒見の良さには感心す

る。自分は妻と娘、妹の健康と幸せを祈るばかり。とりわけ妻の健康は、夫である自分を大切に面倒みるためにも願う。

両親はすでになく、苦勞して育ててくれた50歳で亡くなった母親に感謝と孝行を切望。病弱で無口だった父親が生きていたらとことん話し合ってみたい。

家では娘の拾ってきた猫が中心の円満家庭。

### III. セカンダリー:

親戚は困ったときの相談先。近所づきあいは、必要最小限。

職場ではマイペースで仕事をしている。出世のために実績をあげることと、ただ仕事人間にならないためのバランスをどこに求めるかが当面の課題。

心の許し合える友が欲しい。男は一生になにをなすべきか語り合いたい。

社会的には公衆道徳に欠ける日本人が遺憾。

天皇制は、象徴の現状を一步も逸脱しないようにと願っている。

日本の経済面での立ち直りに最大関心。

### IV. 自然:

自然に関する記述はない。

### V. 超越者:

宗教的記述はない。死については、その人の死にかたが問題とする。病気については予防が大切。

(向井恒夫)

事例 9 男性 50歳 東京都目黒区在住

#### Part I

1 **子供の頃、私は** 将来は学校の先生になりたいと思っていた。

2 **私はよく人から** 人が良すぎる。もっと、自分を出せといわれる。

3 **私の家は** 唯一の財産である。家族は健康である。

4 **私の失敗** は、貯金が無いということだ。

5 **家の人は私を** いいパパという。家族のために。

6 **私が得意になるのは** 聞かれたことはだいたい答えられる。人生での研究熱心ということだ。

7 **争い** というものはお互いの意地の張合いから始まる。

8 **私が知りたいことは** 若い人達の気持ちと新しいライフスタイルの形態です。

9 **私の父** は原爆で死んだ。4歳の私は面影も思い浮かばない。

10 **私がきらいなのは** 人の悪口を云う人です。

11 **親戚** は、上手に付き合いをしないと、いつの間に離れてしまうものだ。

12 **死** というものは、自分が存在しなくなるということでもとてこわい。

13 **世の中** バブル経済がはじけて、豊かになった日本人達は、貧しい暮らしが出来るだろうか。

14 **私ができないことは** 子供達の身代わりになって、塾通いが出来ない。

15 **恋愛** とは胸の高鳴りの連続で一刻もその人と別れたくない。

16 **将来** は、海辺に別荘を買って釣りぎん昧。

17 **もし私の母が** 生きていたら、先の天皇と同年である。

18 **仕事** は作業と違うが作業を経験して、順序と手順を知ることである。

19 **私がひそかに** 思うことは宝くじが当たったら豪遊してみたい。

20 **近所づきあい** が出来るようになったのは私がマンション組合の理事長になったことだ。

21 **夫** につかえる妻は大へんな仕事をかかえこんだことになる。

22 **時々私は** 絵を描きたい!! 小説を書きたいと思うことがある。

23 **私が心をひかれるのは** やさしい若い女の娘の所作の美しさである。

24 **私の不平は** 若い人達の自己主張である。

25 **私の兄弟(姉妹)** は皆元気でがんばっている。

26 **職場では** 煙火を吸うことをやめたいが駄目である。

**27 私にとって大事なものは** 知識を沢山得て良い部下を育てることだ。

**28 今まででは** ひとつのことだけで一生懸命働いたように思う。

**29 女** の人を相手の職業にしてはあまりもてない。背が低いということか？

**30 日本** を離れて旅行すると、自分のやりたいことが沢山あるにもかかわらず、帰国すると忘れる。

## Part II

**1 家では** 私が一番大事にされていると思う。

**2 私を不安にするのは** 家族及び友人が不幸になるのでは。

**3 友だち** と長く付き合うのは、自分も相手を忘れずために、親交をもつということだ!!

**4 私はよく** 酒を飲むが、飲み過ぎるということ。

**5 子供** は、タバコを吸はないのに私はヘビースモーカーである。

**6 もし私が** 背が高かったら、映画スターになったかも。

**7 私の母** は苦勞をして子供の教育をして呉れた。

**8 転職** は、自分が成長するなら進んでやるべき。適所を見つけるとのことだ。

**9 男** の生き方はやはり、女性を幸せにしてあげるやさしさのあることだ。

**10 私の眠り** は年を取ると少なくなる。

**11 もし私の父が** 生きていたら私は別の人生を歩んでいたであろう。

**12 同棲** したいが相手がない。

**13 私が好きなのは** 時代劇。特に水戸黄門である。

**14 病氣** はしたことがないが体は強い方ではない。

**15 私の頭脳** は、良いのか悪いのか判らない。しかしだんだんと物覚えが悪くなった。年かな!?

**16 金** は、天下の廻りもの。でも欲しい!!

**17 私の野心** は、5ヶ国語がペラペラになりたいが日本語もおぼつかない。

**18 妻** は良く出来た人だが江戸っ子なので宵越

しの金もたない主義かも。

**19 調子のよい時** は、仕事がかどる。

**20 私の健康** は、酒の飲み過ぎであまり良くない。

**21 私が残念なのは** 金持ちでないことだ。

**22 大部分の時間を** 費やすのは、やはり仕事をしている時。

**23 結婚** 適齢期の女性が目につく。

**24 天皇制** は、日本国にとって絶対必要不可欠だと思っている。

**25 どうしても私は** 天皇制を残すべきで、廃止をさげんでいる人の気が知れない。

**26 家の人** は それ程でもないみたいで生活しているが正月の参賀は友達とっている。

**27 私が羨ましいのは** 今、日本が豊かで生活出来ているということ。終戦後育ちの私は物不足時代だった。

**28 年とった時** は物不足時代を思い出しつつましく生活したい。

**29 私が努力しているのは** 今の私の子供を豊かにしてあげることである。

**30 私が忘れられないのは** 第一子が無事出生したことだ。

## パーソナリティー・スケッチ

### I. 自己:

大部分の時間を費やすのは仕事の生活。大いに勉強してその中で良い部下を育てること。

年をとったら物不足時代を思い出して、つつましく生活する積りだが、やはり貯金がないこと、当面金持ちでないことが残念。

絵も描きたい、小説も書きたい、別荘を買って釣り三昧もしたい、外国語もペラペラとしゃべりたいなど想いがふくらむ 50 歳。

若い人たちの気持ちや新しいライフスタイルの形態を知り、理解したいと考えている。しかし、実生活では時代劇、とりわけ水戸黄門が好きな年代。

子供の頃は学校の先生志望。

人が好すぎる、自分を出せと他人から云われるという。

## II. プライマリー:

広島生れ。父親を4歳の時原爆で喪う。母親が女手一つで苦労して育て、子供達の教育をしてくれたことに感謝。母親は亡くなったが兄弟はみな元気。

宵越しの金を持たない江戸っ子の妻と長男、長女。家族からいいパパと云われている。子供たちにはいろいろな意味で豊かにしてあげたいと切望、努力している。家では一番大事にされていると実感している。

持ち家（マンション）が唯一の財産であり、家族は全員健康である。

## III. セカンダリー:

親戚は疎遠にならないよう、上手につき合いたい。

近所つき合いは、マンション組合の理事長を引き受けてから円滑にしている。

転職は自分の成長につながるなら進んでするべしと思う（若い頃はデザイナー、今は管理職）。

友達と長くつき合うには、自分も相手を忘れず親交を持つことが必要。

天皇制は、日本に絶対必要不可欠、廃止を叫ぶ人の気が知れない。家の人はそれ程でもないが正月は友達と参賀に行く。

バブルがはじけて、豊かになった日本人が貧しい暮らしに耐えられるか心配。

## IV. 自然:

自然に関する記述はない。

## V. 超越者:

死は自分が存在しなくなるということとても恐い。その他超越者への言及はない。

(向井恒夫)

## 事例 10 男性 54歳 神奈川県鎌倉市在住

### Part I

1 **子供の頃、私は** 学校の先生になりたかった。

2 **私はよく人から** 規則にこだわりすぎて、ゆとりが無いと云われる。

3 **私の家は** 鎌倉に古くから続く家と云われる。

4 **私の失敗** は数多く有ると思うけどすぐ気分を切変えて、こだわらなくして居る。

5 **家の人は私を** 口うるさいけど真は良い人だと思っているだろうね。

6 **私が得意になるのは** 自分と気分的に良く合ったお客と過せる一時間。

7 **争い** はこれからはすまいと決心してもいざとなるとやはり自分の納得するまでやってしまう。

8 **私が知りたいことは** 社会に正義と云うものが有るのだろうか。

9 **私の父** は早く死んだけど大変な時代を生き真面目一すじだったから大変だったよね。

10 **私がきらいなのは** 仕方ないと一方では思うけど二面性を見せられる時。

11 **親戚** も時としては大切だとは思いますが、いつも接して居る人は何倍も大切。

12 **死** も仕方ないよね。つらいけども。

13 **世の中** こんなものと思うけど何か事が起きてそれが納まってゆく過程を見ても個人の力の及ばぬ何かがある。

14 **私ができないことは** やっぱり自分で納得できない事を受入れなければならぬ時。

15 **恋愛** して目が見えなくなる若さがほしい。

16 **将来** て昔はずい分考えたけど今は残り時間がやっぱり少ないものね。

17 **もし私の母が** 長生きしてくれてたら自分は今より幸わせだったかどうか。違った自分が出来た事は確か。

18 **仕事** は生活の手段と初めは思ったけど最近仕事をしてないと心細いよね。

19 **私がひそかに** 何かを気付かれずに自分だけ

でと云う世界を絶対にもてないのは人間が小さいせいかな。

20 **近所づきあい** は深くなく浅くなくとは思うけどなかなかむずかしい。

21 **夫** は夫らしく妻は女らしく。

22 **時々私は** 苦しかった幼年時代の夢を見る。

23 **私が心をひかれるのは** 深い森の中に、こんこんと美しい水を湧きだしている泉のような風景。

24 **私の不平は** 何と云っても金が無い事だなあ。

25 **私の兄弟(姉妹)** はがんばっているけど時々は優しくしようと思う。

26 **職場では** プロでありたい。

27 **私にとって大事なものは** 自分で体験したものから自分なりに作りだしたモラル。

28 **今までは** もこれからもとか私には境界線は無いんだ。

29 **女** がいるから世の中面白い。

30 **日本** はとか、色々内外から批判されてるけど又生まれられるなら日本に生まれたい。

## Part II

1 **家では** いまのところ全部の人が健康に恵まれている。

2 **私を不安にするのは** 強がりを見せてはいても、いつかは弱まりの時がくるだろうと思うこと。

3 **友だち** が欲しいし又大切だとは十分解るけどこんなに自我が強すぎる自分には無理だね。

4 **私はよく** 海を見に行く。見ていると心が開けて又活力がもどる。

5 **子供** は大切だし成長を見ていると生きてるよるこびを感じるけど早く自分の世界を作って欲しい。

6 **もし私が** 政治家だったらたった一回のチャンスだもの。誠実な仕事をすると思うけど少し甘いかな。

7 **私の母** は故郷だけど早く亡くなりすぎて私はどうも未熟な所がある。

8 **転職** したいとは考えたことがない。これからもきっと無いだろう。

9 **男** は良くも悪くも強さが一番。ただ強いのと我ままは別、思いやりが必要だね。

10 **私の眼り** は前より少ない時間ですむようになった。老化現象かもね。

11 **もし私の父が** 今の時代に生まれたらもっと楽に過ごす事が出来たらうとしみじみ思う。

12 **同棲** はしても子供は結婚する気がなければ作るなよと若い人達には話す事はある。

13 **私が好きなのは** 大晦日十二月三十一日の夕方より元旦の朝まで、複雑な思いがする。

14 **病気** は今の所少ないけどこれからはこわい。

15 **私の頭脳** はあまり平均的に働かずかたよりがあるようだ。

16 **金** はやっぱり沢山欲しい。

17 **私の野心** は本当に持った事が無いような気がする。自分の回りの人達が幸せならそれで十分。

18 **妻** は同志で思ってるけど甘いよね。

19 **調子のよい時** とわるい時との落差がはげしい。

20 **私の健康** は今の所良好だけどもうすぐ変り目に入るかもね。要心しなければ。

21 **私が残念なのは** とはあまり思わない。やっぱりそういうめぐりあわせとってしまう。

22 **大部分の時間を** 仕事に費してるけど、そうしないと安心できない年代だと思う。

23 **結婚** はあせらずに又結婚したら努力してもつづけたい。

24 **天皇制** は平成天皇のお考え方に賛同している。国民もそれにそって共にゆきたい。

25 **どうしても私は** 大きなうそがつけない。小さなうそは毎日つけるんだけど。

26 **家の人は** 大切な仲間。

27 **私が羨ましいのは** いたわり合って居る老人夫婦。

28 **年とった時** 私達もそうなりたいと時々思う。

29 **私が努力しているのは** 私と妻が老後につつがなくくらせるだけの資金作り。

30 **私が忘れられないのは** やっぱり子供のころのつらかった日目の事が忘れられない。



## パーソナリティ・スケッチ

### I. 自己:

鎌倉の旧家に生まれ、戦争をはさんで学童期を送ったことや両親を共に早く亡くしていることなど子ども時代に相当苦しい経験をしたことが、「自分で体験したものから自分なりに作りだしたモラル」が大事なのだという強い生き方を通すようになったのであろう。停年までそれほど遠くない現在は野心、出世欲はなく、老後につつがなく暮すために十分なお金は欲しいと考えている。家庭や自分の生活を大切に、現実肯定的な生き方である。仕事は生活の手段というより仕事をしていないと安心できない年代だと自覚している。年令的に健康や病気への関心、不安もでてきている。

### II. プライマリー:

核家族。真面目一すじに大変な時代を生きたと自分の父親と同一化している。子どもの成長に生きる喜びを感じ、早く自分の世界をつくってほしいと願う父親であり、口うるさく、又夫は夫らしく妻は女らしくと考える権威的な夫でもある。一方で妻に「同志」「仲間」としての対等なコミュニケーションを求める夫婦観ももっている。

若い人の恋愛、同棲については肯定的である。

### III. セカンダリー:

对人的な関心、社会的な志向性はある方だが、堅苦しいパーソナリティであるために人間関係を狭めてしまうところがある。

近所づきあいは深くもなく浅くもないほどほどのつきあい方がよいと考えている。親戚についても「時には大切だがいつも接している人は何倍も大切」とまさに遠い親戚より近くの他人を実践している。

日本については又生まれるなら日本がよいと満足しており、天皇（制）については全面的に肯定している。

政治や社会の動向には積極的な関心を示している。

### IV. 自然:

よく海に出かけ海を眺めて活力をとり戻したり、森の中の風景に心惹かれるなど、自然に関心をよせている。

### V. 超越者:

世の中には人知の及ばない何かがあると考えている。死も又しかたないと自然に受けとめようとしている。年令的な心境でもあろう。

(櫃田紋子)

## 事例 11 男性 55歳 埼玉県所沢市在住

### Part I

**1 子供の頃、私は** 心の中では偉い軍人になるより絵かきになりたいと思っていた。

**2 私はよく人から** 性格が母親に似ていると云われた。又若い時は風ぼうも丸顔で母に似ていた。今は段々父に似た風ぼうになって来たが性格は母型である。

**3 私の家は** 父が役人（農林省）だったのでいわゆるサラリーマン家庭であり、その子の私もサラリーマンで大半を経た。55歳の今小さくとも一國一城の主挑戦したい。

**4 私の失敗** は数多くあるが云い訳的要素も入れて全てこれからの成功の為の糧であり、一つも無駄にはなっていないと考えることにしている。“過去全て善”。

**5 家の人は私を** 一風変っていると云う。一見ロジカルである様でオーソドックスに対応に終始しているが、時折アドベンチャー的行為で周囲を混乱させる。

**6 私が得意になるのは** 調整面である。血液型が AB で天びん座の生れと云う点が関係しているか否かは別として、問題解決の行事役をいつも買って出る。

**7 争い** は好まない。余程の事がない限り自分が一步譲って解決出来るなら、その様にしておさめる。しかし悪い事に関してはガンとして争う。

**8 私が知りたいことは** どうも世の中では声高に自己主張し続けている人が注目され、リーダーとしての地位を確保する傾向にあるのが、それが自然にかなっているのか？

**9 私の父** は現在 79 歳、この 8 月 17 日で満 80 歳になる。8 年前につれ合いを失くしてのショックから美事に立ち直り仏教（浄土真宗）を信じ寺参りの他にカラオケの趣味に多忙。

**10 私がきらいなのは** “権力”である。人間一度権力を握ると己れの保身の為に最も大切な大衆の期待を裏切り続ける。歴史が物語っている。

**11 親戚** と云えば子供の頃はお正月には大きくクローズアップされる存在であったが、自分が年になると昔の様なつき合いをしなくなって淋しい。

**12 死** の問題はむづかしい。簡単に云えばこの世の自分の存在の一つの区切りだが、それで全て終りではなく、次の世（来世）への転換の時だと思おう。

**13 世の中** 恐ろしいのは群集心理をたくみにあやつり集団催眠にかけて多数決方式で本来望んでいない方向にまとまってしまう事。

**14 私ができないこと** は多くあるが、大企業などでは出世の為に上司の命令であきらかに不正な行為を迷ったあげく結局行ってしまうケースにはついて行けない。

**15 恋愛** は甘ずっぱいものである。又つらいものでもある。にもかかわらず全くの他人なのに親子兄弟等血縁のある者よりも強い立場が生れる。

**16 将来** と云うテーマは 55 歳の私にとってもエキサイティングなものである。そして飽く無き挑戦の意欲をかきたてる。

**17 もし私の母が** 元気でいてくれたら思う存分親孝行したい。お浄土に召されて早や 8 年になるが、毎日お詫びの連続である。

**18 仕事** は生活の糧を得る手段である一方、自分のこの世の中での存在価値を証明あるいはアピールする重要なツールであると考える。

**19 私がひそかに** 思っている事は絵画の分野で日展に入選する事である。私には独自の人生感がありそれを絵を通じてアピールしたい。

**20 近所づきあい** は余りしていないが、本当は

もっとコミュニケーションを強化したいと思っている。遠くの親戚より近くの他人、心を通じ合いたい。

**21 夫** については自分が夫の立場にあって妻と云うものをどこ迄理解しているか、良き夫とはどのような状態を云うのか、じっくり考えてみたい。

**22 時々私は** 母を想う。自分の中に母がいる。そして自分の娘に母の気持で接している事に気付く。一方父に対しても最近自分の中に父を感じる。うれしい。

**23 私が心をひかれるのは** 母の生きざまである。子供や夫の為に自分を犠牲にして身を粉にして頑張ったのに喘息になって苦しみがらひと言もグチを云わなかった。

**24 私の不平は** 自分の不器用さに対してである。しかしそれが人間であると思うとイラだった気持も柔らいでくる。

**25 私の兄弟(姉妹)** は弟が一人いる。2つちがいたが時々すごいヤツと思う。同じ環境に育ちながら勝負師のず太さがうらやましい。心のやさしさは共通。

**26 職場では** 若い人を育てる事をターゲットにし黒子に徹するつもりでいる。手柄を部下にシフトして自信を持たせる様心がけている。

**27 私にとって大事なものは** 家族である。縁あって血がつながっている事に宇宙の力を感じる。意味があって家族になっていると思うし、無限の愛を感じる。

**28 今までは** どちらかと云うとよらば大樹的なところが多かったが、最近この年になって自力への挑戦を強く意識している自分に気付いている。

**29 女** は偉大である。母に代表される女性は全てをつつみ許してくれる。女はあこがれである。心のやすらぎである。

**30 日本** は今とんでもない状況にある。とても不安定な状態にあると思う。しっかり足を地につけ、地球の中の一員としての日本の役割を果すべきだ。

## Part II

**1 家では** 出来るだけ聴き役になろうとしている。又父や妻や一人娘に感謝している。皆とても

大切に役に立ちたい。

**2 私を不安にするのは** 一つはこれからのシルバー社会である。私は世話をする立場になりたい。もう一つは娘の二十一世紀である。

**3 友だち** は大事にしている。だから親友と云える友人が最低でも3人以上いる。秘けつはいつもこちらからアプローチしているから…。

**4 私はよく** ゼミや異業種交流の会合に出席する。こうして多くの人脈づくりに努力している。これは私の存在価値を高めている。

**5 子供** は無条件に可愛い。そして甘やかしてしまふ。本当は厳しく接した方がよい場面が多くあってもそれが出来ない。

**6 もし私が** 一国の総理になったらいつ辞めても良いとの覚悟で誰もやらなかった本当の世直しに生命をかける。権力には何の価値もない。

**7 私の母** は観音様が好きで元気な時はよく浅草に参った。亡くなって8年になるが、その一生はまさに観音様そのものに思える。

**8 転職** は否定しない。私も3回の転職経験があるが確かに良かった面と、しかし別の面での苦労も多く、結論としては少い方がよい。

**9 男** に生れて良かったかと云う点では特に男ではなくてはならない理由はないが、妻に対しての夫として、又娘の父親としてのよろこびを感じている。

**10 私の眠り** は最初深く夢も見ない様だ。しかし朝早く目がさめる。又休日に限って朝早く目ざめてしまふ。電車の中の居眠りは得意。

**11 もし私の父が** 永眠したらこんな淋しい事はない。母とはちがった意味で父はやはり大きな支えにちがいないから、永生きして欲しい。

**12 同棲** は原則的には賛同出来ない。安易な妥協の産物でしかない。厳しさと努力がない。

**13 私が好きなのは** SLには生き物としてのいとおしさを感じる。誰にも頼らずに自らのエネルギーを生み、つき進む姿がよい。

**14 病気** は困る。しかし嫌ってみても年をとればつき合う機会は増える。その時にならないと分らないが、仲良くつき合うべきなのだろう。

**15 私の頭脳** は普通である。学校の成績は上位であったが、自分では特別優れていると思ってい

ない。しかしもっと使うべきと思う。

**16 金** は欲しい。先だつものだから。しかし不正をして無理して多くの犠牲に於て得る大金は許せない。

**17 私の野心** は政府や権力者に対して国民に不利な政策を行おうとする事に対し強力なブレーキをかける立場に立つ事である。

**18 妻** は心のよりどころである。又いとおしい存在でもある。一緒に墓に入ってくれる間柄として(他人なのに)心から愛したい。

**19 調子のよい時** は何となくのめり込んでいる自分に気づく。よく働くと、アイディアもどんどん浮ぶし疲労も心地よい。良く眠れる。

**20 私の健康** は良好である。年一回ドックでチェックしているが、心配ないとの宣言でホッと、これからもっと身体をいたわろうと思う。

**21 私が残念なのは** 髪の毛がうすくなった事である。オヤジもハゲているし、系統がそうだから仕方がないが白髪もハゲよりずっと良い。

**22 大部分の時間を** 仕事に費すのはサラリーマンとして当然であるが、多忙である程欲が出て、いろいろやりたくなる。絵も書きたい。

**23 結婚** と云えば一人娘が今年短大に入った満19歳である。結婚はまだ先との思いとどんな結婚になるのか期待と不安が交差する。

**24 天皇制** に関しては基本的には日本国の象徴として存続すべきと考える。問題は権力者が利用しない様な歯止めが必要。

**25 どうしても私は** 日本が日本らしく世界の中で理解され、又信頼され、平和の維持や経済文化等、幅広く独自の方法で貢献すべきと思う。

**26 家の人**はそれぞれささやかな夢を持っている。妻は水泳でマスターに出場する事とか外国旅行。私も家族を連れて外国に旅行したい。

**27 私が羨ましいのは** 若い人達である。二度と若い時代には戻れない。しかし若い人はその力を発揮していない。本当は若者にはまだ負けないぞと思っている。

**28 年とった時** やりたい事がたくさんある。まづ絵を始めたい。妻と旅行をしながら絵筆を動かしたい、又年寄の世話をしたい。

**29 私が努力しているのは** 若い人を育てるテ-

マについてである。自分の考えを押しつけないで、出来るだけ彼等の考えを聞きながらやらせてみる。

**30 私が忘れられないのは** 昭和 36 年初めて行ったアメリカである。永六輔氏やまだ“とらさん”になっていなかった渥美清氏と同じ飛行機だった。

## パーソナリティ・スケッチ

### I. 自己

親に孝行。企業においては努力、挑戦、自分の自立への願望と様々な生き方を模索している。自分は裏方に徹して生きる黒子としての役割が適しているという想いと、一国一城の主になりたいという想いが交差している。権力に対する抵抗感、政治に対する不満があり、心理的左翼だが、一方天皇制を認める保守的な面を持っている。会社においては猛烈社員である。

### II. プライマリー:

父母を尊敬し、妻と一人娘を愛している。家族愛をモットーにしている父親。

### III. セカンダリー:

会社では裏方で若い人を育てるのが自分の役割といいながら、一方では声の大きい奴が出世することに不満がある。それは自己主張できない自分への不満でもあるが、人間関係に重きをおいた生き方を指向しているのは確か。

### IV. 自然:

絵を通じて自然に接すること、絵を通じて自己主張をする願望を持つ。自然は自分の主張の投影でもあるのか。

### V. 超越者:

仏教に対して、親の影響か信仰心がある。来世を信じ、また家族との血のつながりに宇宙的な力を感じている。 (田辺満彦)

## 事例 12 男性 66歳 神奈川県横浜市在住

### Part I

**1 子供の頃、私は** 5才年上の兄と仲良く2才年下の弟と余り仲良くしなかった。兄弟共第2次大戦にて戦死した。

**2 私はよく人から** 朗らかで明るく調子がよいと云われた。

**3 私の家は** 下町で父一代で財をなし自分が充分教育を受けていないので子供に対して教育熱心だった。

**4 私の失敗** 中学より上級学校への進学で一浪し慶応の経済へ進学受験勉強に熱中、人生を潤せる知識に欠けていた。

**5 家の人は私を** 自分を含め3人戦争へ、自分だけが帰還、両親は戦死した2人の思影を自分にだぶらせていた。

**6 私が得意になるのは** 今振返って見るとスポーツマンだったので勝利の栄光だったのか。

**7 争い** 思い出す事のない程で波静かな幸せな人生、家族に感謝。

**8 私が知りたいことは** 1日1つでも新しい知識を得れば最高。読書が日課の1つ。

**9 私の父** 勤勉で誰にでも好かれていた。人間の人格形成は教育だけではない。

**10 私がきらいなのは** 年をとってからは出来るだけ交際範囲を狭くしている。

**11 親戚** 弟、妹との仲は良い。

**12 死** 達観と怖れとの間を揺れ動く。

**13 世の中** 我々の青春時代と現在との違いの如何に落差のある事か。出来る丈現在に順応して行き度い。

**14 私ができないことは** 若さは二度と還ってこない。でも1日1日自分に納得した日を送り度い。

**15 恋愛** フェミニスト。

**16 将来** 残り少ない人生を自分なりに納得して送り度い。

**17 もし私の母が** 病身で気の強い母であったが生前もっとやさしい言葉をかけてあげればよかった。

18 **仕事** ベストを尽くした積り。でも今考えればもっと皆の言葉に耳を傾ける必要があったか。

19 **私がひそかに** 妻に感謝。

20 **近所づきあい** 必要最少限。

21 **夫** 家庭内に於ける夫の存在価値、昔と随分変わった。でも何れが幸せか。

22 **時々私は** 日常使われている横文字言葉、物忘れ etc にコンプレックスを感じる事がある。

23 **私が心をひかれるのは** 一芸に秀でた事の言動。

24 **私の不平は** 新聞等をスキャンダラスな行動で賑がわす知識人の言訳け。

25 **私の兄弟(姉妹)** 妹一人、弟1人だが幸せな人生を送って欲しい。

26 **職場では** 勤続40年、3年前に退職、今思えば楽しい思いで許り。

27 **私にとって大事なものは** 妻。

28 **今までは** 過去は戻らず1日1日を有意義に過し度い。

29 **女** 世の中男と女、心情が滲み出る美人は素適。

30 **日本** 素晴らしい。歴史は繰返す。過去を見つめ現在の参考とし益々素晴らしい日本に。3百万の英霊に感謝。

## Part II

1 **家では** 夫婦2人。共同の行動は全体の1/3位。各自の自由尊重。

2 **私を不安にするのは** 老人呆け。他人に出来る丈迷惑のかからぬ様過して行き度い。

3 **友だち** 学生時代の友達と永く交際している。昔に返り気分迄若返える。

4 **私はよく** 散策、読書を日課に取り入れている。途すがらの季節のうつり変り、新知識の吸収、楽しい事です。

5 **子供** 男1人女1人、2人共独立し孫3人何の心配もなく幸せだ。

6 **もし私が** 死を迎える時は妻より前であって欲しい(妻61才)。

7 **私の母** 気が強かったが父を支え教育熱心だった。兄、弟が戦死し可哀そう。

8 **転職** 僕は40年一社に勤めてきたが30才

位迄は自分に適した職を捜す為の転職はいいのではないか。癖にならぬ様。

9 **男** 男らしい男。独立独歩の男が望ましい。最近女性的な男性が増えているのでは。

10 **私の眠り** 平均7時間位。熟睡後の目覚は1日の生活の原動力。最近1時間昼寝を習慣づける。

11 **もし私の父が** 58才で早逝したので親孝行も充分できず心残り(38年前の話だが)

12 **同棲** 成人後お互の責任に於てするならば可。但し身内の者が同棲したなら理解してやれるか疑問。

13 **私が好きなものは** 妻。無趣味だったので今必死に趣味を持つべく努力中。

14 **病氣** 幸いに現在は健康だが老化は進んでいる。ちょっとした症状にも気づかう心配性。

15 **私の頭脳** 年々老化している。漢字等の物忘れがひどい。

16 **金** 年金生活。もっと若い内に老後の事を考へればよかったと後悔している。ただ金丈がオールマイティーではない。1日1日の充実が大切。

17 **私の野心** なし。枯れた心境か。

18 **妻** 恋愛結婚、非常にバイタリティあり。多趣味。

19 **調子のよい時** 心が軽く、何でも楽しい。寢床で1日のスケジュールを組み一つ一つ片付けて行く。

20 **私の健康** 肉体的には牛乳を飲み足腰を鍛へる為の散歩。呆け防止読書。情操豊かに音楽鑑賞etc.

21 **私が残念なのは** もっと早くから老後計画を立てなかったか。英会話不足。

22 **大部分の時間を** 起床、新聞、散策、読書、家事手伝、テレビetc.

23 **結婚** 恋愛結婚奨励。自分達で責任を持って結婚生活を送るから。

24 **天皇制** 国民の心の寄り所としてなら現在では賛成、但し諸行事が余り事大的すぎる。国民の福祉還元すべき。

25 **どうしても私は** 死を迎へる。迎へるに当り心やすらかにある様、努力する事が大切。

26 **家の人** 自分の身の廻りの人達が皆幸であ

って欲しい。

**27 私が羨ましいのは** 自分の持っていないものを持っている人達（物心両面）でもそう思う余り自分を不幸にしてはつまらない。

**28 年とった時** 心静かに死を迎えられる様な最後の努力。

**29 私が努力しているのは** 人生の終りに自分が幸せであったと云える様な最後の努力。充実した日々の送り。

**30 私が忘れられないのは** こと改たまつた云々とは一概に云えない。振返って見た時皆楽しい思いで許り。最後迄楽しい思い出の積重ねをこれからも続けて行き度い。

## パーソナリティ・スケッチ

### I. 自己:

本人を含めて兄弟三人が戦争へ行き、二人も戦死していたり、他にも近親者を喪うなどの重い戦争体験が、精神的背景にある。40年間勤続した会社を3年前に退職して、現在は心身の健康のために散策、読書、音楽鑑賞などを日課とする静かな生活に満足している。

### II. プライマリー:

子ども二人が独立して各々の家庭を築き、夫婦二人だけの生活である。「私にとって大事なものは妻」、「私が好きなのは妻」「ひそかに妻に感謝」など、妻が最も重要な人間であり、お互いの自由を尊重しあう様な夫婦関係を心がけている。恋愛結婚を実践し、若い人にも奨励し、同棲にも理解を示すが、身内のこととなるとやはり保守的である。

### III. セカンダリー:

「年とってからは出来るだけ交際範囲を狭く」と心がけている。近所づきあいは必要最少限にし、自分の家族や弟妹、学生時代からの友達などごく限られた範囲の交際をだいにしている。日本は素晴らしい国、3百万の英霊に感謝とのべ、天皇制については、国民の心のより所としてなら現在は賛成だが、諸行事は事大的すぎる、国民の

福祉還元すべきだと批判的な意見で、敗戦を契機に大きく変らざるを得なかった戦争世代の気持をのべている。

### IV. 自然:

散策の途すがらの季節のうつり変りをたのしむなど自然を身近に感じて暮している。

### V. 超越者:

特定の宗教観はないようである。死に対しては達観と恐れの間を揺れ動きつつ、自然死を望んでいる。  
(櫃田紋子)

## 事例 13 男性 67歳 埼玉県三郷市在住

### Part I

**1 子供の頃** 私は、家が貧しく、まっ黒の麦飯弁当が恥かしく、家へ食べに帰っていた。

**2 私はよく人から** 愛想がよく、人あたりがやはらかいと言われるが妻に言わせると外面はよいが内面が悪く、割合突賢貪の口をきくと。

**3 私の家** 老夫婦、若夫婦に孫二人の親子三代での生活だが貧しい乍ら、家庭の平安が保たれ明るい笑いのあるよい家庭と考える。

**4 私の失敗** お酒と対話は何よりも私の好きなものだが、つつい時間の経過を忘れ、午前様或いは金もなく何時間もかけて歩いて帰る。

**5 家の人は私を** おじいちゃんと呼ぶ。タバコ、酒に対して妻はきついことを。上の孫（男）は化石、私の裸の皮膚をみてはシワシワと笑う。

**6 私が得意になるのは** 変化に富んだと思われる体験経験を話し出して、仲々終らなくて、何回第十回同じことを言っている+と叱られる。

**7 争い** 曲った事が嫌いによく役人や校長先生方言言葉上の論争をきいてきたので、現役時代理不尽な上司と争い 52 歳で辞表を叩きつけたことがあった。

**8 私が知りたいことは** いろいろあるが、地球上の営みが人間である以上人間関係の探求が平安

平和維持に重要だと考える。

**9 私の父** は大酒飲みで多少教育はあった様だが余り働く姿を見ていない。良く母に出て行け！と言っていた。私が戦闘機特攻隊になったとき不自由な体で私の手を握り、これが最後だと別れたがその通りになってしまった。

**10 私がきらいなのは** 不正義、上役におもねるおべっかを使う他人と話をするときには名人や偉い人の話に事寄せてしか話しの出来ないこと。自分を見せない人は好まない。

**11 親戚** 所詮は別個の家庭で構成人員も、その家なりの行き方があるので、他人と同じ。幼い頃の関係では縁者が親しいか、そして楽しいものだが、一過性のものである。

**12 死** 当然誰しも訪れるもので、覚悟しておくべきだろう。死ねば仏で皆手を合せて仏様と崇めるが悪い莫迦者もいる。一日また一日生を諦念化死して生きる道を修行したい。

**13 世の中** はよくも変哲に富んでいる。諸行無常、これが世の中というものらしい。しかし人は良い世の中になるよう変えようとする人は多いが自分を変えようとする人は居ない。むつかしいことだが自分を少しづつ変えたい。

**14 私ができないことは** ない！とナポレオンの様なことは言わない。しかしできないことでもやろうと考えることはできる。そんな前向きな心が社会の正しい進運に必要ではないか。

**15 恋愛** いい言葉だ。まだ 67 歳だがしてみたい。特攻隊の同期生が大妻大の紋付羽織袴の卒業写真を胸ポケットに抱いてアメリカ艦艇に 250 kg の爆弾を抱いて戦闘機で突っ込んだが、彼女と彼女の顔が浮んでならない。彼女は教諭になった筈だが夢の様な言葉かな。

**16 将来** が楽しみだという人も居る。残照の年ごろになって自由人でない限り明るい展望はない。歌って踊って恋をして若い時代はよいだろうが体に故障を起してはどうにもならない。

**17 もし私の母が** もう少し生きていて呉れたら私は母に詫びたい。特攻でシベリヤで死んだか生きていたか分からない敗戦後のあの頃どんなに心配して呉れたことか、私には何も母に言えなかった。

**18 仕事** は熱意積極性をもって当れば何でも出来る。勿論専門的技術的仕事には限りがあるだろうが。仕事とはそういうものだと考える。

**19 私がひそかに** ある人の生きざまを考えている。男も心の底の底まで妻だって分るものではないし、まして女性の場合婚前のことは秘匿する約束したことを！他人ごと詮策しないほうがよいか。

**20 近所づきあいは** 必要だ。隣の人は何する人ぞ！そんな関係では息詰ってしまう。遠くの親戚より近くの他人ではないが地域コミュニティは安全と平安に役立つと思う。

**21 夫** 殿様旦那様御主人様。そんな時代は過ぎ去った様だ。粗大ゴミと濡れ落葉、それは私たちの時代の責任だろう。過去がなくて現代はない。日本株式会社に盲従してきたツケが来たか。

**22 時々私は** 幼なかった頃を思い出す。教育勅語を軍事教練を。体力検定で土嚢を担ぎ 100 メートル 1 万メートル擲弾筒投擲を。豆腐を売って歩いた根岸の花柳界などを。

**23 私が心をひかれるのは** 身装整い背筋のまっすぐに正しい人で、もの腰やわらかく穏やかな話しぶり、何処となく人格識見のゆたかさが滲み出る様な人。

**24 私の不平は** 沢山ある。口角泡をとばして気焰を吐いたところで、事の解決には何の役にも立つものではない。そのエネルギーは自分の思うところへ注ぐべきではないのか。

**25 私の兄弟(姉妹)** 生きているのは 5 人だがそれぞれの人生を引摺って現在を迎えている。他人もそうであろうが、みんな多かれ少なかれ不安や問題を抱えていて泣いて愚痴ることになる。

**26 職場では** 人間関係が必要である。この人間関係こそは個人で生きては行けない以上、家庭にあっても地域社会にあってもどこでも大切なことではないでしょうか。

**27 私にとって大事なものは** 私自身を大切に生きるということではないでしょうか。すべて有形物は必要はないのです。たった一度限りの人生を私という人間がいたということ。

**28 今までは** 遮に無に食う為に生きる為に子を育て何とか人並みの生活が出来るようにする為に

やって来ましたが、間違っていたようでした。落とし穴があった様でした。その成績が現代の社会でした。

**29 女** は男である以上大好きだ。この地球上には女と男しか人間はいない。年齢の相違はあるが仲良く共生して行きたい。反目しあってどうなる。

**30 日本** はいま重大な使命を担保する国になったと思う。しかし戦争責任や謝罪ということを忘却の彼方へ置き忘れ意識して放棄しているのではないか。そのことが先決だ。

## Part II

**1 家では** 何とか「おじいちゃん」としての地位と立場は樹てて貰っている様だ。しかし心にシワを寄せず白髪を生やさないように、これからも生きたいと思う。

**2 私を不安にするのは** 暗澹たる社会政策、遅々として進まない高令化対策である。社会福祉政策に金を遣うことはドブに金を捨てる様なものとは言語道断。

**3 友だち** 多く持ちたい。そして仲良く何でも話の出来る朋友を持ちたい。そのためには他人の嫌がることを言わない、しないことである。

**4 私はよく** 日記を補完しながら消日しているが仲良しの朋友や同好の士の集り旅行のあった時は白紙同様になっている。何とも悲しい日記である。

**5 子供** は私の生活力では二人で良いと妻と相談し中絶した。その際子供を生まない方策として妻が中絶時締めてしまった。神様に逆ったのだがいまこれを悔いている。

**6 もし私が** 単発機を操縦する環境ができれば自由に大空を飛翔してみたい。空は広く地球は丸くそして国境もなく争いもない。夢と希望が湧いてくる。

**7 私の母** は字が書けませんでした。文盲のたぐいでした。小学2年生位から母の言葉をきょうだい親戚に手紙に書かされました。お蔭で手紙書きは億劫でなく母に感謝しているこの頃です。

**8 転職** も結構だが生活がかかっているので慎重に対応すべきものと考え。古い頭かも知れな

いが日本の企業風土は転職退職者に比較的冷い。

**9 男なら** 男なら未練残すな浮世のことや、花は散り際男は度胸、胸に爆弾抱いて征け、男ならやってみろ† 据武 451 特別攻撃隊のうた。

**10 私の眠り** は私だけ独りのもの。快よい夢への誘いもあることはある。しかし一杯やって眠りに就くのがよい。シベリアの鞭打たれた悪虐の夢も眠りの中に出てくるのだ。

**11 もし私の父が** 良く言っていた言葉に「蟹は甲羅に似せて穴を掘る」と。また「梅楨は双葉より芳し」と。年の甲より亀の甲、自然に理解が生れてくるものだ。

**12 同棲** には夢がある。その中に愛があり、理解があるなら猶更よいのではないか、それが仲々できないところに魅力を感じるのだろう。

**13 私が好きなのは** 酒に女に博打とか。これを社会の三悪といったとか。時代は変わったのか。現代社会では酒と女は変らないがバクチはゴルフ、パチンコ。

**14 病気** については嫌悪の情を抱く。しかし加齢とともに体力の減退とともに一病息災とかが理解できるようになった。

**15 私の頭脳** は狂っているときがある。酒気多量、朦朧として眼は開けどまともに見えず口はきけども他人に分らず。これもまた一興かも。

**16 金** は無くても困るが沢山あっても禍の基になる。もう少し欲しいけれど世の中うまく出来てやがる。

**17 私の野心** などというものを抱くほど大物ではない。だからお前は器は小さいと言われるのだ

**18 妻** に定年になる頃それでは…と離婚して出て行く妻が多いというのであの頃そんなことを妻に話した。妻は「年金貰う様になって私は権利放棄は出来ない」と。

**19 調子のよい時** というのは誰にでもある。頭に乗るすぎると失敗するので注意が必要だ。運もそんな点で似通ったところがありそうだ。

**20 私の健康** それはその人の徳の一つなのかも知れない。こんな言葉がある。健康はその人の徳の一つにして幸福の最も重なる部分なり（徳富蘇峰）

**21 私が残念なのは** 航空会社のパイロットにな



れなかったことだ。折角官費でパイロットになったのに戦争は私の夢と希望を無にしてしまった。

**22 大部分の時間を** 書くことに費したい。思うこと思うように書ければ幸せだと思う。独楽もそうだが書くこともそうだ。高年者は考えなければならないことだろう。

**23 結婚** は他人ごとでも心浮き浮きして楽しいことだ。自分をふり返り、たしかに楽しいには違いないが苦しい事も多かった様に思う。結婚は若さ、若さは力だ。

**24 天皇制** は無くしましょう、国民が全部等しくなるようにしましょう。特権や身分制度や差別のない社会に。宮内庁なども要りません。総理大臣がペコペコしてよいのでしょうか。

**25 どうしても私は** 自分自身を変えていかなければならないと考えています。それは道は遠く牛歩の歩みに似ていても社会を変えようとしている人は多くても自分を変えようとする人はいないからです。

**26 家の人**は 仲良く話しあっています。私が一番左翼的なことを言うので妻にたしなめられ、高2の孫(男)にも右翼に殺されると言います。でも孫子を戦争に出さない為に平和を願うのです。

**27 私が羨ましいのは** 恰好の生活が出来て日常生活の中に高のぞみの希望や夢でなくても展望のある生活が出来ればよいと思っています。小市民的かな。

**28 年とった時** 不安がない訳ではありませんが施策の主体は国がやるべきです。総べて整った有料のゆうゆう里に現在何人入れるでしょう。金持ちの限定人だけです。家族の絆大切に。

**29 私が努力しているのは** 微力ではあっても高年者として出来る社会へ貢献でしょう。数少ない戦争体験者であり加害責任を自らも背負って生きべきでしょう。

**30 私が忘れられないのは** とともに紅顔の頃に誓って特攻を志願した仲よし同期生が先に散って私が生きてしまったことです。彼の死を以て購ったと思われる平和、これを守り続けていくことでしょう。

## パーソナリティ・スケッチ

### I. 自己:

特攻隊の生き残り。シベリア抑留、そして戦後の企業戦士としていわば戦ってきた歴史を持つ。戦争に対し、又、国家に対しての被害者意識があり、同時に戦争責任という重荷を担いながら、自分を大切に生き、平和を願っている。

### II. プライマリー:

遠い親戚より近い他人とクールに割り切っている。しかし現在は、三世代が同じ家屋の下に住んで幸せと思っはいる。兄弟ではあってもそれぞれが自分の生活を持ち、懸命に生きているのであって、他人のことを考える余裕などないのが当然と思っている。一方、家族の絆も大切と思っている。

### III. セカンダリー:

今までの生活のなかで苦しいとき助け合った経験から、人間関係が一番大事であり、隣人、地域社会との関係が家族以上に大切だと感じている。社会的には自らの立場から、政府の施策の貧しさ、高齢者への冷遇に対して、激しい憤りを感じている。

### IV. 自然:

特に記述はない。

### V. 超越者:

死に対するという事は、いかに生きるか、いかに自己に忠実に生きるかということ。運の良さ、健康についても一つの徳と考えている。

(田辺満彦)

事例 14 男性 73歳 東京都大田区在住

## Part I

1 子供の頃、私は 本ばかり読んでいて、外向

的ではなかった。

**2 私はよく人から** 真面目で堅苦しい人間と見られているらしい。

**3 私の家は** 明るく平穩そのもの。

**4 私の失敗** は蓄財に全く呑気であったこと。

**5 家の人は私を** 頼りにするが融通の利かない頑固な人間と考えているようだ。

**6 私が得意になるのは** 子供が3人共健康な家族を持って明るく生活していることだ。

**7 争い** は不可避の人類の宿命である。国境のない人類愛の昂揚は永遠の課題である。

**8 私が知りたいことは** 日本人なのに国を考えない輩の本心である。

**9 私の父** は晩年になって戦後の不如意な時期を迎えたが一切愚痴はこぼさなかった。

**10 私がきらいなのは** 社会生活における甘えと増長だ。

**11 親戚** にとって私は頼りになる存在でありたい。

**12 死** は生れた以上必然の帰結である。それをどう生きるかが人間のみに課せられた命題である。

**13 世の中** に不合理は多いが、自分は毅然たる信念を枉げずに生きて行きたい。

**14 私ができないことは** ないと考えるのは愚かだが、努力しないで出来ないと諦めるのはなお愚である。

**15 恋愛** は利他的、感情的なもののみであってはならない。

**16 将来** の日本を担う者たちへの教育にかかっている。

**17 もし私の母が** 癌で早く死ななかったら戦中戦後の苦労を取戻すだけの孝行をしてあげられたのに。

**18 仕事** に張合いと喜びを持つことは自分の努力次第である。

**19 私がひそかに** 念じることは、地球のすべての国境線の正常化である。

**20 近所づきあい** は限界を心得、対抗意識を捨てて。

**21 夫** は妻にとってこの上なく頼りになる、そして包容力のある人物であるべきだ。

**22 時々私は** この世に生れた喜びを噛みしめて感謝する。

**23 私が心をひかれるのは** 人間には造り得ない天然自然の仕組である。

**24 私の不平は** なぜそう思うのかをもう一度よく考え直さなければと自戒する。

**25 私の兄弟(姉妹)** のうち特に仲良かったすぐ下の弟が6歳で病死した。お前の分も一緒に生きるぞと誓って65年になる。

**26 職場では** 自己顕示よりもひたむきな努力を。

**27 私にとって大事なのは** これからの余生で如何に有終の美を飾るかである。

**28 今までは** 日本は豊かに成長した。このまま安易に過してはならない。

**29 女** には優しさと共に豊かな理性が必要である。

**30 日本** に学べといわれるが日本人こそもっと外国に学ばなければならない。

## Part II

**1 家では** 何でも話し合うようにしている。

**2 私を不安にするのは** 日本の将来である。国史国語国旗国歌の尊重がなおざりされているからだ。

**3 友だち** は物欲と無関係のものである。

**4 私はよく** 人の言葉づかいを気にする。

**5 子供** の時からでなければ社会人としての基礎教育は出来ない。

**6 もし私が** なお時間と金を持ち得たら、余生は次の世代に祖国愛の教育をしたい。

**7 私の母** は戦中戦後を通じ家族のために苦勞し続けたまま戦後間もなく逝った。戦争を憎む。

**8 転職** は安易軽率であってはならない。

**9 男** は力強い信念とやさしい思いやりが肝要だ。

**10 私の眠り** が安眠そのものであることを幸せに思う。

**11 もし私の父が** 大金持であったら、私の精神は退嬰的であったかもしれない。

**12 同棲** する人たちの人生観は判らない。

**13 私が好きなのは** 自然の美しさと純粋な心で

ある。

**14 病氣** は自分が立ち向かうものだ。負けてはならない。

**15 私の頭脳** は脳細胞が減ってきてでも使えるだけは使わなければなお退化する。

**16 金** はあった方がよいが無理に多きを求めるべきものではない。

**17 私の野心** は盗人猛々しいソ連から領土を取り戻すための方策は何とかならないかという思いである。

**18 妻** に求めるものは理性ある賢しこさであり、牛を売り損なう賢(さか)しさであってはならない。

**19 調子のよい時** はそれが自分の力によると思うな。

**20 私の健康** は心の安らかさと自己管理で維持されている。

**21 私が残念なのは** 国民であり社員の一員である有難さ、その責務を自覚しない人間が多いことである。

**22 大部分の時間を** 如何に充実させているか、常に反省している。

**23 結婚** は健全な家庭を築き子孫を心身健康な姿で残すことによって完成する。

**24 天皇制** は長い歴史の中では否定されることもあり得る。しかし現在の日本にとっては必要である。

**25 どうしても私は** 国民の間に国民たる誇りと覚悟をもっと涵養させたい。

**26 家の人は** 皆互いに仲良く生活していて安心である。

**27 私が羨ましいのは** 永世平和のスイス国民の素晴らしい愛国心である。

**28 年をとった時** に既になってしまった。しかしまだ自分の役割を尽して行く使命がある。

**29 私が努力しているのは** せまく自己向上である。

**30 私が忘れられないのは** 強いられた特攻隊自爆の悲劇である。

## パーソナリティ・スケッチ

### I. 自己:

常に自己の研鑽に努め、向上することを第一義にしている。愛国心の欠如を嘆き、若い世代は、愛国心と日本人としての誇りを持つべきであり、そのようなアイデンティティを持てるよう教育すべきであると考えている。常に心身健康を心がけ女性は賢く理性的であらねばならない、また、皆仲良く暮らすべきであるという信念を持っている。亭主閑白的・教育勸語的思想。

### II. プライマリー:

父親への敬愛、母への愛情を持ち、家族、子供達に恵まれて感謝している。妻への要求は、賢く理性的であれと厳しい。家族仲良く平和に暮らすことを願い、実行している。

### III. セカンダリー:

対人関係は一定の距離をおいて、つかずはなれずの友好的関係がモットー。お互いに干渉しないし、すべきでない。そうした節度を保つのが大切であるとする。親戚には頼られる関係でありたいとも思う。

### IV. 自然:

自然の美しさにあこがれている。

### V. 超越者:

人間の力ではどうにもならない自然の摂理、天地自然の仕組に心うたれる。自分はその中に生かされていることに感謝しながら自己を向上させる、それが人生と思っている。(田辺満彦)

事例 15 男性 82歳 宮城県仙台市在住

## Part I

1 子供の頃、私は はづかしがりやでしたが、ファイトは内にしめていました。

**2 私はよく人から** 引っ込みじあん、おとなしいと言われて居る。

**3 私の家は** 比較的家族が多く6人ですが、夫々個性をもっていますが何とか仲良くやって居ます。

**4 私の失敗** は人を信じ込むということです。そして人からたのまれてはいやと云えないことです。女性にふられた経験がある。

**5 家の人は私を** 余り心を出さないがけむたがっている。

**6 私が得意になるのは** 人よりいくらか上位に立った時で、これは現在は趣味の上である。

**7 争い** 今でも内々はファイトはつよい。余程でないと争はない。

**8 私が知りたいことは** 政治の実せんの仕事である。

**9 私の父** はえらかったと思っているが、直し欠点も知って居る。

**10 私がきらいなのは** 余りべらべらしゃべる人間である。不言実行型が好きだ。

**11 親戚** は皆良い人達で、良く戦後の苦しい時には助けてくれて今でも感謝している。嫁の親戚にはいささか嫌気を感じてる。

**12 死** の尊厳を知っているから安楽死は賛成出来ない。ガンが何とか撲滅出来ないだろうか。待ち遠しい。

**13 世の中** は如何になっているのか分からない場合がある。所せん教育の問題か。日本も、世界も。

**14 私ができないことは** 沢山ある。今ではもうおそい。ここぞと云うとき発言出来ない場合がある。弱い性格のせいか。

**15 恋愛** は是認している。私自身もそうであった。子供の恋愛は素直に認めなかった。他の条件に支配されて、最後は折れた。

**16 将来** もっと日本は、国際社会においてリーダーシップを取り得る様な国になってほしい。私個人は先が見えて何も無い。

**17 もし私の母が** 生きていたならば、私の人生は変わっていたかも知れない、50そこそこで死んだ。

**18 仕事** はやるだけのことはやった様な気が自分なりにするが、他人から見ればまだまだだった

のだろう。

**19 私がひそかに** 思っ、又願っていることは、何とかうるおいのある世の中(豊かな中にも)ならないかと云うこと。

**20 近所づきあい** は極力良くする様に心がけて居る。人からもその様に見られている。

**21 夫** としては満足ではなかった様だが、さればと云って失格でもない。まあまあと云うところか。

**22 時々私は** 孤独になって、過ぎしことをやるせなく思う。又気をとり直している。

**23 私が心をひかれるのは** 女性の心がけ、思いやりである。

**24 私の不平は** 今の世の中の現状。特に家族関係と孫の教育のなっていない点(子供の)

**25 私の兄弟(姉妹)** は皆立派だと思っている。兄弟愛はほこりに思っている。

**26 職場では** 自分は自信をもって居ったが、人は批判的な人も居ったのを承知している。

**27 私にとって大事なものは** 自信である。然しもしかすると喪失しかけて来る。

**28 今までは** 一生懸命世に処し、仕事もやって来たと思っているが果たして如何だったかな。

**29 女** は一口にいってまだまだ駄目である。自分のことしか考えない。テレビインタビューで女の言葉まともなのを聞かない。消費税参議院大勝みたいに。

**30 日本** は今もっともしかとしたリーダーが、出てこない駄目だ。昨今政界、財界、官界を見るといやになる。

## Part II

**1 家では** 自分は孤立している。孫は古いからと頭から思っているし、子供、嫁も話が合わない

**2 私を不安にするのは** 家族関係が果たして如何なるか。昔の良い部分をすっかり捨て仕舞ってる。

**3 友だち** は皆良くしてくれる。然しほんとうに話し合える所謂親友は2人位か。

**4 私はよく** 自分の実行しないことを人におしつけたり、云ったりするなど云って世に処して来た。

**5 子供** は2~3人が適当だ。1人ではまずい。かく云う私は実子をなくして居る。孤独の所以だ。

**6 もし私が** 生まれ代わって来たら、今まで生きて来たのを修正して、自信の生き方をして見せる心意気である。

**7 私の母** えらかったと思う。しかり方は自分の悪いのを自覚させる様な怒り方をして居った。

**8 転職** は已むにやまれぬ場合を除いてはやめるべきだ。意志薄弱のしるしである。自分にあまえることはない。

**9 男** として生れて来たからには家族の幸せ、世の為になる様な人間で一生終わることである。

**10 私の眠り** は反省の場である。何となれば自分で悪かったこと、又性格の欠点に関した夢が多い。

**11 もし私の父が** 学校出であれば、可成り大成したのではないかと思う。仲なか判断力。実行力も秀れて居ったと思う。

**12 同棲** をすることは若い者は良くない。老人は周囲が同意すれば差し支えない。

**13 私が好きなのは** 人の真心である。真心をもって接してくれる人は有り難い。

**14 病気** は自分がまねいたものでなければやむを得ない。若しなったらベストをつくせば良い。

**15 私の頭脳** は余りよくもたないが中位である。すべて努力で世に処してきた心算である。

**16 金** は天下の廻り物とは云うが、努力して得た金は貴いし、費い方も価値あるよう出来る。

**17 私の野心** は今はない。世の為になってあの人は有難かったと云ってもらいたい。野心と云えないけれども。

**18 妻** は死別した。けんかもしたが、魅力もあった。

**19 調子のよい時** は少しおだつが、余り調子のろらない性質である。

**20 私の健康** はまあまあ。然し80年も使ったからだ。血圧も高いし眼も老人性結膜炎仕方がない。大事にしている。

**21 私が残念なのは** 何と云っても妻に先立たれた事だ。

**22 大部分の時間を** 趣味、謡、書道等に費し、

老人クラブ活動(副会長)にも大分時間をさかれている。

**23 結婚** は恋愛だ。これは自分なりに幸だったと思うが、妻に先立たれている。

**24 天皇制** は守らねばならぬ。憲法制定に当たって白眉の焦点だった。日本は成り立たない。

**25 どうしても私は** 教育問題は、これからの日本最大課題だと思う。

**26 家の人は** 私はどう思っているか考えることがある(昔気質の自己主張型を脱し切る心算だが)

**27 私が羨ましいのは** ほんとうに仲のよい家族だ(特に嫁のやさしい心配りをもった)

**28 年とった時** は楽しいやすらぎのある家族の中で暮らしたい「妻と二人で健康に」今は叫ばない。

**29 私が努力しているのは** 抑制心である。

**30 私が忘れられないのは** やはり、子供の死亡のことである。二人の子供をなくしている。

## パーソナリティー・スケッチ

### I. 自己:

古き良き時代の潤いのある世の中を求め、孫の教育を憂い少しでも世のためになりたいと願っている。現在は趣味の謡や書道等に時間を費やし、また老人クラブ活動に副会長として活躍中。今でも内にファイトを秘め、不言実行に燃えているが活動域は少ない。人から頼まれるといやと云えない性格。

### II. フライマリー:

妻と子供二人を亡くしているが、息子夫婦と孫3人計6人家族。昔気質の自己主張型ととられ、けむたがられる存在。本人がこの時代で恋愛結婚であっただけに、妻に先立たれたことは無念かつ孤独の所以。兄弟を誇りに思い、亡き父母も尊敬。生育家庭は良好。

### III. セカンダリー:

戦後の自分方の親戚の援助に感謝、職場での人間関係もまあまあか。今は近所付き合いも努力し良好。社会には良きリーダーの出現を期待、現在の

政界・財界・官界みな駄目と批判的。なににより教育が最重要課題であると考え。天皇制は堅守すべきという考え。

#### IV. 自然:

自然に関する記述はない。

#### V. 超越者:

自分が招いたものでない病気は仕方がない。ベストを尽くして戦うのみ。死の尊厳から「安楽死」には反対。年齢からいって無理せず大事に生きている。その他の超越者への言及はない。

(向井恒夫)

事例 16 女性 18歳 茨城県水戸市在住

#### Part I

1 子供の頃、私は 明朗活発で、いじめっこ気味だった。

2 私はよく人から 頼りがいがあるが、ちょっと抜けているところがあると言われる。

3 私の家は かなり不便なところにある。

4 私の失敗 は多すぎて いちいち書いてられない。

5 家の人は私を 無難な娘に育ったと言う。

6 私が得意になるのは 見かけによらず素直だと言われた時である。

7 争い は醜いけど、仕方がない。

8 私が知りたいことは 未来の私。

9 私の父 は働き者だ。

10 私がきらいなのは じめじめした性格の人。

11 親戚 づきあいは、めんどくさそうだ。

12 死 を迎える覚悟ができたなら、死にたい。

13 世の中、なかなか思い通りにはいかないものだ。

14 私ができないことは べろんべろんに酔っぱらうこと。

15 恋愛 には憧れるが、自分が傷つく又は相手を傷つける可能性が大きいので不安もある。

16 将来 私は 光る女性でありたい。

17 もし私の母が 教育ママだったら、私は絶対グレたと思う。

18 仕事 よりは家族をとという人と結婚したい。

19 私がひそかに 抱いている夢は、大自然の中でのんびり暮らすというものである。

20 近所づきあい がもうちょっとできるようになれば、楽しいと思う。

21 夫 は誠実でありたい。

22 時々私は 自分がとてもたまらなくイヤになる。

23 私がかんがえるのは ひたむきに生きている人の瞳。

24 私の不平は 非常識な人間が多すぎることである。

25 私の兄弟(姉妹) は妹1人であるが、あまりかわいいとは言えない。

26 職場では 公正な人でありたい。

27 私にとって大事なものは 失敗をどう生かしていくかということだ。

28 今までは あまりに、ミーハーすぎたので、これからは少し気をつけようと思う。

29 女 に生まれて自分はよかった。

30 日本 は外国あつての日本だということを忘れてはいけない。

#### Part II

1 家では よくしゃべる方だ。

2 私を不安にするのは 病んでいく地球・社会を映す TV の画面や本の文章である。

3 友だち は多い方だが、親友がほしい。

4 私はよく 働く方だと思う。

5 子供 を生むこと または作ることは この世に生まれてきた人間の義務だと私は考える。

6 もし私が 国会議員になるとしたら、精一杯、国民のために働きたいと心から思う。

7 私の母 はしっかり者だ。

8 転職 を否定する気はないが、私はできれば同じ職場でがんばれたらいいと思う。

9 男 はまだ女をばかにしていると思う。

10 私の眠り は深く、めざまはさわやか!!

11 もし私の父が 料理好きだったら、私も料理好きになっていることだろう。

**12 同棲** のままではいるのはイヤだが、結婚前にお互いを確かめ合うのにはよいと思う。

**13 私が好きなのは** スポーツをしている人の輝き。

**14 病氣** を気力で治す部分って、多いと考える。

**15 私の頭脳** は人並であると考える。

**16 金** が全てという人間にはなりたくない。

**17 私の野心** 野心を抱けるような力強い心がほしい。

**18 妻** になったら、母にもなりたい。

**19 調子のよい時** は向こう見ずにただひたすらつっ走る傾向がある。

**20 私の健康** は、最近自分でコントロールしながら保てるようになってきた。

**21 私が残念なのは** 動物が人間の勝手に多大な迷惑を被っていることである。

**22 大部分の時間を** 自分は精一杯使いたい。

**23 結婚** をして 子供がほしい。

**24 天皇制** を否定する気はないが、日の丸や国歌強制は納得いかない。

**25 どうしても私は** 自分に対して甘くなってしまう。

**26 家の人は** 自分勝手な面が強いと思う。

**27 私が羨ましいのは** 自分の意見をもって、しっかり生きている人

**28 年とった時** 何か打ちこめるものや、社会に役立つことを身につけていたい。

**29 私が努力しているのは** やはり、知識を身につけることである。

**30 私が忘れられないのは** 高校2年のとき文化祭で主役をやったことである。

## パーソナリティ・スケッチ

### I. 自己:

大学生。「力強さ」「意志の力」「自己コントロール」といったものに価値を置いている。自己に対する評価は厳しく、「ミーハーすぎた」「自分に対して甘くなってしまう」といったものだが、客観的にみて、いかにも真面目な地方の大学生という感じ。「光る女性でありたい」「打ち込めるものや、社会の役立つことを身につけたい」といった

自己実現欲求についての言及も散見される。

### II. プライマリー:

現在の家族は、働き者の父としっかり者の母、あまりかわいいとは言えない妹1人。特に家族から心理的圧迫を受けたということはないようだが、反対に家族に固着しているという風でもない。将来は結婚し、母になりたいと思っている。出産は人間としての義務という考え方。結婚相手には、仕事より家庭を優先する誠実な人を望んでいる。

### III. セカンダリー:

友人は多い方だが、親友はいない。親戚付き合いは面倒だと感じているが、近隣との付き合いはもう少しあった方がいいと考えている。社会的関心は強く、「非常識な人間が多すぎる」と批判的。「もし私が国会議員になったら…」と、この年代には珍しく政治を自分の問題として捉えているようだ。日の丸・国歌についての問題にも言及しており、おそらく教育関係の専攻かと思われる。

### IV. 自然:

自然環境問題にも関心があるようで、TVの報道を観たり、本を読んだりしているようだ。反応としては、「将来は大自然の中で暮らしたい」「人間の勝手に動物が迷惑を被っている」と、感情的色彩が濃いよう。

### V. 超越者:

死に関しても、「覚悟ができれば死にたい」と、超越者と言うより、自分の意志の及ぶ範囲と感じているよう。他に特に超越者についての言及はない。  
(西村麻由美)

**事例 17** 女性 19歳 東京都杉並区在住

### Part I

**1 子供の頃、私は** 妹や近所の年齢の近い子達と一緒によく遊んだものだった。

**2 私はよく人から** こう言われる。「第一印象は

おとなしくてひっこみ 思案な子かと思ったけれど、全然違って明朗活発で friendly だね。」

**3 私の家は** 家族の団らんをととても大切にしている、友達が遊びに来た時も「仲のいい家族だね。」とよく言われる。

**4 私の失敗** は生まれてから数えきれないほどあり、特にお金に関することが多くて困っている。

**5 家の人は私を** 家の中と外であまりにも態度が違うことにあきれている。

**6 私が得意になるのは** 好きなスポーツ（テニス・スキー）で、華麗なプレイをきめることができた時だ。

**7 争い** ごとが絶えない人間関係（家族・友人・会社）は悲しいものだ。

**8 私が知りたいことは** 世の中にたくさんあって、勉強していてもすぐ他のコトに興味をもったりしてしまう。

**9 私の父** は子ぼんのうで私と妹が幼い頃は、日曜日になると必ず遊びに連れていってくれて、現在も親バカな父である。

**10 私がきらいなのは** うじうじした人。はっきりしない人。1人で行動できない人。陰口たたく人。陰険な人。

**11 親戚** づきあいは良い方である。季節のあいさつ・訪問は、たいてい行っている。

**12 死** について考えさせられることが多くなってきた。エイズ・脳死・本人へのガン告知・移殖などの話題で。

**13 世の中** , いつもどこかで争いが続いている。全人類が平和にすごすことができる世の中になってほしいものだ。

**14 私ができないことは** ダイエット。

**15 恋愛** について語らせればピカーという先輩がいるのだけれども、いつか一回、恋愛について語りあいたいものだ。

**16 将来** キャリアウーマンとしてバリバリ働くんだった!! ーと高校生の頃は夢に見ていたけれど、この頃不安を感じている私。

**17 もし私の母が** 健康で丈夫な身体をもっていたら、一緒にスポーツが楽しめるのに…。

**18 仕事** も育児もこなす、元気なお母ちゃんに

なりたい。

**19 私がひそかに** 思いをよせていた彼とつきあうようになって7ヶ月がすぎて、いまは HAPPY な私

**20 近所づきあい** は現在ほとんどなくなってしまっって悲しい。

**21 夫** と 共働き,家事も半々にしたいけれど、できるかな…。

**22 時々私は** めい想にふけてってポーッと時間をすごすことで、身体を休ませている。

**23 私が心ひかれるのは** 強い男性。頼もしくて堂々としていて、心の広い大きな人。

**24 私の不平は** 小さい頃、妹の方が大人びた顔つきで身長もあまり変わらなかったの、友達かもしくは姉妹逆に見られたこと。

**25 私の兄弟(姉妹)** は、2歳下の妹1人で、みっともないけんかをしなくなったこの頃は、一緒に遊びに行ったりショッピングをしたりと、仲良しである。

**26 職場では** 絶対管理職クラスまで昇格したい。

**27 私にとって大事なものは** 家族。つっぱって強がっても、やっぱり安心できる家庭があるのって違うと思う。

**28 今までは** よく食べすぎなくらい食べていたが、最近 へらしぎみになった。

**29 女** の自立, 社会進出などさかんに叫ばれてきたけど、実際はまだまだ。叫ばれること自体がかなり遅れてたし、日本ってまだだめだな。

**30 日本** の国って、他からとり入れるのは上手なくせに、創造性に欠けると言われる。

## Part II

**1 家では** ヒステリーである。

**2 私を不安にするのは** ホラー物。

**3 友だち** は私の宝物。

**4 私はよく** 授業中にねてしまう。

**5 子供** は 2人 欲しい (男・女1人ずつ)。

**6 もし私が** 美人でスタイルがよかったら、たくさんの男を手玉にとることができたのに…。

**7 私の母** は偉大だ。

**8 転職** は、必要に応じて どんどんしてもいい



いと思う。

9 男 は 強くなくちゃ いけない!

10 私の眠り は浅い。

11 もし私の父が いなかったら、今頃大学生なんてやっていたらいい。父に感謝している。

12 同棲 は、結婚を前提にした男女ならしてもいいと思う。

13 私が好きなのは おかし作り。長電話。おしゃべり。ばかさわぎ。

14 病気 しないよう、リズム正しい生活を心がけている。

15 私の頭脳 が明晰だったら、学者になれるのに。

16 金 をたくさん貯めて、たくさん旅行したい。

17 私の野心 は日本征服。

18 妻 にはなりたくないけど、嫁にはなりたくない。

19 調子のよい時 は何事もうまく事が運ぶものだ。

20 私の健康 状態は、あまりよくない。

21 私が残念なのは 彼とあまり会えないこと。

22 大部分の時間を 勉強に費やしている。

23 結婚 願望は高い方である。

24 天皇制 反対。

25 どうしても私は 調子にのるとハメをはずしてしまう。

26 家の人は みんな性格がバラバラである。

27 私が羨ましいのは スタイルが良くてきれいな人。

28 年とった時 でもキレイなもち肌でいたい。

29 私が努力しているのは 美容と健康に十分留意すること。

30 私が忘れられないのは テニスの合宿後、過労で入院したこと。

## パーソナリティ・スケッチ

### I. 自己:

好きなのは「おかし作り。長電話。おしゃべり。ばかさわぎ。」都心の四年制大学に通う、ごくノーマルな女子大生。日常生活を大いに謳歌しているようだが、大部分の時間は勉強に費やしているとの事。高校生の頃はバリバリのキャリアウーマン

を理想の自己像としていたようだが、現在は少し現実とのギャップを感じている。「絶対管理職クラスまで昇格したい」とはっきり記述できるのは、男女雇用均等法施行後、総合職が現実のものとなった年代ならではの。恋愛中で、目下の興味は自分のスタイルと美容にあるようだ。

### II. プライマリー:

偉大な母と子煩悩な父と妹と同居。団らんをとっても大切にす家庭。父は日曜毎に子供達の相手をするなど、ニュー・ファミリー世代のはしりになるかと思われる。本人も自分にとって大事な家族だとしている。

結婚願望は強く、仕事と家庭を両立させて、子供2人を育てる「元気なお母ちゃんになりたい」。そのためには、夫とは共働きで、家事を半々に分担してほしいが、実際問題としてできるかどうかは、本人もやや不安に思っている。また、妻にはなりたいたが、「嫁にはなりたくない」という本音も抵抗なく記述している。

### III. セカンダリー:

友達は宝物であり、関係は良好。家にも遊びに来たりする。親戚付き合いもかなり密接に行っている。近隣との付き合いも無くなってしまって悲しく思うなど、対人指向的。

社会的な関心は、世間で話題になっている程度はあるようだが、自発的なものではなさそう。天皇制については、その根拠が良くわからないが、「反対」としている。

### IV. 自然:

今のところは、日常生活周辺に視点が向いているようで、これに関する記述は見られない。

### V. 超越者:

「死」に関する話題(エイズ・脳死・ガン告知・移植)が多くなって、考えさせられることが多いといった程度の言及。(西村麻由美)

事例 18 女性 20歳 東京都目黒区在住

### Part I

1 子供の頃、私は おとなしく、無口だったらしい。

2 私はよく人から うるさい、明るい等と言われる。

3 私の家は 他人からみると面白い構成らしい。

4 私の失敗 は 自慢にまでなってしまうほど、くだらない。

5 家の人を私は 年の離れた ノホホーンとしている娘(妹)と思っている。

6 私が得意になるのは くだらないだじゃれの連発である。

7 争い ごとはしたくないけれど、家では年がら年中叫び合う。外面のいい私です。

8 私が知りたいことは 昔も今もたくさんある。だから この興味心旺盛なことが大切だと思う。

9 私の父 は エリートの道にのったが為に子供の教育を母に任せてしまった。だから子供が寄りつかない。

10 私がきらいなのは うそと人を意味なく裏切る奴。

11 親戚 は たくさんあるらしいけれど、外国に長く住んでて あまり知らない。

12 死 があるから生があり、生があるから死がある。

13 世の中 そんなにあまくない。

14 私ができないことは 自分に対して すごく厳しくすることである。

15 恋愛 論は その年齢、性格等によって それぞれ違うはずだから今年流りの恋愛は理解できない。

16 将来 自分の人生に悔いなく生きていきたい。

17 もし私の母が 「あなたは私の子じゃない」と言っても、驚かない。なぜなら四六時中、「本当に誰にも似てないわね」の連発しているからだ。

18 仕事 を生きがいにして、毎日輝いていた

というのが私のゆめである。

19 私がひそかに 気に入っている子(弟にしたい)がクラスいる。

20 近所づきあい は日本の昔からのもので大切な伝統だと思う。

21 夫 となるべき人は 私を理解してくれることのみ望む。

22 時々私は スーパーマンのように空を飛びたくなる。

23 私が心ひかれるのは ふとしたことに優しさににじみでているものや人である。

24 私の不平は だらだらと授業をやり、要点をぐじゃぐじゃ言う教授である。

25 私の兄弟(姉妹) は ‘とんでる’ と思う。

26 職場では プライベートな(私生活の)ことは出したくないし、聞きたくない。

27 私にとって大事なものは 今 自分がどう心を感じているかということ。

28 今までは こうであったから という理論はもう成り立たないぞ、政府!!

29 女 は常に男を必要とし、男も常に女を必要とする 悲しい人間のさがである。

30 日本 人は日本という国を誇りに思うべきだ。(米国と比べて)

### Part II

1 家では 常に機嫌の悪い、ヒスな私である。

2 私を不安にするのは 何も考えてなく ヘラヘラ生きている現代の若者である。

3 友だち は選ぶことができない、自分と同じ価値の人間であるから自分の鏡でもある。又、大切な宝物である。

4 私はよく 変なヘマをして 周りから受ける。

5 子供 の頃が 一番良かったと思う。

6 もし私が 死んだら運にお骨をまいて欲しい(墓地事情が難しいし…)

7 私の母 は、何でも自分1人でやろうとする頑張屋なのだけど、はっきり言って子は迷惑している。

8 転職 は決してマイナスだとは思わない。

9 男 は最近 なよなよしている。

- 10 私の眠り が 浅いのはわりと有名
- 11 もし私の父が 私に意地悪しても 10倍にして返してあげる。
- 12 同様 してから結婚することが互いの為にも一番いいと思う。
- 13 私が好きなのは ポーッと day dream することだ。
- 14 病氣 がちな私を 一般的に友達は「死んでも風邪ひかない」と思っているらしい。
- 15 私の頭脳 の使用率が 10% 台であろうと思うが 100% とは言わずに 50% 使ってみたい。
- 16 金 が全ての世の中になってしまったと思う。
- 17 私の野心 は企業の中から上へ のし上がることだ。
- 18 妻 の役目とは 日本ではうるさいと思う。
- 19 調子のよい時 は 元気一杯で一人で漫才をしてしまう。
- 20 私の健康 は一番気を付けていることだ。
- 21 私が残念なのは 世界が日本をなめていることだ。
- 22 大部分の時間を 無駄にしていると思う。
- 23 結婚 はスタートであって ゴールではない。
- 24 天皇制 はあっていいと思うが 閉鎖的すぎると思う。
- 25 どうしても私は 日本の政府に言いたい！ なよなよするな、元首相の奴らはすっぱりとやめて出てくるな！
- 26 家の人 は 私のことをかなり心配しているらしい。
- 27 私が羨ましいのは 自分のポリシーを持って生き抜いてった人々である。
- 28 年とった時 老けるのがいやだと思わず、魅力的なおばあちゃんになりたいと思っている。
- 29 私が努力しているのは 自分に素直になることと、ダイエットである。
- 30 私が忘れられないのは 海外に住んだ 9年半のことである。

## パーソナリティ・スケッチ

### I. 自己:

帰国子女。都心の四年制大学に在学中。帰国後の不適応などについての記述はないが、海外在住は忘れられないこととして言及されている。将来は、仕事を生きがいにし、企業の中から上へのし上がりたいと希望している。ポリシーを持って、自分に素直に生きていたいと思っているが、現実の厳しさも感じている。身体は丈夫な方ではなく、健康には一番気を付けているが、ダイエットにも努力中。

### II. プライマリー:

家族は、エリートの父と頑張り屋の母。“とんでる”姉か兄がいるようだが、詳細は不明。父は仕事第一で、家庭は妻に任せきりという日本の典型的な父親。子供とはかなり心理的に距離がある。一方では、本人と母の間にも葛藤があり、家庭では不機嫌な状態が多いようだ。しかし、家人に心配されていることも自覚している。将来の自分の結婚や家庭について、具体的な像は無いようだ。ただ、夫には自分を理解してくれることのみを望むとしており、妻の役目は、日本では大変だと感じている。

### III. セカンダリー:

友達とは自分と同じ価値(観)をもつ大切な宝物。親戚は海外在住が長く、殆どつながりは無いようだ。近所付き合いは、大切な日本の伝統だと考えているが、具体的な記述はない。職場での人間関係は、プライベートなものにしたくないと考えている。

社会的関心は強いようで、この年代の女性のSCTではあまり記述されない政治家に対する批判が目立つ。また、現代の若者が何も考えないことや、男性が「なよなよしている」ことにも批判的。海外経験のためか、日本の伝統や愛国心といったものにも関心があり、日本人は国に対して誇りを持つべきだと感じている。

#### IV. 自然:

特に記述はない。

#### V. 超越者:

生と死は表裏一体といった死生観についての記述や、もし自分が死んだら墓地事情が悪いので、お骨はまいて欲しいといった記述がみられる。

(西村麻由美)

#### 事例 19 女性 28歳 埼玉県狭山市在住

##### Part I

- 1 子供の頃、私は 活発な少女だった。
- 2 私はよく人から 「おもしろいねー」と言われる。
- 3 私の家は 家族皆仲が良い。
- 4 私の失敗 は、けっこうささいなことが多い。
- 5 家の人は私を 愛してくれている。
- 6 私が得意になるのは 人から誉められた時だ。
- 7 争い 事は大嫌いだ。
- 8 私が知りたいことは まだまだたくさんあって勉強しなければいつも思う。
- 9 私の父 は大変ユーモア精神にあふれていておもしろい人だ。
- 10 私がきらいなのは 他人の良いところを見れずに悪口ばかりいう人だ。
- 11 親戚 には音楽好きがそろっている。
- 12 死 に関して、先日読んだ遠藤周作の文章が興味深かった。
- 13 世の中 やはり世紀末に近いせいか大事件ばかりが最近多くていやだ。
- 14 私ができないことは 弱い者いじめをすることだ。
- 15 恋愛 は奥が深い。
- 16 将来 どんなふうになるのだろうか。それを考えると楽しくもあり、また少々不安でもある。
- 17 もし私の母が バリに留学したいと言ったら

喜んで応援したいと思う。

- 18 仕事 が最近楽しくなってきた。
- 19 私がひそかに 感じていることは、バカな上司もいるもんだなーということである。
- 20 近所づきあい はむずかしい。
- 21 夫 となる人はどんなに困難におちいった時でもがんばれるような心を持った人であってほしい。
- 22 時々私は 早くお母さんになりたいと思うことがある。
- 23 私が心をひかれるのは 小さな子供がむじゃきに遊んでいる姿を見たりした時である。
- 24 私の不平は 戦争や災害で苦しんでいる国に対して日本の政府がなかなか手を差し伸べようとしないことである。
- 25 私の兄弟(姉妹) は弟がひとりである。
- 26 職場では けっこうムードメーカー的立場にいる。
- 27 私にとって大事なものは 家族や友人である。
- 28 今までは 親に甘えていた部分もたくさんある。が、これからはもっとしっかりしなければと思う。
- 29 女 に生まれて良かったと思う。
- 30 日本 人が時々嫌いになることがある。

##### Part II

- 1 家では 家族それぞれの役割をきちんとこなして気持ちの良いくらしをしていると思う。
- 2 私を不安にするのは 戦争が起こったり、難民が苦しんだりしているのに日本人はなにもしないことだ。
- 3 友だち は皆素敵な人ばかりで学ぶことが多い。
- 4 私はよく 演劇を観たり、サントリーホールに行ったりする。
- 5 子供 は見ていてあきない。
- 6 もし私が 男だったらと思うととてもおもしろい。
- 7 私の母 は自分の親ながら努力家でよく勉強するし立派だと思う。
- 8 転職 も考えたことはあるが、今は今のままで良いと思っている。

9 「男の中の男」といえるような人が最近少ないが、男性は「女らしい女」が少ないと思っているのだろう。

10 私の眠り は深い方だ。

11 もし私の父が 中国に勉強に行きたいと言ったら喜んで応援したいと思う。

12 同棲 について、デンマークではずいぶん進歩的な考え方をしているようだ。私もお互いを良く知り合ってから結婚を考えるのは良いことだと思う。

13 私が好きなのは さりげなく気くばりのできる人だ。

14 病気 にならないよう、自分で努力することは大切だ。

15 私の頭脳 は悪い方ではないと思う。でももっと使ってやらなくてはかわいそうだ。

16 金 は人の心をまどわすことがある。しかし自分にはまどわされるほどお金は入ってこないのでも世間をおさわがせするようなことはしないだろう。

17 私の野心 は特にもっていない。

18 「妻 子ある男性との恋愛」=不倫がはやっているようだが私にはできそうにない。

19 調子のよい時 は人の2倍も3倍もパワーがでるようだ。

20 私の健康 は私が自分で守らなければいけない。

21 私が残念なのは エゴイストが多いことである。

22 大部分の時間を 仕事に費やしている。

23 結婚 はいつかはしたいなと思っている。

24 天皇制 について深く考えたことはあまりない。

25 どうしても私は 好きになれない人がいる。

26 家の人は 皆明るい。

27 私が羨ましいのは 本当に信頼しあえるパートナーを見つけた人である。

28 年とった時 ひとりぼっちはやはりさびしいだろうと思う。

29 私が努力しているのは 人に対していつも誠実であろうとすることである。

30 私が忘れられないのは 「二十四の瞳」を観て

感動した時のことである。

## パーソナリティ・スケッチ

### I. 自己:

恵まれた家庭に育ったしっかりした明るい人。子供の頃から活発で、人にはおもしろいといわれるという。子供が大好きで、お母さんになりたいそう。

社会的関心も高く、世界の弱い立場の人々に手を差し伸べない日本が嫌い。正義感が強そう。人の好き嫌いがはっきりしているようで、人に対する要求水準は高いのではないかと。

仕事も楽しくこなし、演劇・コンサートと余暇も充実しており、毎日が楽しそう。キャリア志向ではなく、結局は結婚に憧れをいだいている。

### II. プライマリー:

両親と弟の4人家族。仲はよさそう。父親をユーモアあふれたおもしろい人と評し、母親は努力家・勉強家で、尊敬しているという。

同棲には賛成だが、不倫は自分にはできないという。

### III. セカンダリー:

職場では、ムードメーカー的役割をはたしており、最近楽しくなってきたという。かといって、仕事に燃えているわけではなく、転職も考えたことがあるという。

親戚には、音楽好きが多いそう。友達は大事。最近の世界情勢が不安定で、大事件が多くて嫌になり、時々日本人が嫌いになるとのこと。天皇制については深く考えたことがないという。

### IV. 自然:

自然にたいする記述は、全くない。

### V. 超越者

信仰はない。年をとったときには一人は寂しいといい、病気にならないよう自分で努力したいそう。

(碓 由美子)

事例 20 女性 32歳 東京都世田谷区在住

### Part I

- 1 子供の頃、私は 消極的な方でした。
- 2 私はよく人から 物事深く考えすぎと言われますが自分ではあまりそうは思わないのです。が…。
- 3 私の家は 貧しかったように思います。
- 4 私の失敗 いろいろあります。
- 5 家の人は私を わがままという時があります。
- 6 私が得意になるのは 旅行の時かな?!
- 7 争い はあまり好きではありません。
- 8 私が知りたいことは 自分と同じくらい、又は結婚している女性について何を目的に生きているか。
- 9 私の父 は今思うとやさしい人です。
- 10 私がきらいなのは 冷たい人。
- 11 親戚 はわずらわしいことが多いです。
- 12 死 はいつか自分にも家族にもいつかおとずれるのでしょがあまり考えたことはないです。
- 13 世の中 男社会だなぁーとつくづく思います。
- 14 私ができないことは なんだろう?
- 15 恋愛 とは相手への思いやり又は自由なものの感動。
- 16 将来 は何かと不安です。
- 17 もし私の母が 元気だったら海外旅行につれて行ってあげたい。
- 18 仕事 は私の生活でもあります。
- 19 私がひそかに 考えていることは、いかに短期間にお金もうけができるか。
- 20 近所づきあい はあった方がいいのですがエスカレートするとわずらわしい。
- 21 夫 にはもっと家事を手伝ってもらいたい。
- 22 時々私は プツン切れておこり出す時があります。
- 23 私が心をひかれるのは 思いやりのある人。
- 24 私の不平は 仕事も子供も結婚もという女性に対しての、会社、社会、家庭の環境の悪さです。
- 25 私の兄弟(姉妹) の中で一番仲がいいのは、

姉、妹です。

26 職場では 特に不満はないですが、会社組織にはあります。

27 私にとって大事なものは 時間です。

28 今までは 今さえ良ければと思っていましたが子供を生んでから将来などの計画をもたなくてはと思っています。

29 女性の社会進出はまだまだだと思えます。

30 日本人はやさしい人種であるはずですが関係のない人に対しては合理的だと思います。又、日本社会はまだまだ男社会だと思えます。

### Part II

- 1 家では 家事におわれています。
- 2 私を不安にするのは 健康です。
- 3 友だち は大切です。
- 4 私はよく 今後女性は何をすべきか考えていけないといけないと思えます。
- 5 子供 は正直で子育てして自分も成長しているかなーと思えます。かわいいです。
- 6 もし私が まだ独身だったら淋しかったかなーと思えます。又、もっと気が強くなっていたと思えます。
- 7 私の母 はとても大変な人生だったかと思う。
- 8 転職 は自分のことをよく考えて何がやりたいか決まったらするべきと思えます。
- 9 男 は最近変わってきたと思えます。
- 10 私の眠り は深いです。
- 11 もし私の父が 頑固だったら家庭は暗かったと思えます。
- 12 同棲 は一度したかったと思えます。
- 13 私が好きなものは 服を買うことです。
- 14 病氣 になると健康であることのありがたみがわかります。
- 15 私の頭脳 はもっと良くなってほしい。
- 16 金 はあった方がいい!
- 17 私の野心 よりいい家で快適な生活をする。特にない。
- 18 妻 の時間は 1/3 でいいと思っている。
- 19 調子のよい時 は気分もいいです。
- 20 私の健康 状態はいい方だと思えます。

**21 私が残念なのは** ステキな女性が 40 代, 50 代で少ないことです。

**22 大部分の時間を** 子供と夫のために使ってしまったている。

**23 結婚** はした方がいいと思う。

**24 天皇制** についてはあまり深く考えたことはない。

**25 どうしても私は** うそつきが嫌いです。

**26 家の人は** とても大切です。

**27 私が羨ましいのは** お金もち……大きな家に住んでいる人。

**28 年とった時** かわいいおばあちゃんになりたい。

**29 私が努力しているのは** 自分を磨くこと。

**30 私が忘れられないのは** 出産した時の感動。

## パーソナリティ・スケッチ

### I. 自己:

仕事をもつ主婦で、仕事を自分の生活でもあると考えているが、大部分の時間を子供と夫のために使ってしまったいて、もっと自分のための時間がほしいと思っている。また女性として自分を磨く努力をしており、結婚や子育てによっても自分が成長していると感じているようだ。お金や大きな家に対する願望があるようだ。

### II. プライマリー:

家族構成は夫と子供。子供はかわいいが、夫に対してはもっと家事を手伝ってほしいとやや不満をもっている。両親に対しては肯定的な感情を持っているようだ。兄弟姉妹は多いのか、姉と妹とは仲が良いらしい。親戚とのつき合いはわずらわしいと感じている。

### III. セカンダリー:

日本社会は男社会で、女性の社会進出はまだまだだと思っている。仕事も子供も結婚もという女性に対しての会社、社会、家庭の環境の悪さに不満を持っている。また友だちは大切だと思っており、近所づきあひもあった方がよいが、エスカレートするとわずらわしいと感じている。

### IV. 自然:

自然に対する記述は、ほとんど見られない。

### V. 超越者:

死についても、あまり考えたことがないようだ。(佐藤由美子)

事例 21 女性 34歳 東京都町田市在住

## Part I

**1 子供の頃、私は** 母のうしろにいつも隠れているような子供だった。今の私を見ると信じられないと夫は言う。

**2 私はよく人から** 若く見られる。子供を出産したのが 31 才だったため、小さい子を連れてくるからかしら。

**3 私の家は** 4DK の一戸建て、8 年前に購入した。ローンが終わる頃、家はボロボロかな。

**4 私の失敗** 学生時代にもっと親友を作っておくべきだった。

**5 家の人は私を** お母さんと呼ぶ。子供にとっては確かに母親であるが、夫にとっては違うはずなのに。

**6 私が得意になるのは** 料理をほめられた時かしら。今日も梅づけに赤じそを入れて梅雨あけを待っている。

**7 争い** 事はできるだけ避けたい。

**8 私が知りたいことは** 小さい子供がいても何らかの形で社会に出る方法。

**9 私の父** は 9 年前胃がんで亡くなった。今では少なくなった本当に存在感のあるたのもしくてやさしい人であった。

**10 私がきらいなのは** 「嘘」

**11 親戚** は遠くに住む人が多く、ふだんはつき合いがあまりない。お正月やお盆、お祝事の時くらい。

**12 死** ぬのは恐ろしい。自分自身の死もこわいが、まわりの大切な人の死はもっといやだ。

**13 世の中** 変化が速い。

- 14 **私ができないことは** 車の運転。
- 15 **恋愛** いつまでもしてきたい。だが現実は厳しい。
- 16 **将来** 子供が手をはなれたら、仕事をした  
い。
- 17 **もし私の母が** 寝込むような事があつたら、  
面倒をみたい。
- 18 **仕事** をしていたのは8年程。一度辞めると  
なかなか始めるのは大変である。
- 19 **私がひそかに** 夫よりテニスの腕を上げよう  
と思っている。秋から又スクールに行くぞ。
- 20 **近所づきあい** はそれなりに。確かに遠くの  
親戚より近くの他人である。
- 21 **夫** 41才。やさしい中年。でも最近忙しくて  
目つきがやや悪い。
- 22 **時々私は** 1人になりたいと思う。
- 23 **私が心をひかれるのは** 自分自身の自立。経  
済的にも精神的にもひとり立ちしてみたい。
- 24 **私の不平は** 我家に車が無いこと。又あつても  
運転できる人がいない事。
- 25 **私の兄弟(姉妹)** は兄が2人。上の兄とは、  
13才も年がちがう。だから兄弟げんかをした記  
憶がない。
- 26 **職場では** 人間関係がたいへんであつた。し  
かし学ぶ事も多い。
- 27 **私にとって大事なものは** 今の所、平穏な家庭  
生活。
- 28 **今までは** 若かったからで多少許される事が  
あつたが、これからはそうもいきまい。
- 29 **女** たのしくて、強くて、地に足がついて  
いて、でもそれを悟らせないずい生物。
- 30 **日本** は最近世界の中で孤立しつつある。

## Part II

- 1 **家では** もちろん「主」である。
- 2 **私を不安にするのは** 最近夫との会話が少な  
いこと。
- 3 **友だち** は大事にしたい。家族ぐるみでつき  
合える、そんな友だちを増したい。
- 4 **私はよく** 手づくりを楽しむ。編み物、藤工  
芸、つけ物や保存食品(ジャム、梅干、梅ジュ  
ース etc.)

5 **子供** は女の子が一人。今がかわいいさかり  
の3才。来年から幼稚園。

6 **もし私が** もう一回生まれかわつても、やっ  
ぱり女がいい。

7 **私の母** は若い人に生花を教え、毎日忙しそ  
うに動きまわっている。しかし父が死んでから1  
人ぐらし。持病の狭心症が心配。

8 **転職** は35才くらいが限度だと思う。

9 **男** やさしくて、お人好しで、痛みに弱く  
て、でもやせ我慢して頑張っている、そんな生  
物。

10 **私の眠り** は浅い。特に子供が生まれてか  
ら、朝まで一度も目をさまさずに熟睡したとい  
うことがない。

11 **もし私の父が** 生きていたら、いっしょに旅  
行がしたい。

12 **同棲** 建て前としては好ましくない。しかし  
結婚してから失敗だつたと気づくよりも良いのか  
もしれない。

13 **私が好きなのは** 夫、子供、友人との会話、  
テニス、秋、etc.

14 **病氣** 今まで大病をした事がない。しかし父  
が胃がん、母が狭心症、遺伝的に考えるとこれか  
ら気をつけなくては。

15 **私の頭脳** は中の中。

16 **金** ある程度あつた方が争いもないし、精神  
的にも豊か。

17 **私の野心** 40才までに何か始めるぞ。

18 **妻** 「さしみのいろどり」ではない妻であり  
たい。

19 **調子のよい時** と悪い時、子供に対していつ  
も同じようには接しられない。反省。

20 **私の健康** 今までは自身があつた。しかし出  
産後、風邪をひきやすくなつたり、アレルギーが  
でたりする。今年から健康診断を受けたい。

21 **私が残念なのは** 安心して食べられる食品が  
減少していること。

22 **大部分の時間を** 今の所、家事と育児につい  
やしている。

23 **結婚** 一度はした方がよい。まったくの他人  
と生活する事は自己の発見につながる。

24 **天皇制** 戦後のような天皇制ならばあつた方



が良い。宗教心の無い日本人にとって象徴は必要。

**25 どうしても私は** 夫の実家の家族にはなりきれない。ある程度距離を置いているからうまくいっているのではあるが。

**26 家の人**は 全員健康、有難いことである。しかし今年が夫が厄年、気をつけよう。

**27 私が羨ましいのは** 家庭もしっかり持ちながら仕事をしている女性たち。

**28 年とった時** 子供はあてにしたくない。精神的なつながりは大切にしたいが、経済的には夫婦で自立したい。

**29 私が努力しているのは** 人間関係。

**30 私が忘れられないのは** 父の死。あの時仕事を長期休んでも最後を看取ってあげればよかった。

## パーソナリティ・スケッチ

### I. 自己:

現在は家事と育児に大部分の時間を費している主婦であるが、子供の手が離れたら仕事をしたいと思っている。現在の平穏な生活を大事にしているが、妻と母親という立場だけでなく一人の女性として経済的にも精神的にも自立することを望んでいる。手づくりやテニスなど趣味も多いようだ。

### II. プライマリー:

家族は 41 才の夫と 3 才の娘。夫は仕事が忙しいらしく、会話の少ないことを気にしている。娘はかわいいさかりである。また両親に対する愛情も豊かで、9 年前に亡くした父を看取ってあげられなかったことを後悔しており、一人暮らしの母の健康を気づかっている。兄弟は兄が 2 人で年が離れているようだ。

### III. セカンダリー:

以前仕事をしていた職場でも、近所づきあいでも、人間関係には気を使っているようだ。親戚は遠くに住んでおりあまりつきあいはないようだ。また、家族ぐるみでつき合える友だちを大切に

たいと考えている。

世の中に対しては変化が速いと感じており、日本の孤立化など社会に対する関心ももっている。

### IV. 自然:

主婦らしく、安心して食べられる食品が少ないなどの問題意識ももっている。

### V. 超越者:

父親の死を経験しているせい、まわりの大切な人の死を恐れている。

また戦後の天皇制には賛成で、宗教心のない日本人にとって象徴は必要だと思っている。

(佐藤由美子)

## 事例 22 女性 41歳 東京都太田区在住

### Part I

**1 子供の頃、私は** とてもませている、可愛くなかった。

**2 私はよく人から** 明るい性格と云われる。

**3 私の家は** マンションで、とても景色がよいです。

**4 私の失敗** は数々ありますが、思い出だけでも顔が赤くなることがあります。

**5 家の人**は私を とても頼りにしています。

**6 私が得意になるのは** 子供達が、何かすばらしい事をした時。

**7 争い** 事は好きではないが、時々巻き込まれることがある。

**8 私が知りたいことは** 息子の将来。

**9 私の父** は、73 才ですが長生きして欲しい。

**10 私がきらいなのは** 時間にルーズな人。

**11 親戚** とのつき合いは、ほどほどが良いと思う。

**12 死** はいずれやってくるが、遠い方がよい。

**13 世の中** 生きていくことはつらいことがたくさんある。

**14 私ができないことは** 二重とびとさか上がり。

- 15 恋愛 は、これからも大いにしてみたい。  
 16 将来 は、健康と、金さえあれば良い。  
 17 もし私の母が 死んだらさみしい。  
 18 仕事 はしたいが、資格がない。  
 19 私がひそかに ヘソクリをしているのは老後のため。  
 20 近所づきあい でいやな思いをした事がある。  
 21 夫 は、仕事人間である。私はそれでよいと思っている。  
 22 時々私は 夫がいやになる時がある。  
 23 私が心をひかれるのは 芸術である。  
 24 私の不平は 株が値上りしないこと。  
 25 私の兄弟(姉妹) は、各々家庭を持って円満にしている。  
 26 職場では 働いた事がない。  
 27 私にとって大事なものは 子供達、そして夫。  
 28 今までは 子育てに追われていたが、これからは自分の人生を考えてみたい。  
 29 女 でもこれからは職業を持って自立すべきである。  
 30 日本 は平和である。

## Part II

- 1 家では 息子からクソババアと云われている。  
 2 私を不安にするのは 息子の跡継ぎ問題。  
 3 友だち によって、ずい分救われた事がある。  
 4 私はよく 酒を飲む。  
 5 子供 はとても面白い、子供と共に成長している気がする。  
 6 もし私が 若かったら、仕事を持ちたい。  
 7 私の母 はだらしがない。  
 8 転職 は私には関係ない言葉。  
 9 男 より女の方が楽である。  
 10 私の眠り は、深くて長い。  
 11 もし私の父が 死んだら、遺産争いがおこるであろう。  
 12 同棲 はしたければすればよいが、私の子供には許さない。  
 13 私が好きなのは 楽しい会話。

- 14 病気 は、した事がない。  
 15 私の頭脳 はだんだんおとろえていくのが、日に日にわかる。  
 16 金 は、たくさんあるにこしたことはない。  
 17 私の野心 は、息子に託したい。  
 18 妻 として落第であると思う。  
 19 調子のよい時 は、機嫌がよい。  
 20 私の健康 はバランスよい食事と、適度の運動で保たれている。  
 21 私が残念なのは 何の資格もない事と、就職の経験のないこと。  
 22 大部分の時間を 無駄にすごしてきた気がする。  
 23 結婚 は、慎重にすべきだ。  
 24 天皇制 は、特に意見なし。  
 25 どうしても私は 楽な方へと心が向いてしまう。  
 26 家の人 は 皆各々、個性が強い。  
 27 私が羨ましいのは 若い人。  
 28 年とった時 心豊かに過ごせるように、今から心がけたい。  
 29 私が努力しているのは 家族の健康への気くばり。  
 30 私が忘れられないのは 過去のいやな思い出。

## パーソナリティ・スケッチ

### I. 自己:

子育てに追われてきた専業主婦である。仕事をもって自立している女性への憧れがあって、働いた経験が一度もないこれまでの自分の人生にどこか不満をもっている。これから働きたいとも思っているが資格がない自分に自信がもてない。健康とお金が一番大切な物だと思っている。また、芸術の方面に関心があるようでもある。

### II. プライマリー:

家族構成は、本人と夫と子供たち(息子)である。夫とのコミュニケーションは少ないようで、時々夫がイヤになることもある。息子に対しては干渉しすぎるのかうるさがられている感じがある。自分の両親に対しては否定的感情はない。兄

弟（姉妹）にも特に現在否定的感情はないが、自分の父親の死後、遺産相続争いを予感させるものがあるようだ。

### III. セカンダリー:

子供中心に生きてきた人であり、人の好き嫌いがわりと激しい感じなので、つきあいは気のあった人たちに限られているようだ。近所づきあいでイヤな思いをしたこともあるようだ。社会全体に対する関心もうすい。

### IV. 自然:

自然に関する記述はない。生活世界が家庭（特に子供）中心に回ってきて外に広がっていないことが原因であろう。

### V. 超越者:

死はいずれやってくるものだが遠い方がよいと述べている。死それ自体への恐怖や葛藤はない。子供が自立するまでにはまだ時間がかかるし、本人も病気をしたことがない程の健康体なので、どこか他人事のような感じで見ているようである。その他の超越者に対する言及は見られない。

（神木直子）

事例 23 女性 43歳 東京都田無市在住

### Part I

1 子供の頃、私は よくはしゃぎまわり、道化者を演じた。

2 私はよく人から 何でもこなす人と言われるが、実は、日々課題に追われ、未消化のまますごして不安だ。

3 私の家は 狭く、むさくるしいが、やっぱり我家が落ちつく。

4 私の失敗 は、こりずに続いているが、失敗によって自己が変わっているのは確かだ。

5 家の人は私を 言い出したら、聞かない人と思し、自由にやりたいことを認めているようだ。

6 私が得意になるのは 何か目的をはたした時

だ。

7 争い は出来るだけ去けたい。

8 私が知りたいことは なぜ、人類は戦争を去けられないのかということだ。

9 私の父 は、小心者で誠実で気のいい人だ。

10 私がきらいなのは 自然と共存しない生活のし方だ。

11 親戚 の人とは、もう永いこと会っていない。

12 死 について、若いころはねむれない日もあったが、今は、それ程深刻に考えることはない。

13 世の中 の流れは、逆行して民主主義、自由から一段と遠のいているようだ。

14 私ができないことは 沢山あるが、その中でもできるようになりたいのは英語を話せるようになることだ。

15 恋愛 について、娘達と話したいのに、もっと深まる話ができないでいる。

16 将来 の夢について考えるが、もっともバラ色でないのはあまりに現在を悲観的に見ているからだろうか。

17 もし私の母が 歩けるようになったら、いっしょに東京見物をしたい。

18 仕事 をもって経済的自立をしたいが、今の所仕事をする時間がない。

19 私がひそかに 考えるに、将来子供達には私と違ってもっと特技をもって仕事をやってほしい。

20 近所づきあい は大切だと思うが、あまりプライベートの部分は深入りしたくない。

21 夫 は、私のことを認めているようだが、でもやっぱり女に対する固定観念から抜け切らない。

22 時々私は 一日中ポカーンとしたい、ゆっくり本を読みたいと思うことがある。

23 私が心をひかれるのは 大自然の中で、ゆったりした家にすみ、晴耕雨読の生活だ。

24 私の不平は とりたててないが、娘の学校のPTAの運営方法には、ガッカリしている。

25 私の兄弟（姉妹） は、各々特徴をもっていて、考え方も違うので、今でも意見がぶつかることが多い。

**26 職場では** あまり仕事を一生懸命しなかったが、それでも何とかすごせたのは、20年前のせいだろうか。

**27 私にとって大事なものは** 一人一人、考えが違うということ認め合うことだ。

**28 今までは** かなり無理をして、何でも承知したり、良いかっこうをしていたが、やはり、できないことは、できないと言うべきだった。

**29 女** は内、男は外という役割分担は、男女の良い関係を作れない。

**30 日本** の教育は、新指導要領で一段と学校の自由さがなくなり、増々子供達は、息苦しくなるのではないかと心配だ。

## Part II

**1 家では** 出来るだけ、手作りの食事を心がけている。

**2 私を不安にするのは**、今の教育を受ける子供達が、大人になった時のことだ。

**3 友だち** は、人間形成をするうえで、なくてはならない存在だ。ある時は相談相手、ある時は刺激剤になりながら。

**4 私はよく** 山に出かけるが、大自然の中になると日常のかつとう、悩みもちっぽけなものに思えて心が洗われる。

**5 子供** は、1人の人格をもった人間のはずなのに、我子となると、つい、自分の理想枠にはめこもうとして、いつも反省する。

**6 もし私が** 首相になったら、女性が仕事をしやすい制度づくりと、教育への政治介入を止めさせること、三権分立の徹底を呼びかけたい。

**7 私の母** は、働きもので、こまやかな神経のもち主だったのに、私は母とは逆になってしまった。

**8 転職** をするのは、日本では一大決心がいるようだが、近い将来、日本も欧米なみに転職が日常的になると思う。

**9 男** は、一家の経済的柱と思って頑張るが、それは思いすぎだと思う。一家の経済は男と女が支えるべきだ。

**10 私の眠り** は、深い方なので、あまり夢を見ない。

**11 もし私の父が**、商家をつがなくて良かったら、化学の研究者になっていただろう。

**12 同棲** が市民権を得る社会になりつつあるが、権力者にとっては、あまり好ましい傾向とは思ってないだろう。

**13 私が好きなのは**、物の豊かさではなく、人との交わりを豊かにすることだ。

**14 病気** は、現在複雑になりつつあり、難病が増えているのは環境汚染が原因だと考えられる。

**15 私の頭脳** は、近ごろかなり混乱している。何でも受けおって自分の処理能力を越えている為だろう。

**16 金** もうけに走る若者が多くなっているが、何でも金で解決できる社会をつくった大人に責任がある。

**17 私の野心** は、とりたててないが、強いて言えば、地方自治で行政チェックをする立場に立つことだ。

**18 妻** の役割は、①夫と対策の立場に立つこと。②子供を自分の価値観に合わせないこと。③話し合いの場をつくること。

**19 調子のよい時** は、身も心もはずみ、歌をうたいたいくなる。

**20 私の健康** は、年れいのせいか、あまり無理すると保てなくなって来た。

**21 私が残念なのは** 日本人は自分の考えをきちんと他人に伝えないことだ。PTAの会合でも議論することを去け、何もなく終わってしまうこと。

**22 大部分の時間を** 市民運動、住民運動に費やしている私は、これで良いのか、自分をもっと違うことをしたいのではないかと迷い続けている。

**23 結婚** をして良かったと感じる時は、悩みを打ちあける人がそばにいるということだ。

**24 天皇制** という制度は国民主権を徹底させるうえでは障害になる制度だと思う。更に天皇家にとっても、一人の人間として自由に生活できない同情すべき制度だし、ファッションの道具にもされる制度だ。

**25 どうしても私は** 今の文部省の上意下達の教育方針を許せない。

**26 家の人** は、各々好きなことをやっている。

**27 私が羨ましいのは** 英語を話せる人。

**28 年とった時** 良い年月をつみ重ねたと思える日々を送りたい。

**29 私が努力しているのは** 例え違った考え、意見をもった人でも、認め合う関係をつくり、社会の矛盾を見つけ出すことだ。

**30 私が忘れられないのは** 子供の頃受けた大人の言動による傷だ。

## パーソナリティ・スケッチ

### I. 自己:

大部分の時間を市民活動や住民運動に費やしている。女性の地位と子供の教育環境にも関心が高く、それらを向上させるために何かできたらとも考えている。次々に自分に課題を課して生活している。また、英語への関心がかなりある。

### II. プライマリー:

家族構成は、本人、夫、子供（娘たち）である。夫に多少の不満はあるが、悩みを打ち明けられるよい相手だとは思っている。家庭で夫と対等の立場に立つことを強く望んでいる。娘たちを一人の人間として扱うように努力している。自分の両親に対しては否定的感情はない。兄弟姉妹とは考え方の違いからぶつかりあうことが多い。

### III. セカンダリー:

人間関係には気を使ってかなり、無理をしてきたようだ。ただし、友人関係は良好。自分と違った意見の人を認めることが最も大切だと考えている。社会全体に対する関心が高く、特に行政やPTA 運営への批判が目につく。

### IV. 自然:

自然への関心は高く、自然と共存する生活を志向し、それに関わる運動もしていると推測される。

### V. 超越者:

今は、現実の課題に追われていて、考える余裕がないといったところである。（神木直子）

## 事例 24 女性 44歳 愛知県尾張旭市在住

### Part I

**1 子供の頃、私は** 石けりしたり、ごむ飛びしたりして遊びました。お手玉、おはじき懐しいな。

**2 私はよく人から** “細いね”と言われたものですが今じゃ誰も言ってくれません。

**3 私の家は** 日本風の住宅です。本当は洋風の家にしたかったのですが、私の意見は取り入れてはもらえませんでした。

**4 私の失敗** はお風呂のお湯をあふれさせたり、炊飯のスイッチを入れるのを忘れてしたりしたことです。

**5 家の人は私を** ■■ [注: あだ名] と呼び、子供はお小使いを要求したい時はマミイとかお母様とか呼びます。

**6 私が得意になるのは** 特にありません。しいて言えば英会話の放送を毎日聞く、見ることでしょいか、根気はあります。

**7 争い** は好みません。おだやかに話し合いたいものです。

**8 私が知りたいことは** 日本が将来世界中の国の中でどのような役割を果たしていくべきなのかです。

**9 私の父** は農業をしていました。でもだんだん色々な事情により田畑が少なくなりそれを継ぐ者もいません。

**10 私がきらいなのは** 犬の散歩して排泄物をそのままに放っておく道徳心のない人です。

**11 親戚** とはいつまでも親身になって相談したりされたりで、いい関係を保っていきたいと思うのです。

**12 死** 後の世界はきれいな花のある美しい所であつたらいいな そこで自由に暮らせたらいいと思う。

**13 世の中** には色々な人がいます。少しでも役立つ人間になりたいです。

**14 私ができないことは** さか立ちをすることです。

**15 恋愛** は自由とか言いますが、それはルール

を守った上での事です。他人を又弱い子供を傷つけたりしないようにすべきです。

**16 将来** の夢は自然に恵まれた田舎に住むこと。暑い時は北海道あたりに別荘を持つことでしょうか。

**17 もし私の母が** 腰を痛めてなかったら、行きがっている海外旅行に連れていってあげられるのに残念です。

**18 仕事** を持つことは私にとって1日のリズムをつけて生々とさせてくれるものです。

**19 私がひそかに** やってみたい事は外国に行って何年か住み日常会話が話せるようになりたい。

**20 近所づきあい** は大切にしなければならぬとわかっているけれど なかなか顔を合わせることにすらないのです。

**21 夫** たる者はもっと家のこと、子供の考えていることに注意を向けて下さい

**22 時々私は** 家族と一緒にコーヒー屋さんに出かけます。

**23 私が心をひかれるのは** 人の暖かさ、やさしさを感じるでしょう。

**24 私の不平は** 物価が高いこと消費税で実質生活圧迫されていること。

**25 私の兄弟(姉妹)** は姉1人の2人です。

**26 職場では** 仕事の悩みなどないので幸せに思っています。又人間関係が大切だと思います。

**27 私にとって大事なものは** 家族の者が健康で一緒に暮していけることでしょうか。

**28 今までは** マグロは日本人にとって切っても切りはなせない物でしたが、きのうのニュースでは外国から批判をあげ始めたようです。どうなるのでしょうか。

**29 女** としていつまでも若々しくありたいと願っています。

**30 日本** の食物自給率は米しかありませんが農業を保護しないで言われるまま米の自由化になって頼らざるを得なくなったら日本の将来は不安です。

## Part II

**1 家では** 夕食時、今日あった事等色々話合います。

**2 私を不安にするのは** 病気で倒れたらそして一人になってしまったらきっと心細いでしょうね。

**3 友だち** は多ければ多い程良いと言っています。

**4 私はよく** お腹をこわして下痢をします。胃腸が弱いので薬に頼らざるを得ません。

**5 子供** は二人持っています。やがては親元から巣立っていったらきっと淋しくなるでしょう。

**6 もし私が** 美人だったら人生もっと変わった生き方になったでしょうか？

**7 私の母** は私が学生の時これからの女性は男性と同じように社会に出て働けるようになるよ…結婚しても働きなさいと言いました。

**8 転職** は日本ではあまり歓迎されませんがそれが不利にならないようにすべきです。

**9 男** というのはある意味では理解者であるけれど事件が起ったり(殺人)でとてもこわーい存在でもあります。

**10 私の眠り** は深いためでしょうかあまり夢をみません。たまには楽しい夢がみたい。

**11 もし私の父が** もっと子供に対してやさしかったらと小さい頃思った。しかられてばかりいたんでしょね。

**12 同棲** という言葉から連想するのはふしだらとかであまりいい印象ではありません。

**13 私が好きなのは** きれいな花、宝石、洋服を見ること、洋服を作ること、本を読むこと。

**14 病気** にならないように予防するには定期健康診断を推めて早期発見をすることです。

**15 私の頭脳** はどうなっているのでしょうか？コンピューターのような必要な情報が一杯入っていたら良いのに必要時にすぐ出せたら忘れることは少ないかも。

**16 金** 銀、銅、果物は朝取った方が金、昼取ったら銀、夜取ったら銅の値打があると言われていいます。

**17 私の野心** はないように思います。

**18 妻** は夫に従い夫は妻に従い、浪曲で聞いた言葉です。

**19 調子のよい時** はな歌が出ます。掃除やお茶わんを洗いながら歌います。

**20 私の健康** 法は週1回スイミング、ダンスをすることです。

**21 私が残念なのは** この地球上で良く人間同志にも恨みはないのに戦争が起こって傷つけ合う事がそしてついに環境破壊にしてしまうことです。

**22 大部分の時間を** 人間は睡眠にとられてます。

**23 結婚** とはお互いの合意の上でなければなりません。

**24 天皇制** がどうこうと言えません。なぜなら今までの歴史をふり返って天皇が戦争に関係したりはなくなり人間又日本の象徴になったし。

**25 どうしても私は** 人前で説明したり話したりすることが苦手です。

**26 家の人**は 私が歌を歌うと音痴だから止めてと言われせかく気分が乗っているのに残念です。

**27 私が羨ましいのは** 自分の意見を人前で堂々と言える人。

**28 年とった時** 生活に困らないように今から少しづつ貯わえておきましょう。

**29 私が努力しているのは** 運動不足にならないように歩くこと。ボケないように語学を習っていくことでしょう。

**30 私が忘れられないのは** 子供の頃自転車に乗って角を曲ろうとした時急ブレーキかけたらヘイにぶつかり倒れ目の前が雪が降っている様で何も見えなかったことです。

## パーソナリティ・スケッチ

### I. 自己:

仕事に充実感を持ち、家族を大切に思い、穏やかな生活を送っている。趣味もスイミング、ダンス、英会話、洋裁など多才である。

### II. プライマリー:

家族構成は、夫と子供2人で、夫にはもっと家庭に注意を向けてほしいと思っているが、家族の会話は多い。農家に育ち、父は厳しく、母の進歩的な職業観に影響を受けている。

### III. セカンダリー:

親戚とは良い関係を望み、近所づきあいは大切と考えているがあまりしていない。職場の人間関係は良好で、人の暖かさ、やさしさに敏感である。自己主張は強くないほうである。

### IV. 自然:

日本の農業問題や戦争による環境破壊などについて、興味や関心を持っているが、具体的な行動までには至っていない。

### V. 超越者:

死後の世界については、現実感がなく、恐怖もない。その他の超越者に関する記述はない。

(久保寺美佐)

## 事例 25 女性 48歳 宮城県仙台市在住

### Part I

- 1 子供の頃、私は 負けず嫌いだった。
- 2 私はよく人から まじめだといわれる。
- 3 私の家は 中心部からバスで 50 分。
- 4 私の失敗 数、限りない。
- 5 家の人を私を 意志が強いという。
- 6 私が得意になるのは ない。
- 7 争い ごとは嫌いです。
- 8 私が知りたいことは 20年後、どんな生活が待っているかです。
- 9 私の父 は教師でした。
- 10 私がきらいなのは 自分の領分に足を踏みこまれること。
- 11 親戚 夫の側は何かと干渉し、わずらわしい。私の側、たあいのない話で慰さめられる。
- 12 死 は誰にも平等だと思う。
- 13 世の中 自分の考えている程、よくもなく、悪くもないのであろう。
- 14 私ができないことは ピアノを弾くことです。
- 15 恋愛 結婚はできなかった。

- 16 将来 は夫と二人で暮らしたい。  
 17 もし私の母が くも膜下出血で倒れなかったら老後について考えることはなかったろう。  
 18 仕事 って主婦にとって何だろう。  
 19 私がひそかに 思うことは書展への入選だ。  
 20 近所づきあい は、つかずはなれず。  
 21 夫 は寛容の精神に満ちあふれている。  
 22 時々私は 檻の中にいるような気がする。  
 23 私が心をひかれるのは 一つの事に打ちこんでいる人。  
 24 私の不平は 義母のこと。  
 25 私の兄弟(姉妹) は皆、元気。  
 26 職場では 辛いことがあった。  
 27 私にとって大事なものは 親子三人があるがままでいること。  
 28 今までは 猛進したけれど、これからはゆっくりと。  
 29 女 たちよ、したたかに生きよう。  
 30 日本 比較しようがなく、ここが好き。

## Part II

- 1 家では 常に義母の挙動が、気になる。  
 2 私を不安にするのは 娘の進学のこと。  
 3 友だち を見つけた。やっと心開ける人を。  
 4 私はよく くよくよ物事を考える。  
 5 子供 を本当に欲しかった。私の宝です。  
 6 もし私が 30才若かったら、学びたくなった事がたくさんある。  
 7 私の母 は 81 才、元気。  
 8 転職 したければ、すればいいんじゃない。  
 9 男 って肩書がなければ、生きていけない人種。  
 10 私の眠り は 5 時間。  
 11 もし私の父が 老いてのち、なすすべもなく暮していたらどうしよう。  
 12 同棲 する人もしない人もそれぞれの考え、自分達の行動に責任をもって。  
 13 私が好きなのは ぼんやりしてられる時間。  
 14 病気 と仲良く。  
 15 私の頭脳 は中程度。  
 16 金 は天下のまわりもの、しかし、私にはま

わってこない。

- 17 私の野心 はいつも挫折。  
 18 妻 って呼び方は日本人の社会では一般的でない。でも、家内も奥さんも実情にそぐわない。  
 19 調子のよい時 にかたずけておきたい事がある。  
 20 私の健康 はいつも不安。  
 21 私が残念なのは 外の世界へ一步踏み出せないこと。  
 22 大部分の時間を 後悔しないように使っている。  
 23 結婚 してよかったと思っているが別姓が法的に認められたら結婚前の姓に戻りたい。  
 24 天皇制 神代の時代からの腐れ縁。  
 25 どうしても私は 義母を愛せない。愛せない自分に腹が立つ。  
 26 家の人 は 私の立場を認めている。  
 27 私が羨ましいのは 自分の考えを即言うことのできる人。  
 28 年とった時 日々生きることに必死になるう。  
 29 私が努力しているのは 夫の身内と会う時は、ひたすら貝になること。  
 30 私が忘れられないのは 恩師の死。

## パーソナリティ・スケッチ

### I. 自己:

子供の頃から、負けず嫌いな性格。意志が強いが、人前であまり自己主張するほうではない。とくに自分の領分に土足で踏み込まれるようなことは嫌いだという。また、くよくよ考えるところもあり、現在は檻の中にいるようだという。専業主婦という立場に今疑問を感じているのかもしれない。外の世界に踏み出す勇気もなく、不満をいだきながらもたんと日々おくらしているようだ。将来は、書展への入選を目指している。

### II. プライマリー:

家族構成は夫と娘の3人家族。見合い結婚。夫との仲はよさそうだ。父親は教師で、健在。母親は、くも膜下出血で倒れたが元気とのこと。結婚



してよかったとは思っているが、もし別姓が認められるならば、結婚前の姓に戻りたいという。今不安なことは、娘の進学問題。

### III. セカンダリー:

交友関係はあまり広いほうではない。心開ける友人がやっと見つかったという。近所づきあいも、つかずはなれず程度。夫側の親戚や、姑とのおりあいが悪いようで、とくに義母の挙動が気になって、愛せないという。そういう愛せない自分に腹を立てている。社会全体に関しては、つきはなしたようなものの見方をしており、関心は薄い。男女同権思想が日本に広まったばかりの頃に多感な少女時代を過ごし、意識はめざましたが、現実の壁はあつく、保守的な枠組みからののがれることができなかったという時代背景が感じられる。

天皇制に対しては、神代からの腐れ縁だという  
とらえ方。

### IV. 自然:

住居は市の中心部からかなり離れており、自然も多いところと思われるが、自然にたいする記述はほとんどない。あまり関心がないようだ。

### V. 超越者:

死は誰にでも平等だといい、年をとった時、日々生きることに必死になろうという。これらの言葉から、流れに逆らわないといった冷静な目を感じる。  
(旋由美子)

事例 26 女性 50歳 千葉県千葉市在住

#### Part I

1 子供の頃、私は おてんばで、父母に、男の子に生まれていればよかったといわれていた。

2 私はよく人から 何でも作れていいねといわれるが、内心は、家事がにがてで困っている。

3 私の家は 二人住まいにしてはずいぶん広い。

4 私の失敗 は、人に、縁が深いことをいおう

として、くされ縁といっしまい、にらまれた。

5 家の人は私を 強がりのくせに、泣き虫という。

6 私が得意になるのは 作品がきれいに仕上がったとき、「見て、見て」といってしまう。

7 争い つい最近、おけいこの人と、お月謝がかさむなどといわれてそんな考えなら、きてほしくない、言いあらそいをした。

8 私が知りたいことは アルツハイマー病は、遺伝するかどうか知りたい。

9 私の父 は、写真にうつると、きびしくみえるが、子ぼんのうな、やさしい父だった。

10 私がきらいなのは 自分の考えをはっきりいわないで人の悪口をいうこと。

11 親戚 父母のなくなったあと、叔父やおばが年老いてゆくのがだんだんつらい。

12 死 母を1年来の入院の上、なくした。覚悟していたつもりだが、やはり死は悲しい。しばらく他の人にしゃべりたくなかった。

13 世の中 前は、世間ていをきにしていたが、50 才になったのを期に、マイペースでゆくように心がけることにした。

14 私ができないことは 素適な作品にめぐりあえたら、手に入れることにしている。

15 恋愛 我々夫婦は、まあまあ恋愛の部類かなと思っている。

16 将来 挑戦したいことがある。

17 もし私の母が まだ元気だったら、一緒に旅してみたいと思う。在命中は、時間もお金もゆとりがなく、残念。

18 仕事 は、あと2年は現行のままで、そのあとは、少しずつ縮小して、自分の余暇をふやしてゆきたい。

19 私がひそかに 心がけているのは、一人旅など家族とも離れて、いろいろ出かけてみたいと思う。

20 近所づきあい は、あたりさわりなく平均点と思う。

21 夫 は、とてもやさしい。それに比べて、私はやさしくできない。

22 時々私は むしょうに、マンガがよみたくなる。

**23 私が心をひかれるのは** おだやかな表情で、散歩する老夫婦。いづれは、自分達もあなりたいと思うが、自分がつよいので、どうなるか……

**24 私の不平は** 約束がホゴにされた時、爆発する。

**25 私の兄弟（姉妹）は**、時々しか連絡をとりあわない。

**26 職場では** 元気いっぱい、みえるようだ。

**27 私にとって大事なものは** 家族の健康と、娘の卒業まで、ささえてゆくこと。

**28 今までは** がむしゃらに生きてきたが、50才になったので、まわりをみまわして、自分はどうかを考へるゆとりをもとうとしている。

**29 女** 最近の若い子の、要求ばかりつよいのに反発を感じるが、娘の口から似たことばをきくと、びっくりして、ふくざつな気分。

**30 日本** は、このままゆくと、子供の極端に少ない、老人社会になるのじゃないかと不安だ。

## Part II

**1 家では** 1人していると、ドタッとゴロ寝してみたくなる。

**2 私を不安にするのは** ちほう症になるかもしれないということ。

**3 友だち** は、あまりいないが、不自由とも思っていない。

**4 私はよく** 新しいものにとりくむ。それが老化防止と思っている。

**5 子供** は、1人だが、親をのりこえるかのように、がんばってくれているので、未来のドクターに、親バカをつぎこんでいる。

**6 もし私が** ボケたとしても、やさしい夫は、面倒みてくれるそうだ。

**7 私の母** は、脳こうそくで、だんだん我々子供も、わからなくなっていくが、死の恐怖からは、少しでもまぬがれたかもしれないと思うことにしている。

**8 転職** 子育てのあいだ、家に入って、自分なりに、充実していたと思う。

**9 男** 社会は、大変そうで、生まれかわるときも、私は、女でよいと思う。

**10 私の眠り** は、ボタンキューの口です。

**11 もし私の父が** 生きていたら、我々夫婦は、平凡だが、しあわせでよかったねと、いってくれそうな気がする。

**12 同棲** 今の世の中、ふつうになってきているようだが、娘には、正式な手続きをふんでほしいと思う。

**13 私が好きなものは** マンガに、手芸に、おいしいもの、きれいな花にかこまれて、音楽をききたい。

**14 病氣** 母と姉の病状で、自分にも、発症するかもしれないとつねに、心のどこかに不安がある。

**15 私の頭脳** は、時々ひらめくが、そのときは、他のことが、全部ぬけてしまうので、本当は、「アホー」の部類かなと思う。

**16 金** いつもピーピーしているが、夫婦共にへビ年生まれ、お金に不自由しなくなるのたとえを信じて、あくせく現在を生きている。

**17 私の野心** あまりない。

**18 妻** の役割を、あまり、はたしていない。

**19 調子のよい時** はっきり、力がみちているのがわかる。なんでも、前むきに、まとめてゆく努力ができる。

**20 私の健康** 2~3年、調子が悪かったが、現在は、通りぬけて、とても元気だ。

**21 私が残念なのは** その人のためよかれと思ってしたことが、その通りにうけとってもらえなかったこと。

**22 大部分の時間を** 趣味についやし、それが、実益に結びついて、家族のために役立っているという実感がある。

**23 結婚** した時、これでよかったかと、少し不安があったが、長い目でみてしあわせだといいきれる。

**24 天皇制** 現行の通りでよいが、若い皇族に、離脱してみたいような報道をきくと、自分で働いて、かせいでみってくれとふんがいをかんじる。

**25 どうしても私は** 気がよいため、他人に、押しつけるように、うけとられてしまう傾向があるが、内心は、反応を気にしている小心者だ。

**26 家の人は** それぞれ、自分勝手に生きているみたいであるが、お互いの、意志を尊重している

ので、根っこのところでは、しっかりつながっている。

**27 私が羨ましいのは** 才能のある人に出会ったとき、ふだん自分だけみていたときには、感じない、うらやましさをおぼえる。

**28 年とった時** 夫婦二人で、あちこち旅してあけるように、足腰をきたえよう。

**29 私が努力しているのは** 約束は、必ず守ること。

**30 私が忘れられないのは** 姉の義兄に対する、信頼の表情、義兄の姉に対するやさしいあたり。

## パーソナリティ・スケッチ

### I. 自己:

子どもの頃よりおてんばで、職場でも元気いっぱいに見られるエネルギーな人。趣味を実益にする創作を仕事にしているらしい。子育ての間は、家に居たようだが、現在は家事よりも仕事を優先にしている。健康面では、アルツハイマーにかかるかどうか不安がある。結婚、天皇制など保守的な考え方で、一般的社会通念に従う人と思われる。特に指向するものは、マンガと手芸。

### II. プライマリー:

夫と娘の三人家族。娘を将来ドクターにしようと、教育費をつぎ込んでいるようだ。夫との関係は良好のようだが、やさしくできない自分にやや負い目がある。各々の意志を尊重しあっていると感じている。両親は既に亡くしているが、父親は優しく、母親とは一緒に旅行したかった思い出がある。母親と姉がアルツハイマーであった。他の兄弟とは、余り密でないようだ。

### III. セカンダリー:

自己主張が強い面があり、人とぶつかることがあるが、内心は気にしているという。家では、泣き虫ともいわれる。近所づきあいは、適当に距離を置いている。

### IV. 自然:

きれいな花に囲まれたいたいという記述以外特になんといえよう。

### V. 超越者:

死というよりも、老い（ボケ）や病気への不安が大きい。特別な信仰もないようである。

(菅野陽子)

## 事例 27 女性 51歳 石川県小松市在住

### Part I

**1 子供の頃、私は** 勉強が大好きで大学までいきたいと願っておりました。又読書が好きで小説家になりたいとも夢を持っておりました。

**2 私はよく人から** 明るくて子供にも恵まれやさしいだんな様もいらっやって本当にしあわせな人だとうらやましがられています。

**3 私の家は** 静かな田園風景をまわりに見わたせる場所にあり裏山に木々のささやきもすがすがしく健康に最適と喜んでおります。

**4 私の失敗** 談は数えればきりがありません。早合点で物事を最後まで聞かないことが原因で起こることが多いです。

**5 家の人は私を** 誰とでも打ちとけて話をするのが好きで大変世話好きで、でしゃばりではないかと心配します。

**6 私が得意になるのは** テレビのクイズで正解ができた時です。

**7 争い** はきらいです。

**8 私を知りたいことは** 自分の子供達が親のことをどのように思っているかです。

**9 私の父** は蒔絵の技術が認められ旭日単工賞を受賞しました。無口でしたが大事なことだけ念をおして話してくれた子供思いの人でした。

**10 私が好きなのは** 暗い夜道を一人で歩くことです。

**11 親戚** づきあいはむつかしいと言われます。私の身内はおそろかにしても主人の親戚には気を

つかっています。

**12 死** は必ず誰もがむかえることです。一日一日生かされている者として使命をはたし（今は子供を一人前にすること）燃えつきたいと願っている。

**13 世の中** は物質が第一のように経済的なことに心をうばわれ又事件交通事故などで命がおろそかにされ何が大切かを見失っているように思う。

**14 私ができないことは** 主人や子供達に相談してみる。

**15 恋愛** 結婚にあこがれたこともありましたが、見合いで落ち着きました。

**16 将来** 自分に出来ることで社会の役に立つことがあれば喜んで働きたい。

**17 もし私の母が** 私を産んでくれなかったら（私は11人兄弟の10人目）今の私はこの世に存在しないと思うと私は母に感謝するのみです。

**18 仕事** はとても好きです。つらいこともありますが働ける体と職場のあることはとてもすばらしい。

**19 私がひそかに** 思っていることは自分の家族の歴史をつくることです。

**20 近所づきあい** は大切にしたいと努力しています。

**21 夫** とは対照的な性格・体型をしている私達夫婦ですが、お互いに助けあいいたわりあって生活している。夫はすばらしい人です。

**22 時々私は** 自分の年齢を知っておどろく時がある。年齢と共に精神的にも成長したいと思っている。美しく老いることをモットーとする。

**23 私が心をひかれるのは** 経済的には貧しくても又不自由な体であっても持っている力を全部出し切って生きてゆく人々を見る時です。

**24 私の不平は** 今のところありません。

**25 私の兄弟（姉妹）** は10人全員健在で長姉は私と20才年上、弟は5才ちがいです。全員で旅行した思い出は大切にしている。

**26 職場では** やはり仕事を第一にやりとげ、仲間との関係も楽しく働きがいのあることを望みます。

**27 私にとって大事なものは** 家族と健康と職場です。

**28 今までは** 子供の教育と主人の仕事の協力に全てをかけてきたと思いますが子供達の卒業を期に自分の生きがいに喜びを見出したい。

**29 女** であることを学生時代は好きではなかったが結婚し子供を産み育てる特権のあることはふりかえてみてとてもすばらしいことです。

**30 日本** の国は世界のうちで面積は小さい島国でしかありませんが経済大国になった今、モラルをもって世界に恥じない国となるよう望みます。

## Part II

**1 家では** 家族がそれぞれ外でせいっぱい働いたり勉強したりで疲れているのでゆっくりくつろぎかくしごとしないふんいきを心がけている。

**2 私を不安にするのは** 世界の大国が核兵器をつくったり実験したりしていることと汚染されていることです。

**3 友だち** はいくつになっても心おきなく話せる。学生時代の友だちは遠方に離れているので再会が待ち遠しい。

**4 私はよく** 夢を見ます。高い所からとびおるのですが空をゆっくり泳ぐようにしてだんだん地上におりてくるのです。

**5 子供** の頃小川で水泳をしたり、なわとびをしたり、ままごと、ごっこあそびに、夢中になりほたるがり「たにし」取りも楽しい思い出です。

**6 もし私が** ピアノをひけたらどんなにうれしいことでしょう。自分がひけないのでせめて娘にはとピアノを習わせました。

**7 私の母** は健康な体で働き者でした。11人の子を産み育て結婚の準備をし父に仕え天命を全うした人でした。

**8 転職** で思い出すのは主人が長く勤めていた会社をやめたいと悩んでいたことがあった時です。精神的に落ちついて思いとどまりました。

**9 男** の責任は大きいことが家庭を持つとよくわかります。私はそのことを子供達に伝えたいと思っています。

**10 私の眠り** が足りないあらゆる障害がでてきます。これは誰にもあることでしょう。

**11 もし私の父が** 口やかましい人であったら私はかえって反発したり自分の好きなことばかりし

ていただろう。

**12 同棲** についてはあまり深く考えたことがありません。私の若い頃には考えられないことでした。

**13 私が好きなのは** 困っている人を自分のできることをして少しでも役に立てたいことです。

**14 病気** になると気持ちまで落ち込んでいくことがあります。

**15 私の頭脳** も若い時はもう少し記憶力があったと思います。

**16 金** は、すべてに勝って第一と考えたくありませんが、生活していく上には必要ですし、困っている方には手をさしのべたいと思います。

**17 私の野心** はホスピスのような施設で働けたらと思います。

**18 妻** として母として女として又一人の人間として完成をめざして人格形成に励みたいのです。

**19 調子のよい時** は何事も良い方に取りエネルギーがわきファイトで目標にむかえる。

**20 私の健康** に対する考えは人間の自然治癒力を最良に出せるよう食事、すいみん、運動に気をつけることだと実行しています。

**21 私が残念なのは** スポーツが好きなのに時間がなくて出来ないことです。

**22 大部分の時間を** 仕事と家事労働に使っているので又テレビに時間をとられ読書の時間ありません。

**23 結婚** して 26 年 8 ヶ月今までいろいろな出来事をふりかえり、一日一日すべてに神様の御加護にかんしゃしています。

**24 天皇制** については憲法には日本国の象徴としてとあります。神ではないので拜むことはできません。戦前のように神格化してほしくないです。

**25 どうしても私は** 自分の専門の仕事の勉強をつづけて一生の仕事としてゆきたいです。

**26 家の人** は みんな元気です。

**27 私が羨ましいのは** 若い人たちがのびのびと自分の好きな行動をしていることです。

**28 年とった時** 体が悪くなっても心はいつも喜びであふれる生活をしたい。

**29 私が努力しているのは** 美しく老いるために

いろいろなことに興味を持ち、健康を保持することです。

**30 私が忘れられないのは** 16年前子宮外妊娠の発見がおくれ一命を落とすところ医師のおかげで一命をとりとめたことです。

## パーソナリティ・スケッチ

### I. 自己:

明るく、話し好き。世話好きな働き者のお母さん。やさしさの中にもたくましさを感じる。

子供の頃は勉強が好きで、小説家になりたかったという。子育てしながら仕事ももち、又夫を助け頑張ってきたが、それぞれ自分のために生きがいを見つけようと思いはじめている。理想主義のところがあり、自分の為よりも、人の為に働くことに喜びを感じる人のようだ。夢はホスピスのような施設で働くことだという。

### II. プライマリー:

父は優秀な蒔絵職人で無口だが、子供思いの人。今も健在。母は働き者で 11 人の子供を育て上げてすでに他界。本人は 10 番目の子供で姉とは 20 才、弟とは 5 才はなれている。兄弟は、全員で旅行に行くほど仲がいい。親戚づきあいは難しいとあって、夫側の親族にはかなり気をつけている。性格は対照的な夫婦で、円満。夫は素晴らしい人だという。

### III. セカンダリー:

大家族で育ったせいから、戦前の家族像をととても大切にしている。人とのつきあいも世話やきというくらい良好だ。国際問題や環境問題にも関心があり、好奇心旺盛。とても前向きな考え方をしている。恋愛結婚に憧れたこともあるが、結局は見合いで落ち着いた。夫は転職を考えた時もあったという。天皇制は日本の象徴であって、戦前のように神格化してほしくないという。

### IV. 自然:

現在の住まいは郊外の静かな田園地帯にある。恵まれた自然環境の中で子供時代を過ごしてい

る。しかし自然よりは人間の方に関心が強いようだ。

## V. 超越者:

35才の時、子宮外妊娠の発見が遅れ、一命を落とすようになったという。キリスト教を信仰しており、考え方の根底に神に生かされているといった教えが随所にみうけられる。死は誰もが迎えるものといい、燃えつきたいと、とても意欲的で、エネルギーが豊富。(碓由美子)

事例 28 女性 52歳 静岡県焼津市在住

## Part I

**1 子供の頃、私は** 勝ち気で負けず嫌いでした。中学に入ってから、友もびっくりする程おとなしく、目立たない存在になり、不思議に思いません。

**2 私はよく人から** 見かけはしっかりしているけど、けっこうそっかしく、おもしろい人だねといわれます。

**3 私の家は** 現在夫婦二人です。長男は社会人一年生、長女は大学3年、はなればなれにいて、家族とは何か考えてしまいます。

**4 私の失敗** 自分では気がつかないで失敗していることがあるのではないかと心配になります。

**5 家の人を私は** パカといいます。とくに、主人はいつも「とろい」といいます。そんなはずはないと思っていましたが常にいわれていると、本当にバカになってしまいました。

**6 私が得意になるのは** スポーツをやる時です。卓球、テニス、山、スキー、夢がひろがります。

**7 争い** はきらいです。いつも負けるから、自分の考えていることを上手に表現できないし、悲しくなって涙が出てきてしまいます。

**8 私が知りたいことは** 死後の世界、本当にあるのかな？

**9 私の父** 77才で喜寿をむかえ、先日、にぎやかな会を持ち、父は大喜びでした。健康にすご

してほしいです。

**10 私がきらいなのは** 夫がごろごろ寝ていることです。疲れをとるためとはいえ、とても味気ないことです。

**11 親戚** 上手に付き合っていくことは大切です。

**12 死** こわいです。

**13 世の中** の経済人、余ぶんにもうけて悪いこと考える悲しいです。びしびし、とりしまってほしいです。

**14 私ができないことは** いばることです。

**15 恋愛** 青春時代、片思いで終わってしまい残念です。

**16 将来** 花をたくさん作って友人、知人にプレゼントしたいです。

**17 もし私の母が** 病で倒れたら、精一杯看病してあげたい。私をのびのび育ててくれたから、せめての恩返しと思っている。

**18 仕事** 好きです。独身時代、男性と同じくらい働いたことは今でも自分でほこりに思っています。

**19 私がひそかに** えがく夢は、外国の山へ、トレッキングしたい。息子と娘がガイド役でいてくれたら最高です。

**20 近所づきあい** お互いに助け合って生活できればうれしいです。

**21 夫** は気むずかしい人でしたが、子どもが小さいころ、お風呂によく入れてくれ、よくあそんでくれました。

**22 時々私は** 自分の可能性に挑戦したくなることがあります。

**23 私が心をひかれるのは** 主婦が仕事もち、夫が家事を助けて、尊重しあっている夫婦の存在です。

**24 私の不平は** 主婦業を軽くみられていることです。頭を使い、工夫し、情熱をそそいでもあたりまえと思われることです。

**25 私の兄弟(姉妹)** 兄が2人弟が1人です。子どもの頃お姉さんがほしかったです。

**26 職場では** 女の人はまだまだ男の手助けぐらいにしか認められていないことです。

**27 私にとって大事なものは** 健康です。健康であ

れば、健全な精神が保たれ、平穩に毎日がすごせます。

**28 今までは** 女の人は家庭を守ることが当然とされてきたけど、やはり、男も家庭のことできるようにならなければいけないと思う。

**29 女** の存在は大切です。社会を変えていく原動力になります。

**30 日本** 経済大国。いつまで続くのか。便利さ追求ほどほどに。自然との共存、人間らしく生きられる環境をのぞむ。

## Part II

**1 家では** 質素にくらしています。お客さんがあるときは少々見栄をはらなければならず残念です。

**2 私を不安にするのは** 将来、安心して食べられるものが少なくなるのではないかということなのです。

**3 友だち** 大切なことよくわかります。いつも不満をいう友はいやになります。友だから話すのかもしれないけど。

**4 私はよく** 娘に、衣類は、よいものを長く使うようにいい、流行にまどわされず、自分の美しさを作りなさいといえます。

**5 子供** 自分の子供を育てることができ、よかった。子どもの感激することが、自分にとっても同じように感激となった。

**6 もし私が** 病気になったら、大変です。主人は「バカやろう」とおこることでしょう。

**7 私の母** は努力家です。読書好で 76 才。夏目漱石の本をこよなく愛し、古典ものもたくさん読んでいます。とても真似できません。

**8 転職** は勇気がいります。次も不安になります。

**9 男** は闘争的で、社会を支え、家族を守っていることもよくわかるけど、これからはそんな強がりだけでは、きらわれます。

**10 私の眠り** は少ないです。6 時間位ねれば大丈夫です。

**11 もし私の父が** 病にたおれたら、家族は大変だと思います。わがままいって困らせ、皆をふりまわすことでしょう。

**12 同棲** いやな感じをうけます。

**13 私が好きなのは** スポーツで上達したいと、必死になりそのことができたとき、ひたすらエネルギーを、もやせるときです。

**14 病気** 食生活を直すことによって、へるように思います。今、汚 ■■ [注: 不明] 物、農薬その他、動物のえさのように大量にでています。

**15 私の頭脳** はどん感です。反応がにぶいです。でも、くりかえし努力することで人並みにできるようになります。

**16 金** 質素でも暮らせる最低のお金が老後保障あればいいです。

**17 私の野心** 殆どありません。

**18 妻** でいられること、うれしいです。

**19 調子のよい時** いろんな片付けが、はかどります。

**20 私の健康** 丈夫に育ててくれた両親に感謝します。

**21 私が残念なのは** 専業主婦で、存在価値を認めてもらえないことです。

**22 大部分の時間を** 家において、たいくつしません。一人で楽しむことがいっぱいあります。

**23 結婚** 27 才で遅かったけど、仕事も精一杯やったし、旅行もしたし、独身を卒業し、結婚こんなものかと夢をすてた。

**24 天皇制** 昔から悪いイメージがいっぱいあります。新しい考え方をつくってほしい。

**25 どうしても私は** 車の運転が上手になりたいです。いつも不安の中でハンドルをにぎるから一。

**26 家の人は** 料理が下手だといえます。

**27 私が羨ましいのは** 女性の人権をみとめてくれる男性です。

**28 年とった時** 近所に娘がいてくれればうれしいです。

**29 私が努力しているのは** いつも一生けん命生きることです。下手でもいねいにやることです。

**30 私が忘れられないのは** いつも好きだった数学で、高2の幾何で最低点をとったことです。とてもくやくして涙が出てきました。

## パーソナリティ・スケッチ

### I. 自己:

専業主婦であるが、27才で結婚する迄、仕事に熱中したり、旅行もよくしたようだ。現在の生活に退屈はしていないが、価値を認められないことに不満を持っている。勝気な人で、努力家のような。スポーツが得意で、夢は外国の山をトレッキングすることである。

### II. プライマリー:

家族構成は、夫と息子・娘の四人であるが、子供達は別居である。夫は気むずかしく、家でゴロゴロしているのが気になる。妻の役割は、一生懸命果たしているが、理想としてはお互い夫婦尊重しあうものと感じている。将来は、娘がそばに住んでくれることを望んでいる。

### III. セカンダリー:

対人関係では、上手にすることを気にかけている。自分を表現することが苦手な面もある様だ。社会に関する関心は、批判的で高い方であろう。

### IV. 自然:

山やスキーなど自然に親しむスポーツ、又、環境汚染などを心配している。

### V. 超越者:

死はこわいというくらいの記述で、具体的なものは余りない。健康に気をつけているが、52才なので、まだ隣合せという気持にはならないのであろう。  
(菅野陽子)

事例 29 女性 60歳 栃木県宇都宮市在住

## Part I

1 子供の頃、私は 遊んでいられるのでいつまでも子供でいたいと思ったが、反面自分の好きな

食事にできる母親になるのもいいナと思った。

2 私をよく人から ナンデモ博士と言われる。

3 私の家は 大変環境の良いところにある。

4 私の失敗 はなるべく人に知られたくないと思う。

5 家の人は私を がまん強いと言う。

6 私が得意になるのは 書道がきれいな割に筆で書く文字が上手だと言われること。

7 争い は大きらい。

8 私が知りたいことは パラサイコロジー、四次元の世界、霊について。

9 私の父 は非常に私を可愛がった。

10 私がきれいなのは 争い、戦い、競争。

11 親戚 づき合いは好きでない。親しい者だけと気楽につき合っている。

12 死 について大変興味がある。宗教的な関心ではなく、科学的な洞察において。(例えばエマニュエル・スウェデンボルグのような)

13 世の中 は人間にとって不可抗力的な大きな力で動かされていると思う。ただ個人はその流れの中で死に至るまでのプロセス(生き方)が選べるのみ。

14 私ができないことは 大方のこと。わずかなでことに感謝。

15 恋愛 はすばらしい。胸の痛みが現実のものと体験できただけでも生まれて来た価値があったと思う。

16 将来 はもうあまり考えなくなってきた。60歳だから。世の中の将来もさほど気にならない。

17 もし私の母が あんな性格でなかったら、私の性格もずい分と異なったものになっていただろう。

18 仕事 はとてもおもしろい。ただし好きな仕事だったら熱中するが、きれいな仕事だと何とかして手抜きする。

19 私がひそかに 願っていることは息(いき)の合う人々との出遇いである。

20 近所づきあい は殆どしていない。

21 夫 はかたよった性格の持主である。ウンザリすることも度々あるが、同情してみたり、他のもっとひどい男と比べればまだましカナ…と思ったり。



**22 時々私は** 自分がしあわせな方だと自分を納得させる。

**23 私が心をひかれるのは** 美しい絵、すばらしい風景、音楽、そして動物。

**24 私の不平は** あまりない。

**25 私の兄弟(姉妹)** はまあまあである。

**26 職場では** 人間関係が面白い。

**27 私にとって大事なものは** 平穏なこと。

**28 今までは** あくせく生きること専念してきたが、60歳にもなると何と動じなくなることか。この平凡な人生に感謝あるのみ。

**29 女** に生まれたこともカルマかな。ア・コロンタイという人の著書「女の一生」を読んだことがあったが、長い年代で考えるとすべてが面白い。

**30 日本** という国はいいような気がするが、いやな点も多い。風土は好きだが、人間はあまり好きでない。

## Part II

**1 家では** くつろいで過ごすのが好きだ。

**2 私を不安にするのは** 世界がこわれ始めていて恐らく軌道修正はないだろうと思うこと。

**3 友だちは** 良い。家族とはちがった人間関係があり、重要である。

**4 私はよく** 世界の有名なオーケストラの演奏を聞きに行く。音楽にくわしいわけではないのだけれど、惹かれ、感動し、高いチケットを惜しまない不思議。

**5 子供** に同情することが多い。現代は子供の地獄。

**6 もし私が** 大金持だったら旅行にすべてを費(つか)うだろう。その先々に存在するそれぞれの雰囲気味わうことが私の求める“もの”だから。

**7 私の母** はほめられることが生き甲斐だった。そのことから成長しそこなったのかも知れない。

**8 転職** は悪いことではない。ただその理由や動機が問題だ。

**9 男** は困った動物だと思うことがある。殊に政治家にはそれが多すぎる。世の中、良くなるはずがない…とあきらめている。

**10 私の眠り** はまあまあ普通だと思うが夢にはあきれている。色のついた夢も多く、おまけに夢の中で夢を見るやっかいな夢。

**11 もし私の父が** すぐれた人物だったら、私の男性観も少し変っていたかも知れない。

**12 同棲** は悪いことではないと思う。それなりのルールがあって良いとは思うけれど。

**13 私が好きなのは** 思いやり。

**14 病気** は人間にとって不幸である。しかしその生き方が病気を起こしてゆくこともまた真実であると思う。

**15 私の頭脳** は良くない。

**16 金** はほどほどにあれば良い。

**17 私の野心** は何もない。

**18 妻** と言う既製概念にとらわれたくない。人間として自由でありたいから。

**19 調子のよい時** はしあわせであると同時に、目に見えない支持を受けていると感じる。

**20 私の健康** は他者の援助によってなり立っている。他者とは、現実とそれ以外と。

**21 私が残念なのは** 今まで生活に追われて本当にやりたい事ができなかったこと。

**22 大部分の時間を** 生活のために費やして来た。

**23 結婚** はいいことなのかそうでないのか、今も考えている。

**24 天皇制** は全くきらい。皇室に関するテレビは見たくない。男社会の最悪の象徴だと思う。歴史を正確に洗い直したい。

**25 どうしても私は** 自由人でありたい。

**26 家の人は** ある程度私の本性をわかっているようだ。共感はしていないと思うけれど。

**27 私が羨ましいのは** 自分の能力を充分に発揮した人生を送れた人。

**28 年とった時** 平安が一番欲しい。

**29 私が努力しているのは** なるべく充実した一日一日を送ること。

**30 私が忘れられないのは** 無能な自分が子供を生んだ時、自分を越えた大きな大きな力が働いていると驚いたこと。

## パーソナリティ・スケッチ

### I. 自己:

今までは生活に追われて本当にやりたい事ができなかったが、本当は自由人として生きたいと思っている。毎日が充実した日になるよう努力している。60歳になり、多少達観したところがあるが、恋愛を素晴らしいと思い、旅行が好きで、演奏会にも出掛け、行動的で、好奇心も強いようだ。いろいろな事に自分の意見をはっきり持っている。

### II. プライマリー:

夫、妻という関係にはとらわれないでいたいようだ。夫とは必ずしもぴったり合っているわけではないが、平穏に暮らしたいと思っている。父親には可愛がられたが、両親に対するイメージはあまり良くないようだ。その影響か、男性観も否定的で、男性を困った動物と表現している。

### III. セカンダリー:

職場の人間関係が面白いと言い、政治家に対する批判もあり、人に対する興味は持っているようだ。しかし、自分の付き合いに関しては、親戚付き合いは嫌で、親しい者だけと気楽にしたいと考えている。

### IV. 自然:

自然破壊を不安に感じており、素晴らしい風景に心を魅かれることから、自然に対する関心は高いと思われる。

### V. 超越者:

死について科学的興味を持っていると述べているが、全体的に超越者の力を非常に認めているところがある。世の中は不可抗力的な大きな力で動かされ、個人はその流れの中の一プロセスと捉え、又子供を生んだ時も大きな力の働きを感じたり、目にみえない支持を受けていると感じたりしている。宗教的ではない、何らかの力を信じているようだ。

(鈴木典子)

## 事例 30 女性 63歳 茨城県稲敷郡在住

### Part I

1 子供の頃、私は 元気よくよく学びました。

2 私はよく人から 家から出て楽しむようにと云はれます。

3 私の家は 今一番幸になりました。又他人が入ると変るでせうが。

4 私の失敗 年をとって腰、足の痛みが強く辛いです。

5 家の人は私を も少し働くことを望んでいると思ふ。

6 私が得意になるのは 洗濯物をていねいに仕上げる事。

7 争い 時折口論になることもある。お互自分の意志を通したい時。

8 私が知りたいことは 孫の成長をたのしむ。

9 私の父 実家の父大変可愛がられ苦勞なく育てられました。

10 私がきらいなのは 医者に行くのが億劫です。

11 親戚 よくつき合ってます。

12 死 苦しまずに死ねればと願ふばかりです。

13 世の中 ままにならないことが多いです。

14 私ができないことは 経済力のないことです。

15 恋愛 したことはありません。

16 将来 家族の厄介者になるべくならないよう控い目の心掛が大切に思います。

17 もし私の母が 生きてても自分の体が弱ってゆくので仲々1人では困難だったと思う。

18 仕事 歩くのが辛く力仕事は出来ません。

19 私がひそかに 少しばかりの老後のお金を多くしたい。

20 近所づきあい あまり出歩かないけど普通のです。

21 夫 真面目によく働きます。その上村の色々の役員となり活躍してます。

22 時々私は 私も一つ位の役が持ってられればと。

23 私が心をひかれるのは 女同志でも若い人を

見る時。

**24 私の不平は** 上を見ても下を見てもきりないのですがみじめなところ。

**25 私の兄弟(姉妹)** よく生活しています。

**26 職場では** なし。

**27 私にとって大事なものは** 家族が元気で有りますよう。

**28 今までは** 嫁いで両親に仕い、精神的、肉体的の労働で身も心も疲れました。

**29 女** 子育てをして今は主人に仕いています。

**30 日本** 共産党でない国でよかった。

## Part II

**1 家では** 主人がよく若い人達に手伝い家業に精出しています。

**2 私を不安にするのは** 病気が重くなり手術などしないよう自分と主人のことは自分でしようと。

**3 友だち** 家の中にて、少いです。

**4 私はよく** 今になって太ってきました。

**5 子供** よく真面目に一生懸命やっています。

**6 もし私が** 遠い旅行でも出来たら幸いです。

**7 私の母** 実家の母は、神、仏のように温かい人柄でした。

**8 転職** なし。

**9 男** 健康で一家の主として頑張ってください。

**10 私の眠り** ねつきが悪く、何回も目がさめ、はっきりしない夢を見ます。

**11 もし私の父が** (実の父)今迄生きてら なんと物質的に援助を受けられたことか。

**12 同棲** なるべく結婚してからすること。

**13 私が好きなものは** 洗濯、掃除。

**14 病気** 椎間板ヘルニヤ、膝変形性に辛いです。

**15 私の頭脳** 記憶力がなくなり、難しいことは分りません。

**16 金** 少しで多くしたい。

**17 私の野心** 不動産の収入があるようと思います。

**18 妻** 農業を手伝い子供を育てながら家族の為過してきました。

**19 調子のよい時** 仕事ができまりよく終わった時。

特に外に干したい時天候に恵まれた時。

**20 私の健康** 歩け歩けは出来ないけど、食物をおいしく戴けます。

**21 私が残念なのは** 年の分より腰から曲り弱ったのが残念です。

**22 大部分の時間を** 家事。

**23 結婚** 結婚して家族の基本を作り、結婚を継続するため努力をしたい。

**24 天皇制** 今の日本のままでよいです。

**25 どうしても私は** 家で死にたい。

**26 家の人は** 色々な面で手伝って貰いたいと思います。

**27 私が羨ましいのは** 健康できびきびと動き、なんの苦もなく楽しみたい。

**28 年とった時** 普通の面倒を家族にして貰いたい。

**29 私が努力しているのは** 腰、足の痛みに耐え家事をしています。

**30 私が忘れられないのは** 昔若い時、精神的、肉体的一寸のゆるみもなく両親に仕い、農作業に勤めたこと。

## パーソナリティ・スケッチ

### I. 自己:

若い時は農家の嫁として両親や夫に仕え、子供を育て、農作業にも勤め、今は身体的にも精神的にも疲れたと感じている。足、腰が悪く、思うように身体が動かないことが辛く、健康に対する不安は強い。現在の生活は、洗濯・掃除といった簡単な家事を手伝い、孫の成長を楽しみ、なるべく家族に負担にならないように生活したいと思っている。

### II. プライマリー:

自分達はすでに隠居の身分のようだが、夫は子供達の手伝いをし、村の役員をいろいろしている。子供や兄弟もきちんとして生活している。母親は温かい人で、父親にも大変可愛がられ、良い両親の元で育ったようだ。しかし、両親とも亡くなっており、特に父親がいれば物質的援助を受けられたのにと残念に思っているようだ。

### III. セカンドリー:

家族第一で家にいる事が多いが、親戚とはよく付き合っている。近所付き合いも普通にしているが、あまり出歩かないせいか友達は少ない。夫が役員を多くしているのを見て、自分も一つ位役をやっていたらと思ったりする。共産党は嫌いなようである。

### IV. 自然:

何か物を干す時の天候は気になるようだが、その他の記述は見られないので、あまり関心がないようだ。

### V. 超越者:

死に際して、苦しまずに死にたいと思っている。実家の母を神、仏のように温かいと例えているので、神仏に対する自然な信仰心がある様だ。

(鈴木典子)

事例 31 女性 77歳 神奈川県相模原市在住

#### Part I

1 子供の頃、私は 大変体が弱くでも気の強い子供でした。

2 私はよく人から がんこな人、しっかりした人と言われます。

3 私の家は 自分、息子夫婦、孫二人(男女)です。

4 私の失敗 何とかして、40歳台に車の免許を取っておけばと残念です。

5 家の人は私を 大変大事にしてくれます。

6 私が得意になるのは 大正琴の演奏です。

7 争い 特にありません。

8 私が知りたいことは たくさんありすぎてこまっています。

9 私の父 お酒が好きでやさしい人でも6年生の時死別しました。

10 私がきらいなのは 家庭のいざごさはきらいです。

11 親戚 は少なく、大事にしています。

12 死 はやがて来るでしょう別にこわいと思う事なく又そのひま御座いません。

13 世の中 はいろいろと考えさせられる事はありますが、自分としたら幸です。

14 私ができないことは ボランティア活動が時々満足に出来ず残念です。

15 恋愛 若い頃の思い出にふける事もあります。

16 将来 現在のままの生活であれば幸いです。

17 もし私の母が 健在だったらと残念に思います(私の苦勞の時代に他界したので)。

18 仕事 は今生徒さん持っている教室へ行くのが一番楽しみです。

19 私がひそかに 思っている事は大正琴の生徒さん達ともっともっと慰問に行きたいと思いません。

20 近所づきあい 私の一番の楽しみ。

21 夫 何でも出来るやさしい人一緒に生活したのは18年間でした(戦死)

22 時々私は 若い時は苦勞の連続でしたが今は幸をつくづくうれしく思い、よるこんでいます。

23 私が心をひかれるのは 90歳までも立派に現役でいる人を見ると心を打たれます。

24 私の不平は 今は何もありません。

25 私の兄弟(姉妹) 4姉妹ですが今は妹と二人です。

26 職場では 64歳まで働き一番苦勞した時代です。(思い出も一杯です)

27 私にとって大事なものは 家族とたくさんの生徒さんです。

28 今までは 若い頃は苦勞はありましたが神の与えて下さった私の試練と思いい子供には明るく生きて来て今はみんな消えてしまいました。

29 女 として年を重ねても身ぎれいでいたいと毎日心掛けています。

30 日本 考えてもおよばぬ事と思っています。

#### Part II

1 家では 出来るだけをしています。(勉強)

2 私を不安にするのは 長く病気をしたくないと思います。

- 3 友だち はたくさんいて幸いです。
- 4 私はよく 旅が好きでふらっと出掛けます。
- 5 子供 は二人すなおに成長して大事にしてくれます。
- 6 もし私が 今少し頑張っって二人の子供を大学を出してやればよかった様に思います。
- 7 私の母 はきれいな人で大変人に親切にして生きた人と思います。
- 8 転職 なし。
- 9 男 74歳まで十年間老人会長をつとめた間に色々勉強させていただいた人と思っています。(わがまま、がんこ)
- 10 私の眠り は早く床に入るとすぐ眠り4時30分に目をさましラジオを聞くのがたのしみです。
- 11 もし私の父が 今現在おりましたら私達子供と母をおいてしまったのと思っ切りといつめて見たいと思います。(自殺でした)
- 12 同棲 はきらいでした。
- 13 私が好きなのは 音楽と読書です。
- 14 病気 は色々しましたが今は血圧が高い。
- 15 私の頭脳 普通と思っています。
- 16 金 はきりはありませんが今は十分です。
- 17 私の野心 今思っている事は自分の家で大正琴の教室を持ちたいと思っています。
- 18 妻 私は妻としては落ちこぼれです。
- 19 調子のよい時 は表に出るのが好きです。
- 20 私の健康 まあまあです(常に細かく注意しています)。
- 21 私が残念なのは 主人が早く戦死した事です。
- 22 大部分の時間を 今は大正琴の教室に行くことがそれについての勉強で一杯です。
- 23 結婚 長く一緒に暮らせなかったのが残念です。
- 24 天皇制 あっていいと思います。
- 25 どうしても私は 若い時から気持ちが小さく今それをおおらかになる事に心掛けて生活しております。
- 26 家の人は 大変よくしてくれますので安心です。
- 27 私が羨ましいのは 90歳位までもがんばっている人を見るとうらやましく思います。

28 年とった時 人から何か一つでもよろこんでもらえる事があったら満足です。

29 私が努力しているのは 今は健康が大事と努力しています。

30 私が忘れられないのは 主人の戦死の知らせを受けた時です。

## パーソナリティ・スケッチ

### I. 自己:

戦争未亡人である。苦勞の多かった時代を神の与えた試練と受け止め、明るく子供を育て、64歳まで働いた。現在、大正琴を教えることを一番の楽しみとし、その教室を自分の家に持ちたい、又、もっと慰問に行きたいと思っている。現在の生活を幸せと感じ、身ぎれいにしていること、健康でいることに留意して毎日を過ごしている。不平は何もない。

### II. プライマリー:

苦勞の中にも、子供を素直に育て、現在は二人の孫のいる息子一家と一緒に暮らしており、大事にされている。もっと頑張っって子供を大学までやればよかったと思うことはある。が、二人の子供は素直に育ち、大事にしてくれるので安心していられる。

子供の頃自殺した父親に対しては、何故、母子を置いていったのかと問いただきたい気持ちは持っているが、憎しみはないようだ。死別している母親へは親切な人きれいな人という良いイメージを持っている。

戦死した夫は、何でもできるやさしい人であり、最も残念に思うことは夫の戦死、忘れられないのは夫の戦死の知らせを受けたときであった。

### III. セカンダリー:

近所付き合いを楽しみ、友人も沢山あって、人間関係では恵まれている。大正琴の沢山の生徒さんや少ない親戚の人々も大切にしている。時代の流れや変化した現状もあるがままた受け入れて、現在の生活に感謝している。

#### IV. 自然:

旅行は好きだと云うが、自然に対する関心はあまりないのか、自然に関する描写はない。生活歴、人間関係、現在の状況、内面の記述が多い。

#### V. 超越者:

死はやがて来るだろうが、怖いこともなく、それを考える暇もないほど現在の生活が意欲的、行動的である。苦労した時代を神から与えられた試練と受け取って、乗り越えてきて、今その苦労は消えてしまいましたと云うほど現在を幸せに感じている。特に神仏への傾倒はない。(増野信子)

事例 32 女性 81歳 茨城県つくば市在住

#### Part I

1 子供の頃、私は 7人姉妹の2番目なので学校から帰ると子守をさせられました。高輪小学校なので 47 士の泉岳寺の前を通りますので姉妹を連れてお墓の廻りでよく遊びました。

2 私はよく人から すかれました。子どものいない老人二人だけの家で学校から帰ると魚屋さん、やおやさん、お豆腐やさん等にことづけて呼びに来るのです 少し手伝って一緒に食事をしました。

3 私の家は 今私だけの室プレハブの6畳一室廻りは田圃、山等です 娘夫婦の庭です。

4 私の失敗 人よしてパカ正直とよく言われます。それで色々な事で今迄損ばかり 81歳の今迄 1人暮らし 今年1月娘の所へ来ましたのでやっと卒業しました。

5 家の人は私を いたわってくれますので幸です

6 私が得意になるのは 有りません

7 争い 私が物忘れしますので時々娘にしかられる位で争いはありません

8 私が知りたいことは 有りません

9 私の父 正直で几帳面の人でした 正直の頭に神宿る 何時も申しておりました

10 私がきらいなのは あきかん、ごみを捨ててある事、暴走族

11 親戚 何事もないかぎり1年に 2, 3 回会います 皆中がよいです

12 死 私は明治 42 年 11 月生まれで今年は82歳 お迎へが来た時は何時でもと思っています

13 世の中 目まぐるしく変って来て善い事も多いですが大正一昭和の始め頃がよかったです

14 私ができないことは 細い事がすきでしたが今やる気有りません

15 恋愛 もよいですが今は関係有りません

16 将来

17 もし私の母が 生き返えって来たら世の中の変化に驚く事でせう。

18 仕事 は有りません 今度老人会へは入りました 6月から

19 私がひそかに 献体を考えております

20 近所づきあい 私はつくばに来て6ヶ月 特別のつきあいは有りません

21 夫 善くも悪くも自分の意を通して乱暴な人 12年前半身不随で亡くなりました

22 時々私は 物忘れします

23 私が心をひかれるのは 別に有りません

24 私の不平は 有りません

25 私の兄弟(姉妹) 姉 84 歳私 81 歳妹 78 歳弟 74 歳妹 72 歳弟昨年 68 歳死亡妹 66 歳 今の所皆健康です現在6人です

26 職場では 関係ありません

27 私にとって大事ななのは 娘達家族が健康で有ること

28 今までは 1人暮らしでしたので何もかもしていました 町会の役も

29 女 1人暮らしも自由でした

30 日本 は平和とは申しても事件が多くて大変だと思います

#### Part II

1 家では 自分の事だけです

2 私を不安にするのは 有りません

3 友だち 1人行き来する方が出来ました

4 私はよく 花やちょっとした野菜作りを娘の家へ来る迄していました

- 5 子供 は結婚して子供がおります 皆大きい  
です
- 6 もし私が 若かったら英語を勉強したかった
- 7 私の母 はとても儉約かでした
- 8 転職 なし
- 9 男 大らかでたのしい人
- 10 私の眠り 4時間です
- 11 もし私の父が 今いれば色々な所へ連れて行って喜ばせたいです
- 12 同棲 関係有りません
- 13 私が好きなのは 読書 旅行
- 14 病気 なし 買薬なし 保険課から御褒美頂  
きます
- 15 私の頭脳 最低です すぐ人を信用してだま  
されます
- 16 金 は大切です でも出す所には気物よく出  
します
- 17 私の野心 特別有りません
- 18 妻 とは名だけ 話もなく給料も渡されず乱  
暴でも、中気になった時は見て上げました 途中  
別居して最後1ヶ月世話して死亡
- 19 調子のよい時 とか悪い時別に有りません
- 20 私の健康 すべてに気をつけて来ました 食  
事、運動
- 21 私が残念なのは 何も出来ずに年だけ取って  
しまった事
- 22 大部分の時間を 娘の所へ来た今は 読書と  
庭の草取り時たま食器洗い
- 23 結婚 孫娘がよい結婚をと思つて居ります
- 24 天皇制 昔からですので天皇制は有る方がよ  
ろしいです あまりにも昭和が長すぎていやな気  
がしました
- 25 どうしても私は 今の所何も有りません
- 26 家の人 は おばあちゃんが何時も草取してく  
れるので芝がきれいだと思います
- 27 私が羨ましいのは 別に有りません
- 28 年とった時 今年 82 歳 年とってしまった  
今何も有りません
- 29 私が努力しているのは 生きているかぎり家  
族にめいわくかけない様健康に気をつけています
- 30 私が忘れられないのは 大正 12 年の震災で  
す 私達の所は火は出ませんが 近くの昭和天皇

が東宮殿下の頃東宮御所から火が出た事です

## パーソナリティ・スケッチ

### I. 自己:

現在、娘夫婦の庭に別棟（プレハブ6畳一室）に一人住い。調査時の6ヶ月前に、引越してきたばかりである。それ迄は、一人暮らし（12年前に夫死亡）で、町会の役員はじめ自分で行い、「自由」であったという。今は読書と庭の草取りぐらいなので、やや意欲の低下が見られる。何もせず年を取ってしまったと感じている。しかし、娘のそばで、何の心配も不安もなく、幸せに思っている。

### II. プライマリー:

正直で几帳面の父親と儉約家の母親に育てられた。姉1人、妹3人と弟2人の7人姉妹の2番目で、弟1人除き6人は存命しており、皆健康である。親密で、仲が良いようである。

夫との関係は良くなかったらしく、別居したりしたが、死ぬ1ヶ月前から面倒を見ていたという。娘夫婦と同居し、1人暮らしの終止符をうち、ほっとしているようである。

### III. セカンダリー:

お人好しで、世話好きの人と思われる。新しい地に来て、近所づきあいもなかったが、老人会に入り、また行来きする友だちが1人できたという。

目まぐるしく変わる社会に対しては、特にネガティブな感情は持たないが、この人にとって、大正・昭和の初期が良かった時代である。社会に関しても、関心が薄いことはなく、ゴミを捨てることや暴走族のようなものは、許せないらしい。「平和であっても事件が多くて大変」と、今の日本について記述している。

### IV. 自然:

花や野菜作りをかつてしており、庭の草取りなどをよくする。現実的な自然との触れ合いをする。

## V. 超越者:

81歳という高齢からも、死を覚悟している。ひそかに献体も考えている。特に超越者に関するものはない。  
(菅野陽子)

## 4. 考察

これらの事例をみると、“具体的な”，“肉体をもった”，“それぞれの生活史を生きてきた”，“生身の人間”の「生きざま」が彷彿とされると思う。

このような“生きた事例”をいろいろなグループについて何十例かずつよみくらべると——勿論、一人々は個別の生活史をもったユニークな個人であるが——そこには、あるコーホート、性、地域による特徴、共通性を窺うことができる。

併し、残念乍ら、そのためには数百の事例を必要とする。具体的には性(2)×年齢(5)×地域(4)→40(表 III-3 参照) 1 グループ 10 人として 10×40→400 となる。1 ケース 2 頁として 800 頁である。これだけの事例をお見せすることはあきらめざるをえない。

そこで、アレコレ勘案して、サンプルとしてえらんだのがこの 32 例という次第である。斯様な次第なので、この 32 例のウラには 1000 余のケースがひそんでいる。このことは事例の選択法 p. 67 で述べた。これらの事例、並びにパーソナリティ・スケッチをみることによって、各グループの特徴、共通性などを推測して頂ければ幸いである。

以下、蛇足的な綜括を少し加える。

### I 自己に対する態度に関して

云うまでもなく、これが最も中心的な領域であり、個人差の大きい所である。年代、地域、家庭、生活史を包括してでき上った部分であり、一人々々独自の部分である。

従って、主にこの部分を訊いている刺激文に対する反応は非常にバリエーションが多い。それ故、反応をいくつかのグループに集約することは困難である。又、それが当然である。故に、KJ を行っ

てグループにまとめることも、それを基準にして評価することも余り意味がない。そこで内容分析の対象からは除外した次第である。そして、それにかわるものとして、ここで紹介する事例について、各被調査者の“生の声”をきいてもらおうというのが事例分析の主眼である。

I の“自己”に対する態度については以上の如くである。

併し、これはあくまで一般的にはこの刺激にはこのような反応が多いということである。刺激文の短い「短文型式」の SCT の特徴としては各刺激語を機械的に I~V のカテゴリーに別けることに大した意味はない。又、I~V の態度の分類も、勿論、便宜的なものである。一方、SCT 調査はあくまで 60 の文章全体を読んで被調査者の態度を把握するものである。

例えば、「I-7 争い」は“自己”に関する刺激文ということで KJ の対象からはずした。併し、この刺激文に対して、II のプライマリーグループ、III のセカンダリーグループに関する反応をする被調査者は勿論多勢いる。(他の全ての刺激文についても同様である。)

一方、いろいろなグループの SCT を読んでみると、その中にある共通性が見られることがある。例えば、この「争い」に対して、地方の人は特に「気を使っている」ことに気付く。勿論、一般的にいても、この刺激文で多い反応は“争いは好きではない”，“争いはなるべくさげするようにする。”といった反応である。これは、社会生活を前提としている種としては当然であろう。(勿論、中には攻撃的な反応もあるが。)

併し、問題はその程度並びに様相である。つまり、「争い」が許されない閉塞的な環境。有形無形のしめつけを絶えず感じる社会。そのような社会で育ち、生活している心性がひしひしと読み手に伝わってくる。このような点を北陸・東北グループの SCT を読んでみると強く感じる。

このような地域性は「親戚」「近所付き合い」などに対する積極的評価などにもよく表われていた。

その他で目についた点をあげると IV 自然、V 超越者についての言及が少ないことである。この



ことは、いかにも日本人の“人間万歳”“世俗的現世主義”“物質万能主義”の表われとして首肯できると共に、いささか感慨なきをえなかった。

# V

## 面接の結果

1. 目的	137
2. 方法	138
3. 事例	138
4. 考察	167

### 1. 目的

今回の調査では、質問紙、SCT、面接という3つの技法が重層的に用いられている。これは、現代日本人の生きた姿を広く、なおかつ、深く捉えるために用いられた方法である。つまり、多くの個人に施行可能な質問紙調査と個人を深く理解するのに有効な面接調査、そして、その中間にあたるSCTを組合せることによって、現代日本の姿を包括的に理解することを目指したというわけである。そういう意味では、今回の調査での面接調査の役割は、個人をより深く理解することと言えるだろう。

面接が個人を深く理解する上で有効な理由は、被面接者との対面状況において情報が得られることにある。面接状況では、面接者から被面接者への質問だけでなく、被面接者が疑問に思った点は、面接者に直接尋ねることができる。そのため質問や回答の意図が明確となる。また、面接者は、被面接者の回答を聞いた上で、さらに深く突っ込んだ質問を行なうことができ、得られる情報もより深みのあるものとなる。その他に、被面接者の

面接態度、表情、声の抑揚などの非言語的な情報は、質問紙やSCTでは得られない貴重な手がかりとなる。

面接調査には、このような長所がある一方で、いくつかの難点もある。その1つは、施行が他の技法に比べて難しいということである。質問紙調査では、被調査者の負担が少ないため、比較的協力を得易いが、面接を行なうとなれば、なかなか協力が得られない。また、面接者はある程度の熟練を必要とするため、面接者の数を確保することも難しい。また、距離、時間、予算などの関係からの制約もあり、地域的に限定せざるを得ない。従って、被面接者の数は限られたものとならざるを得ない。

もう1つの問題は、面接の施行方法に関するものである。面接調査には様々な施行方法がある。例えば、質問内容が予め決められた構造化された面接や、あまり厳密に決めずに面接に臨み、その場の雰囲気や話題の展開に従って質問を行なう場合もある。この両者は、それぞれ長所と短所を持っているが、目的に合った適切な施行方法を決めるのは難しい。この調査の目的は、現代日本人の生き方を探ることであり、“生き方”という漠然と

した内容を面接によって聞き出す必要がある。こういう場合、あまり構造化されていない面接を行なうことが多い。しかし、ただ漠然と面接に臨んでも被調査者の生き方を知ることはできない。ある程度、面接内容の焦点を絞らなければ、意味ある結果に結び付けることができない。

そこで、われわれは、質問紙調査に用いた質問紙を面接の土台として用いることにした。質問紙は、現代日本人の生き方を理解する上で重要と考えられる領域を考慮して質問が設定されている。そういう意味では、面接の格好な題材となる。具体的には、面接法による質問紙調査のような形をとり、それをきっかけとして、被面接者の意見や感想を引き出すという方法をとる。このような方法を取ることで、被面接者の動機づけを高め、また、「何かを自分から話さなければならぬ」という圧力も取り除くことができる。

面接結果の分析方法としては、事例分析を行なうことにした。これは、調査全体における面接の役割から、個人を深く理解するということを重視したためである。従って、本章には面接事例を28例ほど掲載した。

## 2. 方法

### 〔被面接者〕

原則として質問紙調査と SCT に回答した被調査者の中から、被面接者を選択した。しかし、中には面接調査のみを受けた者も含まれている。被面接者数は、男性 14 名、女性 14 名である。被面接者の年齢は、20 歳～76 歳で、居住地域は、東京都内、首都圏、その他の関東地方、宮城県、福島県、石川県などである。

### 〔調査時期〕

面接調査は、1992 年（平成 4 年）の 8 月から 1993 年（平成 5 年）の 3 月にかけて行なわれた。これは、質問紙と SCT の結果がある程度まとまった時点で、その結果も考慮して面接調査を施行したためである。

### 〔面接方法〕

面接者が、被面接者に直接連絡をとって面接の日程を決定した。面接では、質問紙調査の質問紙が用いられた。面接者は、質問紙を被面接者に示しながら質問文と選択肢を読みあげ、被面接者の回答を質問紙に記入した。その際、必要があれば被面接者に意見や感想を求め、その内容も質問紙の余白に記入した。

なお、面接には、質問紙と SCT の分析を担当した社会人の 16 名があたった。

### 〔分析手続き〕

面接結果は、事例分析という形でまとめられた。具体的には、面接時に記入された質問紙をもとに、面接者がパーソナリティ・スケッチを作成するというものである。このパーソナリティ・スケッチは、SCT の事例分析と類似したものであるが、質問紙の形式に合わせて、〈I. フェイス〉〈II. 自己〉〈III. プライマリー〉〈IV. セカンダリー〉〈V. 超越者〉の 5 つの項目のもとにまとめられている。各項目ごとに、質問紙の質問に対する回答も考慮して、被面接者の述べた意見や感想を中心に個人像を記述した。

## 3. 事例

以下に、28 の面接事例を掲載する。各事例は、面接の結果に基づきパーソナリティ・スケッチを作成したものである。

各事例の属性は以下の通りである。

No.	性別	年齢	居住地域	職業	頁
1	男性	19	石川県	短大生	139
2	男性	31	福島県	団体職員	140
3	男性	31	埼玉県	会社員	141
4	男性	31	東京都	大学教員	142
5	男性	34	神奈川県	会社員	143
6	男性	36	神奈川県	会社員	144
7	男性	38	神奈川県	ケース・ ワーカー	145

8	男性	39	東京都	短大教員	145
9	男性	42	神奈川県	会社員	146
10	男性	42	福島県	団体職員	147
11	男性	43	神奈川県	会社員	148
12	男性	56	神奈川県	会社員	149
13	男性	67	東京都	大学教員	150
14	男性	76	神奈川県	元会社員	151
15	女性	23	東京都	会社員	152
16	女性	27	神奈川県	会社員	153
17	女性	31	神奈川県	会社員	154
18	女性	32	神奈川県	会社員	155
19	女性	33	東京都	専業主婦	156
20	女性	34	東京都	専業主婦	157
21	女性	37	東京都	専業主婦	158
22	女性	42	岩手県	会社員	159
23	女性	42	東京都	パート タイマー	160
24	女性	44	東京都	パート タイマー	161
25	女性	49	栃木県	専業主婦	163
26	女性	53	栃木県	会社員	164
27	女性	57	埼玉県	専業主婦	165
28	女性	61	神奈川県	元小学校 教員	166

## 事例 1

### [I. フェイス]

19歳 男性 石川県在住 短大(共学)1年生  
父(公務員), 母, 妹 の4人家族

### [II. 自己]

科学技術の発展に関する質問に対して、「便利で快適な世の中になった」を選択してはいるが、「こんな豊かな生活は長くは続かない」を選んでいる。生活全体へは、どちらかといえば不満だが、「個人の力はあまりに小さく、もはや個人の努力では社会を変えていくことはできない」という意見に同意し、「要領よくふるまうほうが結局得をする」と思っている。「今の社会には、問題もあるが、批判ばかりするよりも、社会の流れの中にい

た方がよいと思っている」とコメントしている。被面接者は、一番大切なものに「時間」をあげているが、「有意義に時間を使っているとは思えない」と述べている。

### [III. プライマリー]

婚前交渉や同棲に対しては肯定的であり、「いろいろ考えると結婚した方がよいと思う」を選択し、「結婚したら、子供をつくることは当然である」と考えている。家事・育児に関しては、夫が協力し、妻が中心となっていかなるべきだが、女性は子供ができたなら、仕事はやめた方がよい、と思っている。これは、「主に両親のやり方をみて、このように思った」と述べている。

家庭の意味については、「便利な時もあるが、わずらわしい時もある」を選択している。これは「両親からいろいろと言われることがある」からとコメントしている。しかし、家族は「一番大切な人間関係」としている。

「両親が身の回りのことをできなくなったら」という質問については、「どんなに大変でも、同居して面倒をみる」を選択している。これについては、「自分は長男なので、当然のことと思う」と述べており、寝たきり老人の世話についても、「どんなに大変でも子供が世話するべきだ」を選んでいる。

家族に対するガンの告知については「本人に告げる」を選択し、自分自身についても、告知を望んでいる。

なお、長男なので、将来は両親と同居して面倒をみたいと望んでいる。

### [IV. セカンダリー]

親戚付き合いや近所付き合いについては、気軽な付き合いを選んでいるが、「親戚付き合いや近所付き合いといっても、まだあまり実感がない」とコメントしている。

日本については、「経済的に豊かな国で生まれてよかったと思うが、政治家には物足なさを感ずる」と述べている。

また、天皇(制)については、「あっても、なくても、どちらでもよい。天皇制という言葉もピンと来ないし、天皇や皇族については、テ

レビで放映されれば見るが、特に強い関心を寄せている訳ではない」と述べている。

#### [V. 超越者]

男女の産み分けについては、「技術的に可能であっても、意図的に操作するのは、いろいろと問題があると思う」と述べ、慎重な態度を示した。一方、臓器提供に関しては、「それで他の人に役立つのであれば、そう思うと思う」と述べ、前向きな考えを示した。尊厳死については、否定的な考えを示した。

自分の死後については、「長男でもあり、当然祖先の墓に入っている」と述べた。

宗教は、何も信じていない。なお、「お正月には友だちと初詣には行くが、特に宗教を意識している訳ではない」と述べている。(小林和久)

#### 事例 2

##### [I. フェイス]

31歳 男性 埼玉県在住 東京へ通勤 大卒  
会社員 妻(専業主婦)と9ヶ月の女兒と3人暮らし  
会社の仕事ぶりは冷静沈着で几帳面、ち密 性格的に多少の硬さはあるが周囲の状況をよく見て動く 自分の領域はしっかりと守る

##### [II. 自己]

「現在の生活には充分満足しているが、我々の年代では、そろそろ持ち家を考えなければならず、その問題が解決されない限り“どちらかといえど”を付けたい気持ちが残る。社会の発展、科学技術の発達に関しては、生まれてからこれまでひどい落ち込みを経験していない(オイルショック時は一次、二次とも子供時代)のでどうしても楽観的になってしまう。」

「社会の変化は最終的には個人の動きに帰するのだから、社会を変えて行く個人の力を小さく考えたくはない。」

「人間は基本的には自然の一部なのだから、その中に根ざした生活をすべきだが、科学技術の発達を信ずる立場からすれば、積極的な意味において

の科学の利用を押し進め自然との調和を図れないものかと思う。」

「自分の最も大切なものは生きがいとしての子供であり、その子のためにも仕事にも力を注ぎたい。」

##### [III. プライマリー]

「性的まじわりは、結婚を約束した相手となら構わないと思うが、同棲は賛成しかねる。結婚はしなければならぬものと窮屈に考えたくはないが、現状では結婚したほうがなにかとよいと思う。結婚→出産は当然のなりゆきなので自然にまかせるしかない。育児については子供が大きくなったその時考えるが、今のところは妻が子供の側に居てほしいと思っている。夫が外で、妻が内と役割を決めて考えてはいないが、家事育児は妻が主にやり、夫はそれを手伝うのがよいと思う。」

「離婚は身近にもあり、今は特別なこととは考えないが、結婚生活を単なる男女の愛情問題だけで考えず、子供のことも考え、その維持には最大の努力をすべきではないか。」

「両親の老後はどんなに大変でも子供が見るべきと考えているのは九州育ちのせいだろうか。しかし、自分が一人になった時はできるだけ子供に迷惑はかけたくない。」

「癌の告知は、家族に対してはケース・バイ・ケースでも、これまでの自分を納得して死にたいので、自分にはぜひ教えてほしい。治療に付いては最後まで医学的手だてをつくすほうが、現在の技術段階ではよいと思う。」

##### [IV. セカンダリー]

「親戚、近所、職場の同僚と最低限の付き合いというのは、味気なく、不都合も多い。最も大切な付き合いは、迷うことなく利害関係のない学校時代の友人である。」「現状に不満のない自分にとっては日本に生まれたことが一番の幸せと思う。」「天皇制は長短がありどちらともいえないが、大統領制がよいとは思えない。」

「死の判定が確立されていない現状では脳死段階の臓器移植はどちらともいえないが、それが確実なものとなつての心臓移植は構わないと思う。」

「本人の意志を認めた尊厳死は必要だと思う。死後の世界はなく、無に帰するのみなので、死後の世界を考えるのは無駄。」

#### [V. 超越者]

「宗教を否定するわけではないが、自分の判断や生き方に影響を与えるというほどの積極的な信心はないという意味で、『何も信じていない』に○。」

#### [本人まとめ]

「自分が世代の違いを考えるのは、子供の時のTV番組の話をした時。ライフスタイルにおいて幼児期の体験は大きいと思う。」 (三浦公一)

### 事例 3

#### [I. フェイス]

31歳 男性 福島市在住 大卒  
団体職員(事務) 既婚、現在2人暮らし  
大学卒業後渡仏(3年6カ月)現地旅行代理店等に勤務後帰国、現職に就く

#### [II. 自己]

社会の豊かさに関する質問に対して「こんな豊かな生活は長く続かない」と回答、現在を豊かであると肯定しながら「豊かだと言っても環境問題が心配」とコメントがあった。同様に科学技術と自然破壊に関する項目についても「両立させたいから」無回答であるとコメントしている。

(福島)市内には街路樹すらなく東京より殺伐とした感じだと話し、自然との関わり合いに高い関心を見せていた。

仕事に関しては、「(現在の仕事がいやだと言うわけではないが)今の仕事を続けなければならないとは思わない」との事で、本人自身が2度の転職を経験しているせいか淡々としたコメントであった。

#### [III. プライマリー]

婚前交渉や同棲に付いては、いいとか悪いとかの価値的問題ではなく「どうでもいいこと」とい

う判断である。しかし結婚自体に関しては、適切な選択肢が無いとしながらも「結婚したほうがよいと思う」と肯定的であり、結婚や子供の存在に関する項目についてもそれが生活の重要な部分と見ているようである。

女性の仕事と結婚・育児については「子供ができて、そのまま仕事は続けた方がよい」を選択し、「嫁さんの稼ぎが大事、が本音」であるとしている。家事育児は現状としては「もっぱら妻がおこなう」もので、同等にやるものではないと思うとコメントしているが「夫が助ける」を理想として選択し、「嫁さんの稼ぎをあてにする分は考えないと」とつけ加えている。

「両親が身の回りのことができなくなったら」という質問には「大変でも同居して面倒をみる」と回答しているが自分自身が配偶者に先立たれたらとの質問にたいしては「できるだけ一人でがんばると回答、「同居老人の方が自殺率が高いから」と述べている。

#### [IV. セカンダリー]

親戚付き合いに関しては「相談したり、助けあったりする付き合い」を選択しているが「親戚にもよる、出来れば付き合いたくない親戚もいる」と述べ、実際に疎遠な親戚がいるとの事である。

日本に生まれての感想は「改めて聞かれると正直戸惑が、もう海外で暮らそうとは思わないから」と述べている。

天皇制は「あっても邪魔にならないし、いいんじゃないか程度」とのコメントであった。

#### [V. 超越者]

男女の産み分けに関しては「人為的操作は良くない」とし「男の子が欲しいとき、お腹の子が女の子なら墮胎することになったら大変でしょ、考えますよね」と述べている。

「死後」に関しては「生まれ変わりたいから」を理由に「霊魂は残る」を選択している。また死後は「先祖の墓に入りたい」としているが「太平洋にまいて欲しいというのも分かるような気がするが、どんな所に入るにせよ、その面倒を見てくれる人の問題でしょう」と述べている。

宗教に関しては無回答であったが、「何も信じていないと言うより、特に信じていない。でも信仰を持っている人は強いと思う」と述べている。

(田辺 稔)

#### 事例 4

##### [I. フェイス]

31歳 男性 東京都在住 大学院卒 大学教員  
未婚 母・弟・弟の配偶者と4人暮らし

##### [II. 自己]

当人は、経営学を専攻しており、また、キリスト教を信仰している。

今の社会については、物質面では、「高度情報化社会について行ける人には便利で快適であろうが、こんな豊かな生活は長くは続かないだろう」と考えている。精神面では、「他人のことより自分のことを優先する風潮は、貧困そのものである」と考えている。「時に、投げやりになって、個人中心の生活に憧れることもあるが、それでは人類の将来が危うい感じがする」。「10年先のことはよく分からないし、個人の理想を1人だけで追求することは現代社会ではむずかしいだろうが、人生設計・将来計画だけはしっかりたてておきたい」と思う。

環境と経済とどちらを取るかと言われれば、「生活を犠牲にしても自然を優先させたいが、大都会に長く住みすぎているからあまり自信はない。しかし、自分の中では、きちんと清潔な生活がしたい」と考えている。

仕事は「一生懸命したい。しかし、本当にやりたいことのための時間はしっかり確保しておきたい。コロコロ仕事を変えるのはよくない」。

一番大切なことは「信仰」である。

##### [III. プライマリー]

結婚は、「ふさわしい人がいればという条付付きで、した方がよい」と思う。結婚以前の性的関係や同棲・離婚については否定的。「失敗や後悔の原因となることが多い」と思うから。

子供については、「自然に任せて増えすぎても困

る」。育児の最中は、「母親が仕事をしないで子供の面倒をみた方がよい」と考えている。

家庭は、「生活の中心であり、個人の生活がある程度犠牲にしてもやむをえない」ものである。しかし、「夫は経済的に家庭を支える義務を持っており、家事・育児については補助的な役割しか果たせない」だろう。

父親は10年以上前に亡くなっているが、母親が「寝たきり老人になったら、どんなに大変でも同居して面倒をみたい」と思う。

癌の告知については、「真実を大切」にして、告知したいし、告知されたい。

##### [IV. セカンダリー]

親戚・近隣・友人とは、「道理にかなった範囲で気軽な付き合い方をしたい」。

まあ日本に生まれて良かったと思う。天皇制については、何とも言えない。

##### [V. 超越者]

「人間は、死ねば無に帰すという信仰を持っている」。

産み分け、臓器の提供と移植については反対。

尊厳死については、悪用が怖い。「医師の義務は、薬よりも心の安らぎを患者に与えることだ」と思う。

「神、聖書、奇跡を信じる。今、人間の知力・英知に対する信仰が壊れつつあるように思う。人間が人間を支配したり、変えたりすることはできない。そうすると、残ったものは超自然的な力である。しかし、その間には確かに論理の飛躍がある。この飛躍に疑問を持ち、考えることが宗教であり、信仰である。自分なりに、聖書の中の神は信じられると思っている。この神は西洋の神ではない。中東からはじまり世界に広まったということは、世界中の人が救いの対象になっている。ハルマゲドンは比較的近いと思う。聖書によれば、その時すべての宗教は滅び、神の民だけが救われる。その時は私たちには知りえない。それゆえ、今できること、成すべきことを精一杯やりたい」。

(伊藤隆一)

**事例 5****[I. フェイス]**

34歳 男性 神奈川県在住 東京へ通勤 大卒  
会社員 妻(専業主婦)と6ヶ月の男児と3人暮らし  
会社の文字通りの中堅で仕事に積極的に打ち込んで  
いる 言動は目立つほう 人気がある

**[II. 自己]**

「社会に対する感じ方や科学技術の進歩に対しては、いろいろな取り方があり難しいが、基本的には肯定的で、それ故今後の自分の生活は計画的にやっけて行こうと思う。社会変化に対する個人の影響力については、今の世の中一人ではどうしようもないと思うが、そう思うのは‘くやしい’ので、個人の努力では社会を変えて行くことができないという意見は認めたくない。要領よくふるまうことは、『反発を感じる』というところに共感があり、2に○。」

「自然破壊の問題は、自然との共存を第一と考えるし、破壊はもう限界に来ているので、不便でも、快適さを犠牲にしても、自然を大切にしなければと考える。」

「一番大切なものは安らぎを与えてくれるものとして家族をあげるが、仕事に生きがいを持たないとそれも駄目になるので、仕事にも同じぐらい力を入れている。」

**[III. プライマリー]**

「深い愛情にむすばれた仲での性的なまじわりは認めるが、同棲ははじめがなく、だらしがないと思うので、正式に結婚をすべきだと思う。」

「結婚したら子供をつくるのは当然だが、夫婦の合意のうえでつくるのがよい。そして、子供が小さい間は母親が側にいてほしい。やはり、自分は古いのかな。」

「家事を妻の専業とは思わないし、現に手伝ってはいるが、妻が主になってやってほしいと思う。家族が一番大切な人間関係だと思うし、であれば、その家族のため個人の犠牲はやむを得ないと考える。」

「両親の老後は、二人あるいは残った一人がボケた時は、施設に入れるという話合いがついている。自分が一人残った場合でも意識がしっかりしている間は子供と一緒に暮らしたい。寝たきり老人を子供が面倒見るのは当然だと思うが、現状では無理。しかし、自治体や国に責任を押し付けるのも本人にすまない気がする。税金対策や行政の介助のサポートを受けながら子供が見るのがよいと思う。」

「家族に対する癌の告知はケース・バイ・ケースだが、自分は強くないので知らせないでほしい。」

「ホスピスの設置のため税金を使うことは賛成だが、現在のままの税金の使い方、納税方法のままで、納税額を増やされるのでは納得がいかない。」

**[IV. セカンダリー]**

「親戚や近所の付き合いは最低限の付き合いではさびしい気がする。気がるに行き来できる程度ではありたいし、職場の同僚との仕事後の付き合いもほどほどにほしい。大切な人付き合いを一つに絞るのは苦しいので、敢えて職場の同僚と学校時代の友人の二つを選ばせてほしい。」

「物足りない気もするが、平和が一番なので『まあ日本に生まれてよかったと思う』天皇制については深く考えた結果ではないが『あった方がよい』と考える。」

**[V. 超越者]**

「男女の産み分けは自然の摂理に反するので反対。臓器提供は死の判定が確実にできるようになれば、ぜひ役立てたい。臓器移植は賛成ではあるが、意識のない状態での延命治療には疑問があり、尊厳死も認めて貰いたい。」

「最近、祖父の影響、子供の出生を通じ、仏というものを信じたい気持ちになっている。神様は都合のよい時だけのような気がする。」

**[本人まとめ]**

人の生き方(ライフスタイル)は今の様な状況では、基本的にはその人の個性が大きな要因と思



う。そういう意味では子供の育て方が大切と思う。  
(三浦公一)

## 事例 6

### [I. フェイス]

36歳 男性 神奈川県在住 大卒 会社員  
既婚 子供なし 自分の両親・妻と4人暮らし

### [II. 自己]

社会の今後については、「いろいろな変動があっても長い目で見れば人間の生活は向上し、さらに豊かな社会に発展していく」と考えている。また、人工的でも便利で快適な生活の方を好み、「機械にできることはどんどんやらしてもらった方がよい」と述べている。そして、環境汚染なども科学技術の発展でいずれ克服できると考えている。

転職の経験は一度あるが、自分のわがままで職を変えることには否定的である。仕事に関しては「生活の糧という面もあるが、それだけではなく、人生の中で重要な意味を持つ」と述べている。

また、要領よくふるまう方が得だという考え方には反対で、「そういう人はいつかはボロがでる。やはり地道に生きるべきだ」と述べている。

### [III. プライマリー]

結婚を約束していない性的関係や同棲については否定的である。一方、結婚や子供を持つことに関しては、個人の自由と考えている。「仕事で育児がおざなりになるのは子供にとってよくないので、女性は子供ができたなら一時仕事をやめ、手がかからなくなったら再開するのがよい」とコメントしている。また、「夫は大半の時間会社で働いているので、家事や育児は物理的に手伝い程度しかできない」とも述べている。

家庭については、「生活の中心であり、心のよりどころである」を選択し、家族が一番大切な人間関係であるとしている。

老後に関しては、今現在両親と同居しているが、将来あまりにも大変なことになった場合、施設を利用することも考えている。自分自身が配偶

者に先立たれた時は、できるだけ一人でがんばるつもりでいる。

家族に対するガン告知は、「ケース・バイ・ケース」を選択しているが、自分に関しては「やることをやって死を迎えたい」と、告知を望んでいる。核家族化し、子供も少ない時代なので、たとえ税金が重くなっても、自治体や国による老後・ホスピス等の施設の充実を希望している。

### [IV. セカンダリー]

親戚付き合いは、皆関東に住んでいるため割と頻繁である。近所付き合いは必要性を感じておらず、あいさつ程度でよいとしている。職場の同僚とも、「特に趣味があうわけでもないし、時間がないので仕事に直接関係する範囲の付き合いでよい」と回答している。大切にしているのは気軽に話せる大学時代の友人だが、これも忙しくてなかなか会えないでいる。

日本に関しては、平和で裕福で文化も高いことを理由に、「なにかにつけて日本に生まれてよかったと思う」を選択している。

また天皇制については、「外交や文化行事の時、政治家が表に出るより好ましい場合がある」と述べ、象徴としてあった方がよいと述べている。

### [V. 超越者]

男女産み分けに関しては、「自然のバランスがくずれるのでよくない」としているが、臓器移植については、「他の人の役に立つならばそうしたい」を選択している。また、「病気で苦しんだり惨めな状態になるよりは、人間性を保っている段階で死にたい」と、尊厳死には賛成している。人間は死ねばすべて無に帰すると考えており、自分のお骨の扱いに関しても、特にこだわりはない。

宗教は何も信じておらず、「新興宗教を信じる人の気持ちが理解できない。いい加減な新興宗教を宗教法人として保護するのはおかしい」と述べている。  
(齋藤律子)

## 事例 7

## [I. フェイス]

38歳 男性 神奈川県在住 四大卒  
民間精神病院勤務（ケース・ワーカー）  
妻、子供3名の5人家族

## [II. 自己]

職業柄、社会に対する不平等に怒りや反発を感じているとし、自分にとって一番大切なものは、「差別のない社会」と述べている。また、今の生活にどちらかといえば、満足している方で、仕事以外にも同じ位の力を入れたいと思っている。

転職の経験があり、公務員から現在の仕事に従事している。その実際の体験から、転職については「一度勤めた以上、簡単にやめるのはよくない」と今は思っているという。

## [III. プライマリー]

結婚については、形式にこだわらない。婚前交渉や同棲は肯定的考え方をする。「愛しあっていれば結婚するのが当然である」と感じるが、回答としては、「いろいろ考えると結婚した方がよいと思う」を選択している。

女性の仕事については、結婚後子供ができてもしっかりした方がよいとし、家事・育児は、夫と妻と同等におこなうのがよいと考えているとしている。実際には、なかなか行えないとコメントしている。

家庭は「心のよりどころ」であり、愛情が失われたら、離婚すべきだと思っている。

「両親が身の回りのことをできなくなった場合」は、「老人ホーム等否定的に考えていないが、本当に割り切れるかどうかと思う。実際には、葛藤があると思う。現実的には、近いことである。」と述べている。自分自身は、妻に先立たれても、「新しいパートナーは探さず、一人で頑張りたい」と考えている。「寝たきり老人の世話」は、「その他」を選択し、「低負担でも、自治体や国が行えるはずだ」とコメントしている。

ガンの告知は、ケース・バイ・ケースだが、自

分自身には、「知らせてほしい」と思う。

## [IV. セカンダリー]

親戚、近所の人とは「一応気軽に話し合えるようなつきあい」を望み、職場の同僚とは、仕事が終わった後も話し合ったり、遊んだりする程度は付き合いたいとしている。大切な人付合は、高校時代の友人だと述べている。

日本に関しては、「時々いやな国だと思う」とし、天皇制には反対で「大統領制の方がよい」を選択している。

## [V. 超越者]

生命操作については、産み分けには反対であり臓器移植は、自分が他人に提供することでは、脳死を認めている。しかし、今はまだ共通認識がきちんと作られていないこと、また臓器売買が心配であるという意見である。

リビング・ウィルによって尊厳死を認めることを、素直には良いと思うが、問題が多いことも確かだとしている。

死後については、調査票の中の選択肢から選ぶことが出来なかったという。それは、靈魂ということではなく、その人の歩んできたものは、引継がれていくので“無”ではないからという理由である。自分の死後は、「ビル中に作られた墓地」であっても構わないとしている。宗教、信仰の力を否定はしないが、敢えていうと、何も信じていないと述べている。  
(菅野陽子)

## 事例 8

## [I. フェイス]

39歳 男性 東京都在住 大学院卒 既婚  
短大教員 妻（専業主婦）と2人暮らし

## [II. 自己]

現在の社会は豊かで便利であると思っているし、「自分がまだ技術についていっている」ので満足している。

しかし将来は「追いつけなくなる」し、「世界的

に見ても豊かさが続くのはせいぜい10年程度」。

「技術システム自体が社会・自然環境を変え、科学が発展しても「人口爆発・高齢化社会などによる混乱がその後の発展を飲み込んでしまう」と悲観的。「今の便利な生活機器は手放せない」ので、「生活のレベルを現状維持のまま、なんとか自然と科学技術のバランスがとれないか」と考える。

社会的矛盾には「怒り」を感じ、なんとか変えてゆきたいと思い、「選挙にも行くし、授業でも思う事を述べるようにしている」。

転職には肯定的で、「淘汰されていく」ことになるので、終身雇用よりむしろ「社会的に厳しい」生き方だと思っている。

### [III. プライマリー]

自分の一番大切なものは「落ちついて休める暖かい家庭」で、家庭は気ままにいられる心の拠り所である。

結婚は「した方が良いと思うがしなくても構わない」。特に「女性が経済的に自立できるようになってきたので、だんだん結婚に拘らなくなっていくと思う」。

同棲・婚前交渉は基本的に「かまわない」が、まったくの「フリー」にも引っかかる。

育児は「理想的には夫婦が平等に行う方が良いが、現実的には妻が主、夫が補助となると思う」。そのためにも「子供がある程度の年齢になるまで妻は仕事を辞めて、育児に全力投球すべき」だ。夫が専業主夫をするのは「今の社会では難しいがそういうシステム作りをしてもよい時だし、実態が先行する方が良いのかもしれない」とは思っている。

寝たきり老人や年老いた両親の面倒は家庭内とそれなりの施設とを両方使って行い事になるだろうが、それでも「相当苦勞しそうな気がする」。

自分がガンになったら「知らないで死ぬのは嫌だから」告知して欲しいし、家族にも「約束だから」知らせる。末期ガンで「生かされるのは嫌だから」ホスピスを増やして欲しい。

### [IV. セカンダリー]

親戚とは「親の事などで世話になる事が多くなってきたので」最近では行き来するようになってきた。近所づきあいは以前住んでいた下町ではかなり密だったが、現実には、マンションなどでは全く必要ない。

日本は「幸せでのんきで便利」なので日本人で良かったと思う。

天皇制は「現在の象徴天皇制しか在り方はない」。

### [V. 超越者]

「1人で10人以上を助けられる」のだから脳死後、臓器を提供したいと思っているが、臓器移植は延命率をあげるまであまり急いで一般的治療法とはしない方がよいと思うし、尊厳死の「法制化は日本ではまだまだ難しい」と思う。

「人間の未解明の能力としての‘奇跡’‘超能力’は認めている」が、宗教・信仰は無く、死後の事にはあまり関心がない。(伊藤ひろみ)

### 事例 9

#### [I. フェイス]

42歳 男性 北海道生れ 20歳過ぎ社会人となり道内、東北地方を転勤、現岩手県在住 高卒 会社員 妻(専業主婦)と子供2人(息子・娘、いずれも小学生) 結婚生活10年余

#### [II. 自己]

年収1,000万円をゆうに越える今の生活に「どちらかといえば、満足している」。また「便利で快適な世の中になった」と思うが、「今の社会が精神的にも物質的にも豊かだとは思わない」。「将来の生活は心配いらないなんかなる」と考えているわけではないが、その意味で「今の生活を充実させることが大切」と考えている。また「要領よくふるまうほうが結局得をする」とは思うが、その考え方には反発したい。

「個人の努力では社会を変えていくことはでき

ない」とは思うが、選挙にはささやかな一票を必ず欠かさず投じてきた。

「快適な世の中になった」と思うが、「多少不便でも、人間は自然の中で大地に根ざした生活をするほうがよい」。さらに、「生活のレベルを落しても、快適さを犠牲にしても、自然を大切にしなければいけない」と考えている。いま自分にとって一番大切なのは「健康」である。

転職の経験はなく、また一般に「簡単に転職するのはよくない」と考え、「それ以外の生活もときには楽しむが、仕事のほうに力を注ぐ」毎日である。

### 【III. プライマリー】

「家庭というのは生活の中心であり、心のよりどころである」。従って、「家族のためならある程度個人の生活を犠牲にしてもよい」。いったん「愛情が失われたら、離婚すべきだ」。

婚前交渉は一般論としては肯定するが、自分の子供たちには絶対否定するであろう。ましてや同棲には反対「正式に結婚すべきだ」。そして結婚は「いろいろ考えたとしたほうが良いと思う」。子供は「つくるかどうかは、自然にまかせるべき」と思う。

家事・育児は「主に妻がおこない、夫がそれを助けるのがよい」と思っても、実際は現在の日本では無理があるので、「もっぱら妻がおこなうのがよい」と考える。女性は「結婚して子供ができたなら、一時仕事はやめ、子供に手がかからなくなったら再開するのがよい」と思う。

両親が自分で身の廻りのことができなくなった場合「どんなに大変でも、同居して面倒をみる」。自分の場合は「できるだけ一人でがんばる」。

寝たきり老人の世話は「どんなに大変でも子供が世話するべきだ」と思う。

家族に対するガンの告知については、「本人には云わない」が、自分についてはいろいろ考えねばならないこともあり「知らせてほしい」と望んでいる。

末期ガンの患者の介護は「経済的負担が大きくても、通常の病院で最後まで治療してもらうのがよい」としている。

### 【IV. セカンダリー】

近所の人とは「会ったときにあいさつする程度の最低限のつき合い」だが、親戚とは「何かにつけて相談したり、助け合ったりするようなつき合いをしたい」。幸い隣県にいたので可能である。

職場の同僚とは「仕事が終わってから話合ったり、遊んだりする」。

友達では、中学時代の友達とが一番。

日本に生れて、その平和なことと治安の良さに感謝、「良かったとしみじみ思う」。

天皇制は、「象徴」の範囲で、あってもかまわないと思う。

### 【V. 超越者】

産み分けについては「生命を人為的に操作するのはよくない」と思う。

他人への臓器提供は、考えたことがなく「どちらとも云えない」。心臓移植は「命が救われるのであれば、取り替えたらい」。尊厳死は「本人の意志で……よいと思う」。

「死んでも靈魂は残ると思う」。墓地は「ビルの中、ロッカー型」でよい。

宗教はないが「奇跡」「易や占い」は信じる。「お守りやおふだ」は信じないが、使用している。

(向井恒夫)

## 事例 10

### 【I. フェイス】

42歳 男性 福島市在住 大卒

団体職員(専門職) 30歳前半に結婚、現在独身  
名古屋出身、大学は東京、卒業後福島に定住。

### 【II. 自己】

今の社会について「こんな豊かな生活は長く続かない」と回答したが、「(この質問は)難しい、貧しいとは思わないが、豊かだとも思わない」としている。しかし科学技術の発展により「豊かではないが) 便利で快適な世の中になった」と回答している。本人は離婚後、一人暮らし用にワンルーム形式の住まいに移り、煩わしい近所付き合

いも避けているとの事である。

将来の計画に関しては「今の生活を充実させることが大切」とであるとし「年齢的に将来がないから」と述べている。科学技術と自然破壊に関しては「自然と隔絶しても、便利で快適な生活」を選択し、実際に「空調設備が整っているので自宅にいと窓も開けない、自然は窓から見える範囲で充分」とのことである。また環境汚染に関しては「科学技術の発展により克服し、素晴らしい社会」を選択しているが、克服できるとは思わないが、生活レベルは落とせない」からと理由を述べている。

一番大切なものに「自分」をあげ、「家族もないし」と理由付けしている。本人は生涯独身を決意した訳ではないが、とくに家族・家庭を持ちたいとも思わないそうで、また出身地には両親・妹が健在であるが年1回程度の交流しか持っていないとのことである。転職に関しては「転職が良い・悪いではなく、(条件の良い転職先がないので)できない」と述べている。

### 【III. プライマリー】

婚前交渉について、「結婚式がすむまで性的まじわりをすべきではない」とする回答が全国平均の上位(第2位)に来ることが信じられない様子であった。結婚に関しては否定的で、子どもの有無についても「もう一度結婚しても子どもは要らない」とコメントしている。家庭とはどんなものかという質問には「もし家庭をもつするなら」と前置きしながら「ある程度の犠牲もある」と答え、「だから持たない方がよい」とつけ加えている。

離婚に関しては強い調子で「経験上、結婚継続の努力も、別居生活も無意味だ。愛情が失われたら離婚しかない」とコメントしている。ガン患者に関する質問には、経験として「本人(家族)にはガン告知をしない」が「自分の時は知りたい」としている。またホスピスは必要だと思うが「それが本人にとって幸福かどうか分からない」と述べている。

### 【IV. セカンダリー】

職場の同僚とは「相談したり、助け合ったりす

る」付き合いで、「病気の時に助けてもらったから身にしみている」と述べている。

### 【V. 超越者】

男女の産み分けに関しては「男女の出生比率が変わらなければ」としながら「今の時代ではやむを得ない」を選択している。

臓器移植について「自分自身に関しては、死んだ後は(他人へ臓器提供などしないで)そっとして欲しいけど、他人同士のことなら、それで命が救われるなら良いことじゃないかな」とのべ、自分の死後の骨は「太平洋でも、空からでも、まいてくれればよい」としている。

(田辺 稔)

### 事例 11

#### 【I. フェイス】

43歳 男性 神奈川県在住 大学院修士修了  
民間企業の常勤 妻と子ども2人の4人暮らし  
(世帯年収 700万~1000万円)

#### 【II. 自己】

公私にわたって今の生活には、「どちらかといえば満足している。」とし、今の社会は、「色々な意味で「さらに豊かな社会に発展していく」と考えている。また、科学技術の発展によって、環境汚染も克服できると思ひ、調和がとれていれば、「人工的でも自然と隔絶していても、便利で快適な生活ができるほうがよい」を選択している。自分にとって一番大切なものは、「自己実現」であると答えている。

仕事については、転職の経験があり、デパート関係に3ヶ月程勤めた後、辞職し、大学院に進学し、修士修了後、電気メーカーに勤務している。今も、「職場や仕事内容が適さなければ、転職を考える」と述べている。また、仕事よりも家庭や仕事以外の生活に生きがいを感じているという。

#### 【III. プライマリー】

婚前交渉には肯定的であり、同棲そのものについては否定はしないが、結婚前提ならば、「正式

に結婚すべきだ」としている。結婚後子どもは自然に任せ、女性は「一時仕事はやめ、子供に手がかからなくなったら再開するのがよい」と考える

自分にとって「家庭」とは、「生活の中心であり、心のよりどころ」で、「一番大切な人間関係である」とし、「愛情が失われても、結婚継続のために最大限の努力をすべきだ」としている。

老後の問題は、自分の両親のどちらかが身の廻りのことができなくなった時は、現実そうなるかは別として前置きをしつつ、「同居して面倒をみる」と回答し、寝たきり老人の世話は、「どんなに大変でも子供が世話するべきだ」と考えている。

家族に対するガンの告知は、「ケース・バイ・ケース」であるが、自分自身は、「知らせてほしい」と思っている。また、末期ガン患者の介護は、ホスピスのような施設を大幅に増やすのがよいとしている。

#### [IV. セカンダリー]

親戚づきあいは、「一応気軽に行き来できる程度の付き合いをしたい」とし、近所とは、「会ったときにあいさつする程度」にとどめたいとしている。なお、この被面接者は、新興住宅地の一戸建に住んでいる。

大切な人付き合いは、学校時代の友人であり、職場の同僚とは、「仕事が終わってから話し合ったり、遊んだりする程度の付き合い」をしている。

日本については、入社後カナダに4年間滞在していたこともあるが、「時々いやな国だと思う」を選択している。

天皇制は、「どちらともいえない」と考えている。

#### [V. 超越者]

産み分けに関しては、実際に女の子が欲しかったという気持から、肯定している。自分が臓器提供することも、賛成である。しかし、心臓移植については、「そこまで人為的に手を加えるべきではない」を選択している。

尊厳死に関して、リビング・ウィルには肯定であり、死後は「すべて無に帰すると思う」とし

ている。自分の死後は、次男なので「新しい墓を作ることになるだろう」とコメントをしている。

宗教・信仰は「その他」を選択し、「ギリシア神話に描かれている世界」を信じており、どうして出来たか関心があると述べている。(菅野陽子)

#### 事例 12

##### [I. フェイス]

56歳 男性 横浜市在住 大卒 会社員 長女と同居 長男は結婚して別居 次男は別居

##### [II. 自己]

日本は官僚国家で百年間全く変わっていない。しかし個人の価値観が少しずつ変わってくるなかで従来の金権政治とか、色々な社会システムが崩れつつあるのは確かだと思う。一人の力が社会を変えろとは思わないが、しかし変革の意識は持つべきと思う。自然破壊環境問題は今の生活の便利さ快適さとの引き換えとしては人間として大きな代償負債を抱えたことになる。これからは自然と経済成長との調和が子孫のために大切だと思う。経済成長によって金銭的には確かに豊かになったが、心の豊かさを考えるゆとりがなかった。これからはもっと自らの生活の中味を豊かにすべきである。そう考えると今までシャカリキに三十年働いてきて専門的知識は別にして自分に何も残っていない。その意味では全く無為に過したという感じで定年後仕事はしたくないが、かといって趣味とか何もすることがない。会社生活をふり返ると大学では近経ゼミで当時は卒業生も少なく、NTT内定国家公務員試験も100番以内であったが防衛庁ぐらいしかなく、ゼミの雰囲気はなんでも金融機関ということでこの会社に入った。入社して十数年は恵まれていたが上司が地元にかえしてやろうという配慮がアダになり営業に出され十年ぐらい苦勞した。もしそのまま専門のポストにいればそこそこいったと思うが、そんな事を云ってもはじまらない。今は平穩無事で自分を大切に生きる事を考えている。少し糖尿病もあるので大極拳をやっているが、東洋の智恵みたいなものを感じ

る。今宝くじぐらいで夢をつないでいる。

### 【III. プライマリー】

今一番大切に思っているのは家族の幸福である長男に孫ができて二月に一度孫の顔を見るのが楽しみだ。家族の絆が結局自分を支えているように思える。長女は就職、次女は勉強が嫌いと高校から仕事についた。今考えるとやはり親の考えを押しつけてきた。子供を理解しようとしなかったと思う。家族という関連では結婚とか同棲とかはやはりモラルがあると思うし、女性は育児に専念すべきだ。将来は子供と同居してみたいと思っている。

### 【IV. セカンダリー】

親戚とか血のつながりは大切である。特に意識していないが、近所づき合いはサラリーマンの宿命でほとんどないこともある。会社の出張で多くの国を表面的に見て、外国に住んだことはないが、やはり日本が一番いい。これは理屈ではない。天皇制については大統領制と全く異質で、大統領は行政機関であり、これと比較するのがナンセンス。日本人のアイデンティティの象徴としてあっていいと思う。伝統は大切にすべきだ。

### 【V. 超越者】

祖父が曹洞宗の住職であり、父が継ぐのをいやがり、従って自分もサラリーマンである。いわゆる神とか仏、は全く信じていないと言葉にするとそうなるが、自然とか生きることの摂理みたいなものが働いている感じはしている。祖父は住職だったので墓は一代限りでわが家は入れない。その寺に別に墓を建てなければならぬが、やはり郷里の方がいいと思うが特に今考えていない。

(田辺満彦)

### 事例 13

#### 【I. フェイス】

67歳 男性 東京都在住 大卒 大学教授 (音楽教育法)

妻、娘と三人暮らし(息子は仕事のため別居/子供は

2人とも独身)

#### 【II. 自己】

全項目にわたって共通するのは「現実とは現実として受け入れ、その中で自分の力を最大限に発揮すればよいし、また我々はそうすべきだ」という姿勢である。2d で被面接者が述べた「(社会を)変えられると思わなければ現在の自分の生活の根拠がなくなってしまう」や 2c の「現在は不備であるという認識にたって改善をはかるべき」という発言に顕著に表れていると思われる。また、「豊かさは経済的なものよりも心の豊かさが重要である」(2a) という考えも強い。さらに、3b では「生活のレベルの高低は自分自身の認識の問題であり、(まわりからどう見られようと)自分が快適と思っていればよい」と述べるなど、全体的に前向きでポジティブな生き方を志向している被面接者の姿が感じられた(4 で 1 番大切なものとして「創造」を挙げていることでもこのことが窺われる)。

また、自然に対しては「自然との調和のある生活」を重視し、生活のレベルと自然の両方を守るべきとしながらも、どちらか一方を選択するならば自然を尊重するとしている。

「仕事は遊びと思っており、また(仕事は)命の燃焼のさせ方である」という被面接者の言は、被面接者のこれまでの生活史や現在の仕事への取り組みぶりに如実に現れており、能力に裏打ちされた確固たる自己への自信が感じられる。

#### 【III. プライマリー】

家族・家庭に関しては保守的態度を基盤とした独自の考えを持っているようである。例えば 1 に関して「性欲は神様の与えてくださった生命継続の為の能力であり、一方結婚は人間社会が設けた制約で、人間社会で生まれたからには守るべきだ」と述べているところなどにこのことが窺われる。

また、家庭は「社会のベースであり最も大切なもの」という考えが強く、家族・家庭、特に親子の絆を大切にしている被面接者の生き方が感じられた。このような被面接者にとって、親の面倒をみるのは子として当然であり、事実被面接者自身

も親に対してそのようにしてきたとのことである。また、自分の子供にもそれを望んでいるようである。

#### [IV. セカンドリー]

親戚づきあいは「助け合わなければならない時に徹底的に助け合う関係」が好ましいとし、普段は気軽なつきあい程度のものである。このことは近所づきあい、職場の人間関係でも同様で、親戚から趣味の仲間まで分け隔てなく「大事な存在」であるとし、そこそこに親しいつきあいをしているようである。

日本については「生まれてよかった」、天皇制は「あってかまわない」と積極的肯定ではないが、理由として「天皇制のために日本が家族としてまとまっているから」と述べていることから、かなり肯定に近いと推測される。

#### [V. 超越者]

被面接者は特定の信仰をもっていないが、「人間の肉体・能力は神様が与えてくださったもの」との考えが基本にあり、「産み分け」や「臓器移植」にはネガティブな意見である。また、「死は神様の意志だと思うからおびえる必要はない」という死生観を持つと同時に尊厳死を認めている。被面接者によると「このような考えには16歳から23歳までやっていた禅の影響が強い」ということである。また、すでに自分のお墓をつくっているとのことである。

どの項目に対しても自己の考えが明確であり、積極的な人生を歩み、その専門分野において多大な業績を残してきた被面接者の自信が感じられる面接であった。また、本調査票に関しても助言をしていただいた。(川島 真)

### 事例 14

#### [I. フェイス]

76歳 男性 横浜市在住 富山県の山村出身  
高専卒 メーカーを定年後関連会社の役員を71歳まで勤め、現在は年金で妻と2人暮らし 子供3人

(長・次女は近くに居住 長男は持ち家を購入し静岡県在住)

#### [II. 自己]

「自分達の世代は上・下の世代と違って十分な年金を受け取ることができ、経済的な面では何も心配ない。その点では満足している。しかし、社会的なつながりはリタイア後も欲しい。これからの世代は福祉政策の破綻で大変だと思う。科学技術の進歩で確かに生活は快適になった。バランスさえ考えれば、自然と人間の共存は可能。ここまで文明社会が進むと、もはや逆行は無理。グリーンピースや捕鯨反対などの自然保護団体は勝手な論理だと思う。そこで実際に生活している人達の豊かさや快適さへの欲求を無視している。快適さと引き換えに世の中がブラックボックス化してもそれは仕方ないこと。自分も技術者で機械の設計などしてきたが、専門以外の事もすべて分からなくへは嫌だと思った事はない。また、個人の力で社会変革は不可能としても、企業という社会システムの中に参加することで、その一翼を担うことはできる。」

いかにも企業の技術者らしく、科学技術への信奉と、企業という社会システムの中で自己実現しようとしてきた姿勢がうかがえる。

#### [III. プライマリー]

「世の中の基本は家族・家庭。夫婦の心の結び付きがまず大事。それが無くなってしまった夫婦関係は全く無意味。いま一番大切なのは“妻”。年をとってつくづくそう思う。夫婦関係というのは昔からある、一種の“保険制度”。何かあったときにはお互いに助け合うという“契約”。結婚・出産は次代を作り出すために必要なこと。結婚という社会制度は人間が作り出した文明で、“進歩”のあらわれ。同棲では動物としての本能のままという気がする。家事分担は悪いことではないし、社会も女性の力を活用すべき。子育ても育児休暇制度を整備し、人材派遣などを活用して女性が職場に復帰しやすくすべきだ。ただし、男女の本質的な差異はあると思う。」

自分達の世代が上の世代を看取り、下の世代を



育てて、やがて面倒をみてもらうという時間的な縦のつながりを意識しているが、やはり最終的によりどころとなるのは夫婦という横のつながりだと感じているようだ。長男が横浜に帰ってきて同居することは殆ど可能性が無いこともあり、できる限りは夫婦2人で頑張りたいと考えている。妻の兄弟が皆近くに健在で、頻繁に行き来があり、その点で自分達は恵まれているとのこと。

#### [IV. セカンドラー]

「社会的な問題には元々関心があるが、いま特に福祉政策について見直しが必要だと感じている。何でもタダという美濃部式は失敗。年金で自分達の医療費や交通費を賄う経済力を今の年寄りを持っているはず。応分の負担はできる限り担うべき。また、今の福祉制度が若い世代の犠牲の上に成り立っていることを、年寄りにもっと啓蒙すべきである。日本に生まれて基本的に良かったと思う。その理由は、宗教的対立が無いこと、欧米のようにあまり貧富の差が激しくないこと、民族的にそれほど複雑でないこと。天皇制は日本の顔として必要。千何百年続いているという重みは大切なこと。戦争責任は天皇制を悪用した一部の人間にあるのであって、天皇個人にはない。国旗・国歌を全面否定してしまうような教育は誤り。過去を否定することが進歩的だと思っているような知識人が通用するのは日本だけ。あまりにも単純な思考。」

居住している横浜市福祉制度が日本でもかなり進んでおり、周りの年寄り達がそれをさして問題意識を持たないままに利用している風潮や、政治家が選挙の道具として福祉を扱い、結局は財政的破綻を来している現状に反発を感じている。戦争中は海軍で飛行機の設計に従事。実際には戦場にかかわらず、海軍という割合自由な雰囲気の中に入れていか、天皇制に関して批判的感情はない。

#### [V. 超越者]

「脳死は“死”であると思う。判断力が無い状態はもはや人間ではないし、人間でない状態は死。そうした意味で、自分は尊厳死を選択したい。もし、また病気で入院するような事態になれば、娘

に証人になってもらって医師に無駄な延命措置をしないよう言う積もりである。人間の尊厳が失われない限りは科学技術の進歩を享受し、臓器を部品として取り替えることもよい。ただし、男女の産み分けに関しては、自然のバランスをかなり崩すことになるのではと心配。」

「自分は20歳の頃胸を病み、精神的な支えが欲しかったこと、その頃(S10~15年)世の中を支配し始めた軍部の雰囲気反発を感じたこともあって、キリスト教のプロテスタントに入信した。牧師さんの抱持をしてくかなり勉強した。しかし、転職になったことや、キリスト教が白人中心主義で、世界征服の手段に過ぎないと感じたこともあって、結局信仰しなくなった。争いを起こさないための統一ルールとして神が存在してもよいと思うが、宗教というのは、他の宗教と妥協できる柔軟性を持っていなければと思う。その点、日本に輸入された仏教は非常に包容力があり、日本の先祖崇拝とマッチした。自分では神や仏を信仰しているとは言わないが、人間の力の及ばない絶対的な力を“運”として感じている。家の宗教は浄土真宗で、親鸞の思想には感銘を受けた。死後や墓に関しては、信仰や宗教的意味とは別の次元だと思う。家族のつながり、後の世代とのつながりという意味で、墓という具体的な対象が必要。言うなれば先祖信仰で、そういった感覚は自分にもある。」

理性や進歩といったものを“人間”的な部分として、絶対的な価値を置いている。ただし、人間の力の及ばない部分も確かにあり、それを“運”だとしている。尊厳死の問題は自分にとって差し迫った問題として感じているようで、リヴィング・ウィルもすでに知識としてあった。

(西村麻由美)

#### 事例 15

##### [I. フェイス]

23歳 女性 東京都葛飾区在住 高校卒 会社員  
両親と本人の三人暮らし 長男は就職、寮にて別居

**【II. 自己】**

生活には一応満足している。豊かさという意味ではこんな状態がいつまでも続くとは世界のどの国を見ても思えない。生活は計画的に一步步積み上げて行くべきだと思う。今の気持としては、あるがままの生き方、何か目標を持ってがんばるのではなく、自然体の流れの中で結婚もしたい。子供を持ったらやはり家事育児に専念したい。今の政治はどうしようもない。身近なところでは確かに要領のいい人が得をしているのは口惜しい。今快適な生活が自然破壊になっているといわれる。やはり今の生活は続けたいし、環境もよくしたいと思う。ただ自分の子供たちの時代の不安をなくすために環境への努力はすべき。

**【III. プライマリー】**

家族が一番大切。その意味で離婚はすべきでないと思う。家族は心のよりどころで、その人間関係がなにより大切だと思う。結婚は目的ではないが、やはり愛し合っていれば深いつき合いがあることになるし、一緒に住みたいと思うようになり、結婚になって行くのが自然かなと考える。夫婦で子育ては協力してやって行くのは、特に考えてそうあるべきというのはどうか。親が若いので実感がないが本来家族が面倒をみるべきではないか。在宅介護は理想だが実際ポケとか寝たきりになったときどうするか分からない。ガン告知は絶対に自分に知らせてほしい。私は知る権利があると思う一方、そのために死が近いとしたらやはり知っておいてやるべきことをやると思う。家族もそうしてほしいと思っているのではないか。ただし実際そうなったとき自信はない。

尊厳死についても本当に本人が楽になるのか分からないので簡単に賛成できない感じである。自分自身としてはその場になったら判断できない。もし年寄りになって一人暮らしになっても、子供に面倒をかけたたくないとは思っている。

**【IV. セカンダリー】**

親戚近所ともあまり付き合いたくない。そこそこの関係がいい。日本はいいと思うといっても外

国を知らないのではなんとも云えないが、天皇制については関心なくコメントしようがない。

**【V. 超越者】**

信仰心があるかと云われれば答えられないが、なにか靈魂は不滅と思いたい。今のオカルトブームは好きではないが、やはり死んでも魂が残ると思った方がいい。死の恐怖はある。その意味でもせめて魂の存在が救いでないか。また先ほどの自然の話ではないが、やはり自然の摂理とか目に見えないもの、宇宙を律する何かがある様に思える。人間もこんなに増え自然や地球を破壊するまでになって、もうすぐ何か起って、人間を死滅させる宇宙のいとなみが働くのではないかという気がする。  
(田辺満彦)

**事例 16****【I. フェイス】**

27歳 女性 相模原市在住 高校卒 会社員  
父、母、弟と四人暮らし

**【II. 自己】**

今の生活にははっきり満足とはいえない。社会は豊かと云うがどこに豊かさがあるのか。自分としては自衛的にも計画的な地道な生活をするべきだと思う。世の中きかない奴ばかりはびこっていて、政治でも会社でも悪い奴ほど得をしているのが現実だ。環境破壊とか自然が失われるとは云っても、今の生活を下げてまでというのは観念では云っても実行は不可能。せめて科学の力でなんとか破壊をくい止めてほしい。女性は結婚したら家庭を守り子育てをするのが、人類発生以来そうした分業が行なわれてきたし、ごく自然なことだと思う。女権主義者が云っている同権のレベルと主婦となるということは次元が違うと思う。女権主義者は男に子供を生めといっているのと同じだ。ただ結婚して、もし夫に先き立たれるとか一人暮らしになるかもしれない。そのときの心の支えと経済的な問題を考えて、女として手に職を持つ。しかも生涯勉強できるものを目標にしている。しか

し夫と対等に経済的に自立しなければという意味では全くない。夫と妻、男と女、対等な人権であると言う意味と、経済的自立しなければ対等でないというのは偏見だと思う。女権主義者はどこかで問題をすり変えて本質を見失っている。前の会社にて世の中が見えた訳ではないが、悪い奴、要領のよいやつが得をしている。金丸問題もまたま見つけられたもので、政治家は皆同じことをやっているが、少しは良くなっているかもしれない。

老人問題は、今現実に身内にいるので深刻だが、基本は家族が面倒をみるべきで、病院に入っているときと比べると、家に帰ってきたときは顔色もよくなり表情も豊かになった。ただ全くボケとか寝たきりになってしまったら、体験上家族の負担は大変で、家族の方が疲れてしまう。公共の施設を沢山つくって、少し税金を高くしてもそうした病院に入れるしかないと思う。尊厳死は本当に本人が分らないのか分らないのが不安だが、自分は遺書とか文章として、もし脳死になったら生命維持装置をはづしてほしいと書いておくつもりだ。

### 【III. プライマリー】

旧世代の価値観と違うと思うが、同棲とか婚前交渉は「冬彦 Syndrome」の男を把まないためにも必要だと考える。家庭は本当に一番大切だし、その人間関係は一生の絆だから、家庭は前に云ったが、自分が家事育事を担当するつもりである。ただ子供が生まれたとき、小学校あるいはその前からエリートに育てようとするか入れるとかは恐ろしい。子供は子供の世界がある。家庭も夫婦の考え方で築いて行くべきだと思うが、子供の生き方を尊重すべきだ。ガン告知は家族や自分のことを考えると難しい。80歳を越えてのときと、40歳のときとは話すべきか。もし自分だったら自信がない。老後はできるだけ一人でも暮らして行きたい。

### 【IV. セカンダリー】

親戚つき合いは程々。近所とはあまりつき合いたくない程度に仕事に関して直接関係がある人

のみとつき合って行きたい。天皇制については全く関心がない。

### 【V. 超越者】

神とか仏とかを全く信じないかと聞かれればそう答えるが、何か自然の摂理が働いているように思う。だから発展途上国の人達が沢山子供を生むのが信じられない。それを防ぐ知識や方法がないのかもしれないが、自分としては子供はほしい。子供には育てるとき親のエゴを押しつけないように努力したい。何か心の支えとか、倫理観が必要であり、そうでないと悪人ばかりがはびこる様になるんじゃないか。転生輪廻というのが魂は残って、再び命に宿る。そのとき前世で悪い事をした人はひどい目に会うと考えなければならぬし、そう信じている。何か目に見えないものにやはり支配されている。それでいいのではないか。自分の力ではどうすることもできない物があつた方がいい。(田辺満彦)

### 事例 17

#### 【I. フェイス】

31歳 女性 神奈川県川崎市在住 大卒 未婚  
両親と同居 既婚の兄とは別居 民間企業の常勤

#### 【II. 自己】

今の社会に対しては、「便利で快適な世の中になった」と感じているが、「今後 10 年くらいはさらに豊かになっても、その後はどうなるかまったくわからない」とコメントしている。また、将来のために計画を立てて生活することは大切ではあるが、そのために我慢する必要はないと考えている。また、将来の生活は心配しなくてもなんとかなるという考え方には疑問を感じながらも、「今の自分の生活を充実させることが大切だ」と回答している。さらに、若い世代でも「計画を立てて生活することが大切だ」という意見の方が多いのには「少々がっかりした」とコメントしている。

社会変革に関する質問に対しては、「個人の意見が一つに集まれば、社会を変えていくことはでき

る」と思うが、「ひとりでは無理」と述べている。

また、このような社会で要領よくふるまうことは、「得をすることは思うが、自分はそのことによって行動はしない」と述べており、一番大切と思うものとして「公明正大なこと」をあげている被面接者のフェアな生き方を表わしていると思われる。

被面接者は、ずっと川崎に住んでいるが、健康に問題さえ起こらなければ、川崎のような都市で生活したいと考えているようだ。また、「自然を守るためにも科学技術の発展が必要なのではないか」と考えている。

### [III. プライマリー]

婚前交渉や同棲については肯定的で、「結婚式がすむまですべきでない」という意見のあることがおかしい」と思っている。また、結婚については、「しいて結婚する必要はない」を選択しており、子供については、「結婚自体を必要と思っていないので、子供も必要不可欠ではないが、結婚したら、自然にまかせる」と回答している。また、被面接者にとって仕事は重要なものであり、「子供ができて、仕事は続けた方がよい」と回答している。さらに「自分は家事より仕事の方が好き」なので、家事や育児は「もっぱら夫が行うのがよい」くらいだとコメントしている。老後の問題については、自分自身は「できるだけ一人でがんばる」を選択しており、寝たきり老人の世話については、「家族、自治体や国の両方が行うのがよい」と回答している。

家族に対するガンの告知については、「ガンでも最近では直る場合もあるので、ケース・バイ・ケース」と回答しているが、自分については、「知らせてほしくない」を選択している。

### [IV. セカンダリー]

親戚や近所の人との付き合いは、あまり深いものを望んでいないようだ。職場の同僚とは、「仕事が終わってからも話し合ったり、遊んだりする程度の付き合い」を望んでおり、職場と学校時代とを分けず、友人との付き合いは大切にしているようだ。

被面接者は、海外旅行や短期海外研修などの海外生活経験もあるが、日本については、「なにかにつけ日本に生まれてよかったと思う」を選択している。

天皇制については、「ない方がよいが、大統領制にすることもなし」とし、「天皇制と政治とは別なものだと思うので、ここで大統領制と比較するのはおかしい」とコメントしている。

### [V. 超越者]

産み分けに関しては、難しくてよくわからないとしながら、「男・女どちらでも選べるのは、何かと好都合だ」を選択している。

臓器提供や、心臓移植に対しては抵抗がないようだ。また尊厳死についても賛成している。

死後のことについては、「死ねばすべて無に帰すると思う」を選択し、死後のお骨は、「ビルの中に作られた墓地」や「ロッカー型のお墓」でもよいとし、「どうでもよいことだ」とコメントしている。「宗教・信仰について信じているものは」という質問に対しては、きっぱりと「何も信じていない」と回答したことが印象的だった。

(佐藤由美子)

## 事例 18

### [I. フェイス]

32歳 女性 神奈川県横浜市在住 大卒 未婚  
母親と2人暮らし 既婚の姉、兄とは別居 民間企業の常勤

### [II. 自己]

社会変革に関する質問に対しては、「理想としては個人の努力で社会を変えていくことができる」と考えたいが、「現実には無理だ」と感じている。また、このような社会では、反発は感じるが、「要領よくふるまうほうが結局得をする」としみじみ感じることもあるようだ。「会社では要領が悪いと損だ」とコメントしており、「自分は要領よくできない」方なので、「要領よくふるまう人は仕事上では許せても、個人的なつきあいはしたくない」と述べている。そんな被面接者にとって

一番大切なものは、「自分のポリシー」と回答しており、損だと思いながらも自分の考えていることを貫こうという静かな態度が感じられる。

被面接者にとっては、仕事とそれ以外の生活が「同じくらい大切」で、転職については、「一日の大半を過ごすのが職場であるから、がまんしてまで続ける必要はない」が、実際には「年齢、給料を考えるとなかなかできない」とも述べている。

### 【III. プライマリー】

婚前交渉や同棲に対してはあまり肯定的ではなく、「ためしに同棲する」という考え方には「責任感がないような気がする」とコメントし、何より大切なのはお互いの愛情であると考えているようだ。また結婚については、「しいて結婚する必要はない」とも思うが、「老後などいろいろ考えると結婚した方がよいと思う」と述べている。さらに「結婚には、他人と暮らすことにより自分も成長するという意味もあると思う」とコメントしている。仕事と結婚・育児についての質問には、「結婚によって仕事を辞めることには反対」だが、「育児の面から考えると仕事は軽減した方がよい」と考えている。家事、育児の分担は「同等におこなうのが理想だが、実際の働き手は夫になるであろうということで、「主に妻がおこない、夫がそれを助けるのがよい」と回答している。老後の問題については、自分は「できるだけ一人でがんばりたい」としているが、具体的にはまだあまり考えたことがないようだ。

### 【IV. セカンダリー】

親戚との付き合いは、「なるべく最低限の付き合いですませたい」を選択しており、特に将来「夫の親戚とはあまり付き合いたくない」と述べている。近所との付き合いは「あいさつ、子供の話」程度で、「悩みごとなどは話さない」と回答している。職場の同僚との付き合いは、「仕事上の付き合いのみ」あるいは、相手によっては「仕事が終わってから話したり、遊んだりする程度の付き合い」をしていると述べている。被面接者にとっての大切な人付き合いは、「学校時代と職場の友人」のようだ。

日本については、「時々いやな国だと思う」こともあるが、最終的には「まあ日本人に生まれてよかったと思う」を選択している。

天皇制については、「よくわからない」と回答している。

### 【V. 超越者】

産み分けに関しては、「生命を人為的に操作するのはよくない」を選択している。臓器移植についてもあまり積極的ではなく、「休らかに死んでからにしてほしい」とコメントしている。また、心臓移植については、「それで命が救われるのなら、取り替えたらい」としながらも、最近の「ヒヒからの移植には疑問を感じる」と述べている。

死後のことについては考えたことはなく、「よくわからない」としている。またお墓については、「夫の祖先のお墓に入ることは抵抗がある」と述べており、できるなら「夫と二人で独立してお墓をつくりたい」と考えているようだ。

被面接者は無宗教ではあるが、信じているものとして「神」をあげ、「天にいる神様にお願いをする」と述べている。また他に、「易や占い」も信じている。 (佐藤由美子)

### 事例 19

#### 【I. フェイス】

33歳 女性 東京都在住 大卒 既婚 専業主婦  
夫（短大教員）と2人暮らし

#### 【II. 自己】

現在の社会については、「ある面では、技術が日常生活を快適にし、豊かだ」と感じている。しかし、「個人は、国が豊かなほど豊かではない」とし、「技術的發展のかげで置き忘れられているもののあることを感じ」てもいる。例えば、「自然破壊や社会の中での個人の力のはかなさ」には、反発や苛立ちを感じている。

大切なことは、「自由に発言、行動できる社会環境であること」と「遊びと生きがいのある仕事

を両立させること」。

また、「こうした豊かな現状も 60 歳までは続かないだろう」と考えている。そして、「理想を言えざりがないが、60 歳ぐらいまでは、今の生活のレベルを落とさず、現状維持で生活しながら、自然を大切にしていきたい」と考えている。

自分の生活に関しては、「どちらかといえば不満足」である。1 年前まで働いていた外資系企業をやめて「専業主婦になってしまったこと」や家の狭いことがその理由である。「外で働き自分の実力を再び発揮したい」「広く快適な家に引越したい」というのが、希望である。

当人は、7 年前に 1 度転職を経験し、1 年前に専業主婦となった。転職については、当人がその成功例であり、肯定的見解だが、社会的に「デメリットも多い」と述べている。

### [III. プライマリー]

家庭は生活の中心であり、心のよりどころであるが、縛られているという感も強い。

結婚・同棲・性的関係については、基本的に個人に任せ、周りがとやかく言うべきではないという立場。「結婚した方が今の社会では良いと思うが、別に結婚しなくてもよい」。「同棲、夫婦別姓など、男女関係の選択肢を増やす方向に社会が動くこと」を希望している。しかし現状はそうはなっておらず、自分の結婚も、「その方が社会的に面倒くさくないと思った」から。

結婚と仕事の関係については、「子供が出来たら、仕事を軽減するほうがよい」という立場。「現実には、育児によって一時的にせよ仕事をやめたら、条件はひどく悪くなる。子供のそばにいた方がよいことは分かっているが、仕事を完全にあきらめて専業主婦になる覚悟がないなら、無理をしてでも仕事を続けるしかない」。

寝たきり老人や末期癌の患者については、身近に家庭看護がどんなに大変か分かる事例があったので、「自治体や国、諸施設の福祉的な施策に期待したい」。

癌告知については、「身辺整理のこともあるので、自分は知らせてほしいが、近親者については、性格・年齢などを考え合わせて、ケース・バ

イ・ケースで」と考えている。

### [IV. セカンダリー]

親戚や近隣の付き合い方は、「親が年を取ってくるにつれて、付き合いを深くしていく方向に、考え方が変化してきている。それでも、あまりべたべたした付き合いは好まない」。

日本は、「嫌な国だと思えることもあるが、全体的にはのんきで、いい国だと思える」。

天皇制は「絶対無くさなくてはならない」とは思わないが、「無ければ無い方がよい」。

### [V. 超越者]

臓器の提供と移植、尊厳死、脳死については肯定的。ただし、これらの問題が複雑に絡み合うと難しそうに思う。産み分けについては反対。

自分の墓については、「これからの時代、お墓に拘っていてもしかたがない」という立場。

「絶対的なものとしての神があっても構わないと思うし、倫理的な教則としての聖書や教典の存在も否定しない。奇跡も存在してほしいし、霊的な存在を感じることもある」。

しかし、あまり宗教とか信仰にはこだわっていないようだ。  
(伊藤隆一)

### 事例 20

#### [I. フェイス]

34歳 女性 東京都在住 大卒 専業主婦 夫、子供 (長女 6 歳、次女 3 歳) の 4 人家族

#### [II. 自己]

現在は便利で快適な世の中であると、社会に対しては肯定的である。そして今の生活には満足し、計画性のある生活を心がけているようである。

社会への積極的な問題意識はないようだが、自然破壊を代表とする環境問題にはかなり関心が強いようであり、2d で主婦のリサイクル運動が行政を動かした例をあげ、「個人が変われば社会も変わるのではないか」と述べている。また、自然好きで自然の中での生活を志向している。

被面接者は結婚前および第1子妊娠まで仕事に就いていた経験があるが、もともとキャリア志向ではないためか、本面接においても「仕事」に関する反応は少なかった。現時点では「仕事＝主婦業だとするならば、さっさと片付けてそれ以外の生活を楽しみたい」という表現で被面接者の仕事観が述べられたにとどまっている。ただし、子供からやや手が離れつつあり、「なにかをしてみたい」という気持ちが強くなってきているようである。

### [III. プライマリー]

結婚をし子供をつくり家庭を維持することはごく自然なことであり、家族・家庭・子供は最も大切な存在である。結婚観・家庭観は保守的であり、同棲には否定的である。

老後に関しては、10aで「どんなに大変でも、同居して面倒をみる」を選択している。「世話になった親だから面倒はみたいが、自分一人で背負うのではなく、デイ・サービスをはじめとする公共サービスを利用したい」と述べると同時に「もっと国は福祉にお金を使ってほしい」と力説している。11の寝たきり老人についても同様の意見である。

### [IV. セカンダリー]

親戚・近所付き合いとも「(相手が) どのような人かによるので一概には決められない」としているが、子供同士の付き合いの関係上、「近所の人とは相手にかわかわらず気軽に話し合える間柄になる必要がある」(2)と述べ、子供尊重の近所付き合いが窺われる。また、大切な人付き合い(4)は対象となる人間関係が限られているので、「近所の人」と「学校時代の友人」にならざるを得ないようである。

天皇制については、「(天皇制は) ここまで続いたのだから日本文化の古代から伝わっているものを残すためには必要だ」という意見である。

### [V. 超越者]

信じているもの(7)として「あって欲しいという期待を込めて“あの世、来世”をあげている

が、被面接者自身とくに信心の対象とするものは持っていないようである。

また、「産み分け」には否定的であるが、「臓器移植」や「尊厳死」にはおおむね肯定的である。

被面接者は「神秘的なものや事象」に大いに興味を持っているが、今回の宗教・信仰という面接項目の範囲ではこれに関してほとんど語られなかった。また、被面接者が力を込めて語った環境問題への関心は「自然破壊がもたらす、子供への悪影響への不安」が契機となっているようであり、子供思いの母親の一つの典型とも言えるであろう。また、本来から自然生活志向であり、「だから現在の地(東京都だが郊外の緑の多い所)に住んでいる」と述べている。(川島 真)

### 事例 21

#### [I. フェイス]

37歳 女性 東京都在住 大卒 専業主婦 夫と子供2名(息子と娘)と4人暮らし

#### [II. 自己]

社会に対する質問に対して、「今の社会が豊かだとは思わない」を選択している。被面接者が特に心配しているのは子供たちを取り囲む社会環境で、子供たちの心の豊かさを育てることができない社会を豊かだとは言えないと思っている。「こういう環境で育つ子供たちがどんな大人になるかと考えただけでも恐ろしくなる」と述べている。

一番大切なものには「命」をあげている。これは言い換えれば被面接者の「死を考えるだけでこわくなる」という気持ちと表裏一体のものである。特に自分の親の高齢化と病気に直面していることと、子供を生んだことで命の尊さを改めて感じたというコメントからも「命」をあげた理由が窺われる。

仕事とそれ以外の生活のあり方に対しては、「仕事より家庭や趣味に生きがいを求めたい」を選択している。大学卒業から結婚まで働いていたが、「もう仕事はしたくない。家にいる気楽な生活の方がいい」とつけ加えている。最近子供に手

がかからなくなってきたので、独身の頃のようにコンサートなどにも出かけるようになったそうである。

### 【III. プライマリー】

結婚に関しては、「一般的には」とつけ加えて「しいて結婚する必要はない」を選択している。自分にとっては結婚は当然するものであったそうだが、現在の多様化した生き方を冷静に受けとめていて否定はしていない。けれども一方で同棲は否定している。

仕事と育児に関しては「両立はとて私にはできない」と述べている。

自分の老後に関しては、「施設に入って子供に迷惑をかけたくない」と述べている。また自分の親の世話に対しては、その他として「親の意見を尊重しつつ、弟との話し合いで決める」と答えている。そして「自分の老後の事にしろ、親の事にしろ、その時の親子の経済状態にかなり影響されるのではないか」とつけ加えている。

末期ガン患者の介護のし方としては、「家と結びついたホスピスを充実させてほしい」と述べている。

### 【IV. セカンダリー】

親戚とのつき合いに関しては、「夫の親戚とは一応気軽に行き来できる程度の付き合いにしたいが、自分の親戚とはもっと深く何かにつけ相談したり助け合ったりする付き合いがいい」と述べている。被面接者の親のそばで暮らしているので、「どうしても自分の方の親や親戚とのつき合いが多くなる」ともつけ加えている。

学校時代の友人をとて大切にしていることは話からよくわかる。学校時代の同窓会やサークルのOB会などにはできるだけ出席しているし、また、特に親しい友人たちとは自分から会う機会をつくったりしてつき合いを大切にしているそうである。

天皇制については、「現状を認める」ということで、「よいとも悪いともいえない」としている。

### 【V. 超越者】

「命」を一番大切なものにあげている被面接者らしく、「脳死」に関してのコメントが多かった。「現在の医学の脳死の判定には疑問が残るので、もっと科学的に立証してもらいたい。実験材料としての脳死とそれによる臓器提供ならば断わる」とかなり強い口調で述べている。

産み分けについては「現在の医学はただの産み分け以上に進んでいると思うが、やはりこういうことは自然にまかせるのが一番いい」とつけ加えている。

最後に「宗教といわれると困るが、自分の中の想いとして神、仏、あの世、来世、奇跡というものを信じている」と述べている。（神木直子）

## 事例 22

### 【I. フェイス】

42歳 女性 岩手県生まれ・在住 高卒 生命保険セールスウーマン 夫（自営業）と子供3人（いずれも社会人・長男既婚、孫1人）

### 【II. 自己】

睡眠と仕事々々の生活。いまの生活から抜け出したいと転職も考えるが実行はしない。父母がみたら嘆くであろう状態で、葛藤も多いが仕事に深みも感じている。いろいろなことにぶつかって、成長するのも面白くするのも自分自身。仕事のことなら意見で争うのも必要と考えている。

いまの生活は？ と問われれば「満足している」が、まだまだ自分として努力する余地があると思う。「仕事をしながら生活の充実、楽しみを実現させてゆきたい」。社会の豊かさは「質的には豊かだと思わない」し、「物的豊かさもそう長くは続かない」と思う。

「要領よくふるまうほうが得」と思うが、自分としては反発を感じるし、社会が複雑になっても「個人の努力はむくわれる」と思うし、自分としては野心も持ちたいと思う。

不安は経済面。お金が欲しい。



リラックスな気分は一人お茶。雨の日の音楽を聞きながらの窓外へのボンヤリ。

### [III. プライマリー]

口数少なくしゃべる前にゲンコツが飛ぶ父、しかし優しい。良妻賢母型の専業主婦で通した几帳面な母。やっぱりいつまでも良い妹と弟。

いまは「大事な家族は夫と子供3人（次男は別居）と長男の嫁・孫」しあわせを望む。「家庭は生活の中心であり、心のよりどころ」「家族が一番大切な人間関係」なのに自分は仕事々々で悪い妻、不出来な母。家の人は勝手な住人と思っている。子育てにも失敗、子供たちには悪いことをしたと思っている。専業主婦の母親の考えが自分にもどこか残っていて苛む。

男女関係はお互いの愛が中心。婚前交渉を肯定。自分の子供についても容認している。

好きな相手でも縛られるのはいや、むしろ同棲の方が良い。しいて結婚する必要はないと、今では考えている。

「子供の出産は自然にまかせるべき」で、「出生したら、女性は仕事をやめ育児に専念の方がよい」「家事、育児については夫は助ける程度で仕方ない」。両親の老後については、「どんなに大変でも同居して面倒をみたい」が、「自分自身はできるだけ一人になってもがんばる」つもり。いわゆる老人問題は「あくまで子供が世話すべきと思う」が、たまに疲れたときなど預けられる公共機関の施設は是非とも必要と思う。

### [IV. セカンダリー]

親戚は同一地方にいるが、普段はご無沙汰。しかし、「一応気軽に行き来できる程度のつき合い」をし、何かのときはお世話になります。

近所づきあいは、仕事を持って行ったり来たりお茶も飲まないが近所は近所。「一応気軽に話し合えるつき合い」。

職場では仕事に直接関係する範囲内でのつき合いとしたいが、仕事中心の現在の生活では職場の同僚とのつき合いは大切。

友だちは友達。背後にその人の家族があり、人情があり、生活がある。

日本は自由で物に恵まれ平和な国。人間に表現力がプラスされれば最高だが、まあまあ日本に生まれて良かったと思っている。

天皇制はわからない。生まれたときからそこにあり、あたり前と思っていた。深く考えたことはない。

### [V. 超越者]

産み分けに関しては、「自然のままが良いと思うが、今の時代ではやむを得ない」ことと思う。

臓器提供は「積極的にしたい」が、心臓移植は「あまり望ましいことと思わない」。やはり今の時代ではやむを得ないことと思う。

尊厳死については賛成。「靈魂は死んでも残ると思う」。自分の骨は太平洋にまいて欲しいが、そのお金がためられるか疑問。

無宗教でなにも信じないが、自分は一度途中で死の世界へ行って戻って来た、そのうち行きなくなる時が来るのではないか。（向井恒夫）

### 事例 23

#### [I. フェイス]

42歳 女性 東京都在住 パートタイム 夫（カメラマン）と中学生、高校生の子供2人の4人家族

#### [II. 自己]

今の社会に対する感じとして「こんな豊かな生活は長くは続かない」を選択している。科学技術の発展により便利になったという意見に対しては「複雑になって住みにくくなった」と感じている。社会の巨大化に対しては、「個人の力で社会を変えていくことはできない」という意見には「そうは思わない」を選択し、社会の仕組みや世間を大事にする生活をしたいと思っている。

科学技術や自然破壊の問題には、「多少不便でも、人間は自然の中で大地に根ざした生活をする方がよい」、また環境汚染の問題には、「生活のレベルを落としても、快適さを犠牲にしても、自然を大切にしなければいけない」を選択している。

また、「このままじゃいけない。一人一人が自覚して、環境問題を考えたい」と危機感を持っているようだ。

一番大切と思うものに「家族」を挙げている。仕事に関しては「仕事にもそれ以外の生活にも同じくらいの力を入れる」を選択し、どちらも大切という考えであり、転職については「職場や仕事内容が適さなければ、転職を考える」と積極的である。

### 【III. プライマリー】

婚前交渉に関しては肯定しているが、同棲には否定的で、正式に結婚すべきだと考えており、結婚については「いろいろ考えると結婚した方がよいと思う」を選択している。子供に関しては、自然にまかせ、育児の時は一時仕事を止め、子供に手がかからなくなったら再開するのがよいと考えている。家事・育児に関しては、「主に妻がおこない夫が助けるのがよい」を選択している。

家庭の意味については、「生活の中心、心のよりどころ」を選択し、家族が一番大切な人間関係であると考えている。離婚に関しては、「愛情が失われたら、離婚すべきだ」を選択している。

老後の問題に関しては、両親が自分で身の回りのことが出来なくなった場合、「その他」として「兄弟で話し合って順番に面倒みるようにしたい」と述べている。寝たきり老人の世話は「収入の半分以上が税金にとられるようになって、自治体や国が行うようにすべきだ」と考えている。しかし、この問題は現実問題としては難しいと感じている。「状況が今はまだなっていないから、きれいごとでいられるかも知れないが、その場になってみるとどうなるかわからないと思う。想像を絶するものがあると人から聞いている。」と述べている。

また、自分の老後は夫に先立たれても、できるだけ一人で頑張るつもりである。

癌の告知に関しては、家族の一員がなった場合は「本人には言わない」が、自分の時は「どちらともいえない」を選択し、でも「自分はいやかなと思うけど、まだわからない」と述べている。末期ガンの患者の介護に関しては「高額な税金を

払っても、ホスピスなどの施設を増やすのがよい」を選択している。

### 【IV. セカンダリー】

親戚との付き合いは「一応気軽に行き来できる程度の付き合い」を選択している。

一番大切な付き合いは「学校時代の友人」であり、近所の人とは「一応気軽に話し合える付き合い」、職場の同僚とは「仕事に直接関係する範囲での付き合い」を選択している。

日本については「まあ日本に生まれてよかったと思う」を選択し、天皇制は「あったほうがよい」を選択している。

### 【V. 超越者】

産み分けに関しては、生命を人為的に操作するのはよくない」と反対である。

臓器提供については「死後の世界で困るから。かたわだといじめられると子供の時間聞いたから」という理由で「あまりそうしたくない」を選択している。

臓器移植についても「そこまで人為的に手を加えるべきではない」と消極的である。

尊厳死に関しても、「生命を人為的にもてあそぶのはよくない」を選択し、人間の生命に関しては自然に任せる姿勢が強いと思われる。

死後に関しては、「死んでも霊魂は残ると思う」を選択している。自分の死後はお骨をどうして貰いたいかについては、「ビルの中に作られた墓地」や「ロッカー型のお墓」でよいを選択している。しかし、「仏壇の中に骨壺を入れておいて欲しい。いつもみんなのそばにいたい」という気持ちがある。

宗教や信仰では「神・仏・あの世、来世」を信じている。

(鈴木典子)

## 事例 24

### 【I. フェイス】

44歳 女性 東京都在住 パートタイム 夫(会社員)と中学生、高校生の子供2人の4人家族

## [II. 自己]

今の社会に対する感じとして「今の社会が豊かだとは思わない」を選択している。科学技術の発展により便利になったという意見に対しては「複雑になって住みにくくなった」と感じている。社会の巨大化に対しては、個人の力で社会を変えていくことは無理だと考えているが、社会の仕組みや世間を大事にする生活をしたいと思っている。

科学技術や自然破壊の問題には、「多少不便でも、人間は自然の中で大地に根ざした生活をする方がよい」、また環境汚染の問題には、「生活のレベルを落としても、快適さを犠牲にしても、自然を大切にしなければいけない」を選択している。

一番大切と思うものに「家族」を挙げている。仕事に関しては「仕事にもそれ以外の生活にも同じくらいの力を入れる」を選択し、どちらも大切という考えである。

## [III. プライマリー]

婚前交渉に関しては肯定しているが、同棲には否定的で、正式に結婚すべきだと考えている。しかし、結婚は必ずしも唯一の選択ではなく、強いて結婚しなくてもよいと思っている。子供に関しては、自然にまかせ、育児の時は一時仕事をやめ、子供に手がかからなくなったら再開するのがよいと考えている。

家庭の意味については、「生活の中心、心のよりどころ」を選択し、家族が一番大切な人間関係であると考えており、離婚の危機にも「結婚継続の為に最大限の努力をすべきだ」を選択している。

老後の問題に関しては、両親が自分で身の回りのことが出来なくなった場合、「その他」として「心要に応じて兄弟みんなで助け合ったり、ヘルパーを頼んで面倒みる」と述べている。寝たきり老人の世話は「どんなに大変でも子供が世話すべきだ」と思うが「収入の半分以上が税金にとられるようになって、自治体や国が行うようにすべきだ」という考えもあり、まとめると「子供が面倒みるべきとは思いますが、状況によっては特別養護ホームなどに入ってもらっても止むを得ない」と

述べている。

癌の告知に関しては、家族の一員がなった場合は「本人には言わない」が、自分の時は「どちらともいえない」を選択し、でも「自分はいやかなと思うけど、まだわからない」と述べている。末期ガンの患者の介護に関しては「高額な税金を払っても、ホスピスなどの施設を増やすのがよい」と考え、行政に対する期待が窺われる。

また、老後は夫に先立たれても、できるだけ一人で頑張るつもりである。

## [IV. セカンダリー]

親戚との付き合いは「一応気軽に行き来できる程度の付き合い」を望んでおり、親戚との付き合いが一番大切な付き合いとして選択している。

近所の人とは「一応気軽に話し合える付き合い」を望み、職場の同僚とは「仕事が終わってから話し合ったり、遊んだりする付き合い」を選択している。

日本については「なにかにつけ日本に生まれてよかったと思う」を選択し、天皇制は「あったほうがよい」を選択している。

## [V. 超越者]

産み分けに関しては、「生命を人為的に操作するのはよくない」と消極的であるが、臓器提供については積極的であり、「他の人の役に立つならば、そうしたい」と思っており、臓器移植についても「それで命が救われるのであれば、取り替えたらいい」を選択している。

尊厳死に関しては、延命措置をしないで欲しいと考えている。実際に尊厳死協会に入っており、本人の意志で人間らしい生を終わらせることに賛成である。

死後に関しては、「死んでも靈魂は残ると思う」を選択している。自分の死後はお骨を「太平洋にまいてほしい」を選択しているが、その後、骨のかけらを子供たちに指輪やペンダントにして身につけて欲しいと述べている。

宗教や信仰では「神・仏・あの世、来世・奇跡・お守りやおふだなどの力」を信じている。

(鈴木典子)

## 事例 25

## 【I. フェイス】

49歳 女性 栃木県在住 短大卒 専業主婦 夫と2人暮らし。子供2人は、就職、大学在学のため別居。

## 【II. 自己】

便利で快適な世の中になった現在、その生活に対して「どちらかと言えば、満足している」が、同時に、「こんな豊かな生活は長くは続かないだろう」と考えている。今の生活を充実させることと、計画を立てて生活することと、どちらが大切かと言う間に対して、「現在までは計画的にやってきたが、これからは今の生活を充実させることが大事だ」と考えている。「生活というのは他人に依存する生き方をするようになったら、すなわち、年老いて自分でやれなくなったときは、便利なことも複雑で住みにくいと思うようになるかもしれないので、考え方は大きく変わるのではないか。今は、その中間点にいて色々考えられるのではないか」と言う。状況の変化によって考えは変わらざるを得ないことを強調した。

また、「多少不便でも、自然に根ざした生活をする方がよいと頭では考えているが、実生活では生活のレベルを落として迄そう出来るかどうか自信がない」という。「社会生活の本当の豊かさや老後の困難な問題を解決するには、社会の仕組みが変わらなければ難しい」と、本質的な社会変革の必要性を感じているが、個人の力は余りにも小さいことも認識している。

今一番大事と考えているのは「自分と家族の健康」である。独立しつつある子ども達への想いであり、老後を現実の問題として考える年齢になってきたといえる。

転職の是非は「年齢によって考え方は全く違ったものとなるだろう」と考えている。被面接者自身は家族の状況に合わせて、2,3の職場経験がある。

## 【III. プライマリー】

男女関係については、一般的意見として、同棲や婚前交渉を否定していない。結婚については、色々考えると結婚した方が良いのであって、是非すべきとは考えない。育児と仕事に関しては、「子どもが出来た場合、一時休職するか、仕事を軽減する方がよい」と考えているが、基本的には、「主たる収入を得る人が外で働き、そうでない人が家事育児を担うことがよい」と考えている。男女の役割分担を第一とはしないのである。

「家庭は生活の中心であり、家族が一番大切な人間関係である」と答えているが、「このことはいろいろと発展的に考えられる程、家族と言う問題は、変わりつつあるテーマ、重大な問題である」と考えている。

老後の問題では「社会の仕組みが変わること、例え、税負担が大きくなっても、行政がさまざまな内容、施設等を用意すべきである。そして、それらを利用したい」と考えている。癌対策についても同様の考えが必要である。癌の告知については、「自分の場合は知らせてほしくないが、他者の場合は、元気なときに聞いておく方がよい」と考えている。

## 【IV. セカンダリー】

親戚や近所の人とは、気軽につき合える程度、職場では仕事の範囲で付き合うのがよいと考えている。しかし、「最終的には親戚が一番大事な人間関係になる」と考える。

日本に生まれたことを良かったと感じ、天皇制も、現在の形態が好ましいと考えている。

## 【V. 超越者】

「科学が発達してきたので、臓器提供はやむをえない状況なのだろうが、自分が提供者になることは余り望まない。又男女の生み分け等の生命の人為的操作は良くない」と考えている。尊厳死については積極的に賛意を示している。「本人の意志で人間らしい生を終ることは尊重されるべきことである。」

死後の世界については、「余り考えたことがな

く、墓についても、残った人の好きなようにしてほしい。死後まで、自分の意志を表したくない」という。

現在、特定の宗教に入っていないが、神や仏を信ずる心は持っている。又、「聖書や教典の教えは人として生きる道を説いたもの」として大事にしている。  
(増野信子)

## 事例 26

### [I. フェイス]

53歳 女性 栃木県在住 高卒 会社員 妹、娘、息子の4人暮らし。娘一人は留学中。夫は14年前に死別。

### [II. 自己]

高校卒業後就職したが、結婚と同時に専業主婦となった。3人の子供をもうけたが第1子12歳の時、夫は病死した。再び会社員となって家計を支える。その間、父母をも看病し、看取っている。現在、2人の子供は社会人となり、少しは自分の事を考えられるようになってきたという。このような生活経験の中から一番大切なことは「信じる事」であるという。家族の一人一人の未来を信じ、さまざまな困難の中で明日を信じて頑張ってきたという体験を通して生まれた言葉である。

生活のレベルを落としてでも、自然を大切にしたいと思う考えを根本に持っているが、反面、「病気や高齢者を考えた時は、便利さは絶対の必要」とも考える。巨大化し、複雑になった社会の中で「個人の力はあまりにも小さい」と考え、要領のわるい生き方をしている自分に気づいているが、要領よく生きることには反発を感じている。全体的に社会に対して、また、人に対しても誠実で暖かい意見と態度を持っている。

### [III. プライマリー]

自ら「古い意見だと思うが」と前置きして、同棲は否定している。結婚そのものについては必ずしも結婚すべきとは考えていない。「よい出会いがあればしたほうがよい」と考えている。「結婚

後、愛情が失われても時間をかけて努力していく方がよい」という意見を持っている。また、子供の有無については自然であることを大事にしている。家族については、「他者の目からみれば、家族のために全てを犠牲にしてきたとみられるが、本人はそれは当然の事でそれ以外は考えられなかった」と云う。「その状況の中で根気よく愛情をもって家族を守り育ててきた。」家庭はまさに「生活の中心であり、心のよりどころ」である。

両親は既にないが、体験的にも、老いて自分の事が出来なくなった時は、「他者の力を借りながら同居するのがよい」としている。しかし、「自分の老後はできるだけ一人で頑張りたい」と考えている。

癌に関しては、その病気の性質上、ホスピスなどの施設に委ねる方がよいと考えている。

### [IV. セカンダリー]

大切な人付き合いは、「全てを大切にしているので、一つの対象を選ぶのは難しい」というが、「現在は友達が一番大切かも知れない」と言う。自らもそうであるように各々の立場で、相手からの親しい付き合い、支えを十分受けて生活している。

「日本の国に生まれたことを良かった」と云っているが、「現在の日本の状態は、本当に、精神的物質的に豊かなのだろうか、便利で快適であると同時に複雑で住みにくい状況でもあるのではないか」と考えている。

天皇制には関心を示さない。この年齢、環境から考えて無関心と云うのは珍しいが、現在の生活にとって、直接関係のないことのように感じているからであろう。

### [V. 超越者]

科学的に可能になったとはいえ、生命の人為的操作には反対している。臓器提供には、「そのことによって命が救えるのなら」と、身内を病気で失った体験から、そのおもいを語っている。尊厳死を認めることには賛成である。「脳死状態や末期癌の状態などの情報に接する時、本人及び家族のためにも、尊厳死は支持されて良い」と考え

ている。

祖先の墓を守る立場にあることと関連してか、死後は祖先の墓にはいることは当然の事として望んでいる。「死後の世界については分からない」と述べている。

宗教とか信仰に関しては「何も信じていない」を選択している。「信仰は持っていないし、また、日常あまり宗教について考えなかった。しかし、夫の病気等困難の多い時期に、親戚の勧めで半ば強制的に新興宗教の門をくぐったことがある。このような時期には、奇跡が起こらないかと思ったり先祖の霊に祈ったりしている自分に気づくことがあった」という。そして、「お守りやお札を持つことで少し力づけられるような気がした」という。  
(増野信子)

## 事例 27

### [I. フェイス]

57歳 女性 埼玉県在住 高卒 専業主婦 夫  
(定年退職後、再就職)と2人暮らし 子供2名  
(既婚)とは別居

### [II. 自己]

社会変革に関する質問に対して、「個人の力で社会を変えて行くことができないとは思わない」を選択している。前回の参議院選挙の投票率の低さを批判し、「一人一人の力で社会を変えて行くことはできる。みんなもっと目を覚まして関心をもつべきだ」とコメントしている。被面接者の政治・経済に対する関心は、同年代の女性と比べると高い。これは、被面接者の父親が地方議会の議員であった影響とも考えられる。

被面接者に重い持病はないが、年齢的に体力の衰えを感じており、一番大切なものに「健康」をあげている。「この年になっては腰が痛く、もし農業をやれと言われてもできない」という理由で、「人工的でも便利で快適な生活ができる方がよい」と回答している。反面、機械には弱く、操作に戸惑うようだ。

### [III. プライマリー]

婚前交渉や同棲に関しては必ずしも否定的ではないが、社会的な信用を得る意味でも結婚が必要であると考えている。また、家事・育児については、男性の協力も得て、女性が中心となっていくべきだと考えている。特に育児に関しては、「小学校にあがるまでは、母親がちゃんとみてあげたほうが良い」と述べている。

家庭の意味については、「生活の中心、心のよりどころ」を選択しており、「くつろぐところである」と述べている。また、家族は「一番大切な人間関係」としているが、一方、専業主婦だった自分を振り返って、「自分を犠牲にしてきたこともある」と述べている。

「両親が身の回りのことをできなくなったら」という質問については、実体験として「兄弟が多いのでお互いに分担してやりくりした」と述べている。寝たきり老人の世話については、「その他」として、「老後資金をためておき、施設を捜す」という回答をしている。

家族に対するガンの告知については、「ケース・バイ・ケース」を選択しているが、自分については、「いろいろ整理するものがある」と述べ、告知を望んでいる。また、「無駄な延命措置はおこなわないでほしい」とも述べている。

また、老後は子供の世話になる気はなく、夫に先立たれても、できる限り一人で暮らすと考えている。実際に被面接者の実姉がそうしている。

### [IV. セカンダリー]

親戚付き合いについては、「物理的に離れているので、実際はそんなに行き来できない」と述べているが、一番大切な人間関係だとしている。近所との付き合いは「あいさつ程度の最低限の付き合い」を選択している。ただし、「人によっては“気軽に話し合える”のつきあいをしている」と述べている。

日本については、「ヨーロッパなどの民族・宗教問題などを見ると、単一民族でよかったと思う」と述べている。

また、天皇(制)については、「日本の象徴・代

表としてないと不便」と述べている。

#### [V. 超越者]

産み分けに関しては、「男女のバランスがくずれる」として消極的であるが、臓器提供に関しては、「あげてもいいな…と思うこともある」と述べている。一方、尊厳死にはかなり賛成しており、「寝たきりになったり、ボケてしまったら、生きていてもしょうがない」と考えている。

自分の死後については、祖先の墓に入ることを望んでいるが、「祖先の墓と言っても九州なので、こちら（関東）に買わなければならない」と述べている。

宗教は何も信じていないが、「それでも、神社やお墓に行くと、幸せ・健康などお祈りする」と述べている。 (齋藤律子)

#### 事例 28

##### [I. フェイス]

61歳 女性 横浜市在住 高専卒 小学校教師を定年退職 夫と次男と3人暮らし (長男は独立)

##### [II. 自己]

今の社会に対する質問に対して「今の社会は豊かだとは思わない」を選択し、「日本の社会は今曲がり角に来ていて、豊かさのほんとうの意味がわからなくなってきているのでは」と疑問を投げかけている。また、「今の社会は確かに便利で快適になったところもあるので、自分もおいていかなないようにしなくてはと思う」とつけ加えている。さらに、個人の力で社会を変えることができるかという質問には「資本主義の社会では大きい力のあるものが勝つしくみになっているが、それでも個人に力がないとは思いたくない」と答えている。

科学技術と自然破壊の問題に対しては「生活レベルを落としても自然に根ざした生活の方がよいと思うが、現実には都会に住んでいてそう思っても実際にそうするかは疑問である」と述べ、さらに「科学技術の発展が即素晴らしいという生活の図

式ができあがりすぎている」と批判もしている。教師を定年退職しても社会の情報には常にアンテナをはり、心の若さと社会を見る目を失いたくないという被面接者の姿勢が上述のどのコメントからも窺われる。

一番大切なものとしては「資源を大切にすること」をあげている。被面接者を一番不安にするうは自然破壊だそうで、山登りやハイキングを趣味にし自然と接することが多いことも影響していると思われる。

##### [III. プライマリー]

結婚前の性的まじわり、同棲、結婚に関しては「古いのかな…」と言いながら保守的の回答をしている。一方で、被面接者の家庭は年齢にもかかわらず夫が家事に非常に協力的であったそうで「家事・育児は夫と妻と同等におこなうのがよい」を選択している。

家族とはという質問には「家族のために個人の生活を犠牲にしてもよい」を選択し、「できれば自分の意志にかかわらず犠牲にされると言い換えた」とつけ加えている。

両親の老後の世話に関しては、「その他」として「ケース・バイ・ケース」としている。そして自分の老後に関しては「1人になってでもできるだけ自力でがんばり、それができなくなったら施設に入る」と述べている。寝たきり老人の世話に関しては「本人の意志も考えるべきだが、どちらかという自治体や国が行うようにすべき」と述べている。

##### [IV. セカンダリー]

近所や職場の人とのつきあいに関しては、「最低限のものですませたい」を選択している一方で自分の兄弟姉妹や趣味の仲間とのつきあいはとても大切にしているそうである。

天皇制については、「むずかしい問題でいいとも悪いともいえないが、為政者の盾に使われることは恐れる」と述べている。

##### [V. 超越者]

男女産み分けに関しては、「望ましくないが、

やむを得ない」を選択している。脳死による臓器提供には「役に立つなら喜んでそうしたい」を、尊厳死には「生命を人為的にもてあそぶのはよくない」を選択しているが、「死に関してはまだ切実感がない」ともらしている。

最後に「宗教や信仰といった堅苦しいものでなく、神や仏、お守りやおふだの力を信じたいと思う時がある」と述べている。(神木直子)

#### 4. 考察

面接結果については個々の事例をよまれるのが一番であり、更に付言することもないが、気付いた点をいくつか箇条書き風にメモすることにしよう。

(a) 年齢的に若い層には理念的な回答が多いような気がする。具体的にいえば、例えば、寝たきり老人の世話について“どんなに大変でも子供が世話をすべきだ”という答が多い。これは、恐らく心情としてはその通りであろう。併し、その大変さの現実感が希薄だから答えられるのではないか？

(b) この点を窺わせるものを反対の方向から見

せているのが主婦層であろう。職業別にみた場合、他のグループに比べて明らかに低い。これは、現実に見護するのは主婦の可能性が高く、それがどんなに大変かを肌で知っているからであろう。

(c) その他に比較的共通してみられたものとしては“生み分け”はよくない。自然の摂理に反するというもので、臓器移植、尊厳死など他の生命倫理に関する回答と異っていた。手術などの人工を加える見かけの大きさよりも“人間がその生命を恣意的に操作する”という態度に反対したものと思われる。

(d) 家事については夫も妻と同等に行うのがよいという意見が多かったのは今後の家庭のあり方に影響を与えていくであろう。

(e) 面接の事例について全体にレベルが高い印象を受けた方も居られると思う。これは、自分の意見を持ち、それを表現できるためには或る程度以上のレベルが必要なため、結果としてそうなったものである。勿論、凡ての被調査者のレベルがこの程度という訳ではない。併し、代表的事例としてあげると、こうなるし、それでよいのではないかと考えている。



# VI

## 考察と展望

1. 形式的な面	169
2. 内容的な面	169

この調査を始めるに当っては基本的な調査の骨格を措定する必要があった。併し、実際に本調査を施行するまでには、いくつか修正すべき箇所もでてきた。又、第1回調査を了えた現在、時の経過も踏まえ更に見直しが必要になった。

これらの点を検討することが今後の継続的な調査の前提となると思われる。

以下、それらを一応、形式的な面と内容的な面に別けて整理してみよう。

### 1. 形式的な面

- (1) 予算、調査に携るメンバーなどから、全国規模の層化抽出は無理があるため調査地域を凡そ、東日本に限定した。併し、調査方法としては一応“面接が主、質問紙が従”というのが当初の考えであった。併し、その後、予算の問題その他でこの比率を逆転せざるを得なくなった。
- (2) 調査は、勿論、原則無記名であったが一部の人には“質問紙・SCT・面接”と3本立のため、又、謝礼のテレホンカードを送るためなどの理由で結果として記名と同じ

とになってしまった。

- (3) そのため、多少抵抗感があったにも拘らず、フェイスで個人の収入、家族の収入を非常に細かいクラス分けで訊いたのは好ましくなかった。
- (4) 質問紙は各調査地域の調査協力者に依頼するという方法をとった。併し、調査は質問紙のみ、3本立、謝礼の有無など複雑なためインストラクションが非常に繁雑になってしまった。

### 2. 内容的な面

内容的にはいくつかの視点があった。その一つは歴史的視点である。

敗戦により、戦前の封建制度、家制度は崩壊した。その結果、旧来の思想、道徳規範、価値観も打撃を受けた。そして、アメリカの民主主義の導入となった。更に、戦後の混乱期を経て、機械文明の急速な発達、第1次産業から第2次産業、第3次産業への人口のシフト。その結果としての人口の大都市集中。高度成長、高学歴化、核家族化。そこからくる家族、家庭、社会などに対する意識

感覚の変化。

このような潮流を追った、1953～'78、同じく'73～'88に亘る国民性の研究、NHKの意識調査を半分引き継いだ形で、更に、今後4半世紀の変化を追い「生活観の構造と変容」を見ようというのが一点である。

併し、この場合、過去との継続を重視するか、今後、25年の推移に重点をおくかで、項目の構成、質問内容は変わってくる。

ある程度、継続を意識し、現状を考えれば、余りラディカルな質問は遠慮せざるをえない。併し、10年、20年先を考えれば是非入れておきたい。このようなディレンマの中で、敢えて「註」つきという邪道を犯して「生命倫理がらみ」の質問項目を入れたことはNo. 22の「あとがき」でも述べた。

その結果、一方では過去。――具体的には「結婚」「家事」「育児」その他プライマリー・グループのいくつかの項目。「職業」「親戚」「近所づき合い」など、セカンダリー・グループのいくつか。「宗教」など超越者に関する項目にNHKの

調査項目を入れた。

このような視点から今回の調査結果を検討してみると、丁度、今日的な質問のようであった。即ち、年齢、学歴、職業、地域差がかなり鮮明に認められた。

具体的には、学歴が高い層、被雇用者層が多様化指向、変化に受容的だということである。一方、自営業、地方の方がより家族指向、伝統指向が強いということである。

今後、高学歴化、被雇用者化が一層進むであろうことを考えると、第2回調査ではある程度の修正を施した方がよいかもしれない。

逆に、未来先取的な質問はもう少し現在形としてきいてもよいかもしれない。

具体的にいうと、例えば「家族」「生命倫理」「天皇制」などに対する質問が被調査者に与える刺激の強さを考えたために、却って中途半端な項目になってしまったなどの点である。

これらの問題を考えると、第2回調査はかなり抜本的な検討をする必要があるのではないかと思われる。